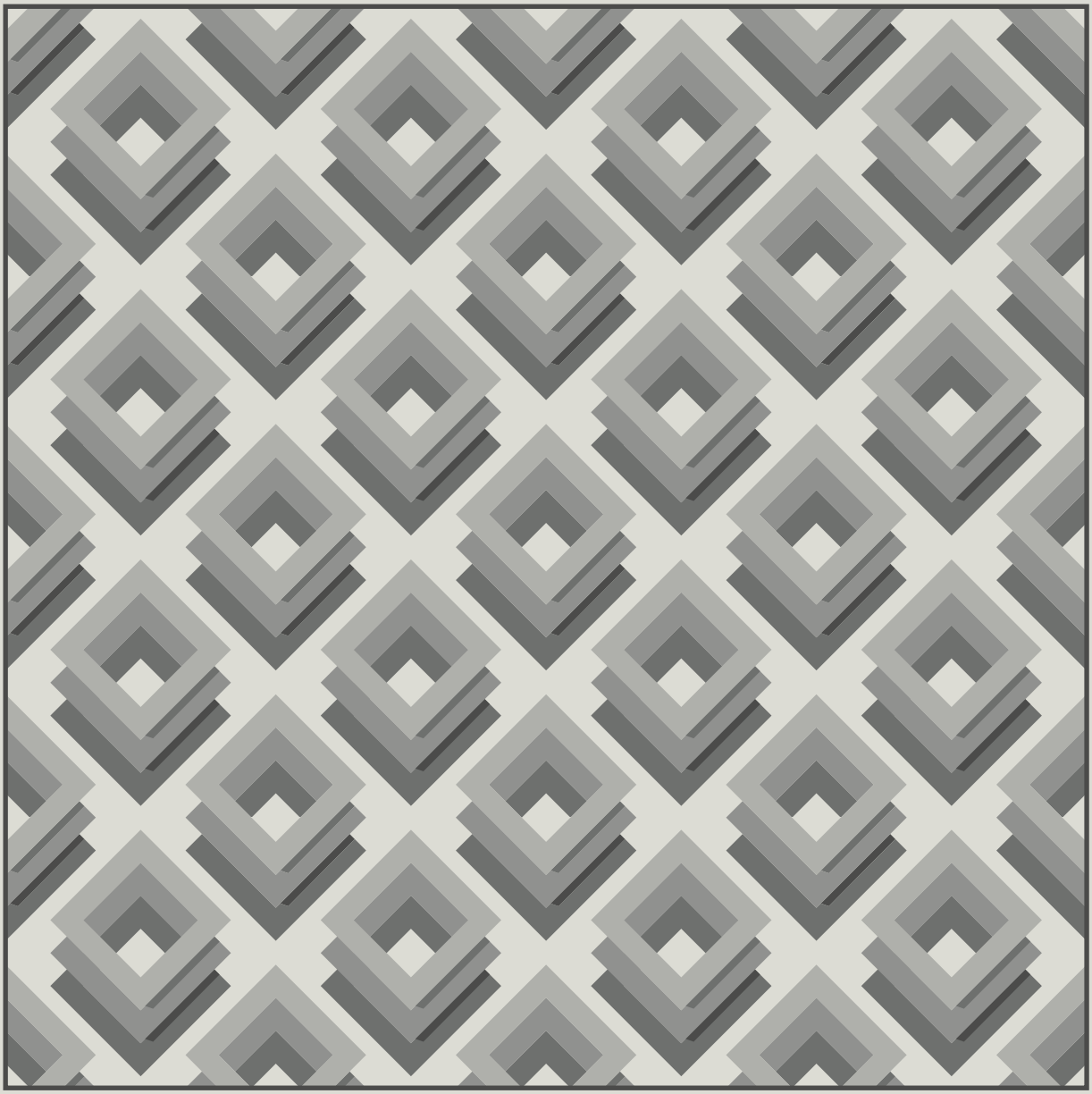
2015年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部
独：ドイツ語学科
英：英語学科
仏：フランス語学科
交：交流文化学科

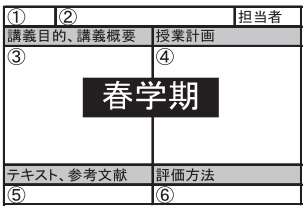
養：国際教養学部
養（＊1）：国際教養学部、スペイン語履修者
養（＊2）：国際教養学部、中国語履修者
養（＊3）：国際教養学部、韓国語履修者

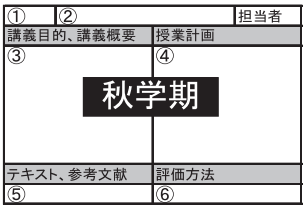
経：経済学部
済：経済学科
営：経営学科
環：国際環境経済学科

法：法学部
律：法律学科
国：国際関係法学科
総：総合政策学科
免：2013年度以降入学の教職課程登録者

14以降入学　：2014年度以降入学者（全学部）
13以降入学　：2013年度以降入学者（全学部）
13以降入学養：2013年度以降入学者（国際教養学部）
13以降入学経：2013年度以降入学者（経済学部）
12以前入学　：2012年度以前入学者（全学部）
12以前入学養：2012年度以前入学者（国際教養学部）
12以前入学経：2012年度以前入学者（経済学部）

2. シラバスページの見方（右図参照）





①入学年度

08～15年度……2008～2015年度入学者
03～07年度……2003～2007年度入学者
07年度以前……2007年度以前入学者
08年度以降……2008年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄（上図③の部分）および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

全学共通授業科目　目次（2008年度から2015年度入学者用）

全学総合講座

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて)		青山　愛香	木3	1	－	14
全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)		有吉　秀樹	木2	1	－	15
	全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)	有吉　秀樹	木2	1	－	16
全学総合講座(働くための基礎知識－知って得する労働問題)		市原　博	水2	1	－	17
	全学総合講座(メディア社会とロック)	岡村　圭子	火3	1	－	18
全学総合講座(ジェンダーで眺めてみれば)		片山　亜紀	水2	1	－	19
全学総合講座(経営者が語る現代企業論1)		上坂　卓郎	火2	1	－	20
	全学総合講座(経営者が語る現代企業論2)	上坂　卓郎	火2	1	－	21
全学総合講座(教えるという仕事)		川村　肇	木3	1	－	22
全学総合講座(獨協学)		高橋　輝暁	水3	1	－	23
全学総合講座(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)		高松　和幸	金4	1	－	24
	全学総合講座(地域活性化システム論—これからの「まちづくり」のヒントを探る)	高松　和幸	金4	1	－	25
	全学総合講座(情報社会とルール)	夛賀谷　一照	水3	1	－	26
全学総合講座(環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる)		中村　健治	火4	1	－	27
	全学総合講座(環境学2)(環境応用学－環境と社会)	中村　健治	火4	1	－	28
	全学総合講座(社会の中の科学)	野澤　聡	月4	1	－	29
	全学総合講座(家族と教育を考える)	平田　由紀江	月2	1	－	30
	全学総合講座(文化とナショナリズム)	前沢　浩子	火3	1	－	31
	全学総合講座(フィールドワークで知を鍛える)	松岡　格	木4	1	－	32
全学総合講座(スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える)		松原　裕	木4	1	－	33
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	山越　徳	木2	1	－	34
	全学総合講座(食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	和田　智	火4	1	－	35
	全学総合講座(自由時間の達人)	和田　智	金4	1	－	36

全学共通講義科目部門

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1(言語学概論)		安間　一雄	火3	1	養・12以前入学者	37
ことばと思想1(言語学a)		安間　一雄	火3	1	養・13以降入学者	37
	ことばと思想1(言語学b)	安間　一雄	金2	1	養	37
ことばと思想1(英語学b)	ことばと思想1(英語学a)	安間　一雄	金2/火3	1	養	38
ことばと思想1(日本語教育概説)		石塚　京子	月3	1	養	39
ことばと思想1(倫理の基本について考える)	ことばと思想1(環境と生命の倫理)	市川　達人	火3	1	養	40
ことばと思想1(社会思想史1)(市民的社会像の黎明期)	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的社会像の確立期)	市川　達人	火4	1	免	41
	ことばと思想1(応用言語学)	臼井　芳子	水1	2	養	42
	ことばと思想1(第二言語習得)	臼井　芳子	木2	2	養	43
ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	片山　亜紀/田村　斉敏	火4/金3	2	英・免	44
ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門1)	ことばと思想1(フランス・ドイツ哲学入門2)	川口　茂雄	月4	1	－	45
ことばと思想1(倫理学a)	ことばと思想1(倫理学b)	川口　茂雄	金4	1	養・免	46
ことばと思想1(心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則)	ことばと思想1(心理学)(人間の個性・多様性理解)	杉山　憲司	木1	1	－	47
ことばと思想1(心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則)	ことばと思想1(心理学)(人間の個性・多様性理解)	杉山　憲司	木2	1	－	47
ことばと思想1(こころの世界)		田口　雅徳	木2	1	養	48
ことばと思想1(日本語文法形態論)	ことばと思想1(日本語文法統語論)	武田　明子	火2	1	養・14以降入学者	49
ことばと思想1(通訳・翻訳論)		永田　小絵	月3	2	－	50
ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古代から近世まで)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	松丸　壽雄	水2	1	養・免	51
歴史と文化1(ドイツ語圏のメディア文化a)	歴史と文化1(ドイツ語圏のメディア文化b)	秋野　有紀	金3	2	独	52
	歴史と文化1(日本研究概論Ⅱ)	浅山　佳郎	木1	1	13以降入学養	53
歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と社会)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	新井　孝重	木4	1	13以降入学経・免	54
	歴史と文化1(英語圏の小説b)	上野　直子	水2	2	英・養	55
歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	上村　敏郎	月1	1	免	56
歴史と文化1(日本文化論)		宇津木　言行	火3	1	養・法	57
歴史と文化1(日本文学論・中世Ⅰ)		宇津木　言行	火4	1	13以降入学養	58
	歴史と文化1(日本事情とコミュニケーション教育)	宇津木　言行	火4	1	養	58
歴史と文化1(英語圏の文学)	歴史と文化1(英語圏の文学Ⅱ)	大熊　昭信	金2	1	養	59
歴史と文化1(日本思想史1)	歴史と文化1(日本思想史2)	矢森　小映子/小田　真裕	木2	2	養・免	60
	歴史と文化1(日韓交流史)	金　熙淑	月3	2	養	61
歴史と文化1(大衆文化論)		木本　玲一	月5	2	養	62
歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷　哲也	木3	1	－	63

春 科目名	秋 科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化1(東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1(東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	－	64
	歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	養	65
歴史と文化1(歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1(歴史学2)(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	1	養	66
歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	金3	1	免	67
歴史と文化1(韓国史)		佐藤 厚	金3	2	養	68
歴史と文化1(韓国文化各論c)		佐藤 厚	木1	2	養	69
歴史と文化1(恐怖の日本文学)		佐藤 毅	木1	1	13以降入学養	70
	歴史と文化1(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	1	養	70
歴史と文化1(韓国文学史)		沈 元燮	水2	2	13以降入学養	71
歴史と文化1(都市と建築1)	歴史と文化1(都市と建築2)	鈴木 隆	月3	1	－	72
歴史と文化1(中国史a)	歴史と文化1(中国史b)	張 士陽	木4	2	養・免	73
歴史と文化1(スペイン・ラテンアメリカの文学)		中井 博康	月3	1	－	74
歴史と文化1(スペイン研究入門)	歴史と文化1(ラテンアメリカ研究入門)	二宮 哲/佐藤 勘治	月5	1	養	75
	歴史と文化1(日本文学論・中世Ⅱ)	林 英一	火1	1	13以降入学養	76
歴史と文化1(民俗学)		林 英一	木1	1	養	77
	歴史と文化1(地域文化)	林 英一	木1	2	養・法	77
歴史と文化1(日本文学古典)		福沢 健	月2	1	養	78
	歴史と文化1(平安時代の文学を読む)	福沢 健	月2	1	13以降入学養	78
歴史と文化1(文化史入門)		古川 堅治	木2	1	養	79
歴史と文化1(文化人類学a)	歴史と文化1(文化人類学b)	松岡 格	金2	1	養	80
歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	水2	2	養	81
歴史と文化1(移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1(グローバル化と情報・通信の文化史)	水口 章	月4	1	－	82
歴史と文化1(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ	月2	2	養	83
歴史と文化1(在外日本人研究)		山本 英政	月4	2	13以降養	84
	歴史と文化1(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月4	1	英・養	84
歴史と文化1(英語圏の文化)	歴史と文化1(英語圏事情)	山本 英政	木2	2	英・養	85
現代社会1(ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養	86
現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	免	87
現代社会1(教育法1)	現代社会1(教育法2)	市川 須美子	木2	2	法	88
現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月3	1	免	89
	現代社会1(非正規雇用を考える)	市原 博	木5	1	－	90
現代社会1(国際関係の構造と展開)	現代社会1(近現代の国際関係史)	伊藤 兵馬	月3	1	－	91
現代社会1(東南アジアの開発と社会)		江藤 双恵	火1	2	13以降入学養	92
現代社会1(韓国政治論)		呉 吉煥	金1	2	養	93
現代社会1(現代の企業経営)	現代社会1(基礎から学ぶマネジメント)	岡部 康弘/有吉 秀樹	水1	1	経	94
	現代社会1(地域メディア論)	岡村 圭子	火2	2	養・13以降入学経	95
現代社会1(社会学a)	現代社会1(社会学b)	木本 玲一/岡村 圭子	月4/土1	1	養・免	96
現代社会1(民法1)	現代社会1(民法2)	小川 佳子	月2	1	法	97
現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法・免	98
現代社会1(地理学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1(地理学2)(世界の自然環境と文化)	北﨑 幸之助	金4	1	養・免	99
現代社会1(経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	100
現代社会1(日本国憲法)		古関 彰一	金4	1	法・免	101
現代社会1(歴史の中のメディア)	現代社会1(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	－	102
現代社会1(グローバリゼーションを巡って)	現代社会1(日本の表象と世界)	柴崎 信三	木2	1	12以前入学経	103
	現代社会1(NGO論)	清水 俊弘	水2	1	養	104
現代社会1(コトバと社会)	現代社会1(コトバと社会)	下川 浩	水4	1	－	105
現代社会1(社会科学概論1)	現代社会1(社会科学概論2)	髙須 則行	水1	1	法	106
	現代社会1(韓国社会各論b)	全 載旭	木2	2	養	107
現代社会1(政治思想と理論、制度)	現代社会1(政策と政治過程)	中島 晶子	月3	1	－	108
	現代社会1(ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	水4	1	―	109
現代社会1(経済学1)(ミクロの視点で考える)	現代社会1(経済学2)(マクロの視点で考える)	浜本 光紹	火4	1	経	110
現代社会1(中東の社会空間)	現代社会1(中東政治と市民社会)	水口 章	月5	1	－	111
自然・環境・人間1(数学a)	自然・環境・人間1(数学b)	東 孝博	月2	1	養	112
自然・環境・人間1(物理学Ⅰ)	自然・環境・人間1(物理学Ⅱ)	東 孝博	月4	1	13以降入学養	113
自然・環境・人間1(宇宙論a)	自然・環境・人間1(宇宙論b)	東 孝博	火1	1	養	114
自然・環境・人間1(天文学a)	自然・環境・人間1(天文学b)	内田 俊郎	木4	1	養	115
自然・環境・人間1(歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源)	自然・環境・人間1(歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術)	内田 正夫	木4	1	－	116
自然・環境・人間1(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	－	117
自然・環境・人間1(科学技術の言語文化a)	自然・環境・人間1(科学技術の言語文化b)	野澤 聡	月2	1	－	118
	自然・環境・人間1(科学技術と社会b)	野澤 聡	水1	1	13以降入学養	119
自然・環境・人間1(科学技術基礎論Ⅰ)	自然・環境・人間1(科学技術基礎論Ⅱ)	野澤 聡	木2	1	13以降入学養	120
自然・環境・人間1(科学史a)	自然・環境・人間1(科学史b)	野澤 聡	金4	1	養	121

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間1(スポーツ科学概論)		依田　珠江	水1	1	13以降入学養	122
自然・環境・人間1(私の自由時間設計)		和田　智	金4	1	13以降入学養	123

全学共通実践科目部門

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2(意味論)	ことばと思想2(談話論)	浅山　佳郎	月1	2	養	124
	ことばと思想2(日本文学作品研究c)	宇津木　言行	火3	2	養	125
ことばと思想2(日本文学作品研究a)		宇津木　言行	木3	2	養	126
	ことばと思想2(日本文学作品研究e)	宇津木　言行	木3	2	13以降入学養	126
ことばと思想2(写本を読む)		宇津木　言行	木4	2	養	127
ことばと思想2(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津　正樹	土2	1	－	128
ことばと思想2(ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2(ラテン語Ⅰb)	小倉　博行	金3	1	－	129
ことばと思想2(ラテン語Ⅱa)	ことばと思想2(ラテン語Ⅱb)	小倉　博行	金2	2	－	130
	ことばと思想2(韓国の言語文化)	金　泰植	月3	2	養	131
ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅰb)	櫻井　悠美	月3	1	－	132
ことばと思想2(書き言葉の問題)	ことばと思想2(話し言葉の問題)	佐藤　毅	木2	1	－	133
ことばと思想2(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想2(ロマンス語研究入門2)	島津　寛	木4	2	－	134
ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月2	1	－	135
ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月3	1	－	135
ことばと思想2(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想2(生きたコトバづかい・文章編)	下川　浩	金3	1	－	136
	ことばと思想2(心理検査法と自己理解)	田口　雅徳	木4	2	養	137
ことばと思想2(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想2(反＝コミュニケーション論2)	谷口　亜沙子	月2	1	－	138
ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2((英語通訳)(英語通訳の仕事))	中島　直美	土2	1	免	139
	ことばと思想2(碑文を読む)	林　英一	火2	2	養	140
ことばと思想2(生活文化の発見)	ことばと思想2(生活文化の記述)	林　英一	木2	1	－	141
ことばと思想2(論文を書く)	ことばと思想2(口頭発表を行なう)	福沢　健	月3	1	－	142
ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱa)	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱb)	古川　堅治	水2	2	－	143
ことばと思想2(ラカン精神分析入門a)	ことばと思想2(ラカン精神分析入門b)	若森　栄樹	水2	1	－	144
歴史と文化2(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	歴史と文化2(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	A.ゾーリンジャー	月4	2	－	145
歴史と文化2(西洋絵画の主題と様式1)	歴史と文化2(西洋絵画の主題と様式2)	阿部　明日香	月2	1	－	146
	歴史と文化2(日本文化研究b)	宇津木　言行	木4	2	13以降入学養	147
	歴史と文化2(日韓比較文化論a)	金　熙淑	火4	2	養	148
歴史と文化2(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田　量介	火5	2	養	149
	歴史と文化2(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋　一男	月3	2	英・養	150
	歴史と文化2(韓国の宗教)	佐藤　厚	金3	2	養	151
歴史と文化2(能楽論)	歴史と文化2(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾　菊次	火2	1	－	152
歴史と文化2(イタリアの音楽史)	歴史と文化2(イタリアの声楽曲)	園田　みどり	水3	1	－	153
歴史と文化2(詩と音楽5)	歴史と文化2(詩と音楽4)	園田　みどり	木2	1	－	154
歴史と文化2(海から見た歴史)	歴史と文化2(食の歴史と文化)	野澤　丈二	木2	1	－	155
歴史と文化2(日本文化研究a)		林　英一	火2	2	養・法	156
歴史と文化2(日本文化研究d)		林　英一	火1	2	13以降入学養	157
歴史と文化2(アメリカ詩入門)		原　成吉	火1	2	英・養	158
歴史と文化2(日本事情1)	歴史と文化2(日本事情2)	守田　逸人	火3	1	13以降入学養	159
	現代社会2(21世紀の外交秘話)	V.シュタンツェル	水4	1	－	160
現代社会2(英文会計入門1)	現代社会2(英文会計入門2)	大坪　史治	木4	1	－	161
	現代社会2(教育の現場:教師と語るb)	川村　肇	金3	1	養	162
	現代社会2(韓国研究情報収集法)	金　熙淑	月4	2	養	163
現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	黒子　葉子	火3	1	独	164
	現代社会2(こども論)	小島　優生	金4	2	養	165
現代社会2(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会2(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川　浩	金4	1	－	166
現代社会2(韓国社会論Ⅰ)	現代社会2(ポストコロニアル研究入門)	平田　由紀江	火3	2	養/13以降入学養	167
	現代社会2(韓国社会論)	平田　由紀江	水2	2	養	168
現代社会2(インターンシップ)		森永　卓郎	木2	2	－	169
現代社会2(経理入門1)	現代社会2(経理入門2)	湯田　雅夫	木3	1	経	170
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	久東　義典	火3	1	外・養・経・免	171
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金3	1	外・養・経・免	171
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金4	1	外・養・経・免	171
現代社会2(コンピュータ入門a)	現代社会2(コンピュータ入門b)	杉村　和枝	金3	1	外・養・経・免	171
現代社会2(ホームページ作成)	現代社会2(ホームページ作成)	久東　義典	火5	1	養	172
現代社会2(ホームページ作成)	現代社会2(ホームページ作成)	根本　貴弘	金2	1	養	173
自然・環境・人間2(サイエンスライティングa)	自然・環境・人間2(サイエンスライティングb)	東　孝博	木4	2	13以降入学養	174
	自然・環境・人間2(統計と調査法)	安間　一雄	水2	2	養	175

春 科目名	秋 科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間2(基礎生物学実験a)	自然・環境・人間2(基礎生物学実験b)	飯泉 恭一	月2	2	養	176
自然・環境・人間2(生物学Ⅰ)	自然・環境・人間2(生物学Ⅱ)	飯泉 恭一	月3	1	13以降入学養	177
自然・環境・人間2(科学の方法と実験a)	自然・環境・人間2(科学の方法と実験b)	内田 正夫	木3	2	養	178
自然・環境・人間2(体育経営スポーツマネージメント)		川北 準人	月3	2	養	179
自然・環境・人間2(コンピュータと言語)		呉 浩東	月2	1	外・養	180
	自然・環境・人間2(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	180
自然・環境・人間2(データ構造とアルゴリズム論)		黄 海湘	水2	2	13以降入学養	181
自然・環境・人間2(情報検索と加工)		黄 海湘	水4	2	養	182
自然・環境・人間2(マルチメディア論)		田中 雅英	火4	2	養	183
	自然・環境・人間2(人間活動の自然環境への影響のデータからの理解)	中村 健治	水1	1	－	184
自然・環境・人間2(スポーツコーチ学a)	自然・環境・人間2(スポーツコーチ学b)	依田 珠江/松原 裕	木2/木3	2	養	185
	自然・環境・人間2(からだの仕組み)	依田 珠江	水3	2	13以降入学養	186
自然・環境・人間2(生理学Ⅰ)	自然・環境・人間2(生理学Ⅱ)	依田 珠江	木4	1	13以降入学養	187
自然・環境・人間2(リーダーシップ論)		和田 智	金2	2	養	188

外国語科目群

英語部門（English）

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	230
指定された者のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田　圭子	月 5 火 5	-	231
環・国・総のみ	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	232
経のみ	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	233
Quest Intro利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	234
Quest 1利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	235
指定された者のみ	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 金 5	-	236
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	237
指定された者のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田　麻里	火 5 木 5	-	238
環・国・総のみ	English（ライティング II a,b）	/(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	239
独・仏・経(13年度以降入学者)・法のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	240
指定された者のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	鷲麗美知　ゾラナ	火 5	-	241
指定された者のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン/中西　貴行	木 5	-	242
経のみ	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	243
環のみ	English（テーマ研究a,b）	/(English(Selected Topics in Social Sciences a,b)	各担当教員		-	244

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English（留学生I a,b）	/(Basic English Skills for International Students I a,b)	本年度休講			
外国人学生・帰国学生	English（留学生II a,b）	/(Basic English Skills for International Students II a,b)	本年度休講			

■選択科目

科目の種類	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	松岡　昇	月 3	環・国・総	245
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	飯島　優雅	火 4	環・国・総	246
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤　朋之	木 2	環・国・総	247
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	石月　正伸	金 3	環・国・総	248
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑　哲男	金 3	環・国・総	249
Speaking	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 2	経	250
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	D. R. ギブソン	火 4	経	251
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	M. H. ウィキンズ	木 1	経	252
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. ラシーン/R. J. パルカ	木3/木1	経	253
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. フォー	金 3	経	254
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. A. フルトン	金 4	経	255
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	S. フォー	月 3	-	256
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウェイ	木 2	-	257
Reading	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・経(13年度以降入学者)・法	237
	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	J. ラシーン/飯島　優雅	金2/木2	済・営(13以降入学者)	258
	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	中西　貴行	火 4	済・営(13以降入学者)	259
	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	藤田　登久子	金 3	済・営(13以降入学者)	260

Listening	English（リスニング II a,b）	/（Academic Listening Strategies II a,b）	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・経(13年度 以降入学者)・法	240
e-learning	English(e-ラーニング)	/（Computer Assisted English Learning (CAEL)）	岡田　圭子	火 4	1年生	261
Content-based	English(コンテントⅱ)	/（English Explorations）	J. ラシーン	火 3	TOEIC450点 未満	262
	English(コンテントⅲ)	/（English Explorations）	飯島　優雅	木 3	TOEIC450点 未満	263
Test-taking	English(資格I)	/（Special Topics: Basic Test-taking Strategies）	河原　伸一	金 4	TOEIC400点 以上	264
	English(資格II)	/（Special Topics: Advanced Test-taking Strategies）	松岡　昇	月 4	TOEIC400点 未満	265
	English(資格III)	/（Special Topics: Advanced Test-taking Strategies）	飯島　優雅	木 2	TOEIC450点 未満	266
	English(資格IV)	/（Special Topics: Advanced Test-taking Strategies）	M.クロフォード	火 3	TOEIC450点 未満	267
Pronunciation	English(発音)	/（Special Topics: Pronunciation Workshop）	辻田　麻里	木 4	－	268
	English(発音)	/（Special Topics: Pronunciation Workshop）	三谷　裕美	金 4	－	268
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/（Special Topics: Grammar Refresher a,b）	垣下　圭子	火 4	－	269
	English(基礎文法 a,b)	/（Special Topics: Grammar Refresher a,b）	豊田　宣是	木 1	－	270
	English(基礎文法 a,b)	/（Special Topics: Grammar Refresher a,b）	菊池　武	金 4	－	271

外国語科目群

外国語部門（英語以外）

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
（基礎コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員			独	272
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員			独	273
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員			独	274
（基礎コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 基礎）	辻本　勝好	金	2	独	275
（総合コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 基礎）	各担当教員			独	276
（総合コース）	ドイツ語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			独	277
	ドイツ語(IIIa,b 会話)	H.W.ラーデケ	木	1	独	278
（基礎コース）	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員			仏	279
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員			仏	280
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員			仏	281
（基礎コース）	フランス語（Ⅱa,b 基礎）	S.ジュンタ	月	3	仏	282
（総合コース）	フランス語（Ⅱa,b 総合J）	各担当教員			仏	283
（総合コース）	フランス語（Ⅱa,b 総合F）	各担当教員			仏	284
	フランス語(IIIa,b)	C.パジェス	月	4	仏	285
（基礎コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員			養(*1)	286
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員			養(*1)	287
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*1)	288
（基礎コース）	スペイン語（Ⅱa,b 文法）	兒島　峰	火	3	養(*1)	289
（総合コース）	スペイン語（Ⅱa,b 文法）	各担当教員			養(*1)	290
（総合コース）	スペイン語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			養(*1)	291
	スペイン語(IIIa,b 講読)	二瓶　マリ子	木	3	養(*1)	292
	スペイン語(IIIa,b 会話)	M.サンチェス	金	3	養(*1)	293
（基礎コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*2)	294
（総合コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*2)	295
（総合コース）	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員			養(*2)	296
（基礎コース）	中国語（Ⅱa,b 会話）	張　継英	火	3	養(*2)	297
（総合コース）	中国語（Ⅱa,b 会話）	各担当教員			養(*2)	298
（総合コース）	中国語（Ⅱa,b 講読・文法）	各担当教員			養(*2)	299
	中国語(IIIa,b 会話)	近藤　光雄	水	2	養(*2)	300
	中国語(IIIa,b 講読・文法)	平野　佐和	火	1	養(*2)	301
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	柳　蓮淑	月	2	養(*3)	302
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　熙淑	火	2	養(*3)	303
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　熙淑	火	3	養(*3)	303
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	水	1	養(*3)	304
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	水	2	養(*3)	304
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	金	2	養(*3)	304
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	沈　民珪	金	3	養(*3)	305
（総合コース）	韓国語（Ia,b 総合1）	各担当教員			養(*3)	306
（総合コース）	韓国語（Ia,b 総合2）	各担当教員			養(*3)	307
（基礎コース）	韓国語（Ⅱa,b 講読・会話）	沈　民珪	金	4	養(*3)	308
（総合コース）	韓国語（Ⅱa,b 総合1）	金　秀晶	金	2	養(*3)	309
（総合コース）	韓国語（Ⅱa,b 総合2）	金　秀晶	金	4	養(*3)	310
	韓国語（Ⅲa,b 総合3）	柳　蓮淑	月	1	養(*3)	311
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水	4	－	312
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木	3	－	312
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津　寛	土	1	－	313
	外国語(イタリア語Ⅱa,b 基礎)	島津　寛	土	2	－	314
	外国語(ポルトガル語Ia,b 総合)	牧野　真也	金	3	－	315
	外国語(ポルトガル語Ia,b 会話)	牧野　真也	金	4	－	316
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤　毅	水	2	－	317
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西　昌隆	月	4	－	318
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 総合)	齊藤　毅	水	3	－	319
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 会話)	小西　昌隆	月	3	－	320
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤　双恵	火	3	－	321
	外国語(タイ語Ⅱa,b 文字の読み書き)	江藤　双恵	火	2	－	322
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	3	－	323
	外国語(アラビア語Ⅱa,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	4	－	324
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰa,b 基礎)	阿部　望	金	2	－	325
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 総合)	M.加藤	木	3	－	326
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 会話)	M.加藤	木	4	－	327
	外国語(トルコ語Ⅱa,b 応用)	M.加藤	木	2	－	328

日本語部門

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
（外国人・帰国学生）	日本語(総合IAa,b/総合IBa,b/総合ICa,b)	各担当教員			－	329
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	石田　ゆり子/石塚　京子	月	4	－	330
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	丸山　具子/武田　明子	水	1	－	331
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	丸山　具子/北村　淳子	水	4	－	332
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	丸山　具子/岩沢　正子	金	2	－	333

スポーツ・レクリエーション部門/カテゴリーⅤ　体育科目

開講科目(副題)	開講学期	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートab)	春・秋	和田　智	火1	1		190
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	秋	和田　智	土1	1		191
スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーb)	秋	松原　裕	火3	1		192
スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門ab)	春・秋	依田　珠江	水2	1		193
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスab)	春・秋	重藤　誠市郎	火1	1		194
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスab)	春・秋	重藤　誠市郎	火2	1		194
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa)	春	松原　裕	火3	1		195
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスab)	春・秋	松原　裕	水3	1		196
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスab)	春・秋	田中　茂宏	木1	1		197
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスab)	春・秋	松原　裕	金3	1		196
スポーツ・レクリエーション(ゴルフab)	春・秋	小笠原　慶太	金1	1		198
スポーツ・レクリエーション(ゴルフab)	春・秋	小笠原　慶太	金2	1		198
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングab)	春・秋	山口　知恵	月4	1		199
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa)	春	松原　裕	木2	1		200
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングb)	秋	松原　裕	木4	1		200
スポーツ・レクリエーション(サッカーab)	春・秋	大森　一伸	火2	1		201
スポーツ・レクリエーション(サッカーab)	春・秋	西川　誠太	水2	1		202
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスb)	秋	齋藤　初恵	金2	1		203
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスb)	秋	齋藤　初恵	金3	1		203
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールab)	春・秋	萩野　元祐	木1	1		204
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールab)	春・秋	萩野　元祐	木2	1		204
スポーツ・レクリエーション(卓球ab)	春・秋	山口　知恵	月2	1		205
スポーツ・レクリエーション(卓球ab)	春・秋	今野 廣隆	木1	1		206
スポーツ・レクリエーション(卓球b)	秋	依田　珠江	木2	1		207
スポーツ・レクリエーション(卓球ab)	春・秋	神宮司　親治	金1	1		208
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門b)	秋	川北　準人	月3	1		209
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門ab)	春・秋	大森　一伸	火1	1		210
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門ab)	春・秋	西川　誠太	水1	1		211
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門b)	秋	今野 廣隆	木2	1		212
スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツab)	春・秋	村山　光義	月3	1		213
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールab)	春・秋	川北　準人	月1	1		214
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールab)	春・秋	川北　準人	月2	1		214
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールab)	春・秋	依田　珠江	木1	1		215
スポーツ・レクリエーション(バドミントンab)	春・秋	山口　知恵	月3	1		216
スポーツ・レクリエーション(バドミントンab)	春・秋	藤野　和樹	水1	1		217
スポーツ・レクリエーション(バドミントンab)	春・秋	藤野　和樹	水2	1		217
スポーツ・レクリエーション(バドミントンab)	春・秋	田中　茂宏	木3	1		218
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa)	春	今野 廣隆	木2	1		219
スポーツ・レクリエーション(バレーボールab)	春・秋	横矢　勇一	金1	1		220
スポーツ・レクリエーション(バレーボールab)	春・秋	横矢　勇一	金2	1		220
スポーツ・レクリエーション(フットサルab)	春・秋	神宮司　親治	金3	1		221
スポーツ・レクリエーション(フリスビーab)	春・秋	村山　光義	月2	1		222
スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	秋	和田　智	火2	1		223
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスab)	春・秋	内堀　祐子	水1	1		224
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスab)	春・秋	内堀　祐子	水2	1		224
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa)	春	板垣　悦子	金3	1		225
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスab)	春・秋	板垣　悦子	金4	1		225
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスb)	秋	板垣　悦子	金5	1		225
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	水2	1		226
スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	春	和田　智	夏季集中	1		226
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田　智	火2	1		227
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	春	和田　智	夏季集中	1		227
スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	秋	和田　智	土2	1		228
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	秋	和田　智	冬季集中	1		228
スポーツ・レクリエーション(バランストレーニング)	秋	松原　裕	木2	1		229
スポーツ・レクリエーション(スキー＆スノーボード)	秋	松原　裕	冬季集中	1		229
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土1	1	外・経・法	＊
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土1	1	外・経・法	＊
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	和田　智	土1	1	外・経・法	＊
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	依田　珠江	土2	1	外・経・法	＊
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	松原　裕	土2	1	外・経・法	＊
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	和田　智	土2	1	外・経・法	＊

全学共通授業科目　目次（2003年度から2007年度入学者用）

カテゴリーⅠ　全学総合講座

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて)		青山　愛香	木3	1	－	14
全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅠ)		有吉　秀樹	木2	1	－	15
	全学総合講座(社会を生き抜くセルフブランディングⅡ)	有吉　秀樹	木2	1	－	16
全学総合講座(働くための基礎知識－知って得する労働問題)		市原　博	水2	1	－	17
	全学総合講座(メディア社会とロック)	岡村　圭子	火3	1	－	18
全学総合講座(ジェンダーで眺めてみれば)		片山　亜紀	水2	1	－	19
全学総合講座(経営者が語る現代企業論1)		上坂　卓郎	火2	1	－	20
	全学総合講座(経営者が語る現代企業論2)	上坂　卓郎	火2	1	－	21
全学総合講座(教えるという仕事)		川村　肇	木3	1	－	22
全学総合講座(獨協学)		高橋　輝暁	水3	1	－	23
全学総合講座(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)		高松　和幸	金4	1	－	24
	全学総合講座(地域活性化システム論—これからの「まちづくり」のヒントを探る)	高松　和幸	金4	1	－	25
	全学総合講座(情報社会とルール)	夛賀谷　一照	水3	1	－	26
全学総合講座(環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる)		中村　健治	火4	1	－	27
	全学総合講座(環境学2)(環境応用学－環境と社会)	中村　健治	火4	1	－	28
	全学総合講座(社会の中の科学)	野澤　聡	月4	1	－	29
	全学総合講座(家族と教育を考える)	平田　由紀江	水3	1	－	30
	全学総合講座(文化とナショナリズム)	前沢　浩子	火3	1	－	31
	全学総合講座(フィールドワークで知を鍛える)	松岡　格	木4	1	－	32
全学総合講座(スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える)		松原　裕	木4	1	－	33
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	山越　徳	木2	1	－	34
	全学総合講座(食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	和田　智	火4	1	－	35
	全学総合講座(自由時間の達人)	和田　智	金4	1	－	36

カテゴリーⅡ　概論科目

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
倫理学a(倫理の基本について考える)	倫理学b(環境と生命の倫理)	市川　達人	火3	1	養	40
倫理学a(倫理学と人間性)	倫理学b(現代倫理学の諸問題)	川口　茂雄	金4	1	養	46
社会思想史a(市民的社会像の黎明期)	社会思想史b(市民的社会像の確立期)	市川　達人	火4	1	－	41
社会思想史a(東洋古代から近世まで)	社会思想史b(東洋近世から現代まで)	松丸　壽雄	水2	1	養	51
心理学a(人間の行動・認知・動機の一般法則)	心理学b(人間の個性・多様性理解)	杉山　憲司	木1	1	－	47
心理学a(人間の行動・認知・動機の一般法則)	心理学b(人間の個性・多様性理解)	杉山　憲司	木2	1	－	47
言語学a(一般言語学)	言語学b(一般言語学)	安間　一雄	火3/金2	1	養	37
言語学b(個別言語学-英語)	言語学a(個別言語学-英語)	安間　一雄	金2/火3	1	養	38
	言語学a(応用言語学)	臼井　芳子	水1	2	養	42
	言語学b(第二言語習得)	臼井　芳子	木2	2	養	43
文学a(恐怖の日本文学)	文学b(癒しの日本文学)	佐藤　毅	木1	1	－/養	70
文学a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	文学b(日本文学－平安時代の文学を読む)	福沢　健	月2	1	養/－	78
歴史学a(中世の仏教と社会)	歴史学b(中世の「悪党」と民衆)	新井　孝重	木4	1	－	54
歴史学a(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史学b(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷　哲也	木3	1	－	63
歴史学a(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史学b(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤　唯行	金3	1	－	67
歴史学a(中国近代史概説－清朝国家の黄昏)	歴史学b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	張　士陽	木4	2	養	73
歴史学a(ヨーロッパ史1)	歴史学b(ヨーロッパ史2)	上村　敏郎	月1	1	－	56
歴史学a(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史学b(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜　昭	水2	2	養	81
文化人類学a(未開文化の理解へ)	文化人類学b(未開文化の理解へ)	松岡　格	金2	1	養	80
現代文化論a(グローバリゼーションを巡って)	現代文化論b(日本の表象と世界)	柴崎　信三	木2	1	経	103
比較文化論a(東西の文化を結ぶもの)	比較文化論b(東西文化と近代化)	熊谷　哲也	木4	2	－	64
	比較文化論b(地域メディア論)	岡村　圭子	火2	2	養	95
経済学a(はじめての経済学)	経済学b(はじめての経済学)	黒木　亮	月1	1	経	100
経済学a(ミクロの視点で考える)	経済学b(マクロの視点で考える)	浜本　光紹	火4	1	経	110
日本国憲法(憲法と私たち)	日本国憲法(憲法と私たち)	加藤　一彦	火2	1	法	98
日本国憲法(憲法と私たち)		古関　彰一	金4	1	法	101
国際法a(国際社会と私たち)	国際法b(国際紛争を考える)	一之瀬　高博	月3	1	－	89
政治学a(政治思想と理論、制度)	政治学b(政策と政治過程)	中島　晶子	月3	1	－	108
社会学a(他者と自己)	社会学b(現代社会の諸問題)	木本　玲一/岡村　圭子	月4/土1	1	養	96
地理学a(自然環境と文化)	地理学b(自然環境と文化)	秋本　弘章	水2	1	－	87
地理学a(世界の自然環境と文化)	地理学b(世界の自然環境と文化)	北﨑　幸之助	金4	1	養	99
	女性学b(ジェンダーとメディア表象)	西山　千恵子	水4	1	ー	109

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)		和田　智	金4	1	－	123

カテゴリーⅢ　各論科目

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)		石塚　京子	月3	1	養	39
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想b)		片山　亜紀	火4	2	英	44
ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)		小山　慎治	木4	2	養	189
ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)		田口　雅徳	木2	1	養	48
	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想a)	田村　斉敏	金3	2	英	44
ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)		永田　小絵	月3	2	－	50
	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説a)	上野　直子	水2	2	英・養	55
歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)		宇津木　言行	火3	1	養・06以前入学者	57
	歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	宇津木　言行	火4	1	養	58
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文学文化)		大熊　昭信	金2	1	養	59
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史a)	歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史b)	矢森　小映子／小田　真裕	木2	2	養	60
	歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	金　熙淑	月3	2	養	61
歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)		木本　玲一	月5	2	養	62
	歴史と文化(Ⅲ)(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島　峰	火5	2	養	65
歴史と文化(Ⅲ)(韓国文化各論c)		佐藤　厚	木1	2	養	69
歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築1)	歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築2)	鈴木　隆	月3	1	－	72
歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	二宮　哲／佐藤　勘治	月5	1	養・06以前入学者	75
歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	林　英一	木1	1/2	養/養・法	77
歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)		古川　堅治	木2	1	養	79
歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)	水口　章	月4	1	－	82
歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術b)	師岡　カリーマ	月2	2	養	83
	歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	山本　英政	月4	1	英・養・06以前入学者	84
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	山本　英政	木2	2	英・養	85
現代社会(Ⅲ)(ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養	86
現代社会(Ⅲ)(教育法a)	現代社会(Ⅲ)(教育法b)	市川　須美子	木2	2	法	88
現代社会(Ⅲ)(国際関係の構造と展開)	現代社会(Ⅲ)(近現代の国際関係史)	伊藤　兵馬	月3	1	－	91
現代社会(Ⅲ)(民法a)	現代社会(Ⅲ)(民法b)	小川　佳子	月2	1	法	97
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	柴崎　信三	水2	1	－	102
	現代社会(Ⅲ)(NGO論)	清水　俊弘	水2	1	養	104
現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	下川　浩	水4	1	06以前入学者	105
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論a)	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論b)	髙須　則行	水1	1	法	106
	現代社会(Ⅲ)(韓国社会各論b)	全　載旭	木2	2	養	107
現代社会(Ⅲ)(中東の社会空間)	現代社会(Ⅲ)(中東政治と市民社会)	水口　章	月5	1	－	111
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)	自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)	東　孝博	火1	1	養	114
自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学a)	自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学b)	内田　俊郎	木4	1	養・06以前入学者	115
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	鈴木　滋	火2	1	－	117

カテゴリーⅣ　実践実習科目

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)		宇津木　言行	木4	2	養	127
ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津　正樹	土2	1	－	128
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	佐藤　毅	木2	1	－	133
ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門2)	島津　寛	木4	2	－	134
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月2	1	－	135
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月3	1	－	135
ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	下川　浩	金3	1	－	136
	ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	田口　雅徳	木4	2	養	137
ことばと思想(Ⅳ)(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想(Ⅳ)(反＝コミュニケーション論2)	谷口　亜沙子	月2	1	－	138
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	中島　直美	土2	1	－	139
	ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)	林　英一	木2	2	養	140
ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	林　英一	木2	1	－	141
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	福沢　健	月3	1	－	142
歴史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式a)	歴史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式b)	阿部　明日香	月2	1	－	146
	歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論a)	金　熙淑	火4	2	養	148
歴史と文化(Ⅳ)(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田　量介	火5	2	養	149
	歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋　一男	月3	2	英・養	150
歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾　菊次	火2	1	－	152
歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)	歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	園田　みどり	水3	1	－	153

春　科目名	秋　科目名	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化（Ⅳ）（詩と音楽5）	歴史と文化（Ⅳ）（詩と音楽4）	園田　みどり	木2	1	－	154
歴史と文化（Ⅳ）（海から見た歴史）	歴史と文化（Ⅳ）（食の歴史と文化）	野澤　丈二	木2	1	－	155
歴史と文化（Ⅳ）（アメリカ詩入門）		原　成吉	火1	2	英・養	158
現代社会（Ⅳ）（英文会計入門a）	現代社会（Ⅳ）（英文会計入門b）	大坪　史治	木4	1	－	161
	現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語るb）	川村　肇	金3	1	養	162
現代社会（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	現代社会（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	黒子　葉子	火3	1	独	164
	現代社会（Ⅳ）（こども論）	小島　優生	金4	2	養	165
現代社会（Ⅳ）（生きたコトバづかい・話し合い編）	現代社会（Ⅳ）（生きたコトバづかい・話し合い編）	下川　浩	金4	1	－	166
	現代社会（Ⅳ）（ポストコロニアル研究入門）	平田　由紀江	火3	2	－	167
	現代社会（Ⅳ）（韓国社会論）	平田　由紀江	水2	2	養	168
現代社会（Ⅳ）（インターンシップ）		森永　卓郎	木2	2	－	169
現代社会（Ⅳ）（経理入門a）	現代社会（Ⅳ）（経理入門b）	湯田　雅夫	木3	1	経	170
現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門a）	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門b）	久東　義典	火3	1	外・養・経	171
現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門a）	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門b）	黄　海湘	金3	1	外・養・経	171
現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門a）	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門b）	黄　海湘	金4	1	外・養・経	171
現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門a）	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門b）	杉村　和枝	金3	1	外・養・経	171
現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	久東　義典	火5	1	養	172
現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	根本　貴弘	金2	1	養	173
	自然・環境・人間（Ⅳ）（統計と調査法）	安間　一雄	水2	2	養	175
自然・環境・人間（Ⅳ）（体育経営スポーツマネージメント）		川北　準人	月3	2	養	179
	自然・環境・人間（Ⅳ）（コンピュータ構造論）	呉　浩東	月2	2	養	180
自然・環境・人間（Ⅳ）（情報検索と加工）		黄　海湘	水4	2	養	182
自然・環境・人間（Ⅳ）（マルチメディア論）		田中　雅英	火4	2	養	183
自然・環境・人間（Ⅳ）（スポーツコーチ学a）	自然・環境・人間（Ⅳ）（スポーツコーチ学b）	依田　珠江/松原　裕　木2/木3		2	養	185
自然・環境・人間（Ⅳ）（リーダーシップ論）		和田　智	金2	2	養	188

外国語科目

英語科目

外国語学部英語学科・国際教養学部の学生は、下記の英語科目を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
再履修クラス	English 111-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	230
再履修クラス（国のみ）	English 121-a,b Basic Composition	各担当教員		-	232
再履修クラス	English 141-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	234
再履修クラス	English 211-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	237
再履修クラス（国のみ）	English 221-a,b Basic Composition	各担当教員		-	239
再履修クラス	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	240
独・仏のみ	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	各担当教員		-	243

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English 110-a,b Introductory Reading Strategies	本年度休講			
外国人学生・帰国学生	English 211-a,b Basic Reading Strategies	本年度休講			

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English 121-a,b Basic Composition	松岡　昇	月 3	国	245
	English 121-a,b Basic Composition	飯島　優雅	火 4	国	246
	English 121-a,b Basic Composition	遠藤　朋之	木 2	国	247
	English 121-a,b Basic Composition	石月　正伸	金 3	国	248
	English 121-a,b Basic Composition	高畑　哲男	金 3	国	249
Speaking	English 131-a,b Basic Communicative English	W. ヘイ	月 2	-	250
	English 131-a,b Basic Communicative English	D. R. ギブソン	火 4	-	251
	English 131-a,b Basic Communicative English	M. H. ウィキンズ	木 1	-	252
	English 131-a,b Basic Communicative English	J. ラシーン/R. J. パルカ	木3/木1	-	253
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. フォー	金 3	-	254
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. A. フルトン	金 4	-	255
	English 231-a,b Basic Communicative English	S. フォー	月 3	-	256
	English 231-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 2	-	257
Reading	English 211-a,b Basic Reading Strategies	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	237
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	J. ラシーン/飯島　優雅	金2/木2	経・法	258
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	中西　貴行	火 4	経・法	259
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	藤田　登久子	金 3	経・法	260
Listening	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	240
e-learning	English 351 Computer-Assisted English Learning	岡田　圭子	火 4	-	261
Basic Grammar	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	垣下　圭子	火 4	-	269
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	豊田　宣是	木 1	-	270
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池　武	金 4	-	271

外国語科目

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員			独	272
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員			独	273
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (会話)	各担当教員			独	274
(基礎コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	辻本 勝好	金	2	独	275
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	各担当教員			独	276
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (会話)	各担当教員			独	277
	ドイツ語Ⅲa,b(会話)	H.W.ラーデケ	木	1	独	278
(基礎コース)	フランス語 Ia,b (基礎)	各担当教員			仏	279
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合J)	各担当教員			仏	280
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合F)	各担当教員			仏	281
(基礎コース)	フランス語Ⅱa,b (基礎)	S.ジュンタ	月	3	仏	282
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合J)	各担当教員			仏	283
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合F)	各担当教員			仏	284
	フランス語Ⅲa,b	C.パジェス	月	4	仏	285
(基礎コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員			養(*1)	286
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員			養(*1)	287
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (会話)	各担当教員			養(*1)	288
(基礎コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	兒島 峰	火	3	養(*1)	289
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	各担当教員			養(*1)	290
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (会話)	各担当教員			養(*1)	291
	スペイン語Ⅲa,b (講読)	二瓶 マリ子	木	3	養(*1)	292
	スペイン語Ⅲa,b(会話)	M.サンチェス	金	3	養(*1)	293
(基礎コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員			養(*2)	294
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員			養(*2)	295
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(講読・文法)	各担当教員			養(*2)	296
(基礎コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	張 継英	火	3	養(*2)	297
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	各担当教員			養(*2)	298
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(講読・文法)	各担当教員			養(*2)	299
	中国語Ⅲa,b(会話)	近藤 光雄	水	2	養(*2)	300
	中国語Ⅲa,b(講読・文法)	平野 佐和	火	1	養(*2)	301
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	柳 蓮淑	月	2	養(*3)	302
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	金 熙淑	火	2	養(*3)	303
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	金 熙淑	火	3	養(*3)	303
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	水	1	養(*3)	304
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	水	2	養(*3)	304
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	金	2	養(*3)	304
基礎コース	朝鮮語(Ia,b 基礎)	沈 民珪	金	3	養(*3)	305
総合コース	朝鮮語(Ia,b 総合1)	各担当教員			養(*3)	306
総合コース	朝鮮語(Ia,b 総合2)	各担当教員			養(*3)	307
基礎コース	朝鮮語(Ⅱa,b 講読・会話)	沈 民珪	金	4	養(*3)	308
(総合コース)	朝鮮語(Ⅱa,b 総合1)	金 秀晶	金	2	養(*3)	309
(総合コース)	朝鮮語(Ⅱa,b 総合2)	金 秀晶	金	4	養(*3)	310
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	水	4	−	312
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	木	3	−	312
	イタリア語Ⅰa,b	島津 寛	土	1	−	313
	イタリア語Ⅱa,b	島津 寛	土	2	−	314
	ポルトガル語Ⅰa,b(総合)	牧野 真也	金	3	−	315
	ポルトガル語Ⅰa,b(会話)	牧野 真也	金	4	−	316
	ロシア語Ⅰa,b(総合)	齊藤 毅	水	2	−	317
	ロシア語Ⅰa,b(会話)	小西 昌隆	月	4	−	318
	ロシア語Ⅱa,b(総合)	齊藤 毅	水	3	−	319
	ロシア語Ⅱa,b(会話)	小西 昌隆	月	3	−	320
	タイ語Ⅰa,b(会話)	江藤 双恵	火	3	−	321
	タイ語Ⅱa,b(文字の読み書き)	江藤 双恵	火	2	−	322
	アラビア語Ⅰa,b(会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	3	−	323
	アラビア語Ⅱa,b(読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	4	−	324
	現代ヘブライ語Ⅰa,b	阿部 望	金	2	−	325
	古典ギリシア語Ⅰa,b	櫻井 悠美	月	3	−	132
	古典ギリシア語Ⅱa,b	古川 堅治	水	2	−	143
	ラテン語Ⅰa,b	小倉 博行	金	3	−	129
	ラテン語Ⅱa,b	小倉 博行	金	2	−	130

全学共通授業科目以外(外国人学生用科目)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅰa,b	各担当教員			−	329
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	石田 ゆり子/石塚 京子	月	4	−	330
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	丸山 具子/武田 明子	水	1	−	331
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	丸山 具子/北村 淳子	水	4	−	332
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	丸山 具子/岩沢 正子	金	2	−	333
	日本事情a,b	守田 逸人	火	3	−	159

（春）	全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）	担当者	青山　愛香

講義目標

我々の身近にあるはずのアートやデザイン。しかし、それはみなさんの日常の中で案外接点がないものとして、普段は意識されていないかもしれません。
そこで、芸術やデザインと深い関わりを持つ仕事をしている講師陣の話を聞きながら、アートとデザインがこれまで社会とどのように深く結びつきながら発展してきたのか、改めて一緒に見て行きましょう。

講義概要

現在日本でアートやデザインに関わる現場や教育機関において活躍する講師陣に、ご自分の仕事についてお話頂きます。例えば、美術館については、これまでみなさんが知らなかった活動の様子について知る事ができるでしょう。そしてアートと共に、デザインが社会に大きな影響力を持っていることを講師の方々にお話し頂きます。また、実際の美術家や写真家、お隣の国韓国の古典音楽に接することで、みなさんにとって、芸術がより一層身近なものになるかもしれません。また研究者の方々には、旧石器時代の洞窟壁画から印象派の絵画と社会、そして日本の文化政策のあり方について、幅広い時代の芸術と社会のあり方についてご講義頂く予定です。」

受講生への要望

毎回様々なジャンルで活躍しているゲストの方々のお話を聞きます。自分の視野を広げるために、積極的に質疑応答の際には参加して下さい。入室が講義開始後 10 分以上になった場合は、受講できないので気をつけること。

評価方法

毎回のコメントペーパーと学期末の筆記試験。理由なく三分の一以上欠席した場合は、単位を認めません。

テキスト、参考文献

適宜授業で指示する

授業計画

① イントロダクション
青山愛香（本学ドイツ語学科准教授）

② 戦後日本の公立ミュージアム政策 ― なぜ日本ではヨーロッパの絵画の方が有名なのか ―
秋野有紀（本学ドイツ語学科専任講師）

③ ハンセン療養所における芸術活動
金貴粉（国立ハンセン病資料館　学芸員）

④ デザインを活かしてできること
萩原修（デザインディレクター／明星大学デザイン学部教授

⑤ 見ること、見られること
木村太陽（美術家）

⑥ ランドスケープデザインについて
榊原八朗（ランドスケープアーキテクチャー）

⑦ 美術館で情報専門職が果たすべき役割とは？
川口雅子（国立西洋美術館　情報資料室長）

⑧ 印象派と 19 世紀フランスの社会
阿部明日香（本学フランス語学科専任講師）

⑨ アナログも面白い（モノクロ印画紙の奥深さ）
難波達巳（写真家）

⑩ 共生のためのアート
神野真吾（千葉大学准教授）

⑪ 韓国の音楽 ― 静と動の世界
山本華子（洗足学園音楽大学非常勤講師）

⑫ 美術館の思想／展示の思想
新藤淳（国立西洋美術館学芸員）

⑬ 旧石器時代洞窟壁画：芸術を創造するホモ・サピエンス
五十嵐ジャンヌ（東京芸術大学美術研究科非常勤講師）

⑭ ゲーテと青
渡部重美（本学ドイツ語学科教授）

⑮ 総括
青山愛香（本学ドイツ語学科准教授）

（春）	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）	担当者	有吉　秀樹

講義目標

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの 1 年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、出席は単位取得の前提である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。

本講座は各講師の多大なる尽力の成果もあり、真剣に学ぼうという学生から例年高い評価を得ているが、その一方で極めて受講態度の悪い者も多数散見される。また、講師サイドからも受講生の質の改善を求められている。そこで、昨年度より出席回数を前提としたうえで、期末の確認テストにおいて理解度・習熟度をより入念にチェックする方式に切り換えている。形ばかりの出席ではなく、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

評価方法

評価は授業への参加度と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。

テキスト、参考文献

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。

各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～14. 外部講師による講話

15. 確認テスト

（秋）	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉　秀樹

講義目標

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。

尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの 1 年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、出席は単位取得の前提である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。

本講座は各講師の多大なる尽力の成果もあり、真剣に学ぼうという学生から例年高い評価を得ているが、その一方で極めて受講態度の悪い者も多数散見される。また、講師サイドからも受講生の質の改善を求められている。そこで、昨年度より出席回数を前提としたうえで、期末の確認テストにおいて理解度・習熟度をより入念にチェックする方式に切り換えている。形ばかりの出席ではなく、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。

評価方法

評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。

テキスト、参考文献

有吉秀樹編著　『自分の「軸」を作る　セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』　中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。

各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～14. 外部講師による講話

15. 確認テスト

（春）	全学総合講座（働くための基礎知識―知って得する労働問題）	担当者	市原　博

講義目標

アベノミクスによる景気回復期待があるとはいえ、消費増税後の景気回復の動きは鈍く、日本経済は依然として厳しい状況に置かれている。このような経済状況およびグローバリゼーションの影響も受けて、日本の雇用をめぐっては深刻な問題が生じている。

人手不足という現象が起こっている一方で、大学生の就職状況はいぜんとして厳しい状況が続いており、企業による学生の選別が緩くなる気配はない。職場における労働環境も悪化しており、それは特に若年層において厳しいものがあるといわれる。

本講義では、「働くこと」をめぐる様々な問題に多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているかについて考えていくことにする。

講義概要

講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合や経営者団体の関係者、弁護士、労働・社会保障研究者等、社会の各方面でご活躍の多様な第一級の講師の方々から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないようにすること。
真摯な態度で受講すること。

評価方法

原則としてレポートにより評価する。

テキスト、参考文献

各回の講義において紹介する。

授業計画

以下のようなスケジュールを予定しているが、論題や講義の順番は変更する場合がある。

1. ガイダンス
2. 労働法の基礎知識（1）
3. 労働法の基礎知識（2）
4. 少子化対策を考える―共働き社会の課題
5. 労使関係論（1）労働側からみて
6. 労使関係論（2）経営側からみて
7. 社会保障制度―高齢化社会を迎えて
8. 公務員の世界
9. 『全契約社員の正社員化』はなぜ実現したのか
   ―広島電鉄労働組合の事例
10. ILO と労働 CSR
11. 労働安全衛生―メンタルヘルスを含む
12. 政策制度への取り組み―政府に対する要求
13. 労働組合の一年
14. ブラック企業問題への対応
15. まとめ

（秋）	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村　圭子

講義目標

「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。

かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していってほしい。

たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（J ポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。あるいは、講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。いずれにせよ、貴重な経験を自分なりに活かしてほしい。

講義概要

初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。

講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。

講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。

受講生への要望

1）自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。
2）初回オリエンテーションには必ず参加すること。

評価方法

授業中の質問・発言（40%）と期末テストの成績（60%）を総合的に考慮し評価する。

テキスト、参考文献

サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社
サエキけんぞう『ロックの闘い』シンコーミュージック

授業計画

1．　オリエンテーション
2．　メディアの発達とロックの進化１
　――ロック誕生の瞬間から現在まで
　　ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ・作詞家・ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝ
　　サエキけんぞう
3．　メディアの発達とロックの進化２
　――ロックの変革者たち
　　同上
4．　アニメが飲み込むロック
　――世界を席巻するアニメ文化のグローバル性
　　音楽評論家　冨田明宏
5．　J ポップ論
　　音楽評論家 青木 優
6．　日本のロック・海外進出史
　　サエキけんぞう
7．　ロックフェスティバル考
　――ロックが生み出す消費の現場
　　同上
8．　ロックカルチャーとファッション
　　同上
9．　ワールドクラブカルチャー論
　　音楽評論家　サラーム海上
10．　テクノ音楽と世界
　　音楽評論家　小暮秀夫
11．　グループサウンズ論
　――異形の和製ポップスがもたらしたもの
　　音楽評論家　中村俊夫
12．　ロックとアイドル文化
　　ミュージシャン 掟ポルシェ
13．　ヒップホップ論
　　ミュージシャン 高木 完
14．　越境する音楽
　　音楽評論家 北中正和
15．　まとめ

！注意！
上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。

（春）	全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）	担当者	片山　亜紀

講義目標

・ジェンダーの視点から、セクシュアリティに関わるさまざまなトピックを扱います。セクシュアリティとは、狭義には「性行動」くらいの意味ですが、この講義では「他人との人間的なつながりや愛情、友情、融和感、思いやり、包容力など、人間関係における社会的・心理的側面のすべて」と広く捉えます。

・講義前半では、セクシュアリティの多様性について考えます。ふだんジェンダー二分法（人間には男と女の二通りしかいないという考え）のもとで見えなくなっている多様性について確認するとともに、みなさんが高校までに習ってきたであろう性教育の学び直しをします。

・講義後半では、妊娠と出産について考えます。妊娠と出産はセクシュアリティの一部ですが、高校までの教育では「まだ先のこと」として捉えられてきたのではないかと思います。この講義では妊娠プロセスを学び直すとともに、妊娠と出産を、日本や世界や家族やパートナーシップの中に改めて位置づけ、現実的な問題として考えます。

講義概要

・オムニバス形式で、研究者や活動家の方々をほぼ毎回ゲスト講師としてお招きして、お話を伺います。

・受講者のみなさんには、各回の講義をメモを取ってまとめつつ、他の回の講義とも結び合わせつつ、聴講していただきます。毎回の講義の最後には自分で講義内容をまとめる作業を行ってもらいます。

・質問を歓迎します。正解がある話ではないので、現場の正確な情報を得つつ、新しい知見につながる言葉を仕入れつつ、ゲスト講師の方々の話をご自分でどこまでも広げていくような態度が望ましいです。

受講生への要望

・初回の授業から、受講ルールをふくめ全般的な説明をしたあとすぐ、ゲスト講師による講義に入ります。受講を考えている学生はかならず一回目から出席してください。

・ゲスト講師の方々は、学外からお越しいただいています。真摯な態度で授業に臨んでください。出席に値しない出席態度の場合、退席などの措置を取ることがあります。

評価方法

毎回のコメントペーパー約 30%；学期末試験約 70%
＊４回を越えて欠席した場合、理由に関わらず成績評価の対象にしません。

テキスト、参考文献

テキストはハンドアウトを配布。
参考文献は講義内で適宜紹介します。

授業計画

1. セクシュアリティと教育
（渡辺大輔氏：埼玉大学准教授）

2. ジェンダー、セクシュアリティ、リプロダクション
（片山亜紀：獨協大学外国語学部准教授）

3. セクシュアル・マイノリティ当事者を生きる
（飯塚信吾氏、藤部荒術氏：NPO 法人アカー）

4. ジェンダー・マイノリティ当事者を生きる
（遠藤まめた氏：いのち リスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン共同代表）

5. 肉食系男子と草食系男子：
ヘテロ男子にとっての恋愛とセクシュアリティ
（加藤敦也氏：関東学院大学非常勤講師）

6. ヘテロ女子にとっての恋愛と結婚（片山）

7. 大学生のための性教育
（千田陽子氏：日本家族計画協会家族計画研究センター）

8. 妊娠中絶について考える
（塚原久美氏：金沢大学非常勤講師）

9. 出産とはどんな体験か（河合蘭氏：出産ジャーナリスト）

10. 世界のリプロダクティブ・ヘルス
（浅村里紗氏：国際協力 NGO ジョイセフ）

11. LGBT カップルと子ども
（東小雪氏：元タカラジェンヌ、LGBT アクティビスト）

12. 親密圏における父親の課題：
不登校の子どもの親の会を事例として（加藤敦也氏）

13. 仕事とライフイベントの両立：
マタニティ・ハラスメントと日本の現状
（小酒部さやか氏：マタハラ Net）
http://mataharanet.blogspot.jp/

14～15. 全体まとめ（片山）

＊　「(調整中)」の回は、講義第一回で決定したものをお知らせします。また、他の回についてもタイトルは若干変わるかもしれません。

＊　講義内容の性質上、性にかかわる言葉、イメージ、映像が出てきます。ご了解ください。

（春）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

概ね１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

受講生への要望

・ 遅刻･途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う４年生は注意すること。
・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。
・真摯な態度で受講すること。

評価方法

定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。

授業計画

第 1 回 ガイダンス 経営者から学ぶべきこと

第 2 回 会社の仕組みとグローバル経営

第 3 回 日本の化学産業

第 4 回 地方銀行ビジネスの現状と課題

第 5 回 医薬品産業の難しさ・面白さ

第 6 回 家庭用品メーカー　花王の成長戦略

第 7 回 リースと不動産ビジネスの概要

第 8 回 食品業界の動向と今後の戦略

第 9 回 物流業界の現状と今後の進路

第 10 回 繊維業界の動向と今後の戦略

第 11 回 コンビニ業界の成長と今後の課題

第 12 回 総合商社は何を目指すのか

第 13 回 日本の自動車メーカーの強み

第 14 回 保険ビジネスの現状と課題

第 15 回 産業の移り変わりと職業選択

※開講日程､内容は若干変更の可能性がある｡第 1 回ガイダンスで進め方、評価方法など説明するので必ず出席すること。

（秋）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

経営者が語る現代企業論１に続く講義である。講師陣は春学期と異なる。秋学期から受講しても支障ない。

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、専門用語は頻繁に使われる。

春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

概ね１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

受講生への要望

・ 遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う４年生は注意すること。
・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。
・真摯な態度で受講すること。

評価方法

定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。

授業計画

第１回 ガイダンス、会社で働くことについて

第 2 回 タイヤメーカーブリヂストンの強さの秘密

第 3 回 倉庫業界の現状と課題

第 4 回 マスコミ業界の現状と課題

第 5 回 ツーリズムと航空ビジネスの課題

第 6 回 住宅産業の現状と課題

第 7 回 出版業界の現状　売れる本のつくり方

第 8 回 非鉄金属業界の現状と課題

第 9 回 食品業界から見たコンビニ・量販店の動向

第 10 回 電力業界の現状　改革の光と影

第 11 回 ＩＴ社会におけるリスクマネジメント

第 12 回 広告業界の役割と今後の動向

第 13 回 リクルート　その成長の仕組み

第 14 回 都市銀行ビジネスの現状と今後

第 15 回 講義のまとめ

※開講日程、内容は若干変更の可能性がある。第 1 回ガイダンスには必ず出席すること。

（春）	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村　肇

講義目標

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。

また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県内外の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生を予定しています。総勢 10 名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。

みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。

積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、20 行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4 判用紙で 3～4 枚）と併せて評価します。出席は 6 割が必須です。

テキスト、参考文献

高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）
その他、配布プリント類によります。
参考文献は、授業中適宜紹介します

授業計画

1　ガイダンス
テレビ東京制作「星空の中学生とともに」

2　松崎運之助（元夜間中学教諭）
「学ぶとは何か　夜間中学校を中心に」

3　遠藤芳男（元定時制高校教諭）
「定時制高校の国語　詩の授業」

4　白鳥勲（さいたま教育文化研究所）
「貧困社会の教育（1）子どもを支える」

5　窪岡文男（テレビ・ディレクター）
「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」

6　岩田彦太郎（中学校教諭）
「教師の仕事　教師の労働実態」

7　宮下与兵衛（首都大学東京特任教授）
「生徒の学校参加　三者協議会の取り組み」

8　関口武（小学校教諭）
「小学校の生活指導　一年間の実践構想」

9　菊地恵子（立教大学非常勤講師）
「中学校の教科指導（1）英語を教える」

10　小堀俊夫（元中学校教諭）
「中学校の教科指導（2）社会科を教える」

11　森達（中学校教諭）
「大震災と教育　復興の現状と学校の課題」

12　奈須恵子（立教大学教授）
「多文化教育と学校」

13　嶋村純子（中学校教諭）
「中学生の生活指導　リーダーを育てる」

14　中村悌一（さいたま教育文化研究所）
「中学校の生活指導　いじめと不登校」

15　川村
「体罰を考える」

（春）	全学総合講座（獨協学）	担当者	高橋　輝暁

講義目標

講座の目的：
「獨協学―獨協大学の伝統と私たちの未来を考える」

標記のテーマのもとで，(1) 2014 年に創立 50 周年を迎えた獨協大学のルーツを探り，(2) 戦前までの獨逸学協会学校から戦後の新制獨協中学高等学校までの伝統を明らかにするとともに，(3) この伝統を踏まえて，獨協大学の歴史と現在を，そして建学理念の将来性を考え，(4) 本学の未来への展望をひらく。

講義概要

講座の内容：幕末の開国とそれに続く明治維新を経て日本はその近代化を急ぐべく，西洋の科学技術はもとより，その生活様式から慣習，そして考え方から価値観まで取り入れてきた。ドイツに日本の近代化のモデルを見て，学界，官界，政財界の有力者たちが獨逸学協会に集い，ドイツ語を駆使する人材を育てるべく，獨逸学協会学校を設立した。「哲学」という訳語を編み出した初代校長西周（にしあまね）やドイツ語にも傑出した大村仁太郎第 4 代校長などは獨協人として知っておくべき名前だ。さらに，日本の近代児童文学の草分け巌谷小波（いわやさざなみ）もそこに学んだひとりだ。こうした伝統を受け継ぐ獨協大学の建学理念を端的に表明しているのが「大学は学問を通じての人間形成の場である」という天野貞祐初代学長の言葉だ。「人間形成」をキーワードとするこの建学理念についても，哲学者天野貞祐の著作をひもといて考えてみよう。それが今日までの獨協大学の活動にどのように活かされてきたかを検証し，獨協大学とそこに集う私たちの未来にどう活かすことができるかを考えよう。

受講生への要望

欠席を補うための事後的なレポート等は受け付けない。したがって，毎回の講義の最後に実施する小論述等のテストをきちんと受けないと，単位の取得に支障をきたすことになるので注意してほしい。

評価方法

毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等のテスト等（15 分程度）を実施し，その総合点によって評価する。

テキスト、参考文献

【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。
【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画

1　犬井　正（学長）「開講にあたって」／ 高橋輝暁（外国語学部特任教授）「明治維新と日本の近代化」
2　川村　肇（国際教養学部教授）「獨逸学協会学校の歴史」
3　矢羽々崇（外国語学部教授）「獨逸学協会学校と巌谷小波」
4　中山　純（慶應大学教授・本学非常勤講師）「獨協中学高等学校とその生徒たち」
5　東　孝博（国際教養学部教授）「獨協大学の歴史 A」
6　下川　浩（本学名誉教授・本学非常勤講師）「獨協大学の歴史 B」
7　金井　満（外国語学部教授）「獨協大学の学生たち」
8　寺﨑昌男（東京大学名誉教授）「大学史のなかの獨協大学」
9　石井純司（施設事業部長）「地域のなかの獨協大学」
10　山平　透（キャリアセンター課長）「社会のなかの獨協大学」
11　渡部重美（外国語学部教授）「獨協大学建学の理念 1 ―天野貞祐の『道理の感覚』」
12　松丸壽雄（国際教養学部教授）「獨協大学建学の理念 2 ―天野貞祐と教養教育」
13　浅山佳郎（国際教養学部教授）「21 世紀の獨協大学」
14　高橋輝暁（司会）「座談会―獨協大学の将来を考える」
15　まとめ

（春）	全学総合講座（NPO 論　人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目標

講義では、NPO などを通じての企業の社会貢献や NPO 活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題:「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで，その地域のために，今こそ，企業･行政･市民が共働して，課題解決をしなければならない」

そこで企業独自の視点やNPO独自の展開などを、公共的な空間（場）に根ざしたものとして行政も含めて市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてＮＰＯは経営学的にも注目される対象であるとして、ＮＰＯの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のＮＰＯが直面する危機があったが、ＮＰＯが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとっても社会的な器として、その責任を果たすことが求められ、その流れの中で、ＮＰＯと共に活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりＮＰＯはその組織使命の遂行のために企業と協力するものであるが、ＮＰＯにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとっては好都合で利用される可能性が増すことになるが、ＮＰＯは公共的な使命を遂行するために、ＮＰＯにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを覚悟した上で，協働することになる。

かくして、その真偽はいかにあるか。様々な活動を通しての社会との接点をみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- 遅刻は認めない。

評価方法

質問・レポートなど総合評価

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸
2. 地域資源を活用！地域イノベーターを生み出すまちづくり
   NPO 法人　ａｔａｍｉｓｔａ　代表理事　市来広一郎
3. ソーシャルプロジェクトをデザインして社会を変える
   「道のカフェ」の現場より
   ベルベット・アンド・カンパニーＬＬＣ代表　谷中修吾
4. 歴史に学ぶ～心の壁を打ち破れ！
   NHK エンタープライズ　プロデューサー　菊池正浩
5. NPO と企業
   一般社団法人 CSO ネットワーク 事務局長　黒田かをり
6. ふじみの国際文化センターの活動
   ふじみの国際交流センター 理事長　石井ナナエ
7. NPO 活動　出会いとつながり
   NPO 法人　とよあしはら　事務局長　山本裕隆
8. 異彩を放つ小さな町からのメッセージ
   NPO 法人オペラ彩　理事長　和田タカ子
9. 環境ＮＰＯとソーシャルビジネス
   地球環境パートナーシッププラザ　平田裕之
10. 防災分野で社会に、そして世界に挑む
    プラス・アーツの軌跡
    NPO 法人プラス・アーツ　理事長　永田宏和
11. Stay　alive
    ハンズオン！埼玉　副代表理事　吉田理映子（交渉中）
12. 交渉中
13. 紙製飲料容器「ｶｰﾄｶﾝ」が地球温暖化防止に貢献
    森を育む紙製飲料容器普及協議会事務局長 世木田大介
14. 交渉中
15. 交渉中

上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目標

この講義は，地域活性化をキーワードに，地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面，社会諸資源の面から取上げる。地域活性化システム論では，地域やまちの置かれている状況やそのまちが持っている潜在力とは何かについて考え，様々な取組事例を紹介する。また講義では分かりやすく行うとともに，各都道府県の市町村が，いずれも地域の創意工夫にあふれた取組みをしており、どのような取組みが地域特性となるかも垣間見ることになる。それを支援するという意味では共通しており，それぞれの地域が相対化されることで、支援枠組みを利用しての地域活性化をしようというのが期待されている。

本講義では，こうした取組みについて，講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学ぶ唯一の授業である。

講義概要

この科目は内閣府の協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例など、例示しながら講義する。

個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが，わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に，テーマ設定を行っている。

この結果，地域の中で起きている様々な事例を通して，地域の実情が理解できると共に，地域の課題についての新たな認識と共に，自分が住んでいる地域や将来住むかもしれない地域の可能性に関して，示唆に富んだ内容が展開される。

この講義を通じて，地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- 遅刻は認めない。

評価方法

質問・レポートなど総合評価

テキスト，参考文献

その都度，指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　高松和幸

2．温泉から見た地域活性
岡　冬彦　観光マーケティング研究所　副所長

3．震災復興とまちづくり（仮題）
柴田いづみ　SKM 設計計画事務所　共同代表

4．やる気を起こせば必ず奇跡は起きる
行政に頼らない村おこし
豊重哲郎　鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館館長

5．地域活性化の動向
木村俊昭　元農林水産省大臣官房政策課　企画官

6．世界の食料事情と環境の関係
末松広行　林野庁林政部長

7．地域プロデューサーがつくる地域ブランド
廣川州伸　日本作家協会事務局長

8．市町村合併と心の合併
映画づくりの過程が地域の人々の心をつなぐ
林　弘樹（映画監督）　有限会社 FireWorks

9．観光と地域活性
綿石隆人　㈱JTB 法人東京　本社ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ部　部長

10．持続可能な“手法としての共通ポイント”サービス
斉川　満　㈱サイモンズ　代表取締役社長

11．持続的に地域に関わり地域の持続性を高めるということ
竹本吉輝　株式会社トビムシ 代表取締役

12．ローカル線は心の栄養剤
鳥塚　亮　いすみ鉄道㈱　代表取締役社長

13．都市の超高齢者と地方の健康資源を結ぶ　介護旅行システム
篠塚恭一　ＮＰＯ法人　日本トラベルヘルパー協会理事長

14．新しい公共（まとめ）
舘　逸志　内閣府大臣官房審議

15．関東大震災の教訓
北原糸子　日本史学者　日本の災害研究家

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	夛賀谷　一照

講義目標

インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。

講義概要

情報社会、情報空間について、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。（講義の順番、内容について若干の変更の可能性がある）

受講生への要望

新聞やホームページなどに載っている最新動向にも注目すること。

評価方法

講義全体の中で、３ 回程度レポート提出を求める。

テキスト、参考文献

各授業で原則レジメを配布する。

授業計画

第 1 回　総説
第 2 回　情報社会と違法有害通信
第 3 回　ウイキリークス、盗聴
第 4 回　情報セキュリティと暗号システム
第 5 回　情報社会とルール、倫理
第 6 回 － 第 7 回　通信システムと情報社会
　　通信システムとその変容
　　インターネット、プロバイダ、クラウド
　　サイバー空間のルール
第 8 回　電波と情報空間
第 9 回　放送と情報社会
　　表現の自由
第 10 回　特定秘密保護法
第 11 回　ビッグデータ
第 12 回　著作権と情報（1）
第 13 回　著作権と情報（２）
第 14 回　個人情報保護
第 15 回　まとめ

（春）	全学総合講座 （環境学１）（環境基礎学－自然を見つめる）	担当者	中村　健治

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・敬愛・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、雌雄環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示される。

授業計画

1. 環境とは何か
2. 人類と環境（1）
3. 人類と環境（2）
4. 地域と気候変化
5. 地球温暖化
6. 気候と雨（1）
7. 気候と雨（2）
8. 水循環と植生（1）
9. 水循環と植生（2）
10. モンスーンアジアの人と自然（1）
11. モンスーンアジアの人と自然（2）
12. モンスーンアジアの人と自然（3）
13. 人類と環境
14. 地球環境の観測
15. まとめ

（秋）	全学総合講座 （環境学２）（環境応用学－環境と社会）	担当者	中村　健治

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・敬愛・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、雌雄環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は「人間社会の環境問題への対応」を中心に講義する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。

評価方法

定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示される。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 地球・地域環境問題の諸相（１）　環境と人間
3. 地球・地域環境問題の諸相（２）　人口と食糧問題
4. 地球・地域環境問題の諸相（３）　エネルギー問題
5. 地球・地域環境問題の対応（４）　環境経済・政策（１）
6. 地球・地域環境問題の対応（５）　環境経済・政策（２）
7. 地球・地域環境問題への対応　環境と法（１）
8. 地球・地域環境問題への対応　環境と法（２）
9. 地球・地域環境問題への対応　環境教育（１）
10. 地球・地域環境問題への対応　環境教育（２）
11. 地球・地域環境問題への取り組み（１）
12. 地球・地域環境問題への取り組み（２）
13. 地球・地域環境問題への取り組み（３）
14. 地球・地域環境問題への取り組み（４）
15. まとめ

（秋）	全学総合講座（社会の中の科学）	担当者	野澤　聡

講義目標

科学・技術が社会の中で作動するためには、様々な立場の人々の協働が不可欠である。とくに近年では、いわゆる人文・社会科学的な知見を科学・技術に活かそうとする試みが注目されている。つまり、社会の中で科学・技術を活かすためには、狭い意味での科学・技術の専門家だけでは不十分なのであり、人文・社会科学の知見をもった人々との協働が強く望まれるようになりつつあるのだ。

この授業では、科学・技術が社会の中で育まれており、つねに変化し続けているということを、様々な具体的な事例を通じて紹介することによって、受講生諸君が科学・技術に興味関心をもってもらうことを目標とする。受講生一人ひとりが学びつつある専門と、科学・技術とをどのように関係付け、生かしていくのかを考えるきっかけを提供したい。

講義概要

現代社会に生きるわれわれは、知らず知らずのうちに、科学・技術に深く関わっている。われわれの生活では、電気、医薬品、コンピュータ、スマートフォン、インターネットなどが当たり前になっているが、これらはいずれも科学・技術の成果であり、巨大で複雑な現在の社会システムの一部を構成している。

講義では、様々な分野で科学・技術に関わっている人たちに登壇していただき、どのような科学・技術に、どのような形で関わっているか、また、科学・技術の希望と問題がどのようなところにあると考えているかをお話していただく。

高校までの授業や、大学での日々の勉強とは違った話題に触れることによって、様々な発見や共感や疑問を抱くことができるだろう。

なお、各回の内容や講演者は都合により変更することがある。

受講生への要望

・第１回の授業で、授業の進め方や単位の認定方法について説明するので出席すること
・授業は静粛に受けること。あまりに悪質な場合は退席を命じることがある

評価方法

・授業への貢献（質問や意見の表明、出席カードの記入など）と、学期末に提出する授業報告（レポート）により評価する
・詳細については、第１回の授業で説明する

テキスト、参考文献

・教科書は使用しない
・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する
・【全般的な参考文献】中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会，2008 年（図書館にあり）

授業計画

1．オリエンテーション、社会の中で科学を考える
2．生殖技術と社会（1）不妊治療の現状と課題
3．生殖技術と社会（2）デザイナー・ベビーの可能性
4．法廷と科学
5．がん治療における患者の役割
6．医療政策と市民
7．大学における異分野交流の試み
8．科学者と科学技術行政
9．出版から見た科学技術
10．文学と科学技術
11．企業における研究開発
12．製品開発における消費者の役割
13．経済成長と科学技術
14．環境問題と科学技術
15．まとめ

（秋）	全学総合講座（家族と教育を考える）	担当者	平田　由紀江

講義目標

本講座は、社会学、教育学、ジェンダー研究等の分野で研究を行っている講師を招き、身近な問題である「家族」と「教育」のいまをさまざまな角度から考えていく講座である。

とくに日本の隣国である韓国との比較を中心に講義を進めていく。

講義概要

家族の変化や教育現場で起こっていることなどから、現代社会の様相を考えていく。

受講生への要望

初回講義には必ず出席のこと。

評価方法

平常点
講義レポート，期末レポート

テキスト、参考文献

『韓国家族』平田由紀江・小島優生編，亜紀書房，2014

授業計画

講義予定

・日本におけるこどもの貧困
・韓国のひとり親世帯の現状
・日本に住む外国人家庭の状況
・韓国における早期留学について
・日本における家族のかたちとその変化
・韓国における少年少女家長
・オルタナティブスクールの国際比較

などを予定している。

（秋）	全学総合講座（文化とナショナリズム）	担当者	前沢　浩子

講義目標

私たちの生きている社会は「国」という単位だけでは理解しにくい。小さな地域社会の特性や大きな経済圏の動きを考慮せずに、政治や歴史を語ることは難しい。一方で、私たちの発想の中に、「国家」「国民」「国籍」といった概念は深く根をおろしている。

この講義ではナショナル・アイデンティティの形成に文化や文学がどのように関与しているか、またグローバル経済の破綻とともに再び台頭しつつあるナショナリズムに、各国の文化記号や文化遺産がどのように活用されているかといった観点から、文化とナショナリズムの関係を考察する

講義概要

講義は学内と学外の講師によるオムニバス形式で行う。複数の地域についての多様な視点からの講義になるので、体系的な知識を身につけることよりも、複雑な問題への理解の出発点としてほしい。

講義のタイトル、日程については、後日、掲示で知らせる。

受講生への要望

授業の進め方および評価方法の詳細については第１回目に説明するので、必ず出席すること。

評価方法

平常点(毎回のコメント・ペーパー)：50%
学期末試験：50%

テキスト、参考文献

授業内で配布。

授業計画

1. イントロダクション
（前沢浩子・本学教授）

2-13. 学内および学外講師による講義
（具体的なタイトルと日程については掲示等でお知らせします。）

14. まとめ (1)
（前沢浩子・本学教授）

15. まとめ (2)
（前沢浩子・本学教授）

（秋）	全学総合講座（フィールドワークで知を鍛える）	担当者	松岡　格

講義目標

我々が現在生きているこの世界について知識を深めるにはさまざまな方法がある。その有力な方法の一つが現地調査（フィールドワーク）である。その対象となる「現場」は遠く離れた異世界ともいうべき土地かもしれない。あるいは逆に自らの日常生活そのものが観察の対象になるかもしれない。

この授業を通して様々なフィールドワークの実践に触れることで、フィールドワークの方法論について理解を深め、その知見とともに自らの知を鍛えることを目標とする。

講義概要

本講義は、オムニバス形式で進める。13 名のフィールドワークの実践者に、講師として各自のフィールドワークの経験とそこで得た知見について解説してもらう予定である。調査で得た様々な定量的データ、ビジュアル・データ、モノなども紹介しつつ、具体的な調査で経験したことと踏まえた分析を示し、必要に応じて理論的示唆についても触れる。

毎回小課題を解き、提出してもらうことで、知識の定着の確認と理解度を確かめる。

受講生への要望

初回の授業で授業の進め方、詳しいスケジュール、評価の方法など、全般的な説明をする。欠席しないようにすること。

評価方法

平常点（授業への参加度等）[30%]、小レポート課題[70%]を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、一定以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

テキスト、参考文献

授業内で指示する。

授業計画

１　授業ガイダンス
２　デジタル空間を調査する
３　植民地統治と人類学
４　漁業活動と人の移動
５　先住民と生活空間
６　農業実践――焼畑農耕を続けるという選択
７　アルゼンチンのボリビア人コミュニティ
８　農民生活と切り絵
９　ディアスポラとユダヤ人
１０　ハワイの中心地で生きる
１１　南米高地の遊牧生活
１２　環境 NGO の社会実践
１３　災害に向き合って生きるための知識
１４　国境地帯の宗教実践
１５　まとめ

※各回の内容は、変更・前後する可能性があります。詳しくは初回の授業で説明します。

（春）	全学総合講座 （スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える）	担当者	松原　裕

講義目標

大学生からの人間形成ということが中心のテーマになります。スポーツを日常生活の気晴らしから戦争まで広義に捉えて毎回のゲストが講義する予定です。
競技スポーツだけをイメージするのではなく、健康・世界という言葉もキーワードになり、それぞれの言葉を広く解釈することで、今後の学生生活や将来の生き方を各自が考える上でのヒントを各々が発見できるように、知的刺激を与えることが目標です。

講義概要

ゲストを招いて、講義を受ける形式になります。毎回の授業で感じたこと、考えたことを配布した用紙に各自が記入して提出してもらいます。その場での質疑応答も出来ます。
内容は、健康・スポーツ・世界というキーワードに関連して各ゲストがテーマを設定し、ゲストごとに完結したものになります。

受講生への要望

顔写真付受講票の提出、毎回出席し聴くことのできる心身の準備をお願いします。

評価方法

毎回記入した用紙、最終レポート、受講態度を総合して評価します。

テキスト、参考文献

必要により紹介し、プリントを配布します。

授業計画

第１回授業時、第２回授業時に提示します。

１　ガイダンス
２　ゲスト講義
３　ゲスト講義
４　ゲスト講義
５　ゲスト講義
６　ゲスト講義
７　ゲスト講義
８　ゲスト講義
９　ゲスト講義
１０　ゲスト講義
１１　ゲスト講義
１２　ゲスト講義
１３　ゲスト講義
１４　ゲスト講義
１５　ゲスト講義

（春）（秋）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	担当者	山越　徳

講義目標

４年間の学生生活を通して、人間形成をどのように進めるか、何を学ぶか、何をどの程度まで達成できるかなどを確認するための糧となる話を各分野の専門家からしてもらう。それにより２年次以降の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。

右のスケジュールは暫定的に示したもので、ほぼ確定した段階でスケジュール表を配布する。予定では第１回目もしくは第２回目の授業にて配布する予定。

講義概要

選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義では様々な業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に応えられるようにする。なお講師の都合により、授業計画の順序が変更される場合があることを留意されたい。

スケジュールについては上記のとおり。

受講生への要望

外部の方の話を聞くことを第一とするため、とにかく出席すること。礼儀正しく聴講すること。講義内容の更なる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること。

評価方法

出席、毎回の講義に対するレポート及びレポート（期末）

テキスト、参考文献

必要な資料は授業で配布

授業計画

（春）

１．さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
２．企業で働く、企業が学生に求めるもの
３．自己理解、自己表現
４．公務員の仕事
５．男女共同参画社会
６．ベンチャー企業を起業する
７．社会の求める人材とは
８．今後の食糧事情における食品企業の役割
９．仕事と適性
10．人間力を高める
11．１年生の今、すべきこと
12．活躍する OB
13．仕事と私事
14．内定者の体験談
15．まとめ

（秋）

春季の事業計画と内容は同じであるが順序は必ずしも同じではない。出来れば第１回目にスケジュール表を示す予定である。

上記授業計画は講師の都合により順序やテーマも変更することがある.

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	和田　智

講義目標

近年失われつつある伝統的食文化と新しい食習慣のもとに形成されてきた今日的な食文化の比較と現状を理解することは、健康な生活を求め、持続的な社会を形成するうえで重要なライフスキルといえる。

その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移すことを目標とする。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、授業への取り組み姿勢等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1　オリエンテーション
「食をめぐる話題」
和田 智 獨協大学教授

2「食と茶の文化伝導」
磯淵 猛　㈱ティー・イソブチカンパニー代表取締役社長

3「食事作法の背景にあるもの」
後藤加寿子　料理研究家　武者小路千家長女

4「世界の飢餓と WFP の活動」
国連 WFP 協会　広報担当者

5「難民と UNHCR の活動」
国連 UNHCR　広報官

6「人はズルなしで生きられるか」
服部 文祥　サバイバル登山家

7「スローフードの考え方」
吉開俊也　ニッポン東京スローフード協会

8「パティシエから見るスイーツブーム」
羽鳥武夫　シュルプリーズ　パティシエ

9「ケケタン先生の考える子どもと食」
葛恵子（有）葛トータルフードプロデュース　クッキングプロデューサー

10「The　日本食」
柳原尚之　江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰

11「中国の食と文化」
講師未定

12「怪しい食情報に騙されない」
講師未定

13「有機農業と食」
金子美登　埼玉県小川町有機農業実践家
霜里農場代表・小川町町会議員

14「食を資源とした地域おこし」
金丸弘美　食環境ジャーナリスト

15「私たちの食はこのままではいけない」
和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、順番は変更されます。

（秋）	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田　智

講義目標

自由時間の大切さに気づいていない人が多い。

私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間のためのものが多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。

「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。

春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。

講義概要

第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。

第2回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。

最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。

受講生への要望

質問、アンケート等で携帯端末を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業レポート、学期末レポート、授業への取り組み等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1　オリエンテーション
「あなたの自由時間の現状」
和田 智 獨協大学教授

2　自由時間の達人①
「農業から新しいライフスタイルを求めて」
島野忠夫　楽遊舎代表

3　自由時間の達人②
「好きなことを続けるということ」
講師未定　俳優

4　自由時間の達人③
「私にとっての世界一周の旅」
下重健児　本学卒業生

5　自由時間の達人④
「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」
多胡光純　本学卒業生
エアーフォトグラファー

6　自由時間の達人⑤
「生きることの証をもとめて」
服部 文祥　サバイバル登山家

7　自由時間の達人⑥
「日本人の自由時間を貪るパチンコ産業」
若宮　健　ジャーナリスト

8　自由時間の達人⑦
「バリアフリースクーバダイビングを推進する」
椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役

9　自由時間の達人⑧
「高齢者のためのレジャー」
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役

10　自由時間の達人⑨
「好きなことを続けるということ」
麻生子八咫　本学卒業生　活弁士

11　自由時間の達人⑩
「新しい旅行の動向」
福井　善朗　神戸夙川学院大学客員教授

12　自由時間の達人⑪
「学生時代からつながる現在と未来」
田中勝之　本学卒業生

13　自由時間の達人⑫
「好きなことを続けるということ」
指揮者　鈴木彰久

14　自由時間の達人⑬
「好きなことを続けるということ」
村山恵梨　プロボウラー

15　自由時間を「自由時間をレジャーとするために」
和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

13 年度以降 08～12 年度 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学概論) ことばと思想 1 (言語学 a) 言語学 a(一般言語学)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，言語資料分析については必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域における言語研究にも言及する． 参考文献 David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2)　町田健『言語学が好きになる本』(研究社出版，1999; ISBN:4-327-37674-4)	1. 話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事：言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ～音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法，その他の文法 9. 形と意味 ～発話に意味を込める：意味論，語用論 10. 会話の原則 ～言葉の適切な使い方：談話分析 11. 言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類：歴史言語学 13. 言語の進化 ～言語と人類の発達：言語考古学 14. コンピューターと言語 ～近未来の言語研究：人工知能，機械翻訳，コーパス言語学 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)	定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学 b) 言語学 b(一般言語学)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．教材の事前予習を前提とする． **参考文献** Edward Finegan, *Language: Its Structure and Use, 6th ed.* (Wadsworth, 2011; ISBN: 978-0495900412) David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of Language* (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)	1. 形態論 (1)　形態素の同定（ハンガリー語，スペイン語） 2. 形態論 (2)　形態素の同定（現代ヘブライ語，マレー・インドネシア語，ペルシア語） 3. 形態論 (3)　形態素の同定（ラテン語，ラコタ語） 4. 音声学・音韻論 (1)　発音記号，音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論 (2)　音韻の同定（ウィチタ語，古典ヘブライ語，ラコタ語） 6. 音声学・音韻論 (3)　音素の同定（スペイン語，ヒンディー語，日本語） 7. 音声学・音韻論 (4)　超分節音素の同定（中国語，アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論 (5)　音韻現象，生成音韻論（トルコ語，英語） 9. 統語論 (1)　直接構成素分析，句構造規則（英語） 10. 統語論 (2)　句構造規則（英語，イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論 (3)　構造形成，語順，格（英語，中国語，ドイツ語，クリンゴン語） 12. 意味論　上位概念・下位概念，同意語・反意語（英語，日本語，ペルシア語） 13. 語用論　新旧情報，言語行為，話題化（英語，中国語） 14. 書記法（英語，イタリア語，ギリシア語，ヘブライ語） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.* (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)	定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 b) 言語学 b(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ． 　参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる． **参考文献** David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.* (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, *English: History, Diversity and Change* (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition*（マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242） 石黒昭博他,『現代英語学要説』（南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X） 宇賀治正朋,『英語史』（開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6）	1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前 (1)：印欧語族の成立 3. 英語以前 (2)：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10. 英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状 (1)：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状 (2)：社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング，（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 14. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御，（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントを配布する．	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 a) 言語学 a(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある．それぞれのテーマについて基本的概念を解説し，実際の英語理解の支援を行う．分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる． 　参考文献 朝尾幸次郎,『英語の演習　第 3 巻：語彙・表現』（大修館書店） 宇賀治正朋,『英語史』(開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6）　高橋作太郎,『英語教師の文法研究』（大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526）　高橋作太郎,『続・英語教師の文法研究』(大修館書店, 1985; ISBN: 4469141542）高橋作太郎,『英語の演習　第 2 巻：文法』（大修館書店）　竹林滋・桜井雅人,『英語の演習　第 1 巻：音韻・形態』（大修館書店）　西光義弘他,『日英語対照による英語学概論』（くろしお出版, 1999; ISBN: 4874241697）　橋内武,『ディスコース：談話の織りなす世界』（くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7）　David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, The Story of English: Special Complete Edition（マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242）	1. 英語の文法理論（6 章） 2. 音声学（7 章） 3. 音韻論 (1)：分節音韻論（8 章） 4. 音韻論 (2)：強勢・イントネーション（8 章） 5. 形態論・語形成（9 章） 6. 統語論 (1)：構造主義の統語分析（10 章） 7. 統語論 (2)：生成文法の統語分析（10 章） 8. 意味論・語用論（11 章） 9. 談話分析 10. 英語史 (1)：古英語（4 章） 11. 英語史 (2)：中英語（4 章） 12. 英語史 (3)：近代英語（5 章） 13. 英語史 (4)：現代英語（5 章） 14. 英語史 (5)：英語の多様性（12 章） 15. コーパス英語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：石黒昭博他,『現代英語学要説』（南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X）	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08年度以降 07年度以前	ことばと思想１(日本語教育概説) ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法１の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．日本語教育の歴史と現状を知る。 ３．さまざまな外国語教授法を概観する。 ４．日本語を外国語として客観的に捉える。 ５．外国語としての日本語の指導法を考える。 ６．教師の役割を考える。	１．講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 ２．日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い ３．日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 ４．異文化接触と日本語教育 ５．外国語教授法の歴史 ６．外国語教授法の紹介(1) ７．外国語教授法の紹介(2) ８．言語教育と学習観 ９．日本語のしくみと指導のポイント(1) 10．日本語のしくみと指導のポイント(2) 11．教室活動の活動例 12．教師の役割 13．コースデザインとシラバス 14．評価方法 15．講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版	期末試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(倫理の基本について考える) 倫理学a(倫理の基本について考える)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識がでてきたりしたとき、この「なぜ」が、つまり倫理的問いかけが生まれるのである。 近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし最近、倫理への関心は急速に高まっている。良識が揺らいできているのである。 講義では、倫理的問いかけの基本を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という概念 4)倫理と道徳の違い 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ 11)行為への問い(3)……動機主義と結果主義 12)功利主義の倫理(1)……ベンサム 13)功利主義の倫理(2)……功利主義の今日的展開 14)自由主義の倫理(1)……カントとミル 15)自由主義の倫理(2)……リベラリズムと平等論
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(環境と生命の倫理) 倫理学b(環境と生命の倫理)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で、人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいはやさしく殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいうべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況(1) ……「医療化社会」批判 3)生命をめぐる状況(2) ……所有的身体観と生命表象の微細・局在化 4)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9)環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10)環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想 11)環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12)環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13)環境倫理の世界(5) 環境的不正義に関する倫理的言説 14)環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理 15)生命と環境とをつなぐ倫理的課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史 a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。 前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1)授業の狙いについて 2)「社会」という思想問題 3)「市民社会」の原型と近代的再生 4)ルネッサンス思想と古典古代文化 5)マキャベリと『君主論』 6)マキャベリと近代政治理論 7)ユートピアという思想 8)トマス・モアと『ユートピア』 9)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10)ルターの改革運動と神学 11)ルターの政治思想 12)ルターの職業思想 13)カルヴィニズムの宗教思想 14)カルヴィニズムと近代的エートス 15)まとめ－主権国家と市場社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。 参考書 講義で指示	期末の試験による

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(市民的社会像の確立期) 社会思想史 b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。	1)　授業の狙いについて 2) 西欧自然法思想の源泉 3) 自然法思想の近代的転回 4) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 5) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 6) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 7) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 8) 文明化という課題……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 9) 風土と社会……モンテスキューの権力論 10) 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 11) 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 12) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 13) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 14) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 15) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。 参考書 講義で指示	期末の試験による

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (応用言語学) 言語学 a(応用言語学)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の４領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～3 週：言語習得 　－言語習得 　－言語維持 －言語喪失 第 4～6 週:　言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム　(個人・社会) 　－マイノリティ言語 第 7 週：言語と脳 第 8～12 週：外国語教育 　－Second language vs. Foreign language －教室における第２言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第 13～15 週：言語研究

テキスト、参考文献	評価方法
配布資料等有り。	期末レポート＆課題(50%)、期末テスト（５０％）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (第二言語習得) 言語学 b(第二言語習得)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～7 週： SLA 理論・仮説 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第 8～13 週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第 14・15 週：発表および総括

テキスト、参考文献	評価方法
配布資料等有り。	期末レポート＆課題（50%）、期末テスト（50%）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(英語圏の社会と思想 b) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 b)	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】　イギリスのフェミニズム思想と運動の歴史をたどります。フェミニズムとは簡単に言えば女性の権利主張のこと。イギリスのフェミニズムには、メアリ・ウルストンクラフト、J.S.ミル、ヴァージニア・ウルフなど、世界史レベルで著名な思想家がいます。また、参政権運動、1980年代にはじまった軍事施設占拠など、直接行動の歴史もユニークです。 今日の世界を理解するのに、階級や性別と並んでジェンダー（性別）の視点は欠かせません。イギリスのフェミニズムを学びながら、日本の現状とも比較して、今日の世界について理解を深めてほしいと思います。 【講義概要】　毎回、その時代を生きた人々の生の声を手がかりに、担当者がそれらの「声」の意味や背景について説明します。 ＊この講義は、2014年度秋学期に片山の「英語圏の社会・思想・歴史b、英語圏の社会と思想 b」の単位を修得した学生は登録できません。	１．はじめに：フェミニズムとは ２．中世から近代初期（１）：キリスト教とジェンダー ３．中世から近代初期（２）：世俗社会とジェンダー ４．18 世紀のパイオニア：メアリ・ウルストンクラフト ５．19 世紀（１）：J.S. ミルとハリエット・テイラー ６．19 世紀（２）：ナイチンゲールのイメージと実像 ７．19 世紀（３）:「新しい女」と労働運動 ８．19 世紀から 20 世紀へ（１）：女性参政権運動 ９．19 世紀から 20 世紀へ（２）：バースコントロール運動 10. 戦間期のフェミニズム：ヴァージニア・ウルフ 11. 20 世紀後半（１）：女性解放運動とグリーナムコモン 12. 20 世紀後半（２）：ブラック・フェミニズム 13. 20 世紀後半（３）:「ホワイト」フェミニズムの応答 14-15. まとめ （各回タイトル・内容は一部変更することがあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはハンドアウトを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。	コメント約３割、学期末試験約７割。 ただし５回を越えて欠席した場合、評価対象としません。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(英語圏の社会と思想 a) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 a)	担当者	田村　斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、戦争と文学をテーマとして、文学が戦争のもたらした大量破壊、大量殺戮あるいは思想的な影響や世界観の変化などといかに向き合い、どのように表現したかを考えていきます。 そのときに重要なことは、技術の発達、とりわけ戦争とコミュニケーションの技術の飛躍的な進展です。両者はたえず関連しあい、一見平和な世界にあっても軍事的な含みをもつ技術が、われわれのものの見方や社会のありように深く影響しているものです。そうした影響は、一見無関係に見える文学作品の内部にもたしかに確認され、場合によってはそれを生み出す契機のひとつとなり、動力となっています。 時代としては、ヨーロッパ全体を覆う戦争の祖形ともいえるナポレオン戦争に直面し、文学における革命を生じたロマン派の時代を起点として、第二次大戦後、冷戦期といわれる時代あたりまでを扱う予定です。ただし、そうした時代につくられた作品だけでなく、現在に近い作品で、当時の世界を描いたものも取り上げていく予定です。またいわゆる文学以外にも、映像、映画を一部取り上げます。 授業は講義が中心となりますが、感想やコメントなどを授業中に求める予定ですので、積極的に参加していただきたいと思います。	1. イントロダクション 2. 英国ロマン派と戦争１ 3. 英国ロマン派と戦争２ 4. 世紀末から 20 世紀へ１ 5. 世紀末から 20 世紀へ２ 6. 第一次世界大戦１ 7. 第一次世界大戦２ 8. 戦間期１ 9. 戦間期２ 10. 第二次世界大戦１ 11. 第二次世界大戦２ 12. 大戦後から現在へ１ 13. 大戦後から現在へ２ 14. まとめ１ 15. まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	授業内活動参加〈クイズ・提出物含む〉　40% 最終レポート　60%

08年度以降	ことばと思想１(フランス・ドイツ哲学入門１)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
十九世紀フランスの哲学・文化を、概観していく。 フランスの芸術・政治・文化といえば、十九世紀に花開いたものが多い。『レ・ミゼラブル』等々でなじみ深いこの華麗にして激動の時代に、フランスではどのような哲学・思想・芸術がうごめいていたのかを、見ていく。 十八世紀の〈啓蒙思想〉を引き継いで、個々の人間は生まれながらに身分の違いによって異なるのではなく、経験によって成長するのだ、と考える新しい発想が登場する。しかしこうした思想はたんなる生物学や唯物論に傾きかねない。それで人間存在をとらえているといえるのか。かくして〈スピリチュアリスム〉や〈伝統主義〉や新しい芸術が登場してくる…。こうした十九世紀フランス哲学の百花繚乱の諸相を、教科書をもとにしながら、見ていきたい。 各授業回の最初には、各哲学者・作家・芸術家などの思想・人生等について、教科書の要約などのかたちで、希望者に簡単なプレゼンを行ってもらう。	１．イントロダクション、プレゼン担当の日程調整 ２．フランス大革命をめぐって ３．十九世紀フランスの政治（七月革命、第二帝政 etc.） ４．十九世紀フランスの絵画（アングル、マネ etc.） ５．十九世紀フランスの音楽（ベルリオーズ etc.） ６．イデオロジー学派、スタンダール ７．ヴィクトル・クザン ８．〈伝統主義者〉たち ９．　サン＝シモン、フーリエの社会思想 １０．プルードンの〈無政府主義〉 １１．ボードレール、ヴィニー、ユゴーの詩作品 １２．『レ・ミゼラブル』 １３．フランス反省哲学 １４．科学の哲学、生の哲学（ベルクソン） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジャン・ルフラン 『十九世紀フランス哲学』（白水社・文庫クセジュ）	期末試験による。 ただし各授業回のプレゼン担当者には、期末試験の点数に15～30 点を加算する予定。

08年度以降	ことばと思想１(フランス・ドイツ哲学入門２)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
映画における哲学的・思想的・宗教的内容を、西洋哲学の重要著作と関連づけながら、分析・解釈していく。 映画は現代社会に身近に存在しているエンターテインメントの一ジャンルであると定義できる。しかしながら映画作品のうちには、たんなる娯楽であるに尽きると片づけてしまえない、深い思想性を含んだ難解な作品も少なからずある。今学期は、映画『ロード・オブ・ザ・リング』を取り上げ、それが含む哲学的・思想的・宗教的内容について詳細に検討していくこととしたい。 まず『ロード・オブ・ザ・リング』原作小説から影響を受けていると考えられる映画『スター・ウォーズ』について思想的要点を見たあと、『ロード・オブ・ザ・リング』映画の詳しい分析に入るという順序をとる。 両映画における「フォースの暗黒面」という事柄と「一つの指輪」という事柄とには一定の共通性が見いだされる。そこには「人間の自由意志はなぜ過ちを犯し自らを縛るのか」「人間は有限な人生を肯定することができるのか」という深遠な哲学的・宗教的問いが、結びついている。 各授業回の最初には、映画の内容について、希望者に簡単なプレゼンを行ってもらう。	１．イントロダクション、プレゼン担当の日程調整 ２．西洋哲学の伝統における「意志」と「根元悪」 ３．『スター・ウォーズ』エピソード４ ４．エピソード５，６ ５．『スター・ウォーズ』エピソード１ ６．エピソード２，３ ７．『ロード・オブ・ザ・リング』「旅の仲間」① ８．「旅の仲間」② ９．『ロード・オブ・ザ・リング』「二つの塔」① １０．「二つの塔」② １１．『ロード・オブ・ザ・リング』「王の帰還」① １２．「王の帰還」② １３．不死の存在たちと、死すべき存在たち １４．キリスト教思想との関連？ １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。 できれば『ロード・オブ・ザ・リング』の映画あるいは原作小説に多少触れていると、授業がより味わえるだろう。	期末試験による。（プレゼン担当者には 15～30 点を加算） なお、単なる映画・映像の授業ではなく、哲学思想の授業であるので受講の際には十分注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理学 a) 倫理学 a(倫理学と人間性)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 この学期では現代の哲学的諸問題をおもに扱う（もちろん古代～近代の哲学者たちの考察はつねに参考にされる）。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉と〈アーカイヴ〉の問題として受けとめ、考察したい。 授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。	１．　導入　（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　記憶とは？　歴史とは？　アルシーヴとは？ ３．　プラトン・アリストテレスの記憶論 ４．　記憶現象の４種類 ５．　個人的記憶と集合的記憶 ６．　証言と歴史記述 ７．　歴史が学校で教えられなくなったら、どうなる？ ８．　アナール学派の〈心性史〉歴史記述 ９．　アナール学派の〈表象史〉歴史記述 １０．　王の肖像 —— 権力のイメージ １１．　裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ １２．　ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（１） １３．　ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（２） １４．　「困難な赦し」 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 ——— リクールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）	学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理学 b) 倫理学 b(現代倫理学の諸問題)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 西洋哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、さらに近代のニーチェ、現代のアーレントまでをこの学期で広く見ていく。 教科書はかなりコンパクトに西洋の各哲学者の思想をまとめたものであるが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。質問などでも積極的な授業参加を歓迎する。	１．　導入 （プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　西洋哲学ではなにが問われてきたのか？ ３．　プラトン「イデアという理想」 ４．　アリストテレス「人間は知ることを欲する」 ５．　エピクロス派、ストア派 ６．　デカルト（１）「私は思考する、ゆえに私は在る」 ７．　デカルト（２）永遠真理創造説 ８．　デカルト（３）四つの暫定的道徳 ９．　パスカル「きみはどちらに賭ける？」 １０．　ルソー（１）「人づきあいが人間を不幸にする」 １１．　ルソー（２）「理想的な教育とは」 １２．　ニーチェ（１）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 １３．　ニーチェ（２）「音楽と悲劇」 １４．　アーレント「アウシュヴィツと悪の凡庸さ」 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）	学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の行動･認知･動機の一般法則) 心理学a(人間の行動･認知･動機の一般法則)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、心理学の視点からの現代の課題について、なるべく幅広いテーマを選び、１）心理学の研究成果、２）研究方法、３）日常生活との関わり、について学びます。 心理学者として学生をみていると、1）世界の現在の諸課題、2）自己の個性や価値を認め合い、自己効力感（コンピテンシー）を持つ、2）友人や異質な人と協働し、チーム学習を通じて、厳しいが相互に支え合う社会と生き方を構築して欲しいと考えています。 自己を知ることは、心理学の研究目標の１つですが、他者を知り社会を知ることも重要です。自己主張と自己制御、多様な学習スキルの獲得、学習態度の形成が課題です。 教科書は、7章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っています。各章は、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化については、新しい教材・ＤＶＤ・その他で補います。 この授業の到達目標は、 １．自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようにする。 ２．心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、再検討する。 ３．卒業後の将来、例えば27歳を想定し、求められる広い意味での力量やキャリアを考え、将来設計を試みる。 春学期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モティベーションの３側面から見た、人間に共通な法則を学ぶ予定です。	１．導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学とは？ ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器と脳、図地反転・多義図形・現象の解釈とは？ ３．感じる／考える：対象の意味づけ、原因帰属とは？ ４．感じる／考える：記憶の情報処理モデル、潜在認知とは？ ５．感じる／考える：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザインなど ６．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：試行錯誤と強化学習、モデルを見聞きすることによる観察学習 ７．動く／変わる：進化と人間行動、利他行動や協力、知識の構造化と認知的学習 ８．動く／変わる：教わることと学ぶことの違い。主体的学習、学習環境デザイン ９．動く／変わる：アクティブラーニングとは？　卒業時に必要な力量（学士力、社会人基礎力）とは？ １０．動く／変わる：知識基盤社会の学びとは？　キー・コンピテンシー、学習アウトカムズとは？ １１．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎 １２．もえる／動かす：達成動機と対人社会性動機、対人行動、 １３．もえる／動かす：欲求不満、葛藤、ストレス、学習性無力感とは？ １４．もえる／動かす：内発的動機づけ、自己原因性、有能感 １５．春学期のまとめと残された課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	出席してのリフレクションペーパー（20%）、レポート（２テーマ各25%）、試験（30%）で評価する予定です。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の個性･多様性理解) 心理学b(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、心理学の視点からの現代の課題について、なるべく幅広いテーマを選び、１）心理学の研究成果、２）研究方法、３）日常生活との関わり、について学びます。 心理学者として学生をみていると、１）世界の現在の諸課題、２）自己の個性や価値を認め合い、自己効力感（コンピテンシー）を持つ、２）友人や異質な人と協働し、チーム学習を通じて、厳しいが相互に支え合う社会と生き方を構築して欲しいと考えています。 自己を知ることは、心理学の研究目標の１つですが、他者を知り社会を知ることも重要です。自己主張と自己制御、多様な学習スキルの獲得、学習態度の形成が課題です。 教科書は、７章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っています。各章は、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化については、新しい教材・ＤＶＤ・その他で補います。 この授業の到達目標は、 １．自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようにする。 ２．心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、再検討する。 ３．卒業後の将来、例えば27歳を想定し、求められる広い意味での力量やキャリアを考え、将来設計を試みる。 秋学期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学から見た、人間の多様性・個人差について学ぶ予定です。 「心理学ａ」を学んでいない学生を想定して、ガイダンスおよび第1章　序：心理学とは何かの授業から入ります。	１．秋期の導入：春学期のまとめと秋学期の導入、秋学期授業のガイダンス、心理学とは何か？ ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：そぼく性格観、性格のファセット分析　性格の構造とは？ ３．きわだつ／できる：性格理論は多様な人間性のモデル、性格の統合的理解とは？ ４．きわだつ／できる：Big Five性格検査、標準性格検査とは？ ５．きわだつ／できる：知能とは？　創造性、課題解決、社会的スキルとは？ ６．育つ／育てる（発達）：big nameの発達理論、生涯発達視点 ７．育つ／育てる：生育初期、アタッチメント、気質、インターナル・ワーキング・モデルとは？ ８．育つ／育てる：青年期のアイデンティティと勤勉性、発達支援とは？　世代間伝達とは？ ９．育つ／育てる：高齢化社会、ライフスタイル、生き甲斐とは？ １０．かかわる／競う（社会）：自己概念、現実自己と理想的自己、自己制御 １１．かかわる／競う：社会心理学的自己、自己開示／自己提示（印象操作）とは？ １２．かかわる／競う：集団圧力、権威者への服従、印象形成 １３．かかわる／競う：態度と態度変容、説得的コミュニケーション、悪徳商法とは？ １４．かかわる／競う：集団と個人、権限なきリーダーシップ １５．まとめ：各人の違いを認め、健康で、幸福なサクセスライフを生きる、まとめと残された課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	出席してのリフレクションペーパー（20%）、レポート（２テーマ各25%）、試験（30%）で評価する予定です。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (こころの世界) ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，心の健康とカウンセリングなどのテーマについて，心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 １．はじめに：科学としての心理学 ２．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 ３．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 ４．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 ５．心理学のあゆみ④：精神分析理論 ６．性格とは？：自己の性格理解 ７．性格をとらえる枠組み：性格理論 ８．性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 ９．性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. カウンセリングとこころの健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。	授業における小レポートと試験により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	ことばと思想１(日本語文法形態論)	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語文法論の範囲で形態論を取り上げる。形態論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。 形態論では日本語教育に役立つことを念頭においているため、品詞についても詳細に述べる予定である。もちろん、学生のすべてが日本語教育を志しているわけではない。しかし、学校文法で苦労した記憶のある者は、日本語を外国語として学ぶという観点から文法を眺めなおすことが、母語としての日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。 講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は３回までとするので、これを超える場合にはきちんと理由を報告する必要がある。	１．日本語を取り巻く状況 ２．ヒトのことばの特徴 ３．形態論の概要 ４．派生形態論と屈折形態論 ５．語形と品詞 ６．動詞 ７．形容詞、名詞 ８．副詞、その他 ９．助詞 10．助動詞 11．語構成 12．文語表現 13．動詞の活用による表現 14．形態論を取り巻く文法論 15．日本語文法の中の形態論の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する	平常授業の実績　３０％ 期末試験の結果　７０％

08年度以降	ことばと思想１(日本語文法統語論)	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語学としての文法論を取り上げる。Ｉと同様にこの論が日本語教育の中で役立つような観点から、必須となる項目を選んで話を進めていく。 形態論が語を検討課題としているのに対し、文法論では文そのものが検討課題となる。まずは単文内での文法分析を行い、次いで、複文での分析を行う。春と同様に学生のすべてが日本語教育を志しているわけではないが、母語話者であっても、日本語学の一端として日本語文法を垣間見ることは、日本語のより深い理解と興味につながっていくはずである。 講義は毎回資料を配布するので、特に学生が用意してくるものはないが、毎回出席することを期待している。原則として欠席は３回までとするので、これを超える場合にはきちんと報告をする必要がある。	１．統語論の外観 ２．文法カテゴリ ３．主題と主語 ４．テンス ５．アスペクト ６．ヴォイス(1) ７．ヴォイス(2) ８．使役 ９．授受 10．自動詞と他動詞 11．モダリティー 12．取り立て 13．複文(1) 14．複文(2) 15．日本語学としての統語論の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する	平常授業の実績　３０％ 期末試験の結果　７０％

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(通訳・翻訳論) ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 学期後半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 授業ではパワーポイントのスライドや映像資料を利用して講義を行いますので、欠席しないようにしてください。	第１回　全体ガイダンス・翻訳通訳とは 第２回　日本の翻訳通訳の歴史１ 第３回　日本の翻訳通訳の歴史２ 第４回　世界の通訳史、国連通訳の成り立ち 第５回　翻訳者・通訳者の役割、通訳の種類 第６回　会議通訳、ビジネス通訳、放送通訳 第７回　コミュニティ通訳、司法通訳 第８回　医療通訳、手話通訳、通訳案内士 第９回　外国語学習と通訳訓練について 第 10 回　職業としての翻訳 第 11 回　出版翻訳と産業翻訳 第 12 回　法務・特許等の翻訳 第 13 回　翻訳と通訳の理論１ 第 14 回　通訳と翻訳の理論２ 第 15 回　全体のまとめ、期末試験に関する説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
下記のテキストを使用します。 鳥飼玖美子編著 『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房	期末試験により評価します。 期末試験では、自筆のノートとテキストの持ち込みを許可します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(東洋古代から近世まで) 社会思想史 a(東洋古代から近世まで)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。 このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史Iでは、古代インド、中国思想を中心に、５世紀頃までの古代思想を視野に入れることになる。	１．（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 ２．（インド）ウパニシャッド哲学の思想 ３．（インド）ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 ４．（インド）ウパニシャッド哲学のまとめ ５．（インド）原始仏教 ６．（インド）原始仏教 ７．（インド）原始仏教とヒンドゥー教の思想 ８．（中国）孔子と論語 I ９．（中国）孔子と論語 II １０．（中国）儒教と老荘思想 １１．（中国）老荘思想 I １２．（中国）老荘思想 II １３．（日本）無常思想 １４．古代の東洋思想のまとめ １５．古代の東洋思想のまとめと質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示	授業参加度 30%、課題によるレポート評価 70%

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(東洋近世から現代まで) 社会思想史 b(東洋近世から現代まで)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。 このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史 II では、中世・近代のインド、中国思想を中心に、日本における近世・近現代思想を視野に入れることになる。	１．（インド）仏教哲学（説一切有部） ２．（インド）仏教哲学（中観派） ３．（インド）仏教哲学（唯識派） ４．（インド）仏教哲学のまとめ ５．（インド）現代とインド思想の関係 ６．（中国）宋学 I（周濂渓） ７．（中国）宋学 II（程明道） ８．（中国）宋学 III（程伊川） ９．（中国）宋学 IV（張横渠） １０．（中国）宋学 V（朱子学） １１．（中国）宋学のまとめ １２．（中国）現代と中国思想の関係 １３．（日本）本居宣長の思想 １４．（日本）京都学派の哲学 １５．東洋思想史の現代的意義と質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示	授業参加度 30%、課題によるレポート評価 70%

08年度以降	歴史と文化１(ドイツ語圏のメディア文化a)	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、**＜想像力×歴史・社会×制度＞**をテーマとします。映画を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知ることは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。講義でとりあげる作品には、比較的よく知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげて下さい。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術・資金の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。	**＜映画を通してドイツ社会を「読む」＞** 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス？　① 6. 好ましいナチス？　② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへ―現代ドイツ、若者の主張？① 9. 学生運動からテロへ―現代ドイツ、若者の主張？② 10. 政治の装置としての劇場・ミュージアム 11. 文化施設は「敷居が高い」のからくり 12. 監視国家―東西ドイツの心の壁① 13. 監視国家―東西ドイツの心の壁② 14. 現代ドイツにおける多文化共生と表現の自由 15. ドイツのメディア文化政策と対外文化政策の課題 **＊春・秋学期とも、受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。**
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。

08年度以降	歴史と文化１(ドイツ語圏のメディア文化b)	担当者	秋野　有紀

講義目的、講義概要	授業計画
今学期は**＜想像力×近代国家×制度＞**をテーマに、ドイツ語圏を中心として、ヨーロッパの成立事情を「読む」ことを試みます。ドイツ語学科の授業をとってみようかな、と思ってシラバスをめくっている皆さんは、きっと「ドイツ」や「ヨーロッパ」について知りたいな、と思っていることでしょう。でも、その「ドイツ」や「ヨーロッパ」が、実は自明の存在ではなかったとしたら……？ この講義では、現代の欧州やドイツの政治事情と映画の世界とを「行ったり来たり」します。映画では、政治的権力を持ち、人々の「視線」を集める使命を与えられた人物たちに焦点を当てます。そもそも「視線」を集める、ということには、どのような政治的効果があるのでしょう？ 文化や芸術は、極めて政治的な領域です。近代国家ドイツの成立史をおさえた上で、現代の欧州の政治を見てみるならば、日本では「お手本」のように言及されることの多い欧州の国々が経験してきた／している動揺、そしてそこに住む普通の人々の政治への地道な関与こそが、「歴史」を作っており、現在もその試行錯誤の途上にあることが分かってきます。正解のない政治の世界は、真面目な話のみで構成されているわけではありません。偶然・欲望・笑い・失言が溢れる、ツッコミどころの多い世界だったりします。その面白さを味わいながらも、その先に、周りの世界を自分で「批判」する為の立脚点を築いていって下さい。	**＜映画を通してヨーロッパ成立事情を「読む」＞** 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. 現代欧州の政治とドイツの課題 Ⅰ 3. 現代欧州の政治とドイツの課題Ⅱ 4. 領邦国家から近代国家へ 5. 神聖ローマ帝国 6. オーストリア=ハンガリー帝国① 7. オーストリア=ハンガリー帝国② 8. 対外文化政策とパブリックディプロマシー 9. 国家のイメージ戦略 10. 視線の操作とポリティクス―文化施設の制度化 11. ミュージアムという装置と思想① 12. ミュージアムという装置と思想② 13. バイエルン王国① 14. バイエルン王国② 15. 「文化国家」の罠―ナチスへの道 ※ 一年を通して、映画を素材としつつ、作品の背景となる歴史や政治制度をすべて解説しながら進めていきますので、ドイツ語やドイツについてはまったく知らないけれど、ちょっと興味がある、というような学生の受講を歓迎します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	歴史と文化 1（日本研究概論Ⅱ）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　日本語という言語とその文化を，現代という限定された時間における単体の言語として把握するのではなく，東部アジアにおける他言語との関係の中の歴史的な存在としてみることによって，日本という言語文化への視点を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 　授業は，教員の用意する資料を使用してすすめられる。毎回の授業は，資料にもとづいた課題が提示されるので，履修者はそれに対して，解答を作成すること，またはグループで討議することが要求される。そのなかで日本語の言語文化または東部アジアの言語文化をとらえる各自なりの視点を形成していきたい。	1. 導論 2. 古典中国語の位置 3. 古典中国語の特性 4. 漢文のひろがり 5. 訓読文の位置 6. 近代語と共有漢語 7. 漢字と訓読 8. 北東および東アジアの諸言語 9. 東南および南アジアの諸言語 10. 言語地理類型論 11. 高句麗語と日本語 12. モンスーンアジアと日本語 13. アイヌ語と琉球語 14. 日本の方言と諸言語 15. 結論

テキスト、参考文献	評価方法
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験(50%)とレポート(50%)を課し，その結果で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 1)(中世の仏教と社会) 歴史学 a(中世の仏教と社会)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1）　東大寺を再建した男 （2）　重源の時代 （3）　信仰と経済	①　炎上する東大寺 ②　誰の力に頼るか ③　重源の業績 ④　木材をどこから運ぶか ⑤　出現した大群衆 ⑥　雨を突いて伊勢へ ⑦　重源の記憶 ⑧　法然と重源 ⑨　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ⑪　源平合戦の余燼 ⑫　聖の社会事業 ⑬　新しい経済社会の出現 ⑭　後生の約束 ⑮　「荘園」外の経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)、新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)	試験成績(100%)による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(中世の「悪党」と民衆) 歴史学 b(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1）　戦乱の中の伊賀 （2）　自立する村 （3）　戦国のコンミューン	①　伊賀国の南北朝内乱 ②　錯綜する地侍の行動 ③　大規模な合戦は続けられない ④　国人領主の出現 ⑤　自立する村 ⑥　南都への志向 ⑦　悪党たち、起請文を提出 ⑧　タテの力とヨコの力 ⑨　惣国のコンミューン ⑩　内部の規律と「平和」 ⑪　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫　崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬　兵農分離と石高制 ⑭　中世民衆の共同体をどうみるか ⑮　荘園史のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)、新井孝重『楠木正成』(吉川弘文館)	試験成績(100%)による。

		担当者	
講義目的、講義概要		**授業計画**	
テキスト、参考文献		**評価方法**	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏の小説 a) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 a)	担当者	上野　直子
講義目的、講義概要		**授業計画**	
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。		1. 新奇なるもの、小説？ ― 新世界と小説 2. 帝国・小説・資本主義 3. 社会と小説 4. 英語圏の拡大 5. English Bestsellers of all time (1) 6. English Bestsellers of all time (2) 7. 帝国の光と影 8. 英語圏の拡大 (2) 9. 「英文学」の成立 10. 小説の新たな挑戦 (1) 11. 小説の新たな挑戦 (2) 12. 語り返す言葉たちの登場 13. ポストコロニアルの文学地図 (1) 14. ポストコロニアルの文学地図 (2) 15. テキストの思わぬ旅路	
テキスト、参考文献		**評価方法**	
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します		主に、コメントペーパー(30%)と定期試験(70%)による。 (上記の%は予定であり、変わる可能性もある)	

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(ヨーロッパ史 1) 歴史学 a(ヨーロッパ史 1)	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 【講義概要】 最初に、古代ギリシアの歴史家ヘロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 【到達目標】 ・ 歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて具体的に説明できる。 ・ 自分が歴史学を学ぶ意義について説明できる。 ・ 現代の問題の解決のために歴史学的な思考方法がどのように役に立つのかを説明できる。	第1回　授業ガイダンス「なぜ歴史を学ぶのか？」 第2回　歴史学の歴史（I）歴史学の誕生 第3回　歴史学の歴史（II）実証史学への挑戦 第4回　歴史学の歴史（III）新しい歴史学：文化史の台頭 第5回　歴史学の方法と対象（I）総論 第6回　歴史学の方法と対象（II）マイクロヒストリー 第7回　歴史学の方法と対象（III）グローバルヒストリー 第8回　歴史学の方法と対象（IV）歴史人類学 第9回　歴史学の方法と対象（V）記憶の歴史 第10回 歴史学の方法と対象（VI）書物の歴史 第11回 歴史学の方法と対象（VII）ジェンダー史 第12回 歴史学の方法と対象（VIII）語りえぬものの歴史 第13回 歴史学の方法と対象（IX）ナショナリズム 第14回 まとめ 第15回 まとめ 本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で適宜指示する。	期末レポートおよび平常授業における課題などの実績も評価対象とする。評価基準は甘くはない。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(ヨーロッパ史 2) 歴史学 b(ヨーロッパ史 2)	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義はヨーロッパの（政治）文化史について、特に１７、１８世紀のイギリス、フランス、ドイツ語圏の事例を中心に取り上げながら、理解を深め、ヨーロッパの歴史と文化について考えていく。 【講義概要】 ドイツの哲学者ユルゲン・ハーバーマスは、『公共性の構造転換』（１９６２年）という本の中で、公共圏という概念を用いて、公共空間における言論が１８世紀を通じて政治的な力を獲得し、それがまた１９世紀後半から現代に至るまで大量消費社会の中で衰退していく構造の変化の過程を描いた。 近世国家から近代国家への転換期において政治文化がどのような役割を果たし、どのように変化していったのか。公共圏をめぐる政治文化に注目しながら、１８世紀のヨーロッパ史に迫りたい。 【到達目標】 ・ １７世紀ヨーロッパの政治文化について説明できる。 ・ １８世紀以降に起こった政治文化上の変化について説明できる。 ・ 本テーマの重要性について説明できる。	第1回　授業ガイダンス 第2回　歴史における「文化」の役割 第3回　顕示される文化（I）ルイ１４世とヴェルサイユ 第4回　顕示される文化（II）神聖ローマ帝国 第5回　顕示される文化（III）芸術家の地位 第6回　公共圏の出現（I）コミュニケーション 第7回　公共圏の出現（II）市場 第8回　書物の力（I）１８世紀のグローバルな書籍市場 第9回　書物の力（II）ハプスブルク君主国における地下出版 第10回 革命（I）ネイションの出現 第11回 革命（II）イギリスの場合 第12回 革命（III）フランス革命の文化的起源 第13回 ディスカッション 第14回 まとめ 第15回 まとめ 本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する
テキスト、参考文献	**評価方法**
本講義の構成は以下の本を主に参考にしている。 T. C. W. Blanning, *The Culture of Power and the Power of Culture: Old Regime Europe 1660-1789*, Oxford 2002 そのほかの本については講義の中で適宜支持する。	平常授業における課題などの実績をもとに評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(日本文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広くかつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。	1、　講義の概要 2、　網野善彦の歴史学（1） 3、　網野善彦の歴史学（2） 4、　柳田国男の民俗学（1） 5、　柳田国男の民俗学（2） 6、　折口信夫の民俗学 7、　仏教―法華経 8、　仏教と文学―宮澤賢治 9、　絵巻物の時空 10、　能 11、　黒澤明の映画 12、　民俗芸能 13、　マンガの引用学 14、　戦後少女マンガ史 15、　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	歴史と文化１(日本文学論・中世Ⅰ)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、女房文学から隠者文学への交代を指標として区分することができる、古代より中世への和歌史を、各期を代表する歌人の和歌作品を取り上げて検討します。古典和歌文学の中心は、天皇の命によって編纂された勅撰集にあるが、女房と隠者の和歌についてみることは、周縁から和歌文学を眺め渡すことになります。 小野小町・和泉式部・西行の和歌作品を通して、古今集から新古今集までの和歌史を展望することにします。 近代短歌とは異なる古典和歌の表現の性格と、その読み方についての基礎的な理解も得られるようにしたいと考えます。	1、　講義の概要 2、　小野小町（1） 3、　小野小町（2）―移ろひ 4、　小野小町（3）―夢 5、　和泉式部（1） 6、　和泉式部（2）―帥宮挽歌１ 7、　和泉式部（3）―帥宮挽歌２ 8、　和泉式部（4）―帥宮挽歌３ 9、　女性仮託歌 10、　西行（1） 11、　西行（2）―たはぶれ歌１ 12、　西行（3）―たはぶれ歌２ 13、　西行（4）―たはぶれ歌３ 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(日本事情とコミュニケーション教育) 歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、外国人の日本語学習者に日本語を教える日本語教師にとって必要なコミュニケーションスキルを理解し、修得したい学生の要望に応じることを目的として授業します。 常に異文化コミュニケーションの中にある日本語教師が、日本語教育の現場でどのように対応してゆけばよいのかを考え、異文化理解と様々なコミュニケーションスキルを紹介し、それを身につけるためのエクササイズを行います。	1、　異文化摩擦 2、　異文化理解とは（1） 3、　異文化理解とは（2） 4、　コミュニケーションスタイルを決めるもの（1） 5、　コミュニケーションスタイルを決めるもの（2） 6、　自分をふりかえる（1） 7、　自分をふりかえる（2） 8、　言語コミュニケーションの違い（1） 9、　言語コミュニケーションの違い（2） 10、　非言語コミュニケーションの違い（1） 11、　非言語コミュニケーションの違い（2） 12 、異文化コミュニケーションスキル（1） 13 、異文化コミュニケーションスキル（2） 14 、講義のまとめ 15 、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三修社）。	評価方法：期末試験の結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(英語圏の文学) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文学文化)	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的 今日グローバル化が喧伝され、英語が世界語となっている事態から予想されるように、英語で作品を発表する作家が増えている。しかしこうした事態はすでに植民地主義以後のイギリスやアメリカの旧植民地で始まっていたことである。それはもはやイギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。英米の本国で生まれた白人作家ではない作家たちの英語で書かれた作品を英語圏文学というのである。この授業では主として旧植民地出身の作家たちの多彩な創作活動を、地域別に主要作家とその作品を紹介する。 講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した作品を紹介し、カナダのアトウッドの『サバイバル』の紹介からはじめて、ソール・ベローや日系のジョイ・コガワ、黒人作家のイシュメール・リード、キャリル・フィリップス、イギリス人作家やアメリカ人作家の植民地体験としてロレンスやメルヴィルなどを紹介する。	第１週　講義概要 第２週　カナダ 第３週　オストラリア、ニュージーランド 第４週　サモア、チカーノ/チカーナ 第５週　日系のアメリカ人、カナダ人 第６週　中国系アメリカ人、朝鮮系アメリカ人 第７週　インディアン系アメリカ人 第８週　ユダヤ系のアメリカ人、イギリス人 第９週　英米の黒人系 第10週　カリブ海諸島 第11週　アフリカ（ナイジェリア、ケニヤ、南ア） 第12週　インド、パキスタン 第13週　アメリカ人作家の植民地体験 第14週　イギリス人作家の植民地体験 第15週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における参加度・貢献度などの実績(20%)も評価対象とする。

08年度以降	歴史と文化１(英語圏の文学Ⅱ)	担当者	大熊　昭信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、いったい多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。その中で文化はどのような形をとるのか。異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化変容、異種混合といったタームを導入しながら、英語圏文学に具体例をとって検討したい。 講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産され消費されている英語圏文学の作家や作品をとりあげ、それらの国家間民族間の移動や、英語圏文学に特徴的である手法や、英語圏文学をも越える可能性としてクレオールやエクソフォニーやハイパーテキストや世界文学などについて批評的に検討する。	第１週　講義の概要 第２週　多文化社会の形成 第３週　多文化社会のありかた（１） 第４週　多文化社会のありかた（２） 第５週　多文化社会のなかの文学の形 第６週　作家の移動 第７週　作品の移動 第８週　リアリズムとマジック・リアリズム 第９週　擬史の手法 第１０週　クレオールの文学 第１１週　エクソフォンの文学 第１２週　翻訳の問題 第１３週　世界文学のほうへ 第１４週　ハイパーテキストの可能性 第１５週　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。次回の授業概要を毎回配信する。参考文献は授業中に適宜紹介する。	評価は、期末試験の結果(80%)によって評価するが、平常授業における参加度・貢献度などの実績(20%)も評価対象とする。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1(日本思想史 1) 歷史と文化(Ⅲ)(日本思想史 a)	担当者	矢森　小映子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 現代の私たちがもっている世界観、特に「西洋（ヨーロッパ)」「東洋（アジア)」、そして自国に対するイメージは、いかに形成され、流布し、再生産されてきたのでしょうか。本講義ではその展開過程を、主に近世日本の洋学者とその周辺の人々の事例を通して検討していきます。私たちが当たり前に思っている世界観やイメージが、いつどのように形成されたものなのか、そしてどのような問題を抱えているのかを考えるきっかけにつなげてください。 【概要】 毎回一つのテーマに沿って、一人ないし複数の人物をとりあげます。彼らの史料を読み、その世界観と背景にある近世社会・思想の特質を考察していきます。 近世の人々の世界観を史料から読み取れるようになること、さらにその形成過程を歴史的文脈の中で捉える作業を通し、近世社会・思想への理解を深めることを目標とします。	1. 講義の概要 2. 洋学と洋学者―本講義が対象とする人々― 3. 近世初期の世界観―「三国」世界観の展開― 4. 地球球体説の衝撃―「中国」イメージの変容― 5. 「国益」と自国認識―司馬江漢と本多利明― 6. 只野真葛の世界観―近世の女性思想家― 7. 世界地理学者・山村才助の世界観 8. 国学者・平田篤胤の洋学受容と世界観 9. 19 世紀における洋学と社会―小関三英と渡辺崋山― 10. 藩と日本をめぐる意識―渡辺崋山を事例に― 11. 典拠蘭書とヨーロッパ社会 12. 箕作省吾『坤輿図識』の世界観 13. 幕末の世界観―アヘン戦争と『海国図志』― 14. 講義まとめ（確認テスト） 15. 講義まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介しますので、積極的に読んで講義に臨んで下さい。	平常点 30%、レポート 30%、テスト 40%の割合で評価します。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1(日本思想史 2) 歷史と文化(Ⅲ)(日本思想史 b)	担当者	小田　真裕

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 1. 古代から近代までの日本思想に関する基礎的な事象を学び、現在の私たちが抱く思想の形成過程や、特質等について考えること。 2. 日本思想史の研究を行う際に用いる史料と方法論を学び、自分自身で史料を読み解き、他人の受け売りではない意見を導き出せるようになること。 【概要】 現在の日本思想史研究において注目されているテーマやトピックと、それらにアプローチするための史料・方法論を紹介します。その際、概説的な説明をするだけでなく、（1）現在の「日本国」の外との交流・影響関係および、（2）獨協大学がある地域―草加・埼玉・関東―に生きた人々の思想的営為に着目していきます。 毎回の講義では、当該テーマについての説明をした上で、翻刻された史料を読む時間を設けます。 思想史は暗記科目ではありませんので、それぞれの人物が何を感じ、何を考えたのかということについて、自分自身の知見・経験に基づいて、主体的に考えようとする学生の参加を望みます。	1. 講義の概要 2. 日本思想史研究の歴史 3. 古代の思想 4. 中世の思想 5. 地域からの思想史 6. 近世の思想（1）―儒学はどう学ばれたか 7. 近世の思想（2）―江戸時代の手習い・教育 8. 近世の思想（3）―各地の国学受容者たち 9. 近世の思想（4）―農村復興のために 10. 幕末維新期の思想 11. 民衆思想史の方法 12. 近代の思想（1）―文明開化と民俗的世界 13. 近代の思想（2）―歌や句に見る近代化 14. 現代的課題へのアプローチ―災害への着目を例に 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義は、配布するプリントに沿って進めます。 参考文献は講義中に適宜示しますので、関心を持ったテーマ・トピックに関する文献を読んでください。	平常点 30%、期末テスト 70%の割合で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日韓交流史) 歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	担当者	金(きむ) 熙淑(ひぃすく)(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 淺川巧と韓国 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
レジュメを配布する。 参考文献:授業時に指示する。	評価方法:授業への参加度 30%、課題レポート 70% ・日韓の交流と歴史を理解したか。 ・日韓の交流と歴史について相互認識ができるようになったか。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1(大衆文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
現代の文化産業について理解を深めることを目的とする。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化・芸術について多角的に見る視点を養う。 この講義では、特に20世紀以降のサブカルチャーにつ いて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず20 世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらにIT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。	1 イントロダクション 2 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5 サブカルチャーとグローバライゼ-ション 1:日本のロック（流入期～） 6 サブカルチャーとグローバライゼ-ション 2:日本のロック（その後～） 7 サブカルチャーとグローバライゼ-ション 3:日本のヒップホップ（流入期～） 8 サブカルチャーとグローバライゼ-ション 4:日本のヒップホップ（その後～） 9 産業と文化 1 10 産業と文化 2 11 ヤンキー文化とオタク文化 1 12 ヤンキー文化とオタク文化 2 13 複合メディア社会とサブカルチャー1 14 複合メディア社会とサブカルチャー2 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時指示する。	試験により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお，毎回出席をとる。	1　イスラームの基本を説明する。 2　イスラーム誕生以前の西アジア世界について。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7　聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点。 11　　同その２ 12　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13　　同その２ 14　イスラーム教徒の生活と社会 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	学期末レポートによる評価（70%）が中心だが，平常の貢献度も評価対象（30%）となる。 なおレポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるようにしたい。 なお，毎回出席をとる。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。 11　現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12　　同その２ 13　　同その３ 14　イスラーム主義の主張と展開 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	学期末レポートによる評価（70%）が中心だが，平常の貢献度も評価対象（30%）となる。 なおレポートの表紙は授業で配布するので注意すること。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(東西の文化を結ぶもの) 比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，西洋側の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　Ａ；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　Ｂ；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　Ｃ；キリスト教の歴史とその展開 その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　Ｄ；イスラエルの歴史からみた，ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　宗教の考え方　　神秘主義 14　仏教とヒンズー教 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）	学期末のレポートによる評価（100%） なおレポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(東西文化と近代化) 比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　Ｅ；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　Ｆ；アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　Ｇ；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　Ｈ；現在のイスラエル，旧ソ連諸国，旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識の関連。その１ 10　同　その２ 11　同　その３ 13　イスラーム法とその解釈 14　イスラーム主義とそのゆくえ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』（中公新書）	学期末のレポートによる評価（100%） なおレポートの表紙を授業で配布するので注意すること。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン･ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目的) この講義目標は、ラテンアメリカ社会と文化特徴を、歴史的な形成過程と地理状況とともに学び、現在おけるラテンアメリカ文化と社会の関係について理解すことにある。ラテンアメリカとは 何か、今日の特徴ラテンアメリカとは 何か、今日の特徴ラテンアメリカとは 何か、今日の特徴どのように形成されてきたか 、またラテンアメリカと 、またラテンアメリカと 、またラテンアメリカと 呼ばれる地域の相違について理解を深めこと目標とする。 （講義概要 ） ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的資料を提示し、授業計画沿って授業を進める。	1. オリエンテーション受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. 国際社会におけるラテンア メリカの位置づけ 4. この講義で扱うラテンアメリカの特徴 5. ラテンアメリカの連帯と独自性、ナショナリズム 6. ラテンアメリカの社会構造 その１ 7. ラテンアメリカの社会構造 その２ 8. ラテンアメリカにおける“人種”概念 9. ラテンアメリカにおける男と女 10. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”概念 11 . ラテンアメリカにおける男女観と“人種”構造 12 . 先住民の文化と社会的地位 13 . 国際社会における先住民の文化と的地位 14 . ラテンアメリカの今後の展望 15 . 論述試験

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献については授業中その都度指示する。	学期末に行なう筆記試験を中心評価する。 よって、出席票を書くだけの受動的な学生には不向きであることを心得てほしい。初回のオリエンテーショには必ず出席すること。

08年度以降	歴史と文化１(歴史学1)(文明史研究a)	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　文明は世界中に残されていますが、私たちが知ることのできる文明はほんの一部でしかありません。多くは滅んでしまったり、遺跡も失われたため存在の証を知る手がかりすら無いものもあるからです。ですから、現在残されている文明を大切に維持し、次世代に正確に伝えていかなければならないのです。 　本講義ではヨーロッパ文明の源流となったギリシア、ローマ文明に焦点を当て、政治的対立を超えた文明の交流について考察を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 　文明が栄えていく時期にはその文明を担う英雄も現れ、また滅んでいく過程では自然災害や気候変動といった要素はもちろん、病気や人類が引き起こした戦争、紛争などの対立がありました。 　本講義では文明に対する理解を深めるため、図像資料やビデオ、ＤＶＤといった映像を使用することにより、文明の多くの課題を皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　クレタ文明 ３、　ミケーネ文明 ４、　トロイア戦争 ５、　ギリシア文明　１ ６、　ギリシア文明　２ ７、　ペルシア文明 ８、　ペルシア戦争 ９、　ペロポネソス戦争 １０、マケドニアとアレクサンドロス １１、ヘレニズム文明 １２、ローマの対内外戦争 １３、ローマ文明　１ １４、ローマ文明　２ １５、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末のレポート及び中間での小レポートさらに平常点を加えて総合的に評価します。

08年度以降	歴史と文化１(歴史学2)(文明史研究b)	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　ヨーロッパは第一次世界大戦、第二次世界大戦を経てＥＵの統合がなされました。まさにグローバリゼーションによって、ヨーロッパの国々では国境の壁は低くなっています。 　本講義ではシュペングラーやトインビーらの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明をとりあげます。ギリシア・ローマ文明はその後どのように伝播がなされていったのかについて考察したいと思います。 ＜講義概要＞ 　ヨーロッパの語源となったエウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明がどのようにして全世界に伝播され、受容されていったかを検証したいと思います。ヨーロッパの視点からだけではなく、アジアやアフリカ、新大陸といわれたアメリカなどの視点では、どのようにヨーロッパは映るのかといった双方向の視点から検討します。春学期と同様に図像資料や映像も使用し、理解を深めたいと思います。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　ヨーロッパとは何か ３、　ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 ４、　アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 ５、　ローマ帝国の意味 ６、　中世フランク王国 ７、　イタリア・ルネサンス ８、　大航海時代 ９、　植民地を求めて １０、植民地の争奪 １１、第一次世界大戦 １２、大戦後のヨーロッパ １３、ヨーロッパ統合の思想 １４、講義のまとめ　１ １５、講義のまとめ　２
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末レポートと中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 a(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。最新の現場から説きおこし、問題の根源となる中世ヨーロッパのユダヤ人差別までさかのぼる。	1．パレスチナは独立国家たりうるのか 2．アメリカはなぜ公平な仲介者となりえないのか 3．イスラエル国防軍を掌握する宗教シオニスト 4．在米キリスト教徒のシオニスト 5．イスラエル・ロビーの番付表 6．最強のイスラエル・ロビーとは 7．弟分、在欧イスラエル・ロビー 8．アラブ・ロビーはなぜ脆弱なのか 9．中世英国のユダヤ人金融 10. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656 11. 千年王国論とユダヤ人再入国 12. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 13. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 14. 英国シオニスト勢力 15. ホロコースト難民の救済とパレスチナへの送り出し
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』日新報道、1500 円 佐藤唯行『英国ユダヤ人』講談社選書、1600 円	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 b(アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期前半は、日本人とユダヤ人の最初の出会いから140年間にわたる日猶友好親善の歴史を学ぶ。 この140年史は、「外国人との共生」の道を模索せねばならぬ今日の日本人にとり有益な示唆を与えるはずである。 秋学期後半では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、ユダヤ系を中心とするエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。	1．ジェイコブ・シフと高橋是清 2．明石工作とユダヤ人労働者総同盟 3．金子堅太郎の米遊説を助けたユダヤ系 4．「ユダヤ難民を救え」、シフの求めに日本も協力 5．占領下日本へ殺到するユダヤ系法曹 6．大日本帝国の権力機構を解体したケーディス 7．農地改革の父、ラデジンスキー 8．労働法の生みの親、コーエン 9．日本洋楽界を育てたユダヤ系 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』(仮題) 日新報道 15 年 9 月刊行予定、1600 円位 佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』(2000 年 集英社新書) 740 円	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可

08年度以降	歴史と文化１(韓国史)	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなった。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思いと思われる。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大事なことである。 このことをふまえ、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義する。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をする。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。	第１回：ガイダンス 第２回：古代から統一新羅へ（1） 第３回：古代から統一新羅へ（2） 第４回：高麗時代（1） 第５回：高麗時代（2） 第６回：朝鮮時代（1） 第７回：朝鮮時代（2） 第８回：朝鮮時代（3） 第９回：植民地時代（1） 第10回：植民地時代（2） 第11回：現代（1）1945年から1960年 第12回：現代（2）1960年から1980年 第13回：現代（3）1980年から2000年 第14回：現代（4）2000年以後 第15回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは水野俊平著『韓国の歴史』(河出書房新社、2007年、1800円)。参考文献は授業時に指示する。	評価の基準は、１古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史についての基本的知識を得ることができたか。２・韓国（朝鮮半島）の歴史を通して、韓国（朝鮮半島）の現代的課題を見出すことができたか。 評価方法は、授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以降	歴史と文化１(韓国文化各論 c) 歴史と文化(Ⅲ)(韓国文化各論 c)	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国を理解するためには、その歴史を知る必要がある。とくに朝鮮時代は、現在の韓国文化の基盤となっていると同時に、韓国人の習慣や考え方の基礎となっている。本講義では韓国の前近代史、とくに朝鮮時代を講義することにより、その知識を得、韓国の歴史、文化に対する理解を深めることを目標とする。 講義ではガイダンスのあと、歴史と地理を概観した後に、国王と王妃、王朝の組織などを解説し、食事、服飾、建築などを各論に入る。テキストとプリントに基づいて講義をする。講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお人数によっては課題レポートの作成と発表を行うこともある。	第１回：ガイダンス 第２回：歴史と地理（1） 第３回：歴史と地理（2） 第４回：歴史と地理（3） 第５回：国王と王妃 第６回：朝鮮王朝の組織 第７回：服飾 第８回：食事 第９回：建築 第１０回：芸能・音楽（1） 第１１回：芸能・音楽（2） 第１２回：美術（1） 第１３回：美術（2） 第１４回：世界遺産 第１５回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 橘洸次、姜基洪『朝鮮王朝 500 年の秘密』（二見書房） ＜参考資料等＞授業時に指示する。	授業冒頭に行う小テスト、レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(恐怖の日本文学) 文学 a(恐怖の日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。	第１回　　恐怖の日本文学のアウトライン 第２回　①伝統的手法による恐怖の造形 第３回　②　同上 第４回　③　同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第５回　①超自然的事象の題材からの造形 第６回　②　同上 第７回　③　同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第８回　①心理学的な題材からの造形 第９回　②　同上 第１０回　③　同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第１１回　①社会派ミステリーからの造形 第１２回　②　同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Ｘの献身」 他 第１３回　①原作を映像で見る 第１４回　②　同上 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(日本文学現代) 文学 b(癒しの日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく興味関心を持ち、楽しんでほしい。	第１回　日本文学現代に見る癒やし 第２回　①人間関係からの癒し 第３回　②　同上 第４回　③　同上 重松清「ビタミンＦ」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第５回　①時間からの救い 第６回　②　同上 第７回　③　同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Ｙ」 他 第８回　①笑いの持つ救い 第９回　②　同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第１０回　①美しい生き方 第１１回　②　同上 第１２回　③　同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第１３回　①原作を映像で見る 第１４回　②　同上 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

08年度以降	歴史と文化１(韓国文学史)	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）文学とは、歴史、思想、心理や行動パターンなど、その国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国の原風景を巨視的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 （講義概要） 1）前近代： 古代から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを各世界観を中心にコンパクトに考察する。庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 ２）近現代： 近代国民国家作りが殖民地化とともに進行されざるをえなかった近代文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、朝鮮戦争、南北分断、民主化、新自由主義時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。映画化された小説は、映画版を積極的に活用する。	1. 文学作品を分析する五つの方法 2. この世と彼岸：古代神話と説話の世界 3. 中世文学１ 4. 中世文学２ 5. 中世文学３－パンソリ映画「春香伝」鑑賞 6. 自由討論－韓国・日本の中世ラブストーリ 7. 近現代文学序説 8. 近現代詩の世界–金素月・韓龍雲・尹東柱など 9. 近代史の中の女性たち：映画版「金薬局の娘たち」 10. 分断期の左右対立：映画版「太白山脈」鑑賞 11. 開発独裁時代の人間：映画版「我らの歪んだ英雄」 12. 産業化の影：映画版「三浦へ通ずる道」 13. 新世代のネット小説：映画版「猟奇的な彼女」 14. 新世代のネット小説：映画版「オオカミの誘惑」 15. まとめ （＊場合によって差し替えの可能性あります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト』（冊子）配布	感想文（1-２頁、約２回）：40%、期末テスト：40%、授業への参加度：20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(都市と建築１) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築１)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。	１．講義概要の説明 ２．古代エジプトの建築１ ３．古代エジプトの建築２ ４．古代メソポタミアの建築１ ５．古代メソポタミアの建築２ ６．古代ペルシャの建築 ７．エーゲ海建築 ８．中間のまとめ ９．古代ギリシャの建築１ 10．古代ギリシャの建築２ 11．古代ギリシャの建築３ 12．古代ローマの建築１ 13．古代ローマの建築２ 14．古代ローマの建築３ 15．まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。 参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(都市と建築２) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築２)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築￥の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。	１．講義概要の説明 ２．初期キリスト教建築 ３．ビザンチン建築 ４．イスラム建築 ５．プレ・ロマネスク建築 ６．ロマネスク建築１ ７．ロマネスク建築２ ８．ロマネスク建築３ ９．中間のまとめ 10．ゴシック建築１ 11．ゴシック建築２ 12．ゴシック建築３ 13．ルネサンス建築１ 14．ルネサンス建築２ 15．まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。 参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (中国史 a) 歷史学 a(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第1回：講義の概要 第2回：清朝皇帝支配体制 第3回：清朝の科挙と社会 第4回：清朝体制下の国際関係 第5回：アヘン戦争 第 6 回：南京条約と東南沿海地域の秩序再編 第 7 回；太平天国の成立 第 8 回；　太平天国の滅亡 第 9 回：　回民の反乱 第 10 回：洋務運動と洋学の受容 第 11 回：開港場の社会と経済 第 12 回：周辺地域宗主権の喪失 第 13 回：台湾事件と台湾出兵 第 14 回：清仏戦争と台湾の近代化 第 15 回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (中国史 b) 歷史学 b(中国近代史概説-近代国家創成の試み)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 また近代になって「纏足問題」として認識されるようになった纏足認識の変容について検討し，近代中国の女性の社会状況の変化を理解します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第 1 回：講義の概要 第 2 回：朝鮮をめぐる日中関係 第 3 回：朝鮮をめぐる日中関係 第 4 回；日清戦争 第 5 回：台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第 6 回：変法改革 第 7 回：戊戌の政変 第 8 回：キリスト教布教と仇教運動 第 9 回：義和団の蜂起 第 10 回：義和団戦争 第 11 回：纏足問題 第 12 回：天足運動 第 13 回：革命派の台頭 第 14 回：光緒新政と地方自治の試み 第 15 回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%

08 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの文学)	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカの文学について、主要な作家や作品を中心に、通時的に概説します。受講生の皆さんには、文学史や文化史の基礎的な知識を身につけるとともに、できるだけ多くの文学テクストを実際に読んで、新たな作家や作品と出会う機会にしてもらいたいと思っています。	01　中世のイベリア半島 02　ルネサンスに向けて 03　1492 とクロニカ 04　16 世紀の詩と散文 05　17 世紀の散文と詩 06　17 世紀の演劇 07　18 世紀 08　19 世紀(1)：ロマン主義 09　19 世紀(2)：写実主義，自然主義 10　19 世紀(3)：モデルニスモ，98 年の世代など 11　20 世紀(1)：27 年の世代など 12　20 世紀(2)：ラテンアメリカ(1) 13　20 世紀(3)：ラテンアメリカ(2) 14　現代 15　総論
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しません。参考文献は授業で随時紹介します。	授業時のレスポンスカード（平常点 40%）とブックレポート（課題点 60%）により、総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門 II (ラテンアメリカ)」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	1.　世界のスペイン語 2.　イベリア半島の地理・言語状況 3.　カタルーニャの言語文化 1 4.　カタルーニャの言語文化 2 5.　バスク、ガリシアの言語文化 6.　アンダルシーアの言語文化 7.　イスラム・スペイン 8.　1492 9.　フラメンコ・闘牛 10.　スペイン黄金世紀 11.　18、19 世紀のスペイン 12.　18、19 世紀のスペイン 13.　スペイン内戦とフランコ体制 14.　スペインの民主化とヨーロッパ統合 15.　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	定期試験によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (ラテンアメリカ研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々 の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	1　導入①　ラテンアメリカとは 2　導入②　ラテンアメリカの多様性 ベネズエラ：ハンモックの埋葬 3　ラテンアメリカの地理的・文化的多様性 各地域の音楽を通して 4　ラテンアメリカにおける人種・民族と言語① 先住民とメスティーソ 5　ラテンアメリカにおける人種・民族と言語② アフリカ系とヨーロッパ系 6　歴史①　先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7　歴史②　植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8　文化と社会①　宗教と祭り、家族、女性 9　文化と社会②　食文化、文学と造形芸術 10　歴史③　ラテンアメリカの独立と 19 世紀 11　歴史④　米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ キューバ革命を中心に 12　経済と社会①　開発主義と独裁から民主化へ 13　経済と社会②　ラテンアメリカの挑戦 新サパティスタ運動（メキシコ） ボリバル革命　（ベネズエラ） 14　米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田義郎『物語　ラテンアメリカの歴史』(中公新書)	数回の小テストおよび期末テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	歴史と文化１(日本文学論・中世Ⅱ)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：お伽草子から中世日本人の世界観とその背景について考える。 中世という時代は古代と近世を繋ぎ、古代的観念を残しながら、信仰・宗教的にも近世へと橋渡しする時代でもある。そのため、古代から連綿と続く観念が認められるだけではなく、古代や近世とは異なる世界観が見られる。 現代「昔話」として語られているものの多くは、「お伽草子」に起源が求められる。本講座では「お伽草子」を中心に、中世的世界観を見出して行きたいと思っている。 今期は「ものぐさ太郎」「浦島太郎」「和泉式部」を取り上げていきたい。時間があれば「甲賀三郎」の冒険譚を読み解いていきたい。	１．　ガイダンス ２．　「お伽草子」とは何か ① ３．　「お伽草子」とは何か②（「ものくさ太郎」） ４．　「浦島太郎」を読む① ５．　「浦島太郎」を読む② ６．　「浦島太郎」を読む③ ７．　「和泉式部」を読む① ８．　「和泉式部」を読む② ９．　「和泉式部」を読む③ 10.　「和泉式部」を読む④ 11.　「甲賀三郎」を読む① 12.　「甲賀三郎」を読む② 13.　「甲賀三郎」を読む③ 14.　「甲賀三郎」を読む④ 15.　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特にない。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(民俗学) 歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの生活は、先祖から受け継がれることで成り立っている。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探ることを目的とする。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることに繋がるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。	1　ガイダンス 2　民俗学の研究対象（具体的に） 3　国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4　日本の祭り１（祭りの映像記録を見る） 5　日本の祭り２ 6　異界の問題１（妖怪・幽霊とは何か） 7　異界の問題２（日本の幽霊観） 8　異界の問題３（妖怪と神の関係） 9　昔話にみる「日本」 10　日本の災害伝承とその意味 11　年中行事１（とくに正月をめぐって） 12　年中行事２（とくに盆をめぐって） 13　人生儀礼１（人の一生における様々な儀礼） 14　人生儀礼２（とくに葬儀をめぐって） 15　日本人の死生観
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリントを配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(地域文化) 歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、「地域文化」の在り方と現在の実態を中心に話しを進める。「地域」とはどのようなものであり、そこにどのような「文化」を捉えることができるのであろうか。また「文化」とはどのようなものであるのか。 これらを理解した上で都市化と過疎化、そして高齢化やＩＴの発達がどのように我々の地域文化に影響を及ぼしているか、伝統的社会での「地域文化」の在り方から、現代の「地域文化」の様相を考えて行きたい。 「地域文化」は、生活そのものであるが、「伝統」という価値を付加することで、自己アイデンティティの形成のために用いられることもあり、また他者に対してアピールすることで、町おこしにも利用される。「地域文化」は単なる現象ではなく、我々が価値づけすることによって、成り立つ側面もある。「価値づけ」の意味についても本講座では問うてみたい。 「地域文化」を学ぶことは、自己存在を学ぶことでもある。	1　ガイダンス 2　地名の成り立ちと地域 3　地域形成と生活構造 4　白川郷の「結」（ビデオと解説） 5　地域認識の問題（地名と地域の関係） 6　地域文化としての祭り１ 7　地域文化としての祭り２ 8　地域の重層的構成 9　内的他者とその機能 10　伝統的祭りの方向性１（過疎地域の問題、具体例を通して） 11　伝統的祭りの方向性２（都市地域の問題、具体例を通して） 12　文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 13　地域文化とフォークロリズムの問題 14　地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 15　ボーダレス社会の中の地域文化（現在にとって地域文化とは何か）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中にプリント配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1(日本文学古典) 文学a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。	1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)

08年度以降 07年度以降	歴史と文化1(平安時代の文学を読む) 文学b(日本文学－平安時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。	1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 4 伊勢物語を読む② 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(文化史入門) 歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化（その１）：動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化（その２）：水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段（その１）：船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段（その２）：陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア文化の普遍性 ８　宗教と祭祀：神々と人間 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ９　性愛の諸相（男と女）（その１）：同性愛 １０　性愛の諸相（男と女）（その２）：異性愛 １１　競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ １２　クリエンテーラ・パトロネジ関係 １３　民主政の中の人間関係（１） １４　民主政の中の人間関係（２） １５　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (文化人類学 a) 文化人類学 a(未開文化の理解へ)	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　授業ガイダンス 2　未開とは何か 3　文化と文明 4　言語と文字 5　日常と非日常 6　通過儀礼 7　年齢と分類 8　タブー 9　宗教と人類学 １０　ジェンダーと人類学 １１　家族・親族 １２　贈与と交換：クラとポトラッチ １３　伝統の創造 １４　文化の書き方 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）とする。その他のものは授業内で指示する。	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［30%］、期末試験［40%］を評価対象とする。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (文化人類学 b) 文化人類学 b(未開文化の理解へ)	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、調査手法を中心に人類学の方法論と考え方を実践的に学ぶことを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。秋学期の課題は、調査課題が中心である。課題を全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1　授業ガイダンス 2　人類学における調査とは 3　テーマ調査１ 4　テーマ調査２ 5　聞き取り調査１ 6　聞き取り調査２ 7　聞き取り調査２ 8　参与観察１ 9　参与観察２ １０　ディスカッションと考察１ １１　ディスカッションと考察２ １２　グループ調査１ １３　グループ調査２ １４　グループ調査３ １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）とする。その他のものは授業内で指示する。	平常点（授業への参加度等）［40%］、小課題［60%］を評価対象とする。課題の全提出を成績評価の必須条件とする。

08年度以降 07年度以前	歷史と文化1(歷史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか) 歷史学a(「15年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。また、戦争の原因を日清・日露戦争にさかのぼって世界の中、アジアの中での日本の歩みを概観し、考察してみたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。	1　1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941年12月8日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　日中戦争をとらえる①―満州事変から日中戦争へ 6　日中戦争ととらえる②―対米英戦争とのかかわり 7　加害の問題①―731部隊とは何か 8　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 9　治安戦としての日中戦争―「尽滅掃討」作戦 10　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 11　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 12　戦時下の社会―天皇制と国家神道・戦争への動員 13　女性と戦争（「女も戦争を担った」） 14　戦争と経済の関わりを考える 15　この戦争の原因をどうとらえるか
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。平常点を若干加味する予定。

08年度以降 07年度以前	歷史と文化1(歷史学2)(戦後史の中の「15年戦争」) 歷史学b(戦後史の中の「15年戦争」)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945年8月に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15年戦争）をどうとらえるか、70年目を越えた今日でも大きな争点である。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をとおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実に目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この2、30年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011年の3･11を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　本土決戦と日本の戦争の終わり方 2　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　東京裁判をめぐって 5　サンフランシスコ講和のもった問題 6　原発の導入をめぐって①―「ビキニ被曝」の直後に 7　原発の導入をめぐって②―原子力共同体と安全神話 8　日本の国内での補償をめぐって 9　日本のアジアへの補償をめぐって 10　日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 11　日中国交回復を考える 12　沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13　アジアの民衆からの戦後補償要求 14　「731部隊展」の取り組みが意味したこと 15　戦後50年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。平常点を若干加味する予定。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(移民・交易に見る文化変容) 歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、文化交流によって生じる文化変容についての基礎知識を習得することを到達目標とする。 そのため、(1) 東西交易、(2) 国際移民の歴史の概要を学び、人、物、資金の「移動」が経済発展にどう関係するかについて理解を深める。 そのことで、国際理解を深めることができるようになる。 授業の進め方は講義形式で、授業を３つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	１　ガイダンス（「移動」について考える） ２　朝貢貿易と東アジア交易 ３　市場経済と地中海交易圏 ４　香料とインド洋交易 ５　小まとめ：異文化間交易と文化圏 ６　ヨーロッパの台頭と商人・商品 ７　大航海時代と物・人の移動 ８　環大西洋世界と物・人の移動 ９　産業革命と物・人の移動 １０　小まとめ：国民国家体制と移動 １１　移民過程とエスニック・マイノリティ １２　第２次世界大戦までの移民と経済発展 １３　戦後の高度成長期の移民と経済発展 １４　グローバル化と移動 １５　まとめ：グローバル化される国際社会における文化変容
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ S･カスルズ/M･J･ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会 ウィリアム･バーンスタイン『華麗なる交易』日本経済新聞出版社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(グローバル化と情報・通信の文化史) 歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、通信技術の発展史を通して、情報と社会の関係性について考察する能力を修得することを到達目標とする。 そこで、古代からの通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたかについて学ぶ。 また、情報を取り扱うメディアについて概観することで、現代の経済活動や国民生活と情報がどのように関係しているかについて、理解を深めることができるようになる。 授業の進め方は講義形式で、授業を３つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	１　ガイダンス（情報化時代について考える） ２　情報伝送方法 ３　古代王国と駅制 ４　帝国の通信ネットワーク ５　小まとめ：一対一の通信と社会変化 ６　新聞の創業 ７　通信社の誕生 ８　ラジオ・テレビ時代 ９　グローバルメディア誕生 １０　小まとめ：一対多の通信と社会変化 １１　双方向・同時通信の社会 １２　情報資料の収集と分析 １３　情報とビジネス １４　情報と国家 １５　まとめ：グローバル化と情報の活用
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ 星名定雄『情報と通信の文化史』法政大学出版局 柏倉康夫『情報化社会研究』放送大学大学院教材	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(アラブ文化・芸術 a) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。	１．イントロダクション：アラブ人とは？ ２．「イスラム」と「イスラーム」 ３．ムスリムにとって「クルアーン」とは ４．アラブ人の生活文化　１）食生活と祭 ５．アラブ人の生活文化　２）家族・女性 ６．アラブ音楽入門Ⅰ ７．アラブ音楽入門Ⅱ ８．パレスチナ問題と芸術　１）ドキュメント 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション ９．パレスチナ問題と芸術　２）演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 １０．演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション １１．パレスチナ問題と芸術　３）記録映画 １２．パレスチナ問題と芸術　４）小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに帰って」 読後レポート提出・ディスカッション １３．パレスチナ問題と芸術　５）詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ １４．パレスチナ問題と芸術　５）映画 １５．イスラーム報道・アラブ報道を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(アラブ文化・芸術 b) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	１．　後期イントロダクション―アラブの日常 ２．　アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 ３．　アラブの芸能界と歌謡曲 ４．　レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 ５．　映画鑑賞レポート提出・ディスカッション ６．　ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 ７．　マルコ・ポーロよりすごいアラブの旅行家 ８．　イスラームというファクターを正しく理解する ９．　「アラブ革命の春」を考える １０．　アラブ文化は詩の文化（１）：概観 １１．　詩の文化（２）：中世ヒップホップ １２．　ノーベル賞作家ナギーブ・マフフーズの世界とエジプト近代史 １３．　小説「バイナルカスライン」(新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出 １４．　続き　（ディスカッション） １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

08年度以降	歴史と文化1(在外日本人研究)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。	1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム− 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献:『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

08年度以降 07年度以前	歴史と文化1(異文化間コミュニケーションb) 歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行うは難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従　ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (英語圏の文化) 歷史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャーⅠ 10. カウンターカルチャーⅡ 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (英語圏事情) 歷史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ブラジル研究) 現代社会(Ⅲ)(ブラジル研究)	担当者	E．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標は、受講生が積極的にブラジルについて考え、授業の内容について独自の視点を身につけることにある。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースにした思考能力を高めることを目指す。 ブラジルは、2014 年にワールドカップを開催し、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。昨年のワールドカップの開催の際におこったデモンストレーションの背景には、どのような要因があったのか。 　近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて: 新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備 10. BRICs、南南関係：.多極的外交の展開 11. 学生のプレゼンテーション 12. 学生のプレゼンテーション 13. 新たな路線: ブラジルの Third Way? 14. ワールドカップより教育・医療の充実： 　2013－2014 年のデモを考える 15. まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストブック 堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書。	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、授業内ペーパー、プレゼンテーション等も加味した評価とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(自然環境と文化) 地理学 a(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1）　地球の特質 4　環境の諸要素（2）　地形環境 5　環境の諸要素（3）　気候環境 6　環境の諸要素（4）　植生と土壌　生態系 7　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 8　熱帯地域（2）―アジアの稲作 9　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 10　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 11　砂漠地域（1）―自然的特質と伝統的生業 12　砂漠地域（2）―イスラムの世界 13　砂漠地域（3）―石油資源と近代化 14　砂漠地域（4）―アラブとイスラエル 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に示す	定期試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(自然環境と文化) 地理学 b(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6　温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7　温帯地域（7）そのほかの温帯地域 8　冷帯地域 9　冷帯地域・寒帯地域 10　山地地域 11　世界の環境問題（1）人口 12　世界の環境問題（2）食料 13　世界の環境問題（3）酸性雨と公害問題 14　世界の環境問題（4）地球の温暖化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に示す	定期試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 1) 現代社会(Ⅲ)(教育法 a)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。例えば、いじめを素材にする場合、いじめをなくす方法の考察、あるいは、いじめの構造分析をするのではなく、いじめ裁判の分析を通じて、学校・教師のいじめに対応する最低限の法的義務を明らかにするというアプローチです。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされていたいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害――問題化の経緯と分類 2　学校事故裁判と学校教育裁判 3　体罰裁判とその特徴――体罰裁判の判例動向 4　体罰裁判の新しい展開 5　生活指導とその法的限界 6　いじめと裁判――中野富士見中事件といわき小川中事件 7　いじめ自殺と予見可能性―― 8　いじめ調査・報告義務訴訟 9　丸刈り校則裁判 10　修徳高校パーマ校則裁判 11　都立高校原級留置き訴訟 12　信教の自由と学校教育――エホバの証人退学事件 13　内申書･指導要録開示訴訟 14　教育情報公開訴訟―学力テスト結果公開請求事件 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 2) 現代社会(Ⅲ)(教育法 b)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法ａ)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成と教育と国家との基本的な関係のあり方を検討します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育権、教師の教育の自由、住民の教育権を、教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正とその後の教育法状況を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　逆コースの教育改革 3　教科書裁判（1） 4　教科書裁判（2） 5　最高裁学テ判決 6　障害児の学習権――特殊学級入級処分取消訴訟 7　子どもの市民的自由――内申書裁判 8　親の教育権――日曜日訴訟 9　親の教育権――七尾養護学校事件 10　教師の教育の自由――伝習館高校事件 11　教師の教育の自由と日の丸･君が代最高裁判決 12　新任教師と分限処分 13　住民の教育権――教育委員会制度と教育 14　教育基本法改正と教育法制 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 1)(国際社会と私たち) 国際法 a(国際社会と私たち)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、国際法規範の構造、国際法主体としての国家、国家責任、外交関係法、海洋法などをとりあげる。	1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件 9 国家責任の追及 10 外交関係法 11 外交特権免除 12 国家領域としての海洋 13 沿岸国の海洋管轄権の拡大 14 国際公域としての海洋 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 2)(国際紛争を考える) 国際法 b(国際紛争を考える)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際法が、国際社会のさまざまな分野にどのようなかたちで発展しつつあるのかを概観するとともに、そこに生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。	1 講義の概要 2 国際法と戦争の違法化国連の集団安全保障 3 国連の集団安全保障 4 国連のもとでの武力行使に関する諸問題 5 平和的紛争解決と仲裁裁判 6 国際司法裁判所 7 国際機構・国際連合 8 国際機構の構造 9 国籍・外国人 10 難民・国際犯罪 11 国連による人権保障 12 人権条約 13 国際環境保全の諸原則と条約 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	現代社会 1 (非正規雇用を考える)	担当者	市原　博

講義目的、講義概要	授業計画
近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めているのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊偽の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。それが、大学・高校新卒者の就職難や貧困な若年層の増大の要因になってきました。最近の雇用情勢の好転によってもこの問題は解決に至っておらず、むしろ、中高年となった非正規の方々の貧困問題＝格差拡大が注目されるようになっています。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようになっており、どのような改正が求められているのかを考察します。非正規雇用として取り上げるのは、①パート労働、②フリーター、③派遣労働、を予定しています。また、非正規雇用につきやすい女性社員の働き方、働かせ方についても取り上げます。 また、非正規雇用とともに近年関心を集めている「ブラック企業」問題も取り上げます。 非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのがこの授業の目的です。	1. イントロダクション－正社員と非正規とは何か 2. パート労働の増大と基幹パートの出現 3. パート従業員の活用策とその問題点 4. パート労働法による規制とその変化 5. フリーターの増大とその理由 6. 映像資料（フリーター） 7. フリーターから正社員への移行の条件 8. 派遣労働の仕組みと法的規制の変化 9. 映像資料（派遣切り） 10. 派遣労働の実態 11. 女子社員の職務配分と均等処遇 12. 女子社員雇用への法的規制 13. 女子社員の活用策 14. ブラック企業の実態と対策 15. ブラック企業の見分け方

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは特に指定せず、資料をプリントして配ります。 参考文献はたくさんありますので、項目ごとに授業中に指示します。	おおよそ、授業への参加度 10%、小テスト・レポート 10%、定期試験 80%で評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際関係の構造と展開) 現代社会(Ⅲ)(国際関係の構造と展開)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、はじめに、現在の国際情勢に関する分析・解説を行い、そのような状況が如何にしてもたらされたかを、現代の国際関係を紐解くことによって解明していきます。	第 1 回　はじめに（講義内容などについて） 第 2 回　アメリカ時代の終焉 第 3 回　多元化する国際問題 第 4 回　多極化する国際社会 第 5 回　冷戦後の世界 第 6 回　冷戦の終結 第 7 回　中間のまとめ 第 8 回　中間テスト 第 9 回　冷戦の開始と二極化する世界 第 10 回　朝鮮戦争の勃発と国際社会 第 11 回　ヨーロッパにおける冷戦 第 12 回　中東における冷戦 第 13 回　ベトナム戦争の勃発と二極対立 第 14 回　南アジアと冷戦 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しません。参考文献を適宜紹介します。	中間テスト（30%）および学期末試験（70%）の成績に基づいて評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (近現代の国際関係史) 現代社会(Ⅲ)(近現代の国際関係史)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、主権国家の理念がヨーロッパで出現した 16 世紀から第二次世界大戦終結までの期間において発生した代表的な出来事や問題を時系列に沿って分析・解説することによって、現在の国際情勢に内包される諸問題の根幹を解明していきます。	第 1 回　はじめに（講義内容などについて） 第 2 回　主権国家理念の出現とヨーロッパの勢力拡大 第 3 回　各国における革命とウィーン体制の確立 第 4 回　パクス・ブリタニカとその時代 第 5 回　帝国主義の台頭 第 6 回　帝国主義と新たな同盟関係の成立 第 7 回　中間のまとめ 第 8 回　中間テスト 第 9 回　第一次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 10 回　第一次世界大戦後の国際社会 第 11 回　平和と安定の回復 第 12 回　第二次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 13 回　第二次世界大戦の勃発と経過 第 14 回　戦争の終結とその後の世界 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 有賀貞　『国際関係史　16 世紀から 1945 年まで』（東京大学出版会、2010 年）	中間テスト（30%）および学期末試験（70%）の成績に基づいて評価します。

08年度以降	現代社会１(東南アジアの開発と社会)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　さまざまな発展状況にある地域の特徴を理解し、自らの生活との関連づけて考察する。東南アジアの開発／発展と社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。 講義概要 　東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から紹介し、望ましい発展とは何かを考える。また、主としてタイを事例に、１、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、２、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第１回：導入　地域研究的な思考方法について 第２回：東南アジアの地域的特徴 第３回：東南アジア地域研究の課題 第４回：東南アジア社会の多様性 第５回：東南アジアの地誌と地域研究的課題 第６回：東南アジアにおける都市と農村 第７回：東南アジアにおける開発政策 第８回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第９回：東南アジアにおける開発／発展と宗教 第10回：東南アジアにおける開発／発展と環境 第11回：東南アジアにおける開発／発展と労働力 第12回：東南アジアにおける開発／発展と家族・子ども 第13回：東南アジアにおける開発／発展と女性 第14回：東南アジアにおける社会保障／福祉 第15回：まとめ 定期試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1　(2005年6月発行) 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法　アジアアフリカ社会研究入門』　文化書房博文社　(2006年)　大泉啓一郎著　『老いてゆくアジア』中公新書　(2007年)	定期試験が60パーセント、授業中に提出された課題を40パーセントとして総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	現代社会１(韓国政治論)	担当者	呉　吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治と政治文化に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島においてはそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だがその根幹となるものはすでに前近代に形成されており、従って政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討することが必要である。 講義では、朝鮮半島の政治を前近代から時代順に概観しつつ、各時期における政治の様子と政治文化の特徴を明らかにしていく。	１回　ガイダンス、韓国政治史の時期区分 ２回　朝鮮半島における古代国家の出現と古代統一国家の誕生 ３回　高麗王朝の建国と展開 ４回　朝鮮王朝の成立 ５回　両班支配体制の確立と展開 ６回　日本の植民地支配期の政治 ７回　米軍政と「分断体制」の形成（第１共和国） ８回　朝鮮戦争と政権の独裁化 ９回　4.19 学生革命と第２共和国 １０回　5.16 軍事クーデタと軍事政権の誕生（第３共和国） １１回　維新体制と軍事独裁の強化（第４共和国） １２回　軍事政権と民衆 １３回　光州民主化抗争と新たな軍事独裁（第５共和国） １４回　民主化（第６共和国） １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、初回の授業時に紹介する。	授業への参加度：５０％、期末試験：５０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	現代社会１(現代の企業経営)	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講義はこれらの中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はパワーポイントを使い、なるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明を行う。後半はグループに別れてケース分析を行い前で発表をする。	１．　ガイダンス ２．　モチベーション ３．　グループの性質 ４．　リーダーシップ ５．　コミュニケーション ６．　紛争と対立 ７．　意思決定 ８．　パワーとポリティクス ９．　人的資源 １０．　企業文化 １１．　組織構造 １２．　組織変革 １３．　ＤＶＤ（フラット化する世界） １４．　復習 １５．　Ｑ＆Ａ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は毎回配布する。	評価は学期末試験による。出席は本学の慣例による。４回以上欠席は不可。遅刻については、公的機関の遅れ等以外の理由の入室は禁止。

08年度以降	現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。企業経営の面白さと難しさを体感することを通じて、今後学ぶ様々な専門科目への理解･興味の橋渡しとなれば幸いである。	1. オリエンテーション 2～14. グループワークによるビジネスプラン作成 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ケーススタディと参考資料を配布する。	グループワークへの参加度、貢献度と期末レポートにより評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地域メディア論) 比較文化論 b(地域メディア論)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱うローカル・メディア（地域メディア）は、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo　Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここではローカル・メディアとしてとりあげたい。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、またどういった機能がそこに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期の後半は、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	１．イントロダクション ２．グローバル化とローカルコミュニティ ３．地域・地方文化の復権とメディア ４．各地のローカル・メディア（１） ５．各地のローカル・メディア（２） ６．各地のローカル・メディア（３） ７．メディアによる地域文化の創造（１） ８．メディアによる地域文化の創造（２） ９．多文化共生とローカル・メディア（１） １０．多文化共生とローカル・メディア（２） １１．災害時におけるローカル・メディアの役割 １２．受講者による発表（１） １３．受講者による発表（２） １４．受講者による発表（３） １５．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房	レポート（50%）と授業内での作品発表（50%） 【履修者多数の場合は期末テストを行う】

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 a) 社会学 a(他者と自己)	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。 学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバライゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。これらを通して、より専門的な下位・隣接領域の研究や社会調査法を学習するうえでの下地をつくる。 社会学には曖昧なイメージがある。しかしそれはひとつの「物の見方」だと理解すれば良い。この講義では、社会学という学問の考え方を伝えると共に、身の回りにある具体的な事象について検討していく。	1　イントロダクション 2　逸脱 3　犯罪とリスク 4　労働(1) 5　労働(2) 6　消費 7　遊び 8　文化 9　スポーツ 10　メディア 11　社会調査 12　ナショナリズム 13　グローバライゼーション(1) 14　グローバライゼーション(2) 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで随時指示する。	試験によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 b) 社会学 b(現代社会の諸問題)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
社会学が成立した背景について、その概略を学び、現代社会が抱えるさまざまな問題を社会学的なアプローチから考える。とくに、グローバル社会のなかで異文化・異民族が共存するとき、そこにどういった問題が生じるのか、社会学はどのようにその問題を分析するのか、といった論点をベースにしつつ、映像資料も適宜取り入れながら講義を進める。 講義のなかでとりあげるトピックは、都市、地域社会、移民、大量消費社会、異文化、メディアである。幾人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、これらについて受講者とともに考えてゆきたい。受講者は、本講義で学んだことを自分なりに展開し、現代のグローバル化・国際化のもとで今後の日本社会が直面する課題はなにか、自分はどういった立場でそこに関わっていくのかについて考えてほしい。	1.　イントロダクション 2.　社会学の歴史――ウェーバーとデュルケム 3.　社会の類型 4.　社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム 5.　同調様式の３類型――D.リースマン 6.　都市化と移民――W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 7.　同心円地帯説――E.バージェス 8.　シカゴ学派と都市問題――R.パーク 9.　予言の自己成就――R.K.マートン 10.　誇示的消費――T.ヴェブレン 11.　認知的不協和の理論――L.フェスティンガー 12.　文化的再生産――P.ブルデュー 13.　コンフルエント・ラブ――A.ギデンズ 14.　「社会問題化する」ということ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社　　ほか	小レポート（20%）と期末試験（50%）を中心に、授業への積極的態度（30%）も考慮し総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 1) 現代社会(Ⅲ)(民法 a)	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
法とは何か。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接なかかわりを持ちながら生きているが、そもそも法とは何か、何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、今日的な民事事件について説明を行う。なお、講義を通し、との折々の法制度や民法にかかわるニュースについても解説を行う予定である。	1　法とは何か 2　法と裁判 3　生活関係と法 4　民法とはどのような法律か（1）概説 5　民法とはどのような法律か（2）構成 6　民法とはどのような法律か（3）財産編 7　民法とはどのような法律か（4）家族編 8　民事事件：金銭消費貸借 9　民事事件：建物賃貸借 10 民事事件：不動産明渡 11 民事事件：売買 12 民事事件：相続 13 民事事件：夫婦 14 民事事件：親子 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最新版の六法	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 2) 現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるのかについてまず解説し、その後、前期で触れられなかった類型の民事事件につき解説する。	1　民事紛争と民法 2　民事紛争の解決方法：裁判（1） 3　民事紛争の解決方法：裁判（2） 4　民事紛争の解決方法：裁判（3） 5　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（1） 6　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（2） 7　民事事件：債権回収 8　民事事件：時効 9　民事事件：保証否認 10 民事事件：労働事件 11 民事事件：損害賠償 12 民事事件：医療関係事件 13 民事事件：交通事故事件 14 民事事件：その他（1） 15 民事事件：その他（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

08年度以降 07年度以前	現代社会1(日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目標＞ 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 **＜講義概要＞** 憲法概念からはじめ、憲法26条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「講義予定表」を配布する。 **＜受講生への要望＞** 『六法』は、必ず毎回もってくること。	１．　オリエンテーション ２．　六法の使い方／憲法概念 ３．　人権総論 ４．　憲法制定略史 ５．　法の下の平等 ６．　精神的自由権／信教の自由 ７．　精神的自由権／政教分離 ８．　精神的自由権／学問の自由 ９．　精神的自由権／表現の自由（１） １０．　精神的自由権／表現の自由（２） １１．　人身の自由 １２．　社会権／生存権（１） １３．　社会権／生存権（２） １４．　社会権／教育権 １５．　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法15話［改訂2版］』（北樹出版） 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）	定期試験による。

08年度以降 07年度以前	現代社会1(日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目標＞ 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 **＜講義概要＞** 憲法概念からはじめ、憲法26条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「講義予定表」を配布する。 **＜受講生への要望＞** 『六法』は、必ず毎回もってくること。	１．　オリエンテーション ２．　六法の使い方／憲法概念 ３．　人権総論 ４．　憲法制定略史 ５．　法の下の平等 ６．　精神的自由権／信教の自由 ７．　精神的自由権／政教分離 ８．　精神的自由権／学問の自由 ９．　精神的自由権／表現の自由（１） １０．　精神的自由権／表現の自由（２） １１．　人身の自由 １２．　社会権／生存権（１） １３．　社会権／生存権（２） １４．　社会権／教育権 １５．　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法15話［改訂2版］』（北樹出版） 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(世界の自然環境と文化) 地理学 a(世界の自然環境と文化)	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、世界の諸地域を概観し、地理的な見方・考え方を身につけるとともに、人口問題、資源と貿易、そして都市と農村のつながりなどの各分野について考察していく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。	1．オリエンテーション―地理学とは 2．世界の読み方（1）地域と空間を見る眼 3．世界の読み方（2）世界地図の錯覚 4．世界の読み方（3）人と環境から見た世界 5．世界の読み方（4）世界の経済と貿易 6．世界の読み方（5）都市と農村の地理 7．世界の読み方（6）日本の地図を読む 8．日本の大都市圏（1）東京と首都圏 9．日本の大都市圏（2）複核構造の近畿圏 10．日本の大都市圏（3）多核的産業都市・中京 11．日本の大都市圏（4）大都市圏の回廊地帯 12．地球環境問題に対する視点（1） 13．地球環境問題に対する視点（2） 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
青木英一・北村嘉行『世界を読む　改訂版』(原書房、2005年)	期末定期試験の結果（75%）に加え、平常授業における課題レポートなどの実績（25%）等も加味して、総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(世界の自然環境と文化) 地理学 b(世界の自然環境と文化)	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、日本の諸地域、そして世界の諸地域について、それぞれの地域的特色を考察する。そして、近年重要性が増す地球環境問題について詳しくみていく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する	1．オリエンテーション―地理学とは 2．日本の地方圏（1）日本海岸の経済的風土 3．日本の地方圏（2）東北・北海道地方 4．日本の地方圏（3）瀬戸内海・四国・九州地方 5．世界の諸地域（1）中国とアジア諸国 6．世界の諸地域（2）オセアニア 7．世界の諸地域（3）アメリカ合衆国 8．世界の諸地域（4）アフリカ・西アジア 9．世界の諸地域（5）ヨーロッパ・ロシア 10．地球環境問題（1）生態系と人間活動 11．地球環境問題（2）自然環境の破壊 12．地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13．地球環境問題（4）私たちにできること 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
青木英一・北村嘉行『世界を読む　改訂版』(原書房、2005年)	期末定期試験の結果（75%）に加え、平常授業における課題レポートなどの実績（25%）等も加味して、総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(はじめての経済学) 経済学 a(はじめての経済学)	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．ミクロ経済学の基本 Ⅱ．ゲーム理論の考え方 Ⅲ．マクロ経済学の基本 Ⅳ．日本の経済をマクロの視点でとらえる （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅳ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲに対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する Ⅱ． 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か 8. 出店戦略分析 Ⅲ． 9. GDP を中心にマクロ経済を考える 10. 需要と供給で考える 11. マクロ経済のコントロール――財政金融政策の役割 Ⅳ． 12. 日本経済の構造変化――石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化――プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（上)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2)(はじめての経済学) 経済学 b(はじめての経済学)	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．公共部門の経済学 Ⅱ．金融システムを理解する Ⅲ．国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト下巻の第Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ章に対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 公共部門の三つの機能 3. 財政支出と累進課税 4. 自然独占と公共財 5. 景気対策と日本の財政状況 6. プライマリーバランス――財政の未来を考える Ⅱ． 7. 貨幣のもつ様々な機能 8. マネーストックと金融政策 9. 信用乗数と資産市場の全体像 10. バブルの形成と崩壊が生じるメカニズム Ⅲ． 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位――国際的な自由貿易の恩恵 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（下)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	古関　彰一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で日本国憲法全般を講義することになります。 従って、日本国憲法の人権と統治機構全般に及びますが、１５回という制約がありますので、人権と統治機構の主要な論点を講義することになります。 春学期だけで憲法全般を講ずることはかなりむつかしいことですが、以下のような計画案で行います。	１　開講にあたって（近代憲法とはなにか） ２　基本的人権の歴史 ３　明治憲法の構造 ４　平和主義と憲法９条 ５　日米安保条約の構造 ６　基本的人権適用と公共の福祉 ７　選挙権の法的性格と選挙定数 ８　平等権の概念 ９　選挙定数と裁判例 １０　表現の自由の意義 １１　表現の自由と名誉・プライバシー １２　環境権の法的性格と判例 １３　国会の地位と権能 １４　司法権の意味、範囲、限界 １５　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法・第五版』（岩波書店、2007 年）、長谷部・石川・宍戸編『憲法判例百選・第６版』（有斐閣、2013 年）	春学期の最後の試験期間中に論述試験を行い、それにより評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降 07年度以前	現代社会1(歴史の中のメディア) 現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
人類の歴史はメディアが取り持つ情報の流れを通して大きな変遷を遂げてきた。コミュニケーションのかたちがその時代の人と社会、企業と国家や国際関係などをめぐるかかわりを変え、新しい価値を創造してきた。 この授業では人の肉声による言葉のやりとりから活字印刷の発明による情報の大量伝達の始まり、電信、映像、電波などの技術革新を通した伝達速度の飛躍と感覚の拡張など、その発展の歴史を具体的な事例に沿ってたどりながら、インターネットという新たなメディアが登場した21世紀の今日の社会の姿を考える。もとより、メディアは人間と社会を結ぶ伝達の手段であるが、そのネットワークの広がりと人間の知識や感覚の拡張によって、社会システムや価値観を変えてゆく仕組みでもある。 いまメディアの歴史のなかにそれを問うことは、民主主義や市場経済といった現代社会の普遍的なシステムの成り立ちと発展、そしてその行方を問うことでもある。	1　はじめに 2　グーテンベルクの革命 3　ピュリツァーと〈新聞戦争〉 4　ロイターと大英帝国 5　視覚の20世紀 6　プロパガンダとメディア 7　戦争と国民国家とメディア 8　グローバリゼーションと情報 9　メディア複合体のゆくえ 10　テレビとネット 11　エンターテインメントとメディア 12　民主主義とメディアモデルの揺らぎ 13　情報は有償か無償か 14　メディアのなかの人間 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』(柏書房)を参考文献とする。	定期試験の成績(80%)にくわえて、通常の授業のなかで課すリポートの実績(20%)を勘案して評価する。

08年度以降 07年度以前	現代社会1(メディアと現代社会) 現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
新聞、雑誌、放送、出版など「マスメディア」として括られてきた媒体は、民主主義と市場経済という社会の仕組みのなかで国民の「公共性」に奉仕する固有の役割を担ってきた。すなわち、情報の伝達と世論の形成などを通して人々の権利の擁護や権力の監視など、言論表現の自由という近代国家における人間の基本権を足場にして発展してきた、「公共財」としての活動である。 立法、司法、行政という民主社会の三権と離れたところで発展してきたこの機能は「ジャーナリズム」というかたちで、民主主義の下での言論の働きを大きく飛躍させ、その社会的な影響力の大きさから三権に並ぶ「第四の権力」とも呼ばれた。民主主義社会で国民の要求を代行する機能を受け持つ議会を補完し、それ以上に「民意」の形成と「公益」の形成に大きな力を及ぼしてきたこの機能が近年弱まっているのはなぜか。 インターネットという、個人が国境を越えて自在に情報のやりとりができる新たなメディアがグローバル化する情報社会を揺るがせる一方、民主主義というシステムの疲弊も曲がり角に立つマスメディアの今日のありようと深くかかわっている。	1　はじめに 2　ジャーナリズムの誕生 3　調査報道と「知る権利」 4　「表現の自由」と現代社会 5　誤報・虚報はなぜ生まれるのか 6　「世論」とメディア 7　情報操作はなぜ行われるのか 8　メディアの倫理と「公益性」の行方 9　放送と通信の融合とテレビ 10　外交と情報摩擦 11　メディアの再編と市場 12　国家機密保護と情報漏洩 13　メディアと文化 14　ネット社会と「公共圏」 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。佐藤卓己『メディア社会（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績(80%）にくわえて、通常の授業のなかで課すリポートの実績(20%)を勘案して評価する

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (グローバリゼーションを巡って) 現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
20世紀から21世紀にかけて、政治と経済、文化などで世界に強い覇権をもたらしてきた米国の歩みを、その国の成り立ちや発展の足取り、外交や国際社会での力の形成などに見ながら、広い意味での「文化」がグローバリゼーションのなかでどのように国境を越えた影響力を形成してきたのかを考える。 それは9/11のニューヨークのテロとリーマンショックを契機に米国の覇権が翳り、中国など新興国の台頭とともにリーダーのいない混沌のなかにおかれた「Gゼロ」と呼ばれる21世紀の世界を考えることでもある。 「文化」にかかわる領域は言語や宗教、民族、社会システムや人々の価値観など幅広い分野にわたる。歴史の浅い移民国家である米国がグローバルな覇権大国となった理由は、民主主義や市場経済など、編み出した普遍的な社会システムが世界に共有されてきたことが大きい。その統合力と吸引力をソフトパワーとして探る。	1　はじめに 2　文明のかたち 3　「帝国」と覇権国家 4　フランクリン型人間像 5　トクヴィルが見た米国 6　WASP と移民国家 7　ロックフェラーと石油の世紀 8　フォーディズム　大量生産と大量消費 9　冷戦と「豊かな社会」 10　「信頼」と社会 11　「大きな政府」から「小さな政府」へ 12　米国標準とソフトパワーの時代 13　9/11 とリーマンショック 14　米国の覇権の行方－G ゼロの世紀 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。渡辺靖『文化と外交』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績(80%)に加えて、通常の授業で課するリポート(20%)の実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (日本の表象と世界) 現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションがすすむ世界のなかで〈日本〉という国家とその社会の特性はどのようにものであり、その働きはどのようなものなのかを、文化的な表象や社会システム、技術や人々に共有された固有の価値観などから探る。世界はそれぞれの風土、言語、宗教、民族の下で独自の文化をはぐくんできたが、グローバル化はそれを解体し、世界に共通する同質的な文化に統合してゆく。しかし、それはそれぞれの固有の文化がグローバルな葛藤のなかで普遍化してゆくことでもある。 歴史的に日本は中国文明の影響のもとに、それを独自に洗練させて伝統的な文化を形成してきた。近代に入ってからは「西洋」をモデルにして行政、経済、科学、生活様式に至るまで「脱亜入欧」のスローガンを実現している。異質な文化を風土の中で融合させることにより、ハイブリッド（異種融合）な文化を生み出すことは日本社会の大きな特質である。映像や美術作品などの表象物を通して固有の価値と普遍的な価値の融合というダイナミックな視点から現代の日本文化を考える。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　「蝶々夫人」と武士道 4　日本型システムの起源 5　近代天皇制と日本 6　敗戦とアメリカの影 7　1955 年体制－「戦後」とはなにか 8　MADE　IN　JAPAN 9　高度成長と中流社会 10　ブランドと消費社会 11　日本礼賛と日本たたき 12　表象としての〈日本〉 13　日本文化と現代 14　グローバリゼーションと文化 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回配布する資料で授業をすすめる。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）などを参考文献とする。	定期試験の成績（80%）にくわえて、通常の授業で課すリポートの実績（20%）を勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (NGO 論) 現代社会(Ⅲ)(NGO 論)	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	①NGO 論オリエンテーション ②～③「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の活動 ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO の活動 ⑥パレスチナ問題とＮＧＯの取り組み ⑦東アジアの平和と市民交流 ⑧ＮＧＯによる復興・開発協力の事例　（カンボジア） ⑨ミレニアム開発目標（MDGｓ）と持続的開発目標（SDGｓ）。ラオスにおける森林保全から考える。 ⑩アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み ⑪政府開発援助と NGO ⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ ⑭非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮ＮＧＯの組織運営と資金

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献：日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年 参考文献：清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

08年度以降 07年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．　つづき １４．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １５．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。最終レポートはポータルサイトから提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に左記教科書についてのレポート（5000 字程度）を提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

08年度以降 07年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．　つづき １４．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １５．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。最終レポートはポータルサイトから提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に左記教科書についてのレポート（5000 字程度）を提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 1) 現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a)	担当者	髙須　則行

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学とは、法学、政治学、経済学、社会学、歴史学、文化人類学などの総称です。これらの個別の社会科学は、社会現象をその関心領域に即して切り取り、考察するものですが、社会科学は、法、政治、経済等の社会現象を全体的に総合的に学際的に考察するものです。社会現象を全体的、総合的に考察することによって、それぞれの現象の相互関係を把握し、また個別の社会科学を社会現象全体の中で位置づけることが可能になります。 春学期は、テキストとして、法と社会に関する古典とも言える碧海純一の『法と社会』（中公新書）を用います。本書は、法を言語、宗教、道徳、政治、経済等の文化の一部分ないし一側面として捉え、それらの相互関係の中で法を明らかにしようとするものであります。したがって、まさに社会科学概論のテキストとしては最適なものであると考えられます。 講義は、テキストを講読して行くという形式にします。そのような知的作業の中で、碧海純一の考え方を追体験し、全体的視点から法と社会との関係を理解していってもらいたいと思います。	1　社会科学概論 - １へのいざない 2　「文化」とは何か 3　文化の一部としての法 4　人間の抽象能力とその「生存価値」 5　社会秩序の問題 6　社会化 7　社会化の媒体としての言語 8　社会化と言語の「個性」 9　社会統制（１） 10　社会統制（２） 11　現代社会における法の機能の増大 12　社会の「法的要請」とその変遷 13　法の「第一次統制機能」と「第二次統制機能」 14　法の安定機能と変革機能（１） 15　法の安定機能と変革機能（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：碧海純一『法と社会』(中公新書・1967) ＊参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	評価方法：期末試験の結果（８０％）によって評価しますが、授業への参加度（２０％）も評価対象とします。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 2) 現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b)	担当者	髙須　則行

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学とは、法学、政治学、経済学、社会学、歴史学、文化人類学などの総称です。これらの個別の社会科学は、社会現象をその関心領域に即して切り取り、考察するものですが、社会科学は、法、政治、経済等の社会現象を全体的に総合的に学際的に考察するものです。社会現象を全体的、総合的に考察することによって、それぞれの現象の相互関係を把握し、また個別の社会科学を社会現象全体の中で位置づけることが可能になります。 秋学期は、現代の社会（政治）制度の枠組みにもなっている民主主義を理解することを目指します。そのためのテキストとして、佐々木毅の『民主主義という不思議な仕組み』を用います。本書は、「誰もが当たり前と思っている民主主義。それは本当にいいものだろうか？この制度の成立過程を振り返りながら、私たちと政治との関係について考える。」と自ら述べているように、社会（政治）制度の基本的枠組みを理解するためには最適なものと考えられます。 講義は、テキストを講読して行くという形式をとります。そのような知的作業の中で、私たちの社会で採用されている民主主義という仕組みのメリットとデメリットを公平な視点から理解し、民主主義の欠陥を具体的に改善する方策を考え出していく手助けにもなります。	1　社会科学概論 - ２へのいざない 2　ポリスにみる民主主義の原点 3　民主制という政治の仕組み 4　「契約に基づく権力」と「法の支配」の新展開 5　アメリカ合衆国の政治的実験 6　大統領制と議会制 7　代表と代理 8　「代表する」と「代表させる」 9　「世論の支配」を考える 10　エリートと大衆の愚弄 11　「世論の支配」の意味とは 12　参加への熱望――明治日本の課題 13　抵抗の論理――市民的不服従の流れ 14　20 世紀の政治を振り返って 15　これからの政治課題を展望する
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』(ちくまプリマー新書・2007) ＊参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	評価方法：期末試験の結果（８０％）によって評価しますが、授業への参加度（２０％）も評価対象とします。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (韓国社会各論 b) 現代社会(Ⅲ)(韓国社会各論 b)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。	1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パタンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括

テキスト、参考文献	評価方法
服部民夫（2005）『開発の経済社会学－韓国の経済発展と社会変容―』文真堂 その他必要に応じて資料を配布する。	定期試験と授業への参加度によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政治思想と理論、制度) 政治学 a(政治思想と理論、制度)	担当者	中島　晶子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、政治学の考え方と制度について基本的知識を得ることを目的とします。 政治学の対象となる「政治」は、多様な意味を含む概念です。たとえば、政治目標として理想や共通利益の実現、政治手段となる権力や資源の配分、政治機能として争いの調停や秩序の形成といった面を持っています。政治の営みはいわば社会生活を送る人間の営みそのものであり、政治学の対象は広範にわたっています。 学問としての政治学は、歴史学、哲学、社会学など、近接する他の学問領域と密接に関係して発展してきました。今日の行政国家・福祉国家においては、日常生活のあらゆる領域に政治が関わり、政治の果たす役割が広がり、重要性が増しています。 この講義では、①政治思想や理論の歴史、②権力とこれをめぐる関係、③現代社会を運営するしくみとしての政府の形態、をとりあげます。	1. イントロダクション―政治とは何か 2. 政治学の歴史 3. 行動論的政治学とその発展 4. 政治と権力 5. 支配の正当性 6. 権力構造 7. 政治的とリーダーシップ 8. 政治思想とイデオロギー 9. デモクラシーの理論 10. 現代社会における国家 11. 近代国家と議会政治 12. 近代国家の政治原理 13. 主要諸国の政治制度 14. 現代の行政国家 15. 現代社会と官僚制
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村昭雄『基礎からわかる政治学〔補新装版〕』芦書房、2012 年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。	期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政策と政治過程) 政治学 b(政策と政治過程)	担当者	中島　晶子

講義目的、講義概要	授業計画
現代社会 1 （政治思想と理論、制度）に続いて、この講義は、政治が機能する過程、主な現代政治の課題についての基礎知識を身につけることを目的とします。 まず、政策の実現プロセスや多様な政治現象について、基本的な知識を提供します。とりあげる領域は、①政策の形成・決定・実施の過程、②そこにかかわる多様な行為主体、③人々の政治行動や意識などです。 つぎに、日本の政治の特徴を、地方自治、政治経済、国際関係の観点からとりあげます。	1. イントロダクション 2. 議会と立法過程 3. 選挙制度 4. 政策と政策過程 5. 現代政治と政党 6. 政治社会と政党制 7. 圧力団体と住民運動 8. 現代の政治過程 9. 政治意識と投票行動 10. 政治的コミュニケーション 11. 大衆社会の政治 12. 集権と分権 13. 政治、経済、福祉 14、国際政治 15. 日本の政治
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村昭雄『基礎からわかる政治学〔増補新装版〕』(芦書房、2012 年）をテキストとし、参考文献は適宜紹介します。	期末試験（70%）とコメントカードなど平常点（30%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ジェンダーとメディア表象) 女性学 b(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山　千恵子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　テレビや新聞、ラジオ、雑誌、インターネットなど、私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての知識を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。「自分はメディアに左右されていない」と思っていても、私たちはメディアの影響力から完全には自由になれません。 　この授業ではそうしたメディアについて、特にジェンダー（社会的性別・性差）の観点からさまざまな男女の表象を検討していきます。いろいろな映像をふんだんに使いながら、身近なメディアにおける男女、ジェンダーの表現を見直すとともに、既存のジェンダーの固定的なイメージに対抗する表現についても考察していきます。ジェンダー概念を理解し、ジェンダー視点でメディアを批評的に読み解く力をはぐくむのがこの講義の目的です。 講義概要 　前半はジェンダーについての基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、さまざまなメディア・テクストを検討していきます。授業内容を受けてコメントカードを書いてもらうことがあります。（不定期）。コメントは次の回の授業のはじめに一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めます。	1.　イントロダクション　現代日本の男女の統計 2.　「男女平等」に向けての流れ 3.　ジェンダーとジェンダーの周辺概念 4.　ジェンダーに関わる諸問題 5.　性の多様性 6.　セクシュアル・マイノリティの主張・運動 7.　セクシュアル・マイノリティとメディア表現 8.　ジェンダー視点のメディア・リテラシー 9.　広告における性表現とジェンダー 10.　映画における女性・男性 11.　ポルノメディアとジェンダー 12.　「表現の自由」とジェンダー 13.　映画とセクシュアル・マイノリティ 14.　「芸術」とジェンダー 15.　まとめ ＊その時々の時事問題に応じてトピックに若干変更を加えることがあります。また、講義内容の性質上、一部、性的表現や暴力的表現をふくむトピック、映像もありますので、ご了承ください。

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布します。 参考文献は授業中に指示します。	学期末試験１００％ 特にすぐれたコメントはこれを加点要素とする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(ミクロの視点で考える) 経済学 a(ミクロの視点で考える)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，様々な経済現象を理論的に考察するための分析道具であるミクロ経済学の基礎を習得し，経済理論に基づいて現実の経済問題を検討する力を養うことを目標とする。 講義では，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。続いて，経済主体の行動と経済の効率性に関する理解に必要な基礎知識の習得を図る。そのうえで，余剰分析について解説し，市場構造のあり方が経済厚生にどのような影響をもたらすかを考察する。また，「市場の失敗」とその諸要因について理解を深めながら，政府の役割と市場の役割のあり方を考える能力を身につける。	１．　ガイダンス ２．　経済学とはどのような学問か ３．　分業の利益 ４．　消費者行動と財の需要（１） ５．　消費者行動と財の需要（２） ６．　企業行動と財の供給（１） ７．　企業行動と財の供給（２） ８．　余剰分析（１） ９．　余剰分析（２） １０．　完全競争と経済の効率性 １１．　不完全競争 １２．　外部効果 １３．　公共財 １４．　ミクロ経済学の応用 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布する資料など	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2)(マクロの視点で考える) 経済学 b(マクロの視点で考える)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，日本経済に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 講義では，まず国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。これを踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実との対応関係が理解できるように配慮したい。	１．　ガイダンス ２．　マクロ経済学の課題 ３．　家計の消費行動と貯蓄動機 ４．　企業の投資行動 ５．　企業の資金調達と家計の資産選択 ６．　直接金融：株式市場の理論と実際 ７．　間接金融：銀行の役割 ８．　中央銀行の役割と貨幣市場モデル ９．　ケインズ経済学：有効需要の原理 １０．　財市場モデルと乗数効果 １１．　財政政策と金融政策（１） １２．　財政政策と金融政策（２） １３．　労働市場と失業 １４．　開放マクロ経済 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第 4 版），有斐閣	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東の社会空間) 現代社会(Ⅲ)(中東の社会空間)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、中東・イスラムの基礎知識を習得することを到達目標とする。 そこで、本授業は次の 3 つのテーマについて講義形式で学ぶ。(1) 中東地域とは、(2) 中東の人々と規範、(3) 中東地域の社会構造。 本授業での学びを通し、中東地域の人々の行動、思考と社会構造の関係性について理解を深めることができるようになる。そのことは、一神教に生きる人々の生活、社会意識を知ることにもつながる。	1　ガイダンス（社会空間とは） 2　人間行動と空間の特性 3　イスラムの基礎知識 4　信仰と日常生活 5　小まとめ： イスラムと公共空間 6　自由と公平 7　制度と慣習 8　イスラム法と統治 9　イスラム経済論 １０　小まとめ： 中東の社会空間にある檻 １１　イスラムと科学・技術 １２　教育・ジェンダー問題と中東社会 １３　都市化と若者に見る社会変化 １４　経済・産業から見る中東と国際社会 １５　まとめ：中東と世界空間の変化との関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東政治と市民社会) 現代社会(Ⅲ)(中東政治と市民社会)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、市民による政治運動の基礎知識を習得することを到達目標とする。 各国の出来事、地域全体の動き、そして世界潮流の関係について更に考察を深める必要がある。 本授業を通し、今日の市民の政治運動をについて理解を深めることができるようになる。 具体的には、2011 年 1 月にチュニジアに端を発し、エジプト、リビア、イエメン、シリアと続く「アラブの春」と呼ばれる政変における市民の政治活動について分析する。その上で、中東地域と東欧、アジア諸国の市民の政治活動の比較を行う。 本授業での学びを通し、冷戦後の国際政治、経済の変動期における国際社会が抱える他の諸課題へも意識を広げてもらいたい。	1　ガイダンス（市民社会における統治とは） 2　今日の中東と国際関係 3　イラン革命と市民運動 4　湾岸戦争とイラク戦争 5　小まとめ： イスラムの台頭 6　チュニジアの政変と市民 7　エジプトの政変と市民 8　リビアの政変と市民 9　シリアの政変と市民 １０　小まとめ :「アラブの春」とは １１　冷戦直後の東欧との比較 １２　アジア地域での政変との比較 １３　人口動態と市民の抗議運動 １４　ソーシャルネットワークと市民の抗議活動 １５　まとめ：地球市民としての政治・社会運動のあり方
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 a)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。	１．はじめに ２．命題と論理式 ３．真理表と命題の同値 ４．条件文１ ５．条件文２ ６．推論と証明 ７．論理式と代数１ ８．論理式と代数２ ９．論理と集合１ １０．論理と集合２ １１．推論の応用１ １２．推論の応用２ １３．推論の応用３ １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）	授業中の問題解答（10%）、授業最後の課題（10%）、学期最後の問題演習（80%）により評価

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 b)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」とその「平均」や「分散」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げます。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。	１．はじめに ２．場合の数と集合 ３．順列・組合せ ４．標本空間と事象 ５．確率１ ６．確率２ ７．条件付確率と事象の独立 ８．確率変数と確率分布１ ９．確率変数と確率分布２ １０．確率分布の平均 １１．確率分布の分散 １２．二項分布 １３．正規分布 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）	授業中の問題解答（10%）、授業最後の課題（10%）、学期最後の問題演習（80%）により評価

08年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅰ)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。内容は、①物体に働く力と物体の運動との関係を考察する「力と運動」、②熱の現象とその実態である分子運動を扱う「熱」、③波の一般的性質とその実例としての音波・光波を扱う「波動」、④電気と磁気に関する現象や電気と磁気との関係、さらに電磁波について考察する「電磁気」からなります。	１．はじめに ２．力と運動１－物体の運動 ３．力と運動２－物体に働く力 ４．力と運動３－運動の法則 ５．力と運動４－万有引力 ６．熱１－温度と熱 ７．熱２－熱と分子運動 ８．波動１－媒質の振動と波 ９．波動２－音波と光波 １０．電磁気１－電気と磁気 １１．電磁気２－電流と磁場 １２．電磁気３－電磁誘導 １３．電磁気４－電磁波 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

08年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅱ)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。時間と空間は、以前は自然の基本法則が登場する舞台でしたが、２０世紀以降「相対性理論」により物理学の研究対象となりました。物が何からできているかという物質の究極像を探る研究は、原子・素粒子の発見やその従う法則である「量子力学」の成立により大きく進展しました。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。内容は、前半が「時間と空間」について、後半が「物質の究極像」についてです。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	１．はじめに ２．時間と空間１－電磁気学と相対性原理 ３．時間と空間２－ローレンツ変換 ４．時間と空間３－４次元不変量 ５．時間と空間４－等価原理 ６．時間と空間５－時空の歪み ７．時間と空間６－ブラックホール ８．物質の究極像１－元素と原子 ９．物質の究極像２－原子の構造 １０．物質の究極像３－前期量子論 １１．物質の究極像４－量子力学 １２．物質の究極像５－素粒子論 １３．物質の究極像６－統一理論 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 a) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 a)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a 」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、様々な天体現象の観察による近代的宇宙観の成立と、相対性理論による現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1．はじめに 2．近代科学以前の宇宙論 3．天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4．ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5．ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6．ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7．ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8．同時概念・時間概念の相対性 9．空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 b) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 b)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b 」では、現代宇宙論において近年得られた知見による宇宙膨張の観測と理論、宇宙における構造の形成、宇宙における物質の形成について解説します。また、まだ確立していない最新の話題についても取り上げます。 なお、春学期開講「宇宙論 a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1．はじめに 2．宇宙論が対象とする宇宙 3．膨張宇宙の観測 4．膨張宇宙の理論 5．ビッグバン理論 6．宇宙の階層構造 7．宇宙の構造形成 8．物質の階層構造 9．宇宙の進化 10. ビッグバン理論の問題点 11. インフレーション宇宙 12. 宇宙の特異点と量子宇宙論 13. 超ひも理論と高次元宇宙 14. 膜宇宙とパラレルワールド 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する予定

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間１(天文学a) 自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学a)	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
天体の見かけの運動を理解する。 　惑星の運動の法則や、太陽系の現在の姿とその形成過程を理解する。 　中学校で一部、既習の天体のみかけの運動の説明から始め、次いで、惑星の運動を表すケプラーの法則を説明する。太陽系に属する様々な天体を紹介し、太陽系の形成過程や地球の形成過程などを学んでいく。	1　講義内容の紹介 2　天球と日周運動 3　年周運動 4　惑星の見かけの運動 5　ケプラーの法則１　第一法則 6　ケプラーの法則２　第二法則 7　ケプラーの法則３　第三法則 8　万有引力とニュートンの力学 9　太陽と太陽系の広がり 10　太陽系の姿　惑星と小惑星 11　太陽系の姿　彗星と太陽系外縁天体 12　太陽系の形成１ 13　太陽系の形成２ 14　太陽系以外の惑星 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。プリントを配布する。 参考書は講義で紹介する。	試験

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間１(天文学b) 自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学b)	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解する。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点の１つは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1　講義内容の紹介 2　星の見かけの明るさ 3　星までの距離 4　星の光度と絶対等級 5　星のスペクトルと表面温度 6　HR図 7　星の半径と質量 8　星のエネルギー源 9　星の進化１　星の誕生から主系列星へ 10　星の進化２　主系列以後の星の進化 11　高密度星　白色矮星と中性子星 12　ブラックホール 13　超新星 14　元素の起源 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。プリントを配布する。 参考文献は講義で紹介する	試験

08年度以降	自然・環境・人間1(歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～ 　私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、「科学技術とはなにか」ということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 　この授業では、西洋のルネサンスから近代社会の形成と、その中で近代科学が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちが幼時から目にし耳にして育つ、宇宙から原子までの自然世界の姿､それが現代とはまったく違うものであった時代から、私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。	ほぼ教科書の内容に沿って、補足の史料等を読みつつ授業を進める。 1. イントロダクション "科学革命"の時代 2. 旧世界と新世界 (1) 中世からの流れ　ルネサンス 3.　〃　(2) 印刷術　大航海 4. 繋がりあった世界 (1) 世界の連関・学問の連関 5.　〃　(2) 自然魔術 6. 天上世界 (1) 惑星の見かけの運動　地動説 7.　〃　(2) 宇宙の調和　望遠鏡　地球の運動 8. 地上世界 (1) 地球　地上の物体の運動　水と空気 9.　〃　(2) 錬金術　原子とメカニズム 10. 生き物の世界 (1) 医学　解剖 11.　〃　(2) 新しい医薬　動植物 12. 新しい科学と技術の体制 (1)建築・鉱山冶金・時計 13.　〃　(2)科学技術情報の流通システム 14. 啓蒙主義(Enlightenment)と科学・技術 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Lawrence M. Principe, *The Scientific Revolution: A Very Short Introduction* (Oxford University Press 2011) (必要に応じて担当者による日本語訳を配布)。	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

08年度以降	自然・環境・人間1(歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～ 　私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 　西洋において近代科学が生み出されてきた 17 世紀初めから 19 世紀半ば過ぎまで、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきた。とはいえ、その間にも蘭学という形でそれを取り入れる過程を持ち、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしていった。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。この過程を振り返ることを通して、現代の科学技術をめぐる諸問題を考える土台としたい。授業は講義形式でおこなう。	1. 洋学の時代 (1)伝統技術と伝統的自然観 2.　〃　(2)蘭学の興り 3.　〃　(3)幕末の洋学 4. 明治維新から帝国大学まで(1)殖産興業と科学技術政策 5.　〃　(2)社会インフラの整備、帝国大学の設立 6. "自立"から敗戦まで (1)理化学研究所の設立 7.　〃　(2)大正～昭和初期の科学 8.　〃　(3)戦争と科学技術 9. 戦後復興と高度成長 (1)産業と科学の戦後復興 10.　〃　(2)技術革新と高度成長 11. 現代科学技術の諸問題 (1)先端科学技術の特性 12.　〃　(2)公害・環境問題の歴史① 13.　〃　(3)公害・環境問題の歴史② 14.　〃　(4)核エネルギー利用の歴史① 15.　〃　(5)核エネルギー利用の歴史②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業の中で示す。	定期試験（60%）、中間小レポート（40%）

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(地球環境の変化とその要因) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ ３　地球環境の歴史（I） ４　地球環境の歴史（II） ５　地球環境の構造等：地球という惑星について ６　地球環境と地球システム（I）：物質圏の相互関係 ７　地球環境と地球システム（II）：炭素循環など ８　地球環境と資源（I）：資源の特性 ９　地球環境と資源（II）：エネルギー １０　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは １１　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １２　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １３　環境と共生：人間活動・物質循環との関係 １４　地球環境問題概論 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験の結果（100%）による。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(地球環境問題と環境保全) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（a） ３　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（b） ４　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（a） ５　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（b） ６　地球環境問題各論（II）：酸性雨 ７　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 ８　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 ９　地球環境問題各論（III）：砂漠化 １０　地球環境問題各論（III）：森林減少 １１　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少 １２　地球環境問題各論（III）：開発途上国等の環境（公害）問題など １３　地球環境の保全（I）：環境と開発 １４　地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等との関係 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験の結果（100%）による。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (科学技術の言語文化 a)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
科学や技術はどのような文化なのだろうか。科学も技術も人間活動の産物である以上、文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすれば我々は科学・技術の成果ばかりに目を奪われて、科学・技術が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、科学や技術に現れる言葉の中から特徴的なものを取り上げて、その言葉の意味を分析するとともに、背景を概観することによって、言語の側面から科学・技術の文化のあり方を探求する。具体的には、名言や格言として伝えられている言葉や、小説や物語に現れた科学・技術、科学・技術に登場する数式や概念などを取り上げて、人間としての科学者や技術者のあり方や時代背景を考慮しながら分析・鑑賞する。そうすることによって、人間の営みとしての科学・技術の重要性と面白さをともに味わう機会としたい。 春学期は、主として人間、生命、精神に関する科学・技術の言葉を取り上げる。	１．　ガイダンス、知ることについて ２．　考えることについて ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　人間の主観と科学 ５．　人間と真理 ６．　人間は機械か ７．　精神とは何か ８．　生命とは何か ９．　自由思想家と科学―サド侯爵の小説を例に １０．空想と科学―ジュール・ヴェルヌの SF 小説を例に １１．科学技術の暗黒面を描く小説 １２．近代以前のアラビアにおける科学 １３．近代以前のインドにおける科学 １４．近代以前の中国における科学 １５．「二つの文化」と人間
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (科学技術の言語文化 b)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
科学や技術はどのような文化なのだろうか。科学も技術も人間活動の産物である以上、文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすれば我々は科学・技術の成果ばかりに目を奪われて、科学・技術が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、科学や技術に現れる言葉の中から特徴的なものを取り上げて、その言葉の意味を分析するとともに、背景を概観することによって、言語の側面から科学・技術の文化のあり方を探求する。具体的には、名言や格言として伝えられている言葉や、小説や物語に現れた科学・技術、科学・技術に登場する数式や概念などを取り上げて、人間としての科学者や技術者のあり方や時代背景を考慮しながら分析・鑑賞する。そうすることによって、人間の営みとしての科学・技術の重要性と面白さをともに味わう機会としたい。 秋学期は、主として自然、世界、宇宙に関する科学・技術の言葉を取り上げる。	１．　ガイダンス、自然を記述する言語とは ２．　宇宙の状態は過去から未来まで決定されているか ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　自然は完全か―時計の比喩 ５．　自然を操作することができるか ６．　魔術と科学 ７．　占いと科学 ８．　神と科学―神の存在証明 ９．　世界の複数性について １０．時間、空間と科学 １１．数学者と数 １２．物理学者と物理法則 １３．環境を捉える言葉と思想 １４．不確実なものを表現する言葉 １５．「二つの文化」と自然
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (科学技術と社会 b)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 我々は科学・技術に囲まれて生きている。科学・技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵に対する遺伝子診断のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、我々が科学・技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。この講義では、具体的な事例を通じて、科学・技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学・技術を生かすための方法を考えてゆく。 【授業の到達目標】 ・科学・技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解すること ・授業に関係する話題の中から、各自が興味を抱いたものを選んでターム・ペーパー（レポート）をまとめること	１．　ガイダンス、科学とは？技術とは？社会とは？ ２．　科学、技術とイノベーション ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　公害と科学技術 ５．　地球温暖化と科学技術 ６．　事故と科学・技術 ７．　科学技術と安全 ８．　科学技術とリスク ９．　科学技術と法 １０．巨大科学技術と社会 １１．研究者と社会 １２．科学技術と女性 １３．先端の科学・技術と社会 １４．専門家と市民との関係 １５．科学技術政策

テキスト、参考文献	評価方法
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08年度以降	自然・環境・人間１(科学技術基礎論Ⅰ)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
「科学技術」ということ、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、多分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働を可能にするための方法を考える。 春学期は主として生命や環境に関する事例を取り上げて考察する。	１．　ガイダンス、生命とは何か？ ２．　生きているとはどういうことか？ ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　なぜ理系に進む女性は少ないのか？ ５．　遺伝とはなにか？ ６．　品種改良と遺伝子 ７．　病気とは何か―正常と異常を考える ８．　感染と免疫 ９．　生命と食品 １０．食のリスクと安全 １１．生命から見た環境 １２．環境問題とは何か？― １３．環境問題の国際協力―オゾンホール問題を例に １４．レギュラトリー・サイエンスとは何か？ １５．科学技術は誰のものか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献やWeb資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08年度以降	自然・環境・人間１(科学技術基礎論Ⅱ)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
「科学技術」ということ、専門家以外には分からないし関係ないというイメージをもっている人が多いかもしれない。たしかに現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ、自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きる我々は、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、我々が直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、我々にとって身近な事例を取り上げて、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、多分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働を可能にするための方法を考える。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する。	１．　ガイダンス、科学と不確実性―地震予知の事例から ２．　科学的予測の原理と実態 ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　科学技術の発達は人々の職を奪うか ５．　情報という考え方 ６．　プライバシーと科学技術 ７．　デジタルディバイドとは何か？ ８．　知的財産権と科学技術 ９．　製造物責任と科学技術 １０．研究不正を考える １１．科学者の社会的責任 １２．物質から見た環境 １３．物質が存在するとはどういうことか？ １４．自然法則とは何か？ １５．宇宙はどこにあるのか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献やWeb資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08年度以降	自然・環境・人間１(科学史 a)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在のわれわれの生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする。一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのであろうか。 この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿ることによって、我々が社会の中で科学とどのように関わっていけば良いのかを考えるとともに、物語性や伝記的要素を強調することによって、科学を歴史的視点で捉えることの楽しさ・面白さを発見することを目指す。 春学期は、古代から１７世紀の科学革命を経て、「科学者(scientist)」という言葉が登場した１９世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	１．　ガイダンス、科学とはなにか？ ２．　科学的な考え方の始まり（古代） ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　古代世界の宇宙観 ５．　地中海世界からアラビア世界へ ６．　アラビア世界からヨーロッパ世界へ ７．　宇宙観の転換―天動説から地動説へ ８．　魔術と科学 ９．　機関論的自然観の登場 １０．ニュートンと科学革命 １１．科学アカデミーの誕生 １２．科学史における女性 １３．産業革命と科学 １４．フランス革命と科学 １５．「科学者（scientist)」の登場
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08年度以降	自然・環境・人間１(科学史 b)	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在のわれわれの生活は、科学と切り離すことができない。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、我々の人生や生活を豊かにする。一方、最新の科学知識によって、我々の生命観や宇宙観は問い直しを迫られており、核兵器のような大量破壊兵器や環境破壊によって、人類の存続は危機に直面している。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのであろうか。 この講義では、科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿ることによって、我々が社会の中で科学とどのように関わっていけば良いのかを考えるとともに、物語性や伝記的要素を強調することによって、科学を歴史的視点で捉えることの楽しさ・面白さを発見することを目指す。 秋学期は、「科学者（scientist)」という言葉が登場した１９世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得してく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	１．　ガイダンス、「科学者（scientist)」とはだれか？ ２．　蒸気機関と熱力学の誕生 ３．　ターム・ペーパーの書き方について ４．　科学の制度化と専門職業化 ５．　科学の産業化 ６．　公害の発生と科学 ７．　進化論と社会 ８．　帝国主義と科学 ９．　研究所の誕生 １０．科学と国家 １１．現代科学の登場と自然観の転換 １２．科学と戦争 １３．ビッグ・サイエンスの誕生 １４．環境科学の誕生と展開 １５．「科学者」の現在・過去・未来
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は使用しない ・毎回資料を配布する ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する	ターム・ペーパー（レポート）（７０％）と、出席カードの記述（３０％）により評価する。

08年度以降	自然・環境・人間1(スポーツ科学概論)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚しい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介する。またビデオ映像を適宜視聴する。	1.ガイダンス 2.スポーツ科学とは 3.スポーツの起源と歴史 4.世界のスポーツ 5.持久力の科学 6.筋の科学 7.トップパフォーマンスとは 8.コンディショニングと疲労 9.障害者のスポーツ 10.メンタルトレーニング 11.スポーツ振興 12.競技スポーツの科学（サッカー・野球・陸上など） 13.トップアスリートの秘密を探る① 14.トップアスリートの秘密を探る② 15.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	授業内レポート（40%）と試験（60%）により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計) ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成 4　自由時間の推移と現状 5　自由時間「三つの意味」その１ 6　自由時間「三つの意味」その２ 7　少子化とライフスタイル 8　古典的解釈から知るレジャー 9　「スコレー」とは 10　余暇享受能力を開発していますか 11　ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12　クオリティオブライフ 13　環境と健康 14　ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15　まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。(パケット通信料がかかります)
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムに授業資料をアップロードします。	授業への取り組み・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	ことばと思想２(意味論)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語を素材として意味論と語用論の概要を理解するとともに，日本語教育への応用をかんがえることを目的とする。 意味とは何かという問題からはじまって，意味をとりあつかういくつかの理論とともに，意味論が対象とする具体的な言語現象を理解する。同様に，発話レベルでの文の意味をあつかう理論と，その具体的な現象を理解する。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので，よく準備をされたい。あわせて適宜，教員から議論の材料となる語彙・意味に関するデータが提供されるので，授業内で，グループなどによる討論もおこなわれうる。	1. 意味論語用論概説 2. 語の定義 3. 形態素 4. 語の種類 5. 語種 6. 語構成 7. 意味の意味 8. 語の意味 9. 同義と反義 10. 上位語と下位語 11. コローケーション 12. 文の意味 13. 叙法の意味 14. 強調の原理 15. 意味論語用論と言語教育
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは，担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。

08年度以降	ことばと思想２(談話論)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 談話についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は，前世紀の後半以降，文学，文化人類学，社会学，心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では，日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで，談話とはなにか，どのような理論があり，どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので，よく準備をされたい。あわせて適宜，教員から議論の材料となる談話に関するデータまたはテキスト内のものもふくめた課題が提供されるので，授業内で，グループなどによる討論もおこなわれうる。	1. 談話論概説 2. 談話の構成要素 3. 指示 4. 省略 5. 主題 6. 接続 7. 結束性分析 8. 語順 9. 動詞の文法範疇の談話分析 10. 文の種類 11. 各種の文の機能 12. 文章の談話構造 13. 会話談話構造 14. 応答と間投 15. 談話論と言語教育
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは，担当者が用意するプリントを使用する。参考文献は開講後指示する。	授業参加への積極性を前提としたうえで，試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	ことばと思想２(日本文学作品研究 c)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では西行の和歌を読解します。 日本文学史だけに限らず、広く現在まで日本文化の様々な分野に多大な影響を及ぼし続けている西行とは何者なのかを明らかにするために、その和歌作品を通して検討します。 様々に脱領域し、分野横断する西行和歌の魅力を、題材ごとに取りだしてみます。四季や恋といった通常の題材だけでなく、あらゆる題材に取材して和歌に詠んだ西行のことばを追求し、新しいことばの発見にも説き及んでゆきます。 和歌という形式が無限の可能性を秘めていることを知り、なぜ日本文化史の中に和歌が主要な位置を占め続けてきたのかを解明することにもなります。	1、　講義の概要 2、　花と西行 3、　月と西行 4、　山と西行 5、　野と西行 6、　河と西行 7、　海と西行 8、　恋と西行 9、　仏教と西行 10、　修験道と西行 11、　地獄絵と西行 12、　民俗と西行 13、　西行伝説 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

08年度以降	ことばと思想２(日本文学作品研究 a)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。 とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。 神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。	1、　授業の概要 2、　西行桜（1） 3、　西行桜（2） 4、　実方 5、　西行塚 6、　遊行柳（1） 7、　遊行柳（2） 8、　江口（1） 9、　江口（2） 10、　雨月 11、　松山天狗 12、　人丸西行 13、　初瀬西行 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

08年度以降	ことばと思想２(日本文学作品研究 e)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。 昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取りこんだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。 口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。	1、　授業の概要 2、　ざしき童子のはなし（1） 3、　ざしき童子のはなし（2） 4、　とっこべとらこ 5、　雪渡り（1） 6、　雪渡り（2） 7、　祭りの晩 8、　山男の四月（1） 9、　山男の四月（2） 10、　種山ケ原（1） 11、　種山ケ原（2） 12、　風の又三郎（1） 13、　風の又三郎（2） 14、　風の又三郎（3） 15、　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(写本を読む) ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、写本の読み方の基礎を手ほどきし、くずし字を用いて書写された文献を初心者でも読みこなせるようになることを目的とします。 教材として、西行の歌論『西行上人談抄』を取り上げることにします。 授業の最初では読み解き方の見本を示しながら進めてゆきますが、要領がわかってきたところで途中から履修者の学生にも課題を割り当てて読み解いてもらいます。 演習形式に近いですから、担当部分の発表時には準備に相応の負担がかかりますので、覚悟して下さい。 日本社会の中で失われてしまった和本リテラシーが、これからは改めて必要になってくるものと予想されます。その入門編となれば幸いです。	1、　授業の概要 2、　読み方の範例（1） 3、　読み方の範例（2） 4、　読み方の範例（3） 5、　読み方の範例（4） 6、　読み解き実践（1） 7、　読み解き実践（2） 8、　読み解き実践（3） 9、　読み解き実践（4） 10、　読み解き実践（5） 11、　読み解き実践（6） 12、　読み解き実践（7） 13、　読み解き実践（8） 14、　講義のまとめ 15、　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、プリントを配布する。	評価方法：期末試験の結果（50%）と、授業中に割り当てての実技（50%）によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり更にコミュニケーションのためには「聴いて判断する力」も必要である。本講義では個々の個性に合ったコミュニケーション力が身に付くよう実践を重視した講義を行う。 話し手・聞き手、それぞれに個性があり価値観が異なる。同じ「ことば」に対しても認識は異なる。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らない。一般には「上手な話し方」など、正しいアクセント、正しい発声法、話す速度、など万人に共通するノウハウを教える教室があるが、本講義はそれとは一線を画す。この講義では「言葉の力」と「言葉の限界」を体験しながら、理論ではなく、実践によってコミュニケーションの方法論を考える。必ず毎時間「説明する」「スピーチ」「読む」などの実践を行いそれが評価につながるので、出席することが条件となる。なお、秋学期を履修した者も実践を積む場として活用できる講義とする。	１　オリエンテーション「日本人とことば」 ２　自然な発声・発音「相手の心に響く声」 ３　実践スピーチⅠ「自己紹介」 ４　実践スピーチⅠ「自己紹介」 ５　伝わるスピーチ「言葉の選択と文章」 ６　実践・説明Ⅰ「抽象的な説明」 ７　実践・説明Ⅱ「具体的な説明」 ８　実践スピーチⅡ「テーマに即して話す」 ９　話し口調と読み口調 １０　若者言葉と曖昧表現 １１　実践スピーチⅢ「自分を語る」 １２　実践スピーチⅢ「自分を語る」 １３　敬語の基本「用法と実践」 １４　実践スピーチⅣ「課題に沿った話をする」 １５　まとめ「社会人としての言葉の使い方」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリント配布	毎講義における参加度と実践　５０％ 実践内容（理解と応用）　４０％ ミニテストの成績　１０％

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング表現篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎と応用を学ぶ。 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり更にコミュニケーションのためには「聴いて判断する力」も必要である。本講義では個々の個性に合ったコミュニケーション力が身に付くよう実践を重視した講義を行う。 話し手・聞き手、それぞれに個性があり価値観が異なる。同じ「ことば」に対しても認識は異なる。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らない。一般には「上手な話し方」など、正しいアクセント、正しい発声法、話す速度、など万人に共通するノウハウを教える教室があるが、本講義はそれとは一線を画す。この講義では「言葉の力」と「言葉の限界」を体験しながら、理論ではなく、実践によってコミュニケーションの方法論を考える。必ず毎時間「説明する」「スピーチ」「読む」などの実践を行いそれが評価につながるので、出席することが条件となる。　秋学期は春学期の講義内容を踏襲するが、音声表現における重要な「イントネーション」について、「話す」と「読む」を実践しながら詳しく説明する。また「音声言語」と「書記言語」の違いを考える。春学期を履修した者にとっては更に、実践を積む場として活用できる講義とする。	１　オリエンテーション「言葉と人間」 ２　自然な発声・発音「聞き手の心に響く声」 ３　実践スピーチⅠ「自己ＰＲ」 ４　実践スピーチⅠ「自己ＰＲ」 ５　実践・説明するⅠ「国語辞書を作る」 ６　実践・説明するⅡ「図形の説明」 ７　実践スピーチⅡ「テーマに即して話す」 ８　実践スピーチⅡ「テーマに即して話す」 ９　読んで伝える「イントネーション論」 １０　実践スピーチⅢ「想いを伝える」 １１　実践スピーチⅢ「想いを伝える」 １２　簡潔に伝えるための文章作成 １３　実践スピーチⅣ「面接を想定して」 １４　敬語表現の応用と実践 １５　まとめ「気を付けたい表現と言葉」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリント配布	毎講義における参加度と実践　５０％ 実践内容（理解と応用）　４０％ ミニテストの成績　１０％

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ｉa) ラテン語 Ia	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行ないます。	1:第一課 文字と発音・音韻組織・音節 2:第一課 アクセント・母音の長音化と短音化 3:第一課 直説法現在能動相・接続詞の例 4:第二課 第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 sum,do,eo,fero 5:第二課 第二変化名詞・er で終わる第二変化男性名詞 6:第三課 第一・第二変化形容詞・前置詞・sum と eo の合成動詞 7:第三課 人称代名詞・再帰代名詞 8:第四課 未完了過去・未来 9:第四課 第三変化名詞 10:第五課 完了・過去完了・未来完了 11:第五課 第三変化形容詞・場所の表現 12:第六課 指示代名詞・idem と ipse 13:第六課 直説法受動相未完了系三時称・受動文 14:第七課 疑問代名詞と疑問形容詞・全文疑問文・関係代名詞 15:第七課 第四変化名詞・第五変化名詞・ローマ人の名前
テキスト、参考文献	**評価方法**
中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社）	授業内で適宜行なう小テスト（50%）と，春学期最終授業時に行なう期末テスト（50%）によって評価します.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ｉb) ラテン語 Ib	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし，秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要があります.	1:第八課 目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞・直説法受動相完了系三時称 2:第八課 命令法能動相・命令法受動相・形容詞からの副詞・述語的同格 3:第九課 不規則動詞・形容詞の比較 4:第九課 副詞の比較・部分を表す述語的同格 5:第十課 形式受動相動詞・分詞 6:第十課 接合分詞・絶対的奪格 7:第十一課 不定法 8:第十一課 対格＋不定法 9:第十二課 代名詞型形容詞・不定代名詞・nemo と nihil 10:第十二課 二重否定・動名詞・動形容詞 11:第十三課 非人称動詞・属格の用法 12:第十三課 与格の用法 13:第十四課 対格の用法・奪格の用法 14:第十五課 接続法の活用 15:第十五課 主文の接続法
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです。	春学期と同じです。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ⅱa) ラテン語 IIa	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。『ガリア戦記』の第１巻の冒頭（第１章）を読んだ後，第３巻を読もうと思っています。 I 教材プリント配布、ガイダンス。 II 第１巻第１章 III 第３巻第１章 IV 第３巻第２章 V 第３巻第３章 VI 第３巻第４章 VII 第３巻第５章 VIII 第３巻第６章 IX 第３巻第７章 X 第３巻第８章 XI 第３巻第９章 XII 第３巻第 10 章 XIII 第３巻第 11 章 XIV 第３巻第 12 章 XV 第３巻第 13 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します．辞書は『羅和辞典』（研究社）を勧めますが、羅英，羅独，羅仏，羅伊など何でも構いません．また，初級のときに用いた教科書を参考書とします．	平常点で評価します．毎回の予習と，授業への意欲的な参加を望みます。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ⅱb) ラテン語 IIb	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。	春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 I 第３巻第 13 章 II 第３巻第 14 章 III 第３巻第 15 章 IV 第３巻第 16 章 V 第３巻第 17 章 VI 第３巻第 18 章 VII 第３巻第 19 章 VIII 第３巻第 20 章 IX 第３巻第 21 章 X 第３巻第 22 章 XI 第３巻第 23 章 XII 第３巻第 24 章 XIII 第３巻第 25 章 XIV 第３巻第 26 章 XV 第３巻第 29 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです。	春学期と同じです。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	ことばと思想２(韓国の言語文化)	担当者	金　泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国映画を手がかりに、韓国の言語と文化について学ぶことを目標とする。 初回に韓国映画史に関する概論を学んだ後に、実際に韓国映画や台本を見ながら、韓国の言語と文化について学ぶ。映画に出てくる台詞に注目しながら、その人の属性や相手との関係性などシチュエーションに合わせた韓国語を使えるようにする。 また様々なテーマを扱った映画を見ることによって、韓国文化に対する理解を深めることを目的とする。例えば韓国の恋愛や若者文化に関する映画から、徴兵制や分断、または整形手術など多様なテーマの映画を扱うことにする。 映画を見た後のディスカッションと小レポート、期末にレポート課題を課す。なお具体的に扱う映画に関しては、初回ガイダンス時に行うアンケートを基に柔軟に対応するが、普段見ることの無い映画を積極的に扱うことにする。	第１回　ガイダンス・韓国映画史 第２回　歴史に関する映画 第３回　歴史に関する映画 第４回　社会問題に関する映画 第５回　社会問題に関する映画 第６回　恋愛に関する映画１ 第７回　恋愛に関する映画１ 第８回　戦争・分断に関する映画 第９回　戦争・分断に関する映画 第１０回　短編映画 第１１回　ドキュメンタリー映画 第１２回　ドキュメンタリー映画 第１３回　恋愛に関する映画２ 第１４回　恋愛に関する映画２ 第１５回　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献「韓国映画史 開化期から開花期まで」 ※その他は初回に提示する。	ディスカッションへの参加態度と小レポート（50%）、期末レポート(50%)で判断する。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉa) 古典ギリシア語Ｉa	担当者	桜井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直説法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 （この時点で、名詞の規則変化が理解できる） ５　動詞の変化・直説法能動相未来 （この時点で、未来形の文章が読める） ６　動詞の変化・直説法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時制がマスターできる） ７　名詞の第二変化 ８　形容詞の変化（第一・第二変化） ９　前置詞 １０　動詞の変化・直説法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了 １２　指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める） １３　直説法能動相本時称の人称語尾 １４　直説法能動相副時称の人称語尾 １５　春学期まとめ ＊（　)内は到達度チェックの際の目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門新装版』（岩波書店、２０１２）（２２００円＋消費税） ＜参考文献＞なし。時々、プリントを配布します。	出席者による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしません（つまり、平常点評価）。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉb) 古典ギリシア語Ｉb	担当者	桜井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　ε ι μ ι 動詞とφ η μ ι 動詞 （この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる） ２　疑問代名詞と不定代名詞（この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる） ３　動詞の変化・直説法中動相の各時制（１） （この時点で、中動相独特の用法が理解できる） ４　動詞の変化・中動相の各時制（２） （この時点で、微妙な文章表現が理解できる） ５　人称代名詞（この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる） ６　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞（この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる） ７　第二アオリストの用法（不規則変化が理解できる） ８　動詞の変化・直説法受動相 ９　名詞の第三変化（１） １０　名詞の第三変化（２） １１　能相欠如動詞と約音動詞 １２　形容詞の第三変化 １３　不定法（１） １４　不定法（２） １５　秋学期まとめ（古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(書き言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングして、心を打つ文章を徹底的に考える。 講義概要 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 受講生への要望 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	第１回　ガイダンス 第２回　手紙文の約束① 第３回　手紙文の約束② 　拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 第４回　時候の挨拶と季節感① 第５回　時候の挨拶と季節感② 第６回　著名人の手紙鑑賞、解説① 第７回　著名人の手紙鑑賞、解説② 第８回　手紙を題材にした小説の鑑賞① 第９回　手紙を題材にした小説の鑑賞② 第１０回　メール作成の問題点① 第１１回　メール作成の問題点② 第１２回　添削指導① 第１３回　添削指導② 第１４回　添削指導③ 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時指示する。	添削指導歴。レポート。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(話し言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 講義概要 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 受講生への要望 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	第１回　ガイダンス 第２回　流行語の変遷（流行語大賞の分析） 第３回　流行語から世代語の考察 第４回　話材の気付き 第５回　話材の収納 第６回　ネガティブ言語とポジティブ言語 第７回　アサーティブ及びホスピタリティ 第８回　日本型ホスピタリティと江戸しぐさの思想 第９回　自己紹介にこめるパーソナリティ 第１０回　心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い 第１１回　実践編（自己紹介作成、添削） 第１２回　３分間スピーチの実践① 第１３回　３分間スピーチの実践② 第１４回　３分間スピーチの実践③ 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時指示する。	添削指導歴。レポート

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ロマンス語研究入門１) ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門１)	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（対象となる受講者） 仏語、西語、葡語、伊語（以下「主要ロマンス語」と呼びます）のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方（以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます）を対象とします. （目的） 専攻ロマンス語の知識を最大限活用しながら非専攻ロマンス語を同時並行して効率よく学ぶことで、非専攻ロマンス語に関する幅広い知識を身につけると共に、専攻ロマンス語についても、その特徴を非専攻ロマンス語との比較によりあぶりだし、当該言語に関するより深い知識・理解を得ることを目標とします. （概要） 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表（ノート）の作成を目指します. 同時にテクストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テクスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます. 授業は受講者の専攻ロマンス語歴を考慮して班をつくり発表形式で進めます.	1) ガイダンス 2) 発音 3) 発音 4) 名詞、形容詞、冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 6) 不定詞形、現在形(1) 7) 現在形(2) 8) 過去形(1) 9) 過去形(2) 10) 過去形(3) 11) 再帰代名詞、代名(再帰)動詞 12) 分詞形、完了形、進行形、受動形 13) 未来形、条件法(過去未来形) 14) 接続法(1) 15) 接続法(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書はガイダンスの際に案内します.	平常点（発表を含む)、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ロマンス語研究入門２) ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門２)	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（概要） コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テクストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます.	1) テクスト分析 2) テクスト分析 3) テクスト分析 4) テクスト分析 5) テクスト分析 6) テクスト分析 7) テクスト分析 8) テクスト分析 9) テクスト分析 10) テクスト分析 11) テクスト分析 12) テクスト分析 13) テクスト分析 14) テクスト分析 15) テクスト分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤太吾 『フランス語・イタリア語・スペイン語が【同時に】学べる本』ナツメ社、2006 年 ISBN4-8163-4096-3	平常点（発表を含む)、課題提出、レポートをもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。 授業計画 第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目：レクチャー：センスのよい表現 　テキスト：第 1 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第 3 回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 　テキスト：第 2 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第4回目：レクチャー：他者との対話 　テキスト：第 9 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③	第 5 回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 　テキスト：第 7 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第6回目：レクチャー：草稿の作成 　テキスト：第 3 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第7回目：レクチャー：編集作業 　テキスト：第 4 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第 8 回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか 　ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第 9 回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル 　テキスト：第 6 章 　ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第 10 回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル 　テキスト：第 8 章 　ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 11 回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング 　ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 12～15 回目：総まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
資料を配布します	平常点（20%）、授業への参加度（20%）、最終レポート（60%）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。 授業計画 第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目：レクチャー：センスのよい表現 　テキスト：第 1 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第 3 回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 　テキスト：第 2 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第4回目：レクチャー：他者との対話 　テキスト：第 9 章 　ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③	第 5 回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 　テキスト：第 7 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第6回目：レクチャー：草稿の作成 　テキスト：第 3 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第7回目：レクチャー：編集作業 　テキスト：第 4 章 　ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第 8 回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか 　ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第 9 回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル 　テキスト：第 6 章 　ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第 10 回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル 　テキスト：第 8 章 　ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 11 回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング 　ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 12～15 回目：総まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
資料を配布します	平常点（20%）、授業への参加度（20%）、最終レポート（60%）

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオについてのレポート提出 ２．原稿用への文章の書き方・書きなれノートの書き方説明、ビデオについてのレポート提出 ３．ビデオについてのレポート提出 ４．以下同様 ５． ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５． 毎回重要問題についてのビデオを見せて、そのまとめとそれについての考えを書いてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩著『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	毎時間ビデオについてのレポートを提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオについてのレポート提出 ２．原稿用への文章の書き方・書きなれノートの書き方説明、ビデオについてのレポート提出 ３．ビデオについてのレポート提出 ４．以下同様 ５． ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５． 毎回重要問題についてのビデオを見せて、そのまとめとそれについての考えを書いてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩著『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	毎時間ビデオについてのレポートを提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(心理検査法と自己理解) ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。	授業計画は以下のとおりである。 １．　心理検査とは？ ２．　心理検査の種類と理論 ３．　質問紙による性格検査①（Ｙ－Ｇ） ４．　質問紙による性格検査②（Ｙ－Ｇ） ５．　ストレス・コーピング ６．　絵からみる家族像 ７．　知能検査 ８．　EQS ９．　職業興味 10.　性格５因子 11.　TEG 12.　グループ・ワークによる自己理解① 13.　グループ・ワークによる自己理解② 14.　テスト・バッテリーに基づく自己理解 15.　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう。また、最終レポートを課す。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論)	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
たとえば外国語の学習において真っ先に「コミュニケーション能力」の強化がうたわれ、実践的で「使える」語学力が重視されるという風潮の中で、我々はコミュニケーションといえば、効率よく、なめらかで、軋みのないものこそが理想であるかのようなイメージを抱きがちです。 この授業では、逆に「通じないこと」「なかなか通じないこと」の大切さについて考えます。 中心となる作品は言語作品が多いですが、絵画や映画も取り上げます。様々なものがジャンルを超えてつながっていることを感じ取ってください。 講義のおおまかな流れは想定してありますが、受講者のコメントによって、授業が思わぬ方向へと旋回してゆくことこそがスリリングです。今年度も積極的な参加と、多くの報告を期待しています。	1. イントロダクション：山村暮鳥「殺人ちゆうりつぷ」 2. 千野栄一「沈黙の通訳」／小島信夫『吃音教室』 3. 穂村弘「〈ダ〉と〈ガ〉の間」『整形前夜』 4. 萩原朔太郎「ばくてりやの世界」 5. 内田百閒『山東京伝』／杉浦日向子「やまあり」 6. ロマン・ヤコブソン「気もそぞろ」 7. 西脇順三郎『旅人かへらず』谷川俊太郎『世間知ラズ』 8. 尾崎放哉『尾崎放哉句集』 9. ユクスキュル『生物から見た世界』 10. シュトゥンプケ『鼻行類』 11. モルゲンシュテルン『絞首台の歌』 12. 日高敏隆『人間についての寓話』 13. シュヴァンクマイエル『対話の可能性』『闇・光・闇』 14. ロベール・ブレッソン『抵抗 死刑囚は逃げた』 15. ヨシフ・ブロツキイ『私人』
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	授業への参加態度（10%）、コメントペーパー（30%） 期末レポート（60%）。遅刻、居眠りは減点します。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論 2) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論 2)	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの継続受講が望ましいですが、秋からの受講も可能です。秋学期には、写真、映画、現代アートをより多くとりあげます。 作品には「メッセージ」があり、それを「理解」することが作品を受容することである、と考えている人は案外と多くいます。しかし、作品には、メッセージ以外のものや、メッセージよりも大切なものがいろいろとあります。 この授業では、むしろ「作者の言おうとしていることは何か」と考えることを、いったん中止することを学びます。 詩や文学に限らず、あらゆる表現活動に関心のある方を歓迎します。	1. フィッシュリ＆ヴァイス『ことの次第』 2. 市村弘正『「名付け」の精神史』 3. 石原吉郎「ペシミストの勇気」 4. 畠山直哉『話す写真』『BLAST』『気仙川』 5. 毛利学『宇宙から学ぶ』 6. フレデリック・ワイズマン『臨死』 7. ジョゼフ・クーデルカ『プラハ 68』 8. アイ・ウェイウェイ「漢代の壺を割る」「念」 9. メルヴィル『書写人バートルビー』カフカ『断食芸人』 10. ゴーゴリ『外套』ホーソン『ウェイクフィールド』 11. トーベ・ヤンソン『フェア・プレイ』 12. ホフマンスタール『チャンドス卿の手紙』 13. デュシャン／ケージ／鈴木大拙 14. ジルビナス・ケンピナス 15. 吉田健一『文学が文学でなくなる時』
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	授業への参加態度（10%）、コメントペーパー（30%） 期末レポート（60%）。遅刻、居眠りは減点します。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 ガイダンス / 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス / 通訳者に求められるスキル 03 会議通訳者の仕事 04 放送通訳者の仕事 05 語彙力増強方法 / ディクテーション 06 通訳訓練方法 (1) シャドウイング 07 通訳訓練方法 (2) リプロダクション 08 通訳訓練方法 (3) サイトトランスレーション 09 通訳訓練方法 (4) クイックレスポンスなど 10 ゲストスピーカー 11 逐次通訳とノートテーキング 12 通訳の実践 (1) 逐次通訳 13 通訳の実践 (2) 同時通訳 14 まとめ 15 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	授業中に実施する確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	中島　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 ガイダンス / 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス / 通訳者に求められるスキル 03 会議通訳者の仕事 04 放送通訳者の仕事 05 語彙力増強方法 / ディクテーション 06 通訳訓練方法 (1) シャドウイング 07 通訳訓練方法 (2) リプロダクション 08 通訳訓練方法 (3) サイトトランスレーション 09 通訳訓練方法 (4) クイックレスポンスなど 10 ゲストスピーカー 11 逐次通訳とノートテーキング 12 通訳の実践 (1) 逐次通訳 13 通訳の実践 (2) 同時通訳 14 まとめ 15 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	授業中に実施する確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、出席が全授業の 2/3 に満たない場合、評価の対象外とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(碑文を読む) ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 都市化が進んでも、ビルの陰にひっそりと石碑が建っていることがある。石碑とは（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）であるが、これらの種類や刻まれた文章を理解することで、それを立てた時代の人たちの意識や世界観を理解することができるだろう。 本講座は石碑類を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。	１．ガイダンス ２．概説（石碑にはどのようなものがあるか） ３．日本漢文体の読解、梵字の読解 ４．道標・講中碑を読む ５．墓碑銘・供養碑を読む ６．記念碑・文学碑を読む ７．学生諸君の報告と検討① ８．学生諸君の報告と検討② ９．学生諸君の報告と検討③ 10. 学生諸君の報告と検討④ 11. 学生諸君の報告と検討⑤ 12. 学生諸君の報告と検討⑥ 13. 学生諸君の報告と検討⑦ 14. 学生諸君の報告と検討⑧ 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特にない。	各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、授業中に検討した上で手直しして、最低４点提出してもらい、その内容による。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(生活文化の発見) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
生活することは、社会の中で生きるということであり、また社会は文化を形成する。つまり生活は文化の中で営まれ、文化の影響のもとで人間は成長し、人生を送るということになる。 　本講義では、とくに先人たちがどのような生活を送り、どのような意識をもっていたのかを学ぶことは、決して「過去」を学ぶのではなく、現在にも通じるものである。現在の生活の中に先人の知恵が認められるためである。また「過去」から「現在」へとどのように生活文化が変化し、その背景がどのようなものであったのか明らかにすることによって、「現在」の生活文化を見つめたい。さらに、それでも我々が抱える深層の部分（観念）がどのようになっているのかという点を理解しようとするものである。また現代に通じる心意的問題も扱う。将来の我々の生活を見据える上で大きな助けとなるだろう。	1　ガイダンス 2　「生活」とは何か（概説、生活を見つめる眼差し） 3　地域差から見る生活文化１（周圏論を中心に） 4　地域差から見る生活文化２（具体的要因から） 5　地域差から見る生活文化３（具体的要因から） 6　生活様式を捉える１（家を中心に） 7　生活様式を捉える２（社会システムの形成と生活） 8　生活様式を捉える３（社会システムとその機能） 9　生活様式を捉える４（社会システムとその機能） 10　生活様式の変化１（明治維新による生活変化） 11　生活様式の変化２（生活改善運動による生活変化） 12　生活様式の変化３（第二次世界大戦・高度経済成長による生活変化） 13　生活様式の変化４（ＩＴ革命、現代の様相） 14　ジェンダーの問題（生活文化として読み解く） 15　異形への眼差し（生活文化の心意的問題）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリントを配布	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(生活文化の記述) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
古来さまざまな記録が残されてきているが、「当たり前」の生活を記録したものはあまりない。それがみられるようになるのは江戸時代後期からである。 生活を記録したものとしては、旅行記や日記という個人的なものがあり、また主に自治体が編纂する民俗誌というものがある。これらがどのような理由で記述され、またそれにどのような意味があるのか、さらに民俗誌には文書化されたものと映像化されたものがある。本講義では、人々が自分のために書き残したメモを始め、さまざまな意味を持つ日記、そして文書化された記録や映像記録を見ることにより、記録することの意味や問題点を考える。そしてこのような記録の究極は伝統文化の保存である。最後には保存とは何かその意味と問題点について考えていきたいと思っている。	1　ガイダンス 2　生活を記述すること１（日記） 3　生活を記述すること２（嫁・養子として） 4　生活を記述すること２（備忘録） 5　情報としての記録１（文化の発信） 6　情報としての記録２（地震記録を中心に） 7　記録のための記録（民俗誌） 8　民俗誌に記録されたもの１ 9　民俗誌に記録されたもの２ 10　民俗誌の意義と問題点 11　映像記録を見る１（ビデオと解説） 12　映像記録を見る２（ビデオと解説） 13　映像記録を見る３（ビデオと解説） 14　映像記録の意義と問題点 15　民俗文化財の保護の意義と問題点
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリントを配布	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(論文を書く) ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　大学において要求される学生の能力とは、自分で調べて、自分の言葉で考え、それをまとめて、その内容を相手に正しく発信するというものである。その発信した結果として残されるものが「論文」ということになろう。したがって、「論文を書く」という作業は、ただ論文の形式を覚えて、それに従って書けばいいというものではなく、上記の作業の総合にある。そこで、この講義では、「ディベート」を行うことを通して、その内容を最終的に「論文」として発信してもらうことを目的とする。 講義概要 　ディベートの題材としては、「企業は社会貢献活動に取り組むべきである」という論題を設定する。これに関して、「企業」「社会貢献活動」の概念を明確にしつつ、自らの意見をまとめてもらうこととする。また、授業の進捗度にも依るが、出来れば学生同士によるディベートの試合も行いたいと考えている。最後に、その内容を基に、「論文」をまとめてもらうこととする。 なお、例年、４年生の受講が多いが、1・2年生を対象とした内容である。1・2年生が受講することが望ましい。	1 「論文」と「社会人基礎力」 2 ディベート①（ディベートの説明、論題の説明） 3 ディベート②（課題文をまとめる、リサーチ） 4 ディベート③（トゥールミンモデル） 5 ディベート④（リサーチカードの集約） 6 ディベート⑤（リンクマップの作成） 7 ディベート⑥（立論の作成） 8 ディベート⑥（反駁シートの作成、フローシートの作成） 9 ディベート⑦（試合） 10 論文①（論文の構成） 11 論文②（序論の書き方） 11 論文③（本論の書き方） 12 論文④（注、引用の方法） 13 論文⑤（結論の書き方） 14 論文の指導 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(口頭発表を行う) ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この授業では、自分の意見を相手に伝えるためには、どのような技術が必要かを考えながら、話す能力の向上を目指す。話す能力は、ただ講義を聴いていただけでは向上しない。したがって、前に出たりしてもらって、実際に発表をしてもらいながら授業を行っていく予定である。 講義概要 　「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、プレゼンテーションの技術について考えながら、発声練習、朗読、ボディーランゲージ、資料作成などの技術を考えていきたい。最後に、その成果を踏まえたかたちで各人に発表をしてもらう予定である。 なお、例年、４年生の受講が多いが、1～3年生を対象とした内容である。1～3年生が受講することが望ましい。	1 はじめに 2 プレゼンテーションの目的。 3 プレゼンテーションの三要素 4 目的の設定と聴衆分析 5 内容の構成① 6 内容の構成② 7 視覚資料の作成 8 ボディーランゲージ①（声―滑舌） 9 ボディーランゲージ②（声―朗読 1） 10 ボディーランゲージ③（声―朗読 2） 11 ボディランゲージ④（アイコンタクト） 12 ボディランゲージ⑤（ビジュアルハンド） 13 発表① 14 発表② 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱa) 古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講座は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的とします。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化に触れることにしたいと考えます。 ＜講義概要＞ 毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識（中・受動相、分詞の用法など）、裏話やエピソード、関連する映像などさまざまな工夫をこらして授業を進めていきます。後半、慣れてきたら、古典作品の原典の一部の読解や大理石碑文の解読にも挑戦してみましょう。出席は毎回心がけて下さい。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわりません。	１　はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方の指導） ２　『イソップ物語』の機知と教訓 （アイソーポスの知恵） にわとりと泥棒（その１） ３　にわとりと泥棒（その２） ４　にわとりと泥棒（その３） ５　亀とそのねぐら（その１） ６　亀とそのねぐら（その２） ７　亀とそのねぐら（その３） ８　狼の叫び（その１） ９　狼の叫び（その２） １０　狼の叫び（その３） １１　クセノフォン『ソクラテスの思い出』より １２　ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より １３　ギリシア大理石碑文より（その１：墓碑銘） １４　ギリシア大理石碑文より（その２：民会決議） １５　春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介します。	毎回の出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行ないます（平常点評価）。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱb) 古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　『人さまざま』の人間類型の面白さ （テオフラストスの鋭い人間観察） おべっか使い（その１） ２　おべっか使い（その２） ３　おべっか使い（その３） ４　不平たらたら（その１） ５　不平たらたら（その２） ６　不平たらたら（その３） ７　信用できない人（その１） ８　信用できない人（その２） ９　信用できない人（その３） １０　ヘロドトス『歴史』より １１　プラトン『ソクラテスの弁明』より １２　プラトン『饗宴』より（その１） １３　プラトン『饗宴』より（その２） １４　アリストテレス『政治学』より １５　秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08年度以降	ことばと思想２(ラカン精神分析入門 a)	担当者	若森　栄樹

講義目的、講義概要	授業計画
ジャック・ラカン（1901−1981）は精神科医として出発し、1930年代に精神分析家となった人で、フロイトの理論を独自の観点から深め、フランスの精神分析運動の中心となった人です。彼はフロイトやハイデガーの影響のもとに言語を人間存在の中核と考えました。「無意識は言語langageとして構造化されている」とは、彼の有名な言葉のひとつです。 　この講座はラカンの理論をできるだけわかりやすく紹介することが目的です。 　春学期は有名な「鏡像段階」論からはじまって、シニフィアンの論理を扱い、次に欲求−要求−欲望というラカン独自の区別から出発して、フロイトが「性理論に関する３つの論文」（1905）で展開している「口唇期、肛門期、生殖器期」というセクシュアリティーの発達段階を新しい観点から読み直していきます。 　なお以上の内容は講義の流れに従って変更される場合があることを付け加えます。	１）ラカンについての概説（１） ２）同（２） ３）鏡像段階論（１） ４）同（２） ５）言語と構造−シニフィアンの概念について（１） ６）同（２） ７）同（３） ８）セクシュアリティーの理論（１） ９）同（２） 10）同（３） 11）同（４） 12）エディプス・コンプレックスとは何か？（１） 13）同（２） 14）同（３） 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の際に指示する	平常点と学期末レポートによる 授業への積極的な参加を期待します

08年度以降	ことばと思想２(ラカン精神分析入門 b)	担当者	若森　栄樹

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は春学期の続きで、フロイトのいう「エディプス・コンプレックス」をラカンはどのように理解しているかをまず述べます。ラカンはセミネール第８巻「転移」でイタリア・ルネッサンスの画家イァコポ・ゼッキの「アモールとプシケー」という絵を使ってエディプス・コンプレックスの中核を説明しているのですが、それをまず取り上げ、精神分析の中心といえる領域へと迫ります。 　精神分析はヨーロッパでは広く普及していて、フランスでは約400万の人が何らかの形で精神分析に関わっているのですが、日本では分析はほとんど知られていません。それはなぜなのでしょうか。学期の後半ではこうした問題も含めて、ラカンが 1953 年にローマで行った有名な「精神分析における言語と言葉の機能と領野」の読解を通じて分析と社会の関わり、特に宗教や科学との関係について考えます。	１）「原光景」と精神病の理論（１） ２）同（２） ３）ヒステリーと強迫神経症（１） ４）同（２） ５）同（３） ６）精神分析における転移（１） ７）同（２） ８）同（３） ９）「トーテムとタブー」を読む 10）同（２） 11）同（３） 12）現代社会で分析はどのような役割を果たすことができるだろうか？ 13）同（２） 14）同（３） 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の際に指示する	平常点と学期末レポートによる 授業への積極的な参加を期待します

08 年度以降	歴史と文化２(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。 TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained • To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, *jōruri*, kabuki), ritual (*kagura*), and art (painting, prints, sculpture) • To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Animal/Creature Tales, Symbolism and Superstitions • Tiger, Monkey, Fox, Ox, Rooster, Crane, Hawk, Carp, Dragon, etc. Otsu-e Folk Painting • *Oni no Nenbutsu* 鬼の念仏 (Praying Goblin), *Fuji Musume* 藤娘 (Wisteria Maiden), *Zatō* 座頭 (Blind Man), *Gehō no Hashigozori* 外法梯子剃 (Daikoku Shaving Fukurokuju), *Kaminari to Taiko* 雷と太鼓 (Thunder God and Drum), *Yarimochi Yakko* 槍持奴 (Spear Bearer), etc. *Yōkai* • *Yōkai* Illustrated: Key *Yōkai*-related Imagery, from the Medieval Period to the Present Day – *Hyakki yagyō emaki* 百鬼夜行絵巻 (Illustrated Handscroll of Night Parade of One Hundred Demons) – *Tsukumogami emaki* 付喪神絵巻 (Illustrated Handscroll of Transfigured Objects) – *Gazu hyakki yakō* 画図百鬼夜行 (The Illustrated Night Parade of One Hundred Demons) – etc.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

08 年度以降	歴史と文化２(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。 TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained • To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, *jōruri*, kabuki), ritual (*kagura*), and art (painting, prints, sculpture) • To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Tales of Possessed Women and Vengeful Female Ghosts: *Ikiryō* 生霊 and *Yūrei* 幽霊 Female Ghost Tales and Associated Beliefs • *Yorimitsu no rōtō Taira no Suetake, ubume ni aishi hanashi* 頼光の郎等平季武、産女にあひし話 (Tale of Taira no Suetake, vassal of Yorimitsu, meeting ubume), *Sayo-no-Nakayama yonaki ishi* 小夜の中山夜泣石 (The Night-Weeping Stone at Sayo Mountain Pass), *Chi-no-ike jigoku* 血の池地獄 (Blood Pool Hell) – *Ubume* 産女 (Ghost of pregnant woman) • *Yotsuya Kaidan* 四谷怪談 (The Yotsuya Ghost Story) – Oiwa お岩 • *Sarayashiki* 皿屋敷 (Dish Mansion) – Okiku-no-rei お菊の霊 (The Ghost of Okiku) Women Possessed: Legends from Noh • *Dōjōji* 道成寺 (Dōjōji Temple) – Kiyohime 清姫 • *Kanawa* 鉄輪 (The Iron Crown) – Hashihime 橋姫 • *Aoi-no-Ue* 葵上 (Lady Aoi) – Rokujō-no-miyasudokoro 六条御息所 (Lady Rokujō)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (20%), the completion of homework assignments (35%), and achievement on a final essay (45%).

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2(西洋絵画の主題と様式 1) 歴史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式 a)	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ルネサンスから 19 世紀前半までの西洋絵画史を概観し、作家や作品の特徴、様式、時代背景について理解を深めることを目標とします。 また西洋絵画に繰り返し現われる主題について学び、絵画を見る上で必要な基礎知識を身につけます。 ＜講義概要＞ 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. ボッティチェリ 3. ダヴィンチ 4. ラファエロ 5. カラヴァッジョ 6. リュベンス 7. ヴェラスケス 8. レンブラント 9. フェルメール 10. プッサン 11. ブーシェ 12. ゴヤ 13. ダヴィッド 14. まとめ１ 15. まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。	毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2(西洋絵画の主題と様式 2) 歴史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式 b)	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 19 世紀から 20 世紀初頭の西洋美術の展開を概観します。代表的な作家と作品について知るとともに、さまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. アングルと新古典主義 3. ドラクロワとロマン主義 4. ミレーと農民画 5. クールベと写実主義 6. ラファエル前派 7. ホイッスラーとジャポニスム 8. マネ 9. 印象派 10. ポスト印象派１ 11. ポスト印象派２ 12. 象徴派 13. まとめ１ 14. まとめ２ 15. まとめ３
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。	毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	歴史と文化２(日本文化研究 b)	担当者	宇津木　言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を解明することを目的とします。 鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴れ親しんだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。 日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。	1、　授業の概要 2、　鬼の基礎知識（1） 3、　鬼の基礎知識（2） 4、　追儺の鬼（1） 5、　追儺の鬼（2） 6、　鬼の杖と宝物（1） 7、　鬼の杖と宝物（2） 8、　鬼の杖と宝物（3） 9、　中世の神と鬼（1） 10、中世の神と鬼（2） 11、中世の神と鬼（3） 12、タマの去来と季節風（1） 13、タマの去来と季節風（2） 14、タマの去来と季節風（3） 15、講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）を用いる。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）によって評価するが、授業への参加度、課題提出などの平常点（20%）も評価対象とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(日韓比較文化論 a) 歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論 a)	担当者	金(きむ) 熙淑(ひぃすく)(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けして話し合う場を設け発表する形式を取る。極力１回目の授業から出席すること。	1. 日韓比較文化講義の概要 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の伝統遊び 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。	評価方法：授業への参加度 40%、課題レポート 60% ・日本と韓国の異なる文化を理解したか。 ・具体的な日韓文化の比較ができるようになったか。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化(Ⅳ)(スペイン･ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽、ダンス、演劇)ならびに映像を扱います。欧米や日本の事情と比較することで，背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから，まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混淆がキーワードとなるため，まずは成分にあたる要素を個別に検討します。世界のポピュラー音楽に影響を与えたキューバの事例が軸となります。中盤から対抗文化に着目し，クラブカルチャーを幅広く概観します。ジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルの多様性を描いたドキュメンタリーも観ます。終盤では，民俗文化(音楽やダンス)が舞台芸術化していく過程，それらが国民文化に転換する軌跡を追います。広報メディアとしての映画，それが大衆(マス)の間に創りだすステレオタイプを分析するため、日本の娯楽も対照させます。流行には40年周期説があります。土着性に注目するDJも増えているようです。ルーツとは何か。社会科学の視角で議論しましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混淆 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&リスポンス 5. フォルクローレは民謡か 6. 民俗文化をめぐる身体技法とグローカル化 7. 映像メディアとオブジェクティフィケーション(対象化) 8. 文化産業論と移民社会におけるマーケティング 9. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 10. カット&ミックス，ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ… 11. クラブカルチャーのラップから里帰り的なレゲトンへ 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民音楽 13. スペインおよびラテンアメリカの歌劇と風刺劇 14. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配り，進捗に応じた参考文献を紹介する。地域文化的な各論に関して以下をあげておく。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績(35%)と期末レポート(65%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(おもしろまじめな芝居のミカタ b) 歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげ、映像化された作品は冒頭部分を上映します。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の３分の１以上を欠席した場合、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙 quiz を、終了前に内容把握 quiz を行います。教室で読むテキストは、第 1～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関することなど、詳細は教室にて説明します。 **＊＊＊注意事項＊＊＊** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b（06～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評 b（13 年度以降）」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論（06～12 年度）」「英語圏の文学・文化・批評Ⅱ（13 年度以降）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。

テキスト、参考文献	評価方法
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	授業時の２つの quiz で 50%。観劇レポート２編(必修)で 50%、未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	歴史と文化２(韓国の宗教)	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっています。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とします。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。	第１回：ガイダンス 第２回：韓国宗教の構造 第３回：民間信仰 第４回：仏教（１）仏教略史 第５回：仏教（２）仏教概要 第６回：仏教（３）韓国史の中での仏教 第７回：仏教（４）現代韓国の中の仏教 第８回：儒教（1）儒教略史 第９回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第１０回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第１１回：キリスト教（1）キリスト教略史 第１２回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第１３回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第１４回：現代韓国と宗教 第１５回：まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
＜テキスト＞ 佐藤厚『韓国仏教入門』(大東出版社、2015 年夏刊行予定) 参考文献は授業中に紹介する。	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。

08年度以降 07年度以前	歷史と文化２（能楽論） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
古典芸能「能楽」は、舞台芸術として室町時代から各時代に受け継がれ、現代では世界遺産に指定され、日本や世界各地で上演されています。とはいえ、一般には難しいものとして捉えられがちです。外国に留学し、その国の人に日本文化として質問され、答えに窮した経験談も聞きます。この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から、ビデオ鑑賞と併せてミニ舞台を設定し実技・実演を交えながら、解りやすく解説していきます。 現場の臨場感を味わっていただくため、能楽堂での鑑賞をし、レポート課題の一つとします。（チケット代自己負担・２０００～３０００円）	①　能の紹介 ②　能楽の概説 ③　能楽の流れ ④　能を演じる各役 ⑤　能舞台について ⑥　能の実技について（能の見方の実演） ⑦　能の演目Ⅰ ⑧　能の演目Ⅱ（実演・神男女狂鬼） ⑨　夢幻能と現在能 ⑩　現在能「土蜘」の作品解読 ⑪　現在能「土蜘」のビデオ鑑賞 ⑫　夢幻能「井筒」の作品解読 ⑬　夢幻能「井筒」のビデオ鑑賞 ⑭　能装束着付実演 ⑮　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート 平常講義の関連事項のレポート

08年度以降 07年度以前	歷史と文化２（能楽における中世武士の諸像） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
源平合戦の花形「源義経」は、貴種流離譚の主人公として数奇な人生をおくり、日本人には悲劇のヒーローとて、平家物語・義経記など物語・伝説に登場し、人口に膾炙されてきました。そのエピソードはいろいろな芸能に作品化されています。「能」ではどのように描かれているか、その生涯を辿りながら、一つの作品を題材にして、義経像を解き明かしていくとともに、室町時代に生まれ、現代では世界遺産に指定されている「能楽」についてもミニ舞台による実演・ビデオ鑑賞などを取り入れ、現役の能楽師の視点から解説していきます。 春期からの通年受講も可能です。 能楽の理解度を深めていただくため、能楽堂での鑑賞レポートを課題とします。（チケット代各自負担・２０００～３０００円）	①　古典芸能について（能・歌舞伎・文楽） ②　能「舟弁慶」の詞章を読む。 ③　能「舟弁慶」の作品解読 ④　能「舟弁慶」の作品解読 ⑤　能「舟弁慶」の作品解読 ⑥　能「舟弁慶」の作品解読 ⑦　能が描く義経像 ⑧　実演による能「舟弁慶」の構成（能舞台について） ⑨　能の概説 ⑩　能と歌舞伎の流れ ⑪　歌舞伎「船弁慶」について ⑫　歌舞伎「船弁慶」のビデオ鑑賞 ⑬　能の形式（現在能と夢幻能） ⑭　能「舟弁慶」の衣装（能装束の着付実演） ⑮　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピー配布 「能と義経」櫻間金記著　光芒社（平成１２年刊） 「旅と文学」第２４回獨協大学公開講座（平成６年刊）	課題レポート・能楽鑑賞レポート 平常講義の関連事項レポート

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(イタリアの音楽史) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	1　ガイダンスと導入 2　古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3　グレゴリオ聖歌 4　グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5　「イタリア音楽」の誕生 6　メディチ家の芸術後援活動 7　宗教改革と音楽 8　バロック音楽の誕生 9　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 10　ヴィヴァルディとヴェネツィア 11　ペルゴレージの音楽 12　パガニーニと超絶技巧 13　ヴェルディとイタリア国家統一運動 14　プッチーニとオリエンタリスム 15　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%）。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(イタリアの声楽曲) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生の経緯 3　フィレンツェにおける初期の試み 4　バロック・オペラの台本 5　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　バロック・オペラと劇場 8　ロッシーニの世界 9　ベッリーニ 10　ドニゼッティ 11　ヴェルディ 12　イタリア・オペラの国際化（1） 13　イタリア・オペラの国際化（2） 14　プッチーニ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%）。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(詩と音楽 5) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 5)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中でもシェイクスピアの同名の戯曲に基づき、独特の輝きを放つ初期の傑作《マクベス》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《マクベス》を注意深く鑑賞し、話の筋と聞きどころを学ぶ。また、オペラ台本と、シェイクスピアによる原作との違いも確認する。授業期間の後半では、ヴェルディがシェイクスピアの原作から何を理解し、オペラとしてどのように表現しようとしたのかを、先行するドイツやフランスの楽曲も視野に入れながら検討する。 なおオペラとは直接関係ないが、シェイクスピアの『マクベス』は、黒澤明が日本の戦国時代に時と場所を移し、『蜘蛛巣城』（1957）として映画化している。授業では、日本人の目で見たマクベスの物語も、併せて確認したい。 **なお、本講義は「詩と音楽5」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　《マクベス》第 1 幕の聞きどころ（1） 3　《マクベス》第 1 幕の聞きどころ（2） 4　《マクベス》第 2 幕の聞きどころ 5　《マクベス》第 3 幕の聞きどころ 6　《マクベス》第 4 幕の聞きどころ（1） 7　《マクベス》第 4 幕の聞きどころ（2） 8　オペラ台本と原作 9　19 世紀における「異界」と音楽 10　ベルリオーズの《幻想交響曲》 11　ウェーバーのオペラ《魔弾の射手》 12　マイヤーベーアのオペラ《悪魔のロベール》 13　モーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》 14　黒澤明『蜘蛛巣城』（1） 15　黒澤明『蜘蛛巣城』（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
原作であるシェイクスピアの『マクベス』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。河合祥一郎訳（角川文庫）を推奨するが、手持ちの他の翻訳でも構わない。オペラ台本については、プリントを配布する。	《マクベス》を終幕まで鑑賞したところで、オペラ台本と原作との違いを論じるレポートを課す（50 点）。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(詩と音楽 4) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 4)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中から彼の代表作の 1 つであり、また今日でも高い人気を誇る傑作オペラ《リゴレット》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《リゴレット》を注意深く鑑賞し、劇の内容と聞きどころを知る。また、オペラ台本と、ヴィクトル・ユゴによる原作との違いも確認する。授業期間の後半では、初演に至るまでの検閲の問題を紹介するほか、ヴェルディが《リゴレット》を題材として取り上げた意図について、実現しなかったオペラ《リア王》（シェイクスピア原作）も視野に入れながら多角的に考察する。 **なお、本講義は「詩と音楽 4」であるので、授業開始までに「詩と音楽 1」「詩と音楽 2」「詩と音楽 3」「詩と音楽 5」「詩と音楽 6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　《リゴレット》第 1 幕の聞きどころ（1） 3　《リゴレット》第 1 幕の聞きどころ（2） 4　《リゴレット》第 1 幕の聞きどころ（3） 5　《リゴレット》第 2 幕の聞きどころ（1） 6　《リゴレット》第 2 幕の聞きどころ（2） 7　《リゴレット》第 3 幕の聞きどころ（1） 8　《リゴレット》第 3 幕の聞きどころ（2） 9　オペラ台本と原作 10　初演に至るまでの検閲の問題 11　19 世紀前半のイタリア・オペラに一般的な作曲法から見たヴェルディの《リゴレット》の独自性 12　《リア王》とヴェルディ（1） 13　《リア王》とヴェルディ（2） 14　《リア王》とヴェルディ（3） 15　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	《リゴレット》を終幕まで鑑賞したところで、オペラ台本と原作との違いを論じるレポートを課す（50 点）。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(海から見た歴史) 歴史と文化(Ⅳ)(海から見た歴史)	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この講義では、日本史・東洋史・西洋史という枠組みによって隔てられてきた歴史を、海という視点から捉え直し、互いに連関しながら動いてきた世界の諸地域を、よりグローバルな視点から考えてみます。現代の一体化した世界はどのような過程を経て形成されてきたのでしょうか。 【講義概要】 フランスの歴史家フェルナン・ブローデルの大著『地中海』が邦訳として刊行されたことをひとつの契機として、とりわけ1990年代以降、海から見た歴史が日本でも盛んに論じられるようになりました。陸地の視点から国ごとに考えられてきた従来の歴史を海洋から眺めるとはどういうことなのでしょうか。主に10世紀から18世紀までを対象として、中世の地中海世界から北西ヨーロッパ、そして近世のアジア海域へと視点を移しながら、最終的には日本の歴史を海の視点から改めて考えてみます。	１：講義の概要 ２：歴史学の歴史と海 ３：アジアの海の交易路 ４：ヴァイキングの時代 ５：中世の地中海世界 ６：ハンザ同盟 ７：「大航海時代」 ８：近世フランスの港町 ９：東インド会社 10：海域アジア世界 11：海から見た日本 12：海賊 13：奴隷 14：船と航海 15：講義のまとめ ※各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業の際に指示します。	平常授業における提出物など（30%） 期末レポート（70%）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(食の歴史と文化) 歴史と文化(Ⅳ)(食の歴史と文化)	担当者	野澤　丈二

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 食品偽装、和食の世界遺産化、TPPへの参加など、食に対する関心は近年ますます高まっています。この講義では、食をテーマとした具体的な研究事例などをわかりやすく紹介しながら、人間にとって欠かすことのできない営みである「食べる」ことについて、さまざまな角度から考えてみます。 【講義概要】 フランスのアナール学派が開拓した「食」の歴史学をひとつの手がかりとして、人文社会系のさまざまな分野（社会学、文化人類学、民俗学、経済学、地理学、言語学、哲学など）で領域横断的に広く扱われている食について考えます。「食べる」ことを切り口に、現代の社会が直面する問題（資本主義、環境、アイデンティティ、グローバリゼーションなど）について検討します。時事的なトピックスも随時取り上げる予定です。	１：講義の概要 ２：歴史学の歴史と食 ３：コロンブスの交換 ４：フランスの食文化 ① ５：フランスの食文化 ② ６：日本の食文化 ① ７：日本の食文化 ② ８：日本の食文化 ③ ９：食とソフトパワー 10：食とグローバリゼーション 11：食と宗教 12：食とメディア 13：食と移動 14：食の安全保障 15：講義のまとめ ※各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業の際に指示します。	平常授業における提出物など（30%） 期末レポート（70%）

08年度以降	歴史と文化２(日本文化研究 a)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
「民俗芸能」は、無形民俗文化財に指定されるなど、「地域」との結びつきが強い文化の一つの類型として捉えることができる。 日本の祭りは神や仏との関係の中で、荘園制や中世後期以降の地縁的繋がりを基にして継承されてきた。神仏に対する「思い」や「願い」が基になっているために、祭りとの結びつきが強く、また所作や内容には信仰的意味が強く表れているといえるだろう。 日本は民俗芸能が多く残されている国であるが、民俗芸能をみることで、逆に日本文化の基盤あるいは認識変化を見ることができるといえる。 本講座では、芸能の種類によって、それぞれの成立ちや形を見て、その後、地域的な広がりと特性についてみていく。 授業では様々な民俗芸能を取り上げるが、講義だけではわかりにくいこともあり、映像を交えた形で理解を深めてもらいたいと思っている。 さらに現在では「民俗芸能大会」がさかんに行われているが、「地域」との結びつきや神仏との関係性の中で成立した芸能が、舞台にあがることの意味についても考えてみたい。	1. ガイダンス 2. 民俗芸能とは何か① 3. 民俗芸能とは何か② 4. 神楽 5. 獅子舞と鹿（獅子）踊り 6. 田植えに関する芸能 7.「神」の去来 8. 二十五菩薩来迎会 9. 念仏踊りと盆踊り 10. 北海道・東北地方の芸能 11. 関東・北陸地方の芸能 12. 中部・近畿・中国地方の芸能 13. 四国・九州地方の芸能 14. 舞台にあがった芸能 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。必要な参考文献は授業中に示す。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	歴史と文化２(日本文化研究 d)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：境界領域論から見る日本文化研究 日本文化の中にみられる「この世とあの世」や「異質と同質」などの、質的差異による認識の違いにより、空間的・時間的・社会的において、境界が生じる。この境界は線的に捉えられるものではなく、「領域的」であり、可変的であるとの性格が認められる。そしてこのような質的差異の認識や表象において、日本文化の中では大きな意味合いを持つ。 日本に存在する様々な場面を例として境界領域の性質と認識の形を明らかにし、また社会の中での境界領域の意味について考えていきたい。	1. ガイダンス、導入 2. 空間的境界領域とその認識①（日常的問題として） 3. 空間的境界領域とその認識② 4. 空間的境界領域とその認識（非日常的問題として） 5. 時間的境界領域とその認識① 6. 時間的境界領域とその認識② 7. 日本の祭りにおける境界領域と認識① 8 .日本の祭りにおける境界領域と認識② 9. 昔話にみる境界① 10. 昔話に見る境界② 11. 子どもと老人の境界性① 12. 子どもと老人の境界性② 13. 近世の民間宗教者 14. 世間とは何か 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。必要な参考文献は授業中に示す。	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(アメリカ詩入門) 歴史と文化(Ⅳ)(アメリカ詩入門)	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」の視点から論じる。メーリング・リストを使い、毎回、受講生の質問やコメントに応えたい。	1. アメリカの大地の声—Native American のうた 2. Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman 4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson 5. モダニズムの起源を探る—(1)Ezra Pound がみた東洋 6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩 7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9. ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” 10. (2) Gary Snyder の “Riprap” 11. (3) Sylvia Plath の “Daddy” 12. (4) Robert Bly の “Snowfall in the Afternoon” 13. (5) Adrienne Rich の “Onion” 14. (6) Frank O’Hara の “The Day Lady Died” 15. (7) Sandra Cisneros の “My Wicked Wicked Ways”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: *The Penguin Book of American Verse.* Geoffrey Moore, ed. New York: Viking, 2011 (ISBN: 9780241955444) 参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）	4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）とその詩の日本語訳をつけたレポートによって評価する。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(日本事情 1) 日本事情 a	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 原始～中世の日本列島を対象に、日本列島の社会・文化がどのように形成・変化していったのか、最新の研究成果を基に学ぶ。重要な点は、つぎの３点である。 ①日本列島の王権の位置・系譜を学び、それが万世一系ではないことを理解する。 ②古代天皇制から公家・武家・寺社が相互補完的に社会を支配する形へと変化していく要因・過程を理解する。 ③中世の長い時間を通じて武家の社会的役割が次第に大きくなっていく過程を学び、武家は単に軍事力で他の社会集団を凌駕したのではないことを理解する。 【講義概要】 ◎原始～中世の日本通史である。 ◎現在の研究の到達点と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎留学生・初学者にとって充分理解可能な講義である。	１：なぜ、歴史学は必要なのか？ ２：原始社会論 -稲作のはじまりはいつからか？- ３：邪馬台国からヤマト政権へ　-邪馬台国研究の最前線- ４：5～6ｃの倭国とアジア -王権は連続していたのか？- ５：倭国から「日本」へ -「天皇」・「日本」号の成立- ６：律令国家の展開 -天皇・律令国家の影響力は限定的だった！- ７：平安時代前期の国家と社会 -王臣家の地域進出- ８：摂関政治の成立 -ミウチ政治の成立・受領の台頭- ９：院政の成立と中世の胎動 -公家・武家・寺社の相互補完関係へ-- 10：鎌倉幕府の形成と展開 -鎌倉幕府は 1192 年にできたのではない！- 11：元寇から鎌倉幕府の滅亡へ -元軍は本当に暴風雨で撤退したのか？- 12：日本列島史の転換期としての南北朝内乱 -なぜ内乱を通じて武家優位の社会になるのか？- 13：室町幕府論　-なぜ農民すらも武家を支持したのか？- 14：日明勘合貿易と「倭寇」 -「倭寇」は日本人か？- 15：総括　-古代・中世の日本列島と地域社会-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	期末テスト（70%）、および課題レポート（3 回程度実施：30%）による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(日本事情 2) 日本事情 b	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 おもに戦国時代～太平洋戦争までの日本列島を対象に、世界の動きに留意しつつ、社会の変遷のあり方とそこに生きた人々の価値観を学び、現在の日本・世界の成り立ちと、これからの日本列島と世界について考える能力を身につける。とくに重要な点は、つぎの点である。 ①近世を通じた公武関係の変遷過程を知り、幕末になぜ天皇が再び注目されるようになったか、理解する。 ②日本列島の長い歴史過程のなかから**「獨逸学協会」**成立の意味を知る。 ③多くの当時者の言説を紹介しながら 19ｃ後半～20cに生きた人々の「常識」と価値観を追い、戦争を是とする社会が形成されていく過程を動態的に知る。 【講義概要】 ◎戦国時代～太平洋戦争終結までの日本通史である。 その他は、春学期科目「日本史Ｉ」に同じ。 ※歴史を学ぶ意義は知識を積み重ねることではなく、社会や人間の生き方、その変化について考える力を身につけることである。歴史を様々な視野から見つめることによって驚きを感じ、その重要さを学んで欲しい。	１：なぜ世界は統合に向かうか？ -大航海時代後の世界- ２：なぜ戦国大名はあらわれたのか？ -群雄割拠の時代から織豊政権・朝鮮侵略へ- ３：江戸幕府と東アジア -徳川政権と海を動き回る人々- ４：元禄の政治・社会 -大開発時代到来と戦時文化脱却- ５：江戸時代の評価 -「士農工商」なんてありません！- ６：対外危機と天保の改革 -なぜ幕末に「鎖国」概念が生まれたか？- ７：幕末の動乱 -なぜ再び天皇が注目されたか？- ８：明治政府の指針 -条約改正への長い道のり- ９：明治期の社会と思想 -自由民権運動・教育・獨逸学協会- 10：大日本帝国憲法・議会の成立と「国民」意識 -万世一系・単一民族国家説とナショナリズムの形成- 11：日清・日露戦争、韓国併合から条約改正へ -世界は日本をどう見たか？- 12：映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 13：大正デモクラシーと第 1 次世界大戦 -脱亜から大東亜共栄への路線変更- 14：「優等生」の変貌と第 2 次世界大戦 -誰が戦争を支持したのか？当時の「常識」を考える- 15：総括 -日本列島の過去と未来をめぐって-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	期末テスト（70%）、および課題レポート（3 回程度実施：30%）による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	現代社会 2 (21 世紀の外交秘話)	担当者	V．シュタンツェル

講義目的、講義概要	授業計画
Lecture in English **The Secrets of Diplomacy in the 21st Century** Diplomacy has deep roots in human history: we find in ancient Japan as well as in India, China, Egypt and Europe. It has gradually adapted to the challenges of globalization of communication, and the rise of new powers. We will analyze the unchanging parameters of diplomacy, and find our way to understanding and defining the prerequisites of diplomacy today and in the future. **Reader with short texts** Henry Kissinger: Diplomacy, Raymond/Westbrook: Babylonian Diplomacy, Kishan S. Rana: Inside Diplomacy, Berridge/Keens-Soper: Diplomatic Theory, Hamilton/Langhorne: The Practice of Diplomacy	＜2015 年度　秋学期＞ ＊詳細については初回授業時に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布します。	Active disputation, presentation / test. 初回授業時に説明します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 1) 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 a)	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化が進む現代の企業経営を鑑みれば、英文で作成された決算書類を読み解き、企業の財政状態や経営成績などを分析できることは大きなスキルとなる。また、取引からはじまり決算書類が作成されるまでの流れを把握し、お金の流れと利益をイメージできることは、会社の業種や職種を問わず社会にでたときに大いに役立つ。 その前提として、英語と簿記会計の知識・技術が必要となる。したがって本講義は、英語を駆使して簿記会計の知識と技術を習得することが第一の狙いとなる。 講義は、前半に説明、後半に演習問題・質問時間の流れで毎回進めていきます。わかりやすい説明を心がけます。	①Introduction to Accounting, bookkeeping ②Basic of Accounting and bookkeeping ③Accounts list ④Journal entries ⑤Transactions and Journal Entries ⑥Transactions and Journal Entries ⑦Transactions and Journal Entries ⑧Transactions and Journal Entries ⑨Journals and Ledgers ⑩Journal to Ledger ⑪Trial Balance ⑫Worksheet ⑬Balance sheet ⑭Income statement ⑮Multiple journal system
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	小テスト（20%）と試験（80%）により評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 2) 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 b)	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化が進む現代の企業経営を鑑みれば、英文で作成された決算書類を読み解き、企業の財政状態や経営成績などを分析できることは大きなスキルとなる。また、取引からはじまり決算書類が作成されるまでの流れを把握し、お金の流れと利益をイメージできることは、会社の業種や職種を問わず社会にでたときに大いに役立つ。 その前提として、英語と簿記会計の知識・技術が必要となる。したがって本講義は、英語を駆使して簿記会計の知識と技術を習得することが第一の狙いとなる。 講義は、前半に説明、後半に演習問題・質問時間の流れで毎回進めていきます。わかりやすい説明を心がけます。	①Introduction to Accounting, bookkeeping ②Adjusting Entries ③Matching-Expenses and revenues ④Evaluation of Bad Debts ⑤Depreciation ⑥Adjusted Trial Balance ⑦Cost of Goods Sold ⑧Evaluation of Inventory ⑨Closing books process and discloser ⑩Closing books process and discloser ⑪Financial Statements ⑫Financial Statements ⑬Accounting concepts ⑭Accounting concepts ⑮Internal control
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	小テスト（20%）と試験（80%）により評価する。

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(教育の現場：教師と語る b) 現代社会(Ⅳ)(教育の現場：教師と語る b)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度)。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 ３．研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、hkawamur@dokkyo.ac.jp　です。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。	１ 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２～７ 実践記録を読む ８ 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12 月 5 日・6 日（土・日)、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。

テキスト、参考文献	評価方法
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』 （武蔵野美術大学出版局）	研究会と講義への参加度と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	現代社会２(韓国研究情報収集法)	担当者	金（きむ） 熙淑（ひぃすく）(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。３－４名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 ＊韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力１回目の授業から出席すること。	1. ガイダンス 2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 3. ハングルのタイピング練習① 4. ハングルのタイピング練習② 5. ハングルのタイピング練習③ 6. ハングルのタイピング練習④ 7. インタネット検索 8. インタネット検索 9. 調査発表① 10. 調査発表② 11. 調査発表③ 12. 調査発表④ 13. 現地調査発表① 14. 現地調査発表② 15. まとめ 注意:「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。

テキスト、参考文献	評価方法
適宜プリントを配布する。	評価方法：　授業への参加度 40%、課題レポート 60% ・韓国の情報収集方法について理解したか。 ・収集した情報を整理して発表することができるようになったか。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	黒子　葉子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語圏には、独自の文化や歴史を持つ様々な都市があります。この講義では、毎回１都市を取り上げ、受講者の皆さんにグループ発表をしてもらいます。それによって、グループワークやプレゼンテーションのスキルを磨き、ドイツ語圏の地域的特性や文化の多様性について理解を深めることが、この講義の目的です。 授業では、まずドイツ語圏の概要を紹介し、グループ分けをした後、皆さんの興味・関心に基づいて、都市にまつわる歴史、文化、政策、宗教、建築、芸術、食、スポーツ、催し等、具体的なテーマを設定して調査してもらいます。そして、その結果をグループごとにまとめ、発表してもらいます。学期末には発表に基づいたレポートを提出してください。 詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。	１．オリエンテーション ２．ドイツ語圏の基本情報 ３．グループ分けとテーマ設定 ４．グループによる調査 ５．グループによる調査 ６．グループ内での討論 ７．発表の組み立て ８．～１３．グループ発表 １４．全体での討論 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示します	グループワークへの関わりとプレゼンテーション（50%）、授業内でのコメント（20%）、および期末レポート（30%）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	黒子　葉子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、ドイツ語圏の都市に焦点を当て、受講者の皆さんにグループ発表をしてもらい、その成り立ちや文化的特徴を考察していきます。秋学期は、ドイツの大都市だけでなく、オーストリア、スイス、ルクセンブルク、さらには周辺のドイツ語母語話者の住む地域もなるべく取り上げたいと思います。 授業では、受講者の関心に基づいて、グループ分けをし、具体的なテーマを設定して調査してもらいます。そして、その結果をグループごとにまとめ、発表してもらいます。学期末には発表に基づいたレポートを提出してください。 詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。	１．オリエンテーション ２．ドイツ語圏の基本情報 ３．グループ分けとテーマ設定 ４．グループによる調査 ５．グループによる調査 ６．グループ内での討論 ７．発表の組み立て ８．～１３．グループ発表 １４．全体での討論 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示します	グループワークへの関わりとプレゼンテーション（50%）、授業内でのコメント（20%）、および期末レポート（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(こども論) 現代社会(Ⅳ)(こども論)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 　子どもを取り巻く子育て、貧困、少年事件などのトピックに関する政策を再度検討することを目的としている。 　政策が立案される背景には、言説――たとえば親の教育力が低下した、や少年犯罪は増加・凶悪化の一途をたどっている、など――があるがそれらははたして本当なのか。本当だとしたなら、その現状に照らして政策は適切なのか。 これらを考える契機となるような入門的な講義にしたいと考えている。 ●講義概要 ２～５では子どもの貧困の現状や政策の現状を概観し、検討していく。 ６～９では、改正された少年法の内容とその意味を考える。合わせて厳罰化で少年犯罪が減少するのかもアメリカ等の事例を参考に検討していく。 １０～１５では、子ども（子育て）支援の動向を、イギリス、フランス、スウェーデン、韓国を例に検討し、日本の支援の在り方を考える。	１．　ガイダンス（授業の進め方等について） ２．　子どもの貧困①（子どもの貧困を測る） ３．　子どもの貧困②（誰のための政策か） ４．　子どもの貧困③（母子世帯の子ども） ５．　近年の動向（含ディスカッション） ６．　少年事件①（少年事件は増加したか） ７．　少年事件②（少年法が変わった） ８．　少年事件③（共生の可能性を探って） ９．　近年の動向（含ディスカッション） １０．　日本における子育て支援 １１．　子育て支援の国際比較① １２．　子育て支援の国際比較② １３．　子育て支援の国際比較③ １４．　子育て支援の国際比較④ １５．　近年の動向（含ディスカッション）

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する	①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートで評価する。 ※評価方法等は１回目の授業で説明する。

08年度以降 07年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 ２．生きたコトバづかいの４原則説明 ３．ウソとコトバの魔術説明 ４．ビデオについての討論（1回目から） ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５．まとめの議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩著『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	時事問題についてのビデオを見て、それについての話し合いをします。意見発表に積極的に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08年度以降 07年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 ２．生きたコトバづかいの４原則説明 ３．ウソとコトバの魔術説明 ４．ビデオについての討論（1回目から） ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５．まとめの議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：下川　浩著『いつまでダマされつづけるの？政府・大企業・マスメディアのウソとコトバの魔術』（えむ出版企画）	時事問題についてのビデオを見て、それについての話し合いをします。意見発表に積極的に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

13 年度以降	現代社会２(韓国社会論Ｉ)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，韓国ポピュラー文化を通じて韓国の文化，社会，歴史を考察していく。日本との類似点，相違点等を自ら発見していってほしい。 ※※初回講義には必ず出席すること※※	１イントロ① 講義紹介 ２イントロ② ポピュラー文化を考える，とは ３韓国メディア論① ４韓国メディア論② ５ 韓国映画の世界① ６ 韓国映画の世界② ７韓国映画の世界③ ８ 韓流とは① ９ 韓流とは② 10 韓国ポップの歴史と現在 1960 年代 11 韓国ポップの歴史と現在 1960 年代 12 韓国ポップの歴史と現在 1970 年代 13 韓国ポップの歴史と現在 1970 年代 14 Kpop と日本 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回講義時に提示する。	期末テスト

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ポストコロニアル研究入門) 現代社会(Ⅳ)(ポストコロニアル研究入門)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
植民地主義の歴史と、現在における、政治、社会、文化などに残存する植民地主義の影響を認識することからはじめ、「自己」と「他者」、「西欧」と「それ以外」、「植民地支配」と「被支配者」の境界に立って、現代世界を捉え直していくことを試みる。 講義中盤からは、ポストコロニアル文学作品などを取り上げ、討論形式で講義を進めていく。	１イントロダクション-講義紹介 ２帝国主義のものがたり① ３帝国主義のものがたり② ４ポストコロニアリズムとはなにか① ５ポストコロニアリズムはなにか② ６～14　討論 - 文学作品・映画から考える 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介していく。	期末レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (韓国社会論) 現代社会(Ⅳ)(韓国社会論)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。 とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国の間の歴史問題などに焦点を当てていく。	1 イントロダクション-講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし（1） 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし（2） 5 韓国社会の女と男③ - 家父長制のはなし（3） 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - 「多文化」家族について 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 徴兵制とジェンダー① - 徴兵制について 11 徴兵制とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 12 徴兵制とジェンダー③ - 討論 13 大衆文化とジェンダー① 14 大衆文化とジェンダー② 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜紹介していく。	期末テスト

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(インターンシップ) 現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 インターンシップを単に「プレ就活」ととらえる傾向がありますが、本講座の真のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではありません。履修者の皆さんが、狭義のキャリア（＝職業）をどのように獲得し、広義のキャリア（＝人生）をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、事前指導（春学期の授業）、夏休みに実施する約２週間のインターンシップ実習、および実習後の報告書作成から構成されています。事前指導の内容はさらに、オリエンテーション（第１回）、自己理解・自己分析（第２～５回）、実習に臨むにあたっての準備（第６回以降）の３段階に分かれています。 講義は出欠を記録します。 （下欄に続く）	第１回　オリエンテーション： 本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明していただきます。 第２回　働くということは何か（講義） 第３回　セカンドベストの選択と職業能力開発（講義） 第４回　コミュニケーションと面接の技術（講義） 第５回　R-CAP の講評・分析： Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向いた職場環境を確認します。（R-CAP の担当者から） 第６回　人事担当者によるパネルディスカッション パネルディスカッションの形で、インターンシップ受入れ先である企業や官公庁の人事担当者から、インターンシップの意義、メリット、心構えなどについてお話します。 第７回　外部講師によるマナー講座① インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	（下欄に続く）

	（上欄の続き）	担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
注意事項 １．４月３日（金）14:00~15:00 に E-102 教室で開催されるインターンシップガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は 150 名です。 ２．R-CAP（Recruit Career Assessment Program）実施費用（3,200 円）が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第 2 回目の授業に必ず持参して下さい。 ３．インターンシップの実習先は、キャリアセンターで支援はしますが、履修者自身が見つけることが原則です。また大学仲介の企業に多数応募があった場合は、授業での貢献度を踏まえ、キャリアセンターで選考を行います。 ４．インターシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合は、たとえ授業（事前指導）に出席したとしても単位は認定されません。 ５.インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。 ６．実習の条件：マナー講座受講、保険加入、直前指導の出席、実習日誌+報告書の提出、のすべてが必要です。 ７．実習は１企業・団体で 10 日以上、もしくは 2 企業・団体でそれぞれ 5 日以上。親族の経営する企業や自営業は実習先として不可。	第８・９回　時事問題研究： 新聞を教材として、グループ単位で時事問題や業界最新事情に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、時事に対する感性を涵養します。 第 10 回　インターンシップ経験者による体験談： パネルディスカッションの形で、インターンシップ経験者である先輩から貴重な体験談を話していただきます。 第 11 回　グループディスカッションの練習①： グループディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。 第 12 回　外部講師によるマナー講座②： インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第 13 回　グループディスカッションの練習② 第 14 回　プレゼンテーションの技術のブラッシュアップ 特定のテーマに関して、全員の前で発表してもらいます。 第 15 回　直前指導 インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項（インターンシップ保険、実習後の提出書類等）について説明していただきます。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。10 月をめどにキャリアセンター主催の報告会を実施しますので、出席して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布します。	実習先からの勤務評定、実習日誌、報告書などを総合的に判断して、評価を決定します。

08年度以降 07年度以前	現代社会２(経理入門1) 現代社会(Ⅳ)(経理入門a)	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められている。 受講生には、社会にでたときに必ず役に立つ知識・技術であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 春学期では、簿記の一連の流れと計算原理の習得を目指す。講義では、わかりやすい説明を心がけ、反復練習と解説をつうじて理解の定着を図る。 ＊秋学期も継続して履修することが望ましい。	①講義概要 ②簿記の意義と役立ち ③貸借対照表と損益計算書の構造 ④仕訳と転記（１） ⑤仕訳と転記（２） ⑥帳簿記入 ⑦試算表の作成 ⑧6桁精算表の作成 ⑨決算手続（１） ⑩決算手続（２） ⑪決算手続（３） ⑫貸借対照表と損益計算書の構造 ⑬現金預金取引 ⑭商品売買取引 ⑮演習問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社，2010年	小テスト（30%）と試験（70%）により評価する。

08年度以降 07年度以前	現代社会２(経理入門2) 現代社会(Ⅳ)(経理入門b)	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められるようになっている。 受講生には、社会にでたときに必ず役に立つ知識・技術であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 秋学期では、様々なケースの取引を処理することをつうじて、記録・計算技術をより一層磨くことを目標とする。また、貸借対照表および損益計算書についての深い理解を到達目標にする。 ＊春学期履修者、またはある程度の簿記の基礎知識を有することが望ましい。	①講義概要 ②復習 ③売掛金と買掛金 ④その他の債権・債務取引 ⑤手形取引（１） ⑥手形取引（２） ⑦有価証券取引 ⑧固定資産取引 ⑨純資産、税金 ⑩収益と費用の見越し・繰延べ ⑪決算と財務諸表（１） ⑫決算と財務諸表（２） ⑬伝票会計 ⑭帳簿組織 ⑮演習問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社，2010年	小テスト（30%）と試験（70%）により評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (コンピュータ入門 a) 現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでの調査研究において必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 毎回のレポート提出は、ポータルサイトを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。	1. 講義概要と注意 2. 利用のための準備と設定 3. コンピュータの構造 4 インターネットの基礎と利用(ドメイン、情報検索) 5. ワードプロセッサの基礎と応用(表、図) 6. レポート作成 7. 関数を使った計算 1（合計、平均、標準偏差、相対参照と絶対参照） 8. 関数を使った計算 2（IF 関数、AND、OR） 9. 関数を使った計算 3（VLOOKUP、IF 関数との組み合わせ） 10. データの再集計（ピボットテーブル） 11. データの並び替えと目的データの抽出、操作の記録（マクロ） 12. グラフ作成 13. プレゼンテーションソフトの基礎と利用 14. プレゼンテーションソフトで調査資料作成 15. 課題作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ編著、堀江郁美、今福啓『大学で必要な情報基礎』日経ＢＰ社,2015 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経ＢＰ社	レポート-50%、試験-50%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (コンピュータ入門 b) 現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数について学ぶとともに、プログラミングの基本についても学ぶ。 表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。 　大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。	1. 講義の進め方について 2. 複利計算とローン返済計画 3. 年金の積み立て 4. 利子率の計算（ソルバー、What-if 分析の使い方） 5. データの特徴を抽出する（移動平均、ヒストグラム、回帰分析） 6. 効率的な作業配分（0-1 整数計画問題） 7. 限られた資源の有効活用（線形計画法） 8. Web ページの仕組み 9. HTML ファイルの作成 10. 画像の表示とリンクの設定 11.. JavaScript について 12. JavasScript の繰り返しプログラム 13. JavaScript 場合分けプログラム 14. Web ページの公開とインターネット利用上の注意点 15. 課題の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ編著、堀江郁美、今福啓『大学で必要な情報基礎』日経ＢＰ社,2015 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経ＢＰ社	レポート-50%、試験-50%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので､これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方､PC上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、PerlやPHPといったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。	1．ホームページの作成 2．ホームページの運用・管理 3．ホームページの仕組みと公開 4．ブログの開設と運用 5．ホームページ公開とブログ公開の違い 6．HTML の基本 7．CSS の基本 8．HTML と CSS の実践 9．Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. これからのインターネット利用と倫理（ネチケット）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	授業参加度、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので､これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC 上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、Perl や PHP といったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる	1．ホームページの作成 2．ホームページの運用・管理 3．ホームページの仕組みと公開 4．ブログの開設と運用 5．ホームページ公開とブログ公開の違い 6．HTML の基本 7．CSS の基本 8．HTML と CSS の実践 9．Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. これからのインターネット利用と倫理（ネチケット）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	授業参加度、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	根本　貴弘

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，現代社会における情報発信手段の一つとなるWWW上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習を目的とする．ホームページ作成の基礎となるHTMLの形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく，マルチメディアコンテンツやDynamic HTMLを用いたホームページ作成を目指す． ホームページ作成に際し，大まかに以下の知識や技能を学ぶ． 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML文書作成） 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWWでの情報発信と情報倫理 また，ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく，WWWやインターネットの仕組みの概要を理解し，不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する．	1. コースの説明，インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成，編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像，背景，色の作成 7. テキスト処理，フォント，リンク 8. テーブル，ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 課題作成と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介します．	平常点（20%），作品（ホームページ）(80%)による総合評価．

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	根本　貴弘

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，現代社会における情報発信手段の一つとなるWWW上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習を目的とする．ホームページ作成の基礎となるHTMLの形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく，マルチメディアコンテンツやDynamic HTMLを用いたホームページ作成を目指す． ホームページ作成に際し，大まかに以下の知識や技能を学ぶ． 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML文書作成） 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWWでの情報発信と情報倫理 また，ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく，WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し，不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する．	1. コースの説明，インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成，編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像，背景，色の作成 7. テキスト処理，フォント，リンク 8. テーブル，ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 課題作成と講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介します．	平常点（20%），作品（ホームページ）(80%)による総合評価．

08年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティングa)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 私たちの日々の生活が科学技術の成果の上で成り立っている以上、多くの人々が科学の成果やその影響を正しく理解し、さらにその内容を広く社会に伝えていくことが大切でしょう。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学の内容についての理解が必要となります。また、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて、自ら情報を収集する能力も必要となります。さらには、科学を伝える対象に応じて伝える内容を構成したり、解説の方法を工夫したりすることも必要となります。同時に、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことなのです。 春学期「サイエンスライティングａ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	１．はじめに ２．科学に関する講義の内容の一部をまとめる１ ３．科学に関する講義の内容の一部をまとめる２ ４．科学に関する講義の内容の一部をまとめる３ ５．科学に関する講義の内容の一部をまとめる４ ６．まとめ文の講評とディスカッション１ ７．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる１ ８．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる２ ９．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる３ １０．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる４ １１．まとめ文の講評とディスカッション２ １２．科学に関する本の内容の一部をまとめる１ １３．科学に関する本の内容の一部をまとめる２ １４．科学に関する本の内容の一部をまとめる３ １５．まとめ文の講評とディスカッション３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

08年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティングb)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 私たちの日々の生活が科学技術の成果の上で成り立っている以上、多くの人々が科学の成果やその影響を正しく理解し、さらにその内容を広く社会に伝えていくことが大切でしょう。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学の内容についての理解が必要となります。また、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて、自ら情報を収集する能力も必要となります。さらには、科学を伝える対象に応じて伝える内容を構成したり、解説の方法を工夫したりすることも必要となります。同時に、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことなのです。 秋学期「サイエンスライティングｂ」では、春学期「サイエンスライティングａ」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際に書くという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。	１．はじめに ２．科学に関する講義の解説文を書く１ ３．科学に関する講義の解説文を書く２ ４．科学に関する講義の解説文を書く３ ５．解説文の講評とディスカッション１ ６．科学に関するビデオの解説文を書く１ ７．科学に関するビデオの解説文を書く２ ８．解説文の講評とディスカッション２ ９．科学に関する本の解説文を書く１ １０．科学に関する本の解説文を書く２ １１．解説文の講評とディスカッション３ １２．科学エッセイを読む １３．科学エッセイを書く１ １４．科学エッセイを書く２ １５．科学エッセイを書く３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(統計と調査法) 自然･環境･人間(Ⅳ)(統計と調査法)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． **授業概要** ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする．授業期間の後半は，自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し，前半で学んだ理論の応用を試みる．	1. 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 2. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明 3. 度数分布，相対度数，度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 6. 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 10. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 11. 対応がない場合の t 検定，分散分析 12. 対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 13. クロス集計，カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9	(定期試験（80%)＋平常授業におけるまとめ（20%)) x 出席率の平方根

08年度以降	自然・環境・人間２(基礎生物学実験 a)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 科学の基本は比較し観察することです。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。前半は顕微鏡を用いて生物の観察を行います。そしてスケッチを通してその差異を明確に認識する目を養います。後半は実験により、講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は**必ず出席**して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. はじめに　－レポートの書き方・顕微鏡の使い方－ 2. 植物の観察　－稲の栽培と観察－ 3. 原生生物の観察　－身近な原生生物の観察－ 4. 細胞分裂の観察　－タマネギの根の細胞分裂を観察－ 5. カビの観察　－麹の培養と観察－ 6. 発生の観察　－ムラサキウニの発生を観察－ 7. 動物組織の観察（１）－メダカの色素胞を観察－ 8. 動物組織の観察（２）－魚の脳を観察－ 9. 動物組織の観察（３）－イカの神経を観察－ 10. 血球の観察　－ホヤの血球を観察－ 11. 光合成色素の分離　－ペーパークロマトグラフィー－ 12. デンプンの精製　－ジャガイモからデンプンを精製－ 13. タンパク質の性質　－牛乳からバターを作る－ 14. タンパク質の性質　－豆腐作りでタンパク質を知る－ 15. 脂質の性質　－マヨネーズを作って考える－
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	レポート（60%）と期末試験の結果（40%）で評価します。

08年度以降	自然・環境・人間２(基礎生物学実験 b)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 春学期と同様に、実験と観察により講義形式では理解しにくい様々な生命現象を理解することを目指します。後半は様々な無脊椎動物の形態を観察します。最後のプレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は**必ず出席**して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. はじめに　－レポートの書き方・諸注意－ 2. 節足動物の観察　－ウミホタルの観察－ 3. DNA の抽出　－レバーから DNA を抽出－ 4. DNA の確認　－抽出した DNA を見る－ 5. 動物の再生　－プラナリアの再生を観察－ 6. 細菌の働き　－稲藁を用いた納豆作り－ 7. 細菌の分布　－手に付着した細菌の培養と観察－ 8. 酵母の性質　－酵母を使った発酵の観察－ 9. 植物の観察　－気孔、根毛、果実の観察－ 10. 線形動物の観察 －食べたら痛い!? 魚に潜む寄生虫－ 11. 節足動物の観察　－クルマエビの構造と神経系の観察－ 12. 軟体動物の観察　－カキの心臓とその神経支配－ 13. 刺胞動物の観察　－ヒドラの摂食行動を観察－ 14. 棘皮動物の観察　－バフンウニの形態と発生の観察－ 15. プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	レポート（60%）と期末試験の結果（30%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

08年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅰ)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生じさせています。クローン人間は許されるのか？疾病の治療以外で遺伝子操作は許されるのか？近い将来、我々は様々な判断を迫られるでしょう。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。限られた講義数ですが、新聞やニュースで報道される生命科学の話題に関し、十分に理解できる知識を身につけることを目指します。 【講義の概要】 本講義では細胞レベルの生物学を概説します。さらに、近年利用されているバイオテクノロジーについても解説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。	1. 生命の誕生　－生命誕生の謎－ 2. 細胞の構造　－様々な細胞小器官－ 3. 細胞を構成する物質　－細胞の生存に必須な物質－ 4. 細胞膜の構造と働き　－細胞が細胞であるために－ 5. 細胞の分裂　－細胞が増えるしくみ－ 6. 遺伝と遺伝子　－子はなぜ親に似る？－ 7. DNA と RNA　－細胞内での役割分担－ 8. DNA の複製　－間違いのない複製のために－ 9. 転写と翻訳　－転写と翻訳とは何か？－ 10. 酵素　－生体内の化学反応を進める立役者－ 11. バイオテクノロジー（１）－遺伝情報を解読する技術－ 12. バイオテクノロジー（２）－遺伝子組換え技術－ 13. プレゼンテーション（１） 14. プレゼンテーション（２） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	期末試験の結果（70%）とレポート（20%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

08年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅱ)	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学に関する知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】 前半は「生物学Ⅰ」の知識を基に、細胞レベルの生物学をさらに深く理解します。細胞がどのようにエネルギー（ATP）を作るのか。作られた ATP は何に利用されるのかを学習します。後半は医学との関連項目を学習します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。履修していない方は注意して下さい。	1. ATP の産生（１）－細胞質での ATP 産生－ 2. ATP の産生（２）－ミトコンドリアでの ATP 産生－ 3. 刺激の受容　－眼の構造と働き－ 4. 刺激の受容　－耳、舌、皮膚の構造と働き－ 5. 神経細胞　－情報伝達のしくみ－ 6. 筋収縮　－体を動かすしくみ－ 7. 病原体から体を守るしくみ　（１）－体液性免疫－ 8. 病原体から体を守るしくみ　（２）－細胞性免疫－ 9. 寄生生物　－寄生性の多細胞生物－ 10. 寄生生物　－寄生性の単細胞生物－ 11. ウイルス　－インフルエンザ－ 12. 疾病の予防　－サプリメントは病気を予防するのか？－ 13. プレゼンテーション（１） 14. プレゼンテーション（２） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	期末試験の結果（70%）とレポート（20%）とプレゼンテーション（10%）で評価します。

08年度以降	自然・環境・人間２(科学の方法と実験a)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 　この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見えながらパラドキシカルな～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。 　なるべく通年で履修してほしい。	1 はじめに　授業内容の説明 2 「はかる」①　はかるとは 3 「はかる」②　有効数字　単位 4 「はかる」③　精密・正確と誤差 5 「はかる」④　精密にはかる方法 6 「はかる」⑤　統計的確からしさ 7 重力と落下①　重いものと軽いもの 8 重力と落下②　重いものはなぜ速く落ちるのか 9 重力と落下③　投げたボールの軌跡 10 原子と分子①　あらゆる物は原子からできている 11 原子と分子②　見えない原子がどうして発見されたか 12 原子と分子③　生きものを作っている分子 13 生物の形①　　花の形・果実の形 14 生物の形②　　“瓜の蔓に茄子はならぬ”のはなぜか 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし　プリントを配布する	実験レポートで評価する

08年度以降	自然・環境・人間２(科学の方法と実験b)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見えながらパラドキシカルな～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。 　なるべく通年で履修してほしい。	1 光と色①　光とはなにか：反射と屈折 2 光と色②　スペクトル　物質の色 3 光と色③　分光器を作る 4 光と色④　花の色の変化 5 静水力学①　浮力（アルキメデスの原理） 6 静水力学②　密度・比重 7 静水力学③　浮沈子を作る　鉄船がなぜ浮くのか 8 静水力学④　トリチェリの実験、サイフォン 9 空気力学①　凧を作る 10 空気力学②　560トンの飛行機がなぜ空を飛ぶのか 11 顕微鏡観察①　ミジンコの観察 12 顕微鏡観察②　ブラウン運動 13 電気と磁気①　ボルタ電池を作る 14 電気と磁気②　回転子を作る 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし、プリントを配布する	実験レポートで評価する

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間２(体育経営スポーツマネージメント) 自然･環境･人間(Ⅳ)(体育経営スポーツマネージメント)	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポ-ツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポ-ツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポ-ツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポ-ツの普及とは如何にあるべきかを考える。 〔講義概要〕1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。 〔受講生への要望〕適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.体育とスポーツ教育学 5.我が国における健康教育のマネジメント 6.北米における学生スポーツの発展 7.プロスポーツとアマチュアスポーツ 8.我が国における学生スポーツのマネジメント 9.ディスカッション 10.プロスポーツのマネジメント 11.メンタル・マネジメント 12.高度競技スポーツにおけるマネジメント 13.スポーツ・マーケティング 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	〔評価方法〕平常点、授業態度、課題提出状況、そして期末試験の結果を総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	自然・環境・人間２(コンピュータと言語)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. 情報のデジタル化 3. オペレーティングシステム 4. プログラミング言語入門 5. データ構造入門 6. アルゴリズム入門 7. ハードウェアとは 8. 情報検索と言語処理 9. 形態素解析と構文解析 10. 自然言語処理の応用 11. 質問応答システム 12. 対話システムと言語資源 13. 総合演習１ 14. 総合演習２ 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示する参考文献を使用します。	レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間２(コンピュータ構造論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(コンピュータ構造論)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。 本講義では、（１）情報に関する基本的な概念、（２）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（３）情報システムに関する基礎的な素養、（４）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。	1. 授業のガイダンス 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム（DBMS） 4. SQL 言語とデータベース操作 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組み 7. インターネットサービス 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータアーキテクチャ 10. より高度な情報検索 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。	レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。

08年度以降	自然・環境・人間２(データ構造とアルゴリズム論)	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが，実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである．情報爆発といわれる現代社会において，いかにデータを構造化し，必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である．本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする． 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する．講義内容は，文系の学生でも理解できるように，ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ. 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること.	1. 講義の概要と目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート１ 9. ソート２ 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。 参考サイト： http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(情報検索と加工) 自然･環境･人間(Ⅳ)(情報検索と加工)	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報爆発といわれている現代社会において，情報検索の技術を駆使し，いかに必要な情報を素早く，的確に見つける能力は不可欠である．本講義は情報検索の仕組を解説し，実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする． 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について，講義と実習形式で解説する． 講義内容は，文系の学生でも理解できるように，情報検索の歴史，情報検索ための情報収集，情報整理，情報抽出，情報評価の順番で説明する． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：必要に応じて資料を配布する 参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6，2007（樹村房）	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (マルチメディア論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(マルチメディア論)	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになってきている。しかしそれは，ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり，その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理は，最近話題のパラパラ漫画にも見受けられるが，その処理などを理解し，インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。マルチメディアという内容は動画だけにとどまらず，音声なども含まれるが，ここでは動画に的を絞る。もちろんこれは，ソフトの使いこなしだけを目指すのではない。基本的には自ら作画し，それを動かせるようにすることから始める。	1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの制作，保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	制作した作品で評価する。参加度を重視し，欠席回数が多いと不可とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	自然・環境・人間２（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村　健治

講義目的、講義概要	授業計画
地球環境は人間活動により大きく変化しています。まず地球の自然状態を講義し、それを踏まえて、その自然環境の上での人間活動とその影響について述べます。その後、そのような実態のデータがどのようにして得られたのか、について主に大気環境を中心にして述べます。これにより様々な結データを批判的に摂取するための基礎素養を得てもらいたいと思います。 春期の「環境学」をより深めますが、必ずしも「環境学」の既習は必要としません。	1. 講義概要 2. 地球環境の形成（１） 3. 地球環境の形成（２） 4. 地球の大気の構造 5. 海洋の構造 6. 地球上の水循環 7. 気候と植生 8. アジアモンスーンと日本 9. 大気の質の環境 10. 気候変動と人間 11 地域規模の環境問題と地球規模の環境問題 12. 集中豪雨と予報 13. 現場観測（大気を例として） 14. 衛星リモートセンシング 15. 我々は何をすべきか

テキスト、参考文献	評価方法
なし。	３回程度行う小テスト（30%）と試験（70%）で評価します。

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間２(スポーツコーチ学a) 自然･環境･人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説する。実際にスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆教室以外に、35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので、室内および屋外スポーツ用シューズと運動にふさわしい服装を用意すること。	1.ガイダンス 2.身体の基本的な機能（骨格筋の働き） 3.身体の基本的な機能（循環系の働き） 4.フィジカルテストの基礎 5.フィジカルテストの実践（グループワーク） 6.フィジカルテストの分析（グループワーク） 7.動作分析の基礎 8.動作分析の実践（グループワーク） 9.動作分析の解析（グループワーク） 10.ゲーム分析の基礎 11.ゲーム分析の実践（グループワーク） 12.運動強度測定（室内スポーツ） 13.運動強度測定（屋外スポーツ） 14.成果発表① 15.成果発表② ☆授業計画の講義内容の順番は変わる可能性あり
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間２(スポーツコーチ学b) 自然･環境･人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 授業曜時に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。	基本的なスポーツは次の通りですが、使える施設、受講生の人数等で変更があります。 第１回授業時、第２回授業時に提示します。 １　ガイダンス ２　スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 ３　トレーニングルーム講習 ４　トレーニングルーム利用 ５　フットサルコーチング① ６　フットサルコーチング② ７　ソフトボールコーチング① ８　ソフトボールコーチング② ９　インラインホッケーコーチング① １０　インラインホッケーコーチング② １１　テニスコーチング① １２　テニスコーチング② １３　コーチング方法の分類① １４　コーチング方法の分類② １５　コーチング方法の分類③
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要により紹介し、プリントを配布する。	コーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	自然・環境・人間２(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段、何気なく生活している中では気づかないが、我々のからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が伝えられているが、まずはもっとも身近な私たち自身の体の中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析しまとめることで理解を深める。	1.ガイダンス、自己紹介 2.体温調節－冷え症・低体温、熱中症－ 3.体温調節実験－寒冷血管拡張反応－ 4.体温調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 5.血圧調節－身近な健康のバロメーター－ 6.血圧調節実験－様々な姿勢、運動－ 7.血圧調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 8.ストレス反応－まわりはストレスだらけ－ 9.ストレス反応測定－アミラーゼ、精神性発汗、心拍数－ 10.ストレス反応－まとめ(グループでデータの解析･討論) 11.反応時間－筋と神経の協調作業 12.反応時間測定－あの名物コーナーにチャレンジ－ 13.反応時間－まとめ（グループでデータの解析・討論） 14.成果発表 15.総合討論

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて印刷物を配布する。	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

08年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅰ)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。我々のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説する。ここでは呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について、できるだけ身近な題材と組み合わせてわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1.ガイダンス・自己紹介 2.生理学の基礎－ホメオスタシスって？－ 3.血液・体液－からだの中に海？－ 4.呼吸・循環－息して生きてる－ 5.消化・吸収－食べ物の行方－ 6.代謝・体温－からだを温めると健康によい？－ 7.内分泌－ホルモン、男らしさ女らしさ 8.神経－「運動神経」がないひとはいない！－ 9.感覚－第６感？－ 10.筋・骨－からだの屋台骨－ 11.「からだ」の情報交換会①（グループ発表） 12.「からだ」の情報交換会②（グループ発表） 13.「からだ」の情報交換会③（グループ発表） 14.春学期の復習 15.総合討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
やさしい生理学（南江堂）　彼末一之・能勢博編 イラストで学ぶ生理学　（医学書院）田中越郎	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

08年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅱ)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義ではヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期の生理学Ⅱでは私たちのからだの中枢である脳機能に焦点を当てて講義する。また、睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定である。できるだけ身近な題材と組み合わせてわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1.ガイダンス・自己紹介 2.神経科学の基礎 3.ニューロン・シナプス・神経伝達物質 4.中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 5.味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 6.味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 7.摂食調節－なぜ食べる？－ 8.脳・脊髄による運動制御 9.脳と睡眠－なぜ眠る？－ 10.脳と情動－好き・嫌い－ 11.学習と記憶 12.「脳機能」の情報交換会① 13.「脳機能」の情報交換会② 14.「脳機能」の情報交換会③ 15.総合討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 カラー版神経科学－脳の探求－（西村書店）加藤宏司他	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）。

08年度以降 07年度以前	自然・環境・人間２(リーダーシップ論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(リーダーシップ論)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって１位を決定し、１位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動１ 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動２ 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布します。	授業への取り組み姿勢・態度、小レポート、期末レポート、企画コンテストを評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。そのうえで受講生には初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 このように、受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し，クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。	1　オリエンテーションと教材・教具の概観 2　言語コミュニケーションと日本語教育 3　初級教材の作成：教科書の分析 4　初級教材の作成：会話教材作成 5　初級教材の作成：漢字教材作成 6　初級教材の作成：日本事情教材の作成 7　初級教材作成過程と授業案の発表 8　初級授業における教材の可能性 9　中上級教材の作成：教科書の分析 10　中上級教材の作成：会話教材の作成 11　中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12　中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13　中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14　中上級教材作成過程と授業案の発表 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない 参考文献： 野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語文法』くろしお出版 関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク	クラスでの課題（30%）、クラス参加（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケート a)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目標にします。 [講義概要] 　実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 　足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーション 　　と用具あわせ（更衣不要ですがソックスを準備して下さい） 　　立ち方・歩き方・とまり方 第２回：前進ひょうたん型 第３回：後進ひょうたん型 第４回：前進ツイスト 第５回：後進ツイスト 第６回：カーブと体のコントロール 第７回：片足で長く滑る 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン 第１５回：総合滑走
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しないが自身でインターネット他のメディアを利用してインラインスケートに関する情報を調べること。	授業への取り組み姿勢・態度、目標達成度で判断します。

（秋）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケート b)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。 　インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 　秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 [講義概要] 　インラインスケートの技術の応用技術であるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーを積極的に行います。学生の技術達成度によって、授業計画は変えていきます。	第１回：インラインホッケーの楽しみ方 第２回：パイロンテクニックその１　大きな動き 第３回：パイロンテクニックその２　小さな動き 第４回：ターン　スリーターン 第５回：ターン　モホークターン 第６回：基本的なストップ 第７回：ストップのバリエーション 第８回：ジャンプ 第９回：フォワードクロッシング　足運びの練習 第１０回：フォワードクロッシング 第１１回：バックワードクロッシングの初歩 第１２回：インラインホッケーリーグ戦 第１ 回 第１３回：インラインホッケーリーグ戦 第２ 回 第１４回：インラインホッケーリーグ戦 第３ 回 第１５回：インラインホッケーリーグ戦 第４回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない	授業への取り組み姿勢・態度、目標達成度で判断します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

（秋）	スポーツ･レクリエーション(インラインスケートb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目標にします。 [講義概要] 実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーション と用具あわせ（更衣不要ですがソックスが必要） 立ち方・歩き方・とまり方 第２回：「滑ることに慣れよう」ステップ 第３回：「滑ることに慣れよう」グライド 第４回：「からだを動かしてみよう」腕の使い方 第５回：「からだを動かしてみよう」ボディの使い方 第６回：「自由にからだを動かしてみよう」パイロンを使った練習 第７回：「自由にからだを動かしてみよう」ストックを使った練習 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン 第１５回：まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて印刷物を配布します。	授業への取り組み姿勢・態度、目標達成度で判断します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（秋）	スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーb)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
インラインホッケーのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 受講者は、原則としてインラインスケートが出来ることを条件とし、顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 色々なメンバーの組み合わせにより簡易ゲームを行う。 男子20名、女子20名を定員とする 受講者の様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．ガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．個人スキル練習 ４．簡易ゲーム練習① ５．簡易ゲーム練習② ６．個人スキル練習 ７．ゲーム（リーグ戦①） ８．ゲーム（リーグ戦②） ９．個人スキル練習 １０．2チームでゲーム練習① １１．2チームでゲーム練習② １２．個人スキル練習 １３．スキル別ゲーム① １４．スキル別ゲーム② １５．テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	受講態度、スキル上達度を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度設定は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。またウェルネスに関する情報を授業でプリントなどを利用して提供する。 主にトレーニングルームで行う。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する	1.ガイダンス 2.自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3.からだをほぐしてリラックス（ストレッチボール） 4.ストレッチングのススメ 5.自分の体重を使って筋力アップ 6.有酸素運動を理解しよう 7.きれいな姿勢のためのエクササイズ 8.ヨガとは 9.ヨガの基本ポーズ① 10.ヨガの基本ポーズ② 11.ヨガの基本ポーズ③ 12.バランスボールを使ったエクササイズ① 13.バランスボールを使ったエクササイズ② 14.ステップエクササイズ 15.春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。 遅刻・早退は減点の対象とする。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度設定は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。またウェルネスに関する情報を授業でプリントなどを利用して提供する。 主にトレーニングルームで行う。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する	1.夏休みの生活を振り返る 2.自分のからだチェック 3.ウォーキング① 4.ウォーキング② 5 ストレッチング＋引き締めエクササイズ① 6.ストレッチング＋引き締めエクササイズ② 7.バランスボール＋ステップエクササイズ① 8.バランスボール＋ステップエクササイズ② 9.リラックスヨガ① 10.リラックスヨガ② 11.話題のエクササイズに挑戦① 12.話題のエクササイズに挑戦② 13.話題のエクササイズに挑戦③ 14.からだをあたためる 15.秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。 遅刻・早退は減点の対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【授業内容】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 実技テストを行う。	1.ガイダンス 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.フォアハンドストロークの基本 4.フォアハンドストローク（ドライブ、スライス） 5.バックハンドストロークの基本 6.バックハンドストローク（ドライブ、スライス） 7.サービス＆レシーブ 8.ボレー＆スマッシュ 9.サーブ＆ボレー 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 11.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 12.ダブルスゲーム（3 ゲームマッチ） 13.ダブルスゲーム（5 ゲームマッチ） 14.実技テスト　ダブルスゲーム（1 セットマッチ） 15.実技テスト（予備日）ダブルスゲーム（1 セットマッチ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	重藤　誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【授業内容】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、シングルス、ダブルスのゲームを数多く行う。 試合を円滑に進めるための、ルールやマナーの理解を深める。 実技テストを行う。	1.ガイダンス及び実技 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.回り込みフォアハンド 4.アングルショット 5.ポーチ、ローボレー 6.スピンサービス、フラットサービス 7.シングルス（リーグ戦①） 8.シングルス（リーグ戦②） 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（3 ゲームマッチ） 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 ゲームマッチ） 11.ダブルス（リーグ戦①） 12.ダブルス（リーグ戦②） 13.ダブルス（リーグ戦③） 14.実技テスト　ダブルス（トーナメント①） 15.実技テスト（予備日）ダブルス（トーナメント②）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)_火３	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1の目的とし、次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図ることを第2の目的とする。 基本的には、初心者から中級レベルが４面にわかれて練習を行う。受講が決定した時点で名札を作成し、毎回出席を取る。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なメンバーの組み合わせにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．ガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．フォアハンドストローク（球出し） ４．バックハンドストローク（球出し） ５．ボレー＆スマッシュ（球出し） ６．サービス＆レシーブ ７．サービス＆レシーブ＆ラリー（ストレート） ８．サービス＆レシーブ＆ラリー（クロス） ９．ダブルスゲーム（3ポイント先取） １０．ダブルスゲーム（5ポイント先取） １１．ダブルスゲーム（2ゲーム先取） １２．ダブルスゲーム（4ゲーム先取） １３．ダブルスゲーム（1試合20分間） １４．１５．総合テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の参加度、態度、スキル上達度を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)_水 3、金 3	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1の目的とし、次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図ることを第2の目的とする。 基本的には、初心者から中級レベルが４面にわかれて練習を行う。受講が決定した時点で名札を作成し、毎回出席を取る。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なメンバーの組み合わせにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．ガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．フォアハンドストローク（球出し） ４．バックハンドストローク（球出し） ５．ボレー＆スマッシュ（球出し） ６．サービス＆レシーブ ７．サービス＆レシーブ＆ラリー（ストレート） ８．サービス＆レシーブ＆ラリー（クロス） ９．ダブルスゲーム（3ポイント先取） １０．ダブルスゲーム（5ポイント先取） １１．ダブルスゲーム（2ゲーム先取） １２．ダブルスゲーム（4ゲーム先取） １３．ダブルスゲーム（1試合20分間） １４．１５．総合テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の参加度、態度、スキル上達度を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)_水 3、金 3	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 秋学期からの履修者は、原則として硬式テニスのダブルスのゲームが出来ることを条件とし、顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．実技とガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．シングルスゲーム（順位決め） ４．シングルスゲーム（順位決め） ５．ダブルスゲーム（シングルス順位で組合せ） ６．ダブルスゲーム（順位決め） ７．ダブルスゲーム（リーグ戦①） ８．ダブルスゲーム（リーグ戦②） ９．ダブルスゲーム（リーグ戦③） １０．ダブルスゲーム（ポイントハンデ付） １１．ダブルスゲーム（スキルハンデ付） １２．ダブルスゲーム（トーナメント①） １３．ダブルスゲーム（トーナメント②） １４．ダブルスゲーム（トーナメント③） １５．総合テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の参加度、態度、スキル上達度を総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. サービス、ストローク等の練習。 4. ルールの確認。 5. 〃 6. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 技術練習。 11. 〃 12. 〃 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	授業への取り組む姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. サービス、ストローク等の練習。 4. ルールの確認。 5. 〃 6. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 技術練習。 11. 〃 12. 〃 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	授業への取り組む姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。春学期はトータルで 10,000円程度（ボール購入代）。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。	1. オリエンテーション 2. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 3. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 4. 学内にて実習（ショートアイアン） 5. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 6. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 7. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 8. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 9. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 10. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 11. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 12. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 13. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 14. ゴルフ練習場にて実技テスト 15. ゴルフ練習場にて実技テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業態度及び貢献度 20%、実技テスト 20%、技能の向上度 60%で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	小笠原　慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。秋学期はトータルで 10,000円程度（ボール購入代）。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。	1. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 2. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 3. 学内にて実習（ショートアイアン） 4. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 5. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 6. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 7. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 8. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 9. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 10. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイ・ウッド） 11. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 12. ゴルフ練習場にて実技テスト 13. ゴルフ練習場にて実技テスト 14. 学内にてルール学習 15. 学内にてルール学習
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業態度及び貢献度 20%、実技テスト 20%、技能の向上度 60%で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
コンディショントレーニングをするにあたって ・そもそも筋肉とは？ ・筋肉に大切な栄養素は？ ・男性と女性の筋肉の違いは？ ・減量のために必要なトレーニングや栄養は？ ・月経時のトレーニング法は？ などの様々な疑問を考え、検討していきます。 そして、 ・自分の体力の現状やコンディションを把握する ・トレーング機器の正しい使用法を理解し、安全なトレーニングを行うことのできる能力を身につける ・正しいトレーニング法を理解し、より効果的なトレーニングを行うことのできる能力を養う ・様々な疲労においての身体的運動を通したコンディショニング方法を理解する ことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。	1. ガイダンス 2. 登録票の作成 3. 現在の体力とコンディションを評価する 4. 各自の目的検索とトレーニング法の模索 5. トレーニング① 6. トレーニング② 7. トレーニング③ 8. トレーニング④ 9. トレーニング⑤ 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 身体の動きとコンディション④ 14. 身体の動きとコンディション⑤ 15. 計測とまとめコンディションの評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	受講態度、理解度などを統合して評価します

（秋）	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
コンディショントレーニングをするにあたって ・そもそも筋肉とは？ ・筋肉に大切な栄養素は？ ・男性と女性の筋肉の違いは？ ・減量のために必要なトレーニングや栄養は？ ・月経時のトレーニング法は？ などの様々な疑問を考え、検討していきます。 そして、 ・自分の体力の現状やコンディションを把握する ・トレーング機器の正しい使用法を理解し、安全なトレーニングを行うことのできる能力を身につける ・正しいトレーニング法を理解し、より効果的なトレーニングを行うことのできる能力を養う ・様々な疲労においての身体的運動を通したコンディショニング方法を理解する ことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。	1. ガイダンス 2. 登録票の作成 3. 現在の体力とコンディションを評価する 4. 各自の目的検索とトレーニング法の模索 5. トレーニング① 6. トレーニング② 7. トレーニング③ 8. トレーニング④ 9. トレーニング⑤ 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 身体の動きとコンディション④ 14. 身体の動きとコンディション⑤ 15. 計測とまとめコンディションの評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	受講態度、理解度などを統合して評価します

（春）	スポーツ･レクリエーション(コンディショントレーニング)_木2	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は男子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	１．　授業ガイダンス ２．　写真付登録票の作成 ３．　現在のコンディションの評価 ４．　二人組骨盤調整と姿勢①＆個別トレーニング ５．　二人組骨盤調整と姿勢②＆個別トレーニング ６．　二人組骨盤調整と姿勢③＆個別トレーニング ７．　二人組操体法①＆個別トレーニング ８．　二人組操体法②＆個別トレーニング ９．　二人組操体法③＆個別トレーニング １０．身体の動きとコンディション① １１．身体の動きとコンディション② １２．身体の動きとコンディション③ １３．骨格の位置と動き① １４．骨格の位置と動き② １５．自己のコンディションの評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	受講態度、理解度などを総合して評価する。

（秋）	スポーツ･レクリエーション(コンディショントレーニング)_木4	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は女子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。	１．　授業ガイダンス ２．　写真付登録票の作成 ３．　現在のコンディションの評価 ４．　二人組骨盤調整と姿勢①＆個別トレーニング ５．　二人組骨盤調整と姿勢②＆個別トレーニング ６．　二人組骨盤調整と姿勢③＆個別トレーニング ７．　二人組操体法①＆個別トレーニング ８．　二人組操体法②＆個別トレーニング ９．　二人組操体法③＆個別トレーニング １０．身体の動きとコンディション① １１．身体の動きとコンディション② １２．身体の動きとコンディション③ １３．骨格の位置と動き① １４．骨格の位置と動き② １５．自己のコンディションの評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	受講態度、理解度などを総合して評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 １．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっけかにする。 ２．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 　授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 　天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	１．　ガイダンス ２．　「楽しくプレーする」を考える① ３．　「楽しくプレーする」を考える② ４．　「シンプルにプレーする」を考える① ５．　「シンプルにプレーする」を考える② ６．　「プレーへの関わり」を増やす① ７．　「プレーへの関わり」を増やす② ８．　攻撃に人数をかける① ９．　攻撃に人数をかける② １０．動きながらボールを受ける① １１．動きながらボールを受ける② １２．１ つ２ つ先のプレーを考える① １３．１ つ２ つ先のプレーを考える② １４．一人で守備はできない① １５．一人で守備はできない② （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	トレーニングや試合への取り組む姿勢を重要視します。特に他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 １．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっけかにする。 ２．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 　授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。 　天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	１．　ガイダンス ２．　「楽しくプレーする」を考える① ３．　「楽しくプレーする」を考える② ４．　「シンプルにプレーする」を考える① ５．　「シンプルにプレーする」を考える② ６．　「プレーへの関わり」を増やす① ７．　「プレーへの関わり」を増やす② ８．　攻撃に人数をかける① ９．　攻撃に人数をかける② １０．動きながらボールを受ける① １１．動きながらボールを受ける② １２．１ つ２ つ先のプレーを考える① １３．１ つ２ つ先のプレーを考える② １４．一人で守備はできない① １５．一人で守備はできない② （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	トレーニングや試合への取り組む姿勢を重要視します。特に他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（春）	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	西川　誠太

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 ２．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。	1.　ガイダンス 2.　ボールを飛ばす技術①、スモールサイドゲーム 3.　ボールを飛ばす技術②、スモールサイドゲーム 4.　ボールを受ける技術①、スモールサイドゲーム 5.　ボールを受ける技術②、スモールサイドゲーム 6.　ボールを運ぶ技術①、スモールサイドゲーム 7.　ボールを運ぶ技術②、スモールサイドゲーム 8.　ボールを奪う技術①、スモールサイドゲーム 9.　ボールを奪う技術②、スモールサイドゲーム 10.　技術・戦術トレーニングの理論と実践① 11.　技術・戦術トレーニングの理論と実践② 12.　サッカーの歴史、ルール 13.　ゲーム実践（リーグ戦） 14.　ゲーム実践（リーグ戦） 15.　ゲーム実践（リーグ戦）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜指示する。	実践力（40%）、授業への参加度（40%）、グループへの貢献度（20%）を総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	西川　誠太

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ １．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 ２．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。	1.　ガイダンス 2.　ボールフィーリング、スモールサイドゲーム 3.　４つの技術要素の確認①、スモールサイドゲーム 4.　４つの技術要素の確認②、スモールサイドゲーム 5.　技術・戦術トレーニングの理論と実践① 6.　技術・戦術トレーニングの理論と実践② 7.　グループ・チーム戦術① 8.　グループ・チーム戦術② 9.　グループ・チーム戦術③ 10.　サッカーの歴史、ルール 11.　ゲーム実践（リーグ戦） 12.　ゲーム実践（リーグ戦） 13.　ゲーム実践（リーグ戦） 14.　ゲーム実践（リーグ戦） 15.　ゲーム実践（リーグ戦）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜指示する。	実践力（40%）、授業への参加度（40%）、グループへの貢献度（20%）を総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（秋）	スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックス b)	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　スポーツ型デトックスでは、エクササイズを行うことにより身体の調整を行い、代謝機能を高めるとともに老廃物をスムーズに排泄できる身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。また、この授業内で行うエクササイズは、いずれも自分自身の心身と向きあったり、楽しんで行うことが目的です。この授業を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○　ポール＆筋コンディショニング：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと身体を調整します。また、コアコンディショニングでは、簡単な運動で体幹部の筋肉を鍛えます。 ○　骨盤調整エクササイズ：骨盤をゆるめ→整える運動を行うことで、身体の歪みの調整や体幹の調整とともに、デトックスしやすい身体づくりを目指します。 ○　ベーシックヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と身体を調和させるとともに、心身のリフレッシュを行います。 【準備するもの】 運動のできるウェア、タオル、水またはお茶	1　スポーツ型デトックスについて 　ポール＆コアコンディショニング① 2　ポール＆コアコンディショニング② 3　ポール＆コアコンディショニング③ 4　ポール＆コアコンディショニング④ 5　ポール＆コアコンディショニング⑤ 6　骨盤調整エクササイズ① 7　骨盤調整エクササイズ② 8　骨盤調整エクササイズ③ 9　骨盤調整エクササイズ④ 10　骨盤調整エクササイズ⑤ 11　ベーシックヨーガ① 12　ベーシックヨーガ② 13　ベーシックヨーガ③ 14　ベーシックヨーガ④ 15　ベーシックヨーガ⑤
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	平常点（90%）、授業への参加態度（10%）により評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

（春）	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、スポーツを通してもっと自分のことを知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. サービスとサーブレシーブの練習 5. シングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルスゲーム 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルスゲーム 11. ダブルスゲーム 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度（遅刻、服装、自主性、協調性など）と技術の向上度を総合して決めます。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、スポーツを通してもっと自分のことを知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度（遅刻、服装、自主性、協調性など）と技術の向上度を総合して決めます。

（春）	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	１．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成 ２． 実技授業の開始 用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて ３．ボールの打ち方・スイングの基本 ４．サーブ・レシーブの練習　簡易ゲーム ５．フォアーハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム ６．上記の復習 ７．カット・スマッシュ練習シングルスゲーム ８．グループ内でのシングルスリーグ戦 ９．上記に同じ 10．上記に同じ 11．各グループ同順位リーグ戦 12．上記に同じ 13．技能テスト 14．上記に同じ 15．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	平常点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	１．基本的技術の春学期の復習 ２．上記と同じ　ダブルスの動き ３．ダブルスの簡易ゲーム ４．上記と同じ ５．上記と同じ ６．日替わりでチーム編成をし、ダブルスリーグ戦 ７．上記と同じ ８．上記と同じ ９．固定チームを編成しチーム対抗戦 1 10．チーム対抗戦 2 11．チーム対抗戦 3 12．チーム対抗戦 4 13．技能テスト 14．上記に同じ 15．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	平常点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。 欠席４回以上の者に対しては、 評価の対象と しない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（秋）	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 卓球の基本技術を身につけ、ゲームを楽しむことを目標とする。生涯を通して健康を維持し、充実した生活を送る上で自分にあった続けられるスポーツを見つける手がかりとしてもらいたい。 〔講義概要〕 卓球の基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意すること。卓球にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うこと。	1.ガイダンス 2.卓球の基本技術（ボールの打ち方、スイングの確認） 3.卓球の基本技術（サーブ） 4.ゲームの進め方（シングルス） 5.シングルスゲーム 6.シングルスゲーム 7.ゲームの進め方（ダブルス） 8.ダブルスゲーム 9.ダブルスゲーム 10.ダブルスゲーム 11.チーム対抗戦 12.チーム対抗戦 13.チーム対抗戦 14.チーム対抗戦 15.チーム対抗戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。 遅刻・早退は減点の対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．フォアハンド・バックハンドの練習　　簡易ゲーム 5．サービス・レシーブの練習　　簡易ゲーム 6．これまでの復習 7．カット・スマッシュ 8．審判法とゲームの進め方　シングルスゲーム 9．シングルスゲーム 10．シングルスゲーム 11．ダブルスゲームの進め方 12．ダブルスゲーム 13．ダブルスゲーム 14．まとめ①（シングルスゲーム） 15．まとめ②（ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．復習　　基本練習 2．復習　　基本練習 3．シングルスゲーム 4．シングルスゲーム・リーグ戦 5．シングルスゲーム・リーグ戦 6．ダブルスゲーム 7．ダブルスゲーム・リーグ戦 8．ダブルスゲーム・リーグ戦 9．シングルス・トーナメント戦 10．ダブルス・トーナメント戦 11．ミックスダブルス 12．ミックスダブルス・リーグ戦 13．チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム） 14．チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム・ミックスダブルス） 15．総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてトレーニングは目的化される。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔講義概要〕授業最初に理論的な説明を行ってから、実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、スタビライゼーショントレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティートレーニング、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。 〔受講生への要望〕運動に適した服装、シューズを着用して授業に出席して下さい。また、初回の「1．オリエンテーション」において「トレーニングルーム利用者初級講習会」と同内容の講義を行います．この回を受けることによって同講習会を受講したことになります。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション（トレーニングルーム利用者初級講習会） 2.フィットネスチェック① 3 トレーニングプログラムの作成 4.ウォーミングアップの目的と方法 5.有酸素トレーニングの目的と方法 6.ウェイトトレーニング（上半身） 7.ウェイトトレーニング（下半身） 8.道具を使わない筋力トレーニング 9.スタビライゼーショントレーニングの実際 10.コーディネーショントレーニングの実際 11.アジリティートレーニングの実際 12.サーキットトレーニングの実際 13.プライオメトリックトレーニングの実際 14.競技力向上を目的としたトレーニング 15.フィットネスチェック②

テキスト、参考文献	評価方法
適宜資料を配布する。	〔評価方法〕平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニンを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	１．　ガイダンス ２．　トレーニング前計測・講義① ３．　トレーニング① ４．　トレーニング② ５．　トレーニング③ ６．　トレーニング④ ７．　トレーニング⑤ ８．　トレーニング⑥・講義② ９．　トレーニング⑦ １０．トレーニング⑧ １１．トレーニング⑨ １２．トレーニング⑩ １３．トレーニング⑪ １４．トレーニング⑫ １５．トレーニング後計測とまとめ （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。講義のときには資料を配布します。	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニンを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	１．　ガイダンス ２．　トレーニング前計測・講義① ３．　トレーニング① ４．　トレーニング② ５．　トレーニング③ ６．　トレーニング④ ７．　トレーニング⑤ ８．　トレーニング⑥・講義② ９．　トレーニング⑦ １０．トレーニング⑧ １１．トレーニング⑨ １２．トレーニング⑩ １３．トレーニング⑪ １４．トレーニング⑫ １５．トレーニング後計測とまとめ （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。講義のときには資料を配布します。	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。

（春）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	西川　誠太

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では、自らが設定した目標を達成するためのトレーニング理論と実践力を養うことを目的とします。それにより、生涯を通じた健康と体力の維持・増進のための知識の獲得を目指します。 【講義概要】授業の最初に理論的な説明を講義形式で行い、その後各自で作成したトレーニングプログラムの実践に移ります。主に有酸素トレーニング、筋力トレーニング、コンディショニングトレーニングを柱に授業を展開していきます。トレーニング開始前（2週目）と開始後（15週目）に身体組成の測定を行い、トレーニングの効果を検証します。 【履修上の注意事項】運動に適した服装、トレーニングルーム用のシューズ、汗を拭くためのタオル等を準備してください。また、講義資料を整理するファイルを用意することが望ましいです。ガイダンス時に既往歴を調査します。体調が思わしくない者は授業前に必ず申し出てください。	【授業計画】 1. ガイダンス 2. フィジカルチェック（プレ測定） 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・中間評価 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. フィジカルチェック（ポスト測定）・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料を適宜配布します。	講義やトレーニング実践での取り組む姿勢を総合的に評価します。遅刻および履修上の注意事項違反は減点対象とします。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	西川　誠太

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では、自らが設定した目標を達成するためのトレーニング理論と実践力を養うことを目的とします。それにより、生涯を通じた健康と体力の維持・増進のための知識の獲得を目指します。 【講義概要】授業の最初に理論的な説明を講義形式で行い、その後各自で作成したトレーニングプログラムの実践に移ります。主に有酸素トレーニング、筋力トレーニング、コンディショニングトレーニングを柱に授業を展開していきます。トレーニング開始前（2週目）と開始後（15週目）に身体組成の測定を行い、トレーニングの効果を検証します。 【履修上の注意事項】運動に適した服装、トレーニングルーム用のシューズ、汗を拭くためのタオル等を準備してください。また、講義資料を整理するファイルを用意することが望ましいです。ガイダンス時に既往歴を調査します。体調が思わしくない者は授業前に必ず申し出てください。	【授業計画】 1. ガイダンス 2. フィジカルチェック（プレ測定） 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・中間評価 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. フィジカルチェック（ポスト測定）・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料を適宜配布します。	講義やトレーニング実践での取り組む姿勢を総合的に評価します。遅刻および履修上の注意事項違反は減点対象とします。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

（秋）	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕 　トレーニングの目的は多岐にわたる。 例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてトレーニングは目的化される。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔講義概要〕 　授業最初に理論的な説明を行ってから、実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為のトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。 〔受講生への要望〕 　運動に適した服装、シューズを着用して授業に出席すること。トレーニング時にマシーン等に付着した汗を拭くためにタオル等は必ず持参すること。また、資料を整理するファイルを準備することが望ましい。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.フィットネスチェック① 3 トレーニングプログラムの作成 4.ウォーミングアップの目的と方法 5.有酸素トレーニングの目的と方法 6.ウェイトトレーニング（上半身） 7.ウェイトトレーニング（下半身） 8.道具を使わない筋力トレーニング 9.体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動） 10.同上 11.同上 12.サーキットトレーニングの実際 13.同上 14.競技力向上を目的としたトレーニング 15.フィットネスチェック②

テキスト、参考文献	評価方法
適宜資料を配布する。	〔評価方法〕平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ a)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1.　世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要]　手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄えは問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7．　〃　ラウンド 1 8．　〃　ラウンド 2 9．ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	理解、態度で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ b)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1.　世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要]　手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄えは問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7．　〃　ラウンド 1 8．　〃　ラウンド 2 9．ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	理解、態度で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボールa）	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕　各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。経験者と初心者が混合する実技授業が予想されます。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.ゲームの特性・ルールの理解 3.オフェンス・ファンダメンタル①（ボールハンドリング） 4.オフェンス・ファンダメンタル②（シュート） 5.オフェンス・ファンダメンタル③（ドリブル） 6.オフェンス・ファンダメンタル④（パス） 7.チーム・オフェンス①（パス及びドリブルからの展開） 8.チーム・オフェンス②（ハーフコート２ON２、３ON３ブレイクダウン） 9.チーム・オフェンス③（ファストブレイク） 10.ディフェンス・ファンダメンタル①（オンボールディフェンス） 11.ディフェンス・ファンダメンタル②（オフボールディフェンス） 12.チーム・ディフェンス①（シェル・ディフェンス） 13.リーグ編成とイベントマネジメント 14.リーグ戦 15.リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	〔評価方法〕 平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バスケットボールb）	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つであり、プロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点である“遊び”を踏まえながら、チームスポーツとしての競技特性を体系的に理解し、バスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕　授業は初級者以上の経験者を対象に展開する。毎回の授業において、基礎技術の確認を行い、高度な戦略・戦術の習得を目指す。授業はゲームを中心に行うが、コンピューターソフトを用いた情報戦略にも挑戦していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認① 3.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認② 4.パッシング・ゲーム① 5.パッシング・ゲーム② 6.アーリー・オフェンス① 7.アーリー・オフェンス② 8.モーション・オフェンス① 9.モーション・オフェンス② 10.チーム・ディフェンス① 11.チーム・ディフェンス② 12.リーグ編成とイベントマネジメント 13.リーグ戦（ゲームプランの立案） 14.リーグ戦（スカルセッションの実施） 15.リーグ戦（総括）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布する。	〔評価方法〕 平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、受講生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。	1.ガイダンス 2.ファンダメンタルを身につけよう① 　ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3.ファンダメンタルを身につけよう② 　シュート・パス・ドリブル 4.ファンダメンタルを身につけよう③ 　シュート・パス・ドリブル 5.ファンダメンタルを身につけよう④ 　様々なシュート 6.ファンダメンタルを身につけよう⑤ 　ストップ・ターンの使い方 7.ファンダメンタルを身につけよう⑥ 　パスのもらい方、動きの中でのシュート 8.ファンダメンタルを身につけよう⑦ 　ディフェンスの基本 9.試合への応用 10.ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 11－15.ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。 遅刻・早退は減点の対象とする。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、受講生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。 ☆秋学期はゲーム中心。 毎週あるいは数週ごとチームを変えてゲームを行う。同じチームの仲間とコミュニケーションを取り、教えあい、バスケットボールのゲームを楽しみつつ、改善点などを見つけてレベルアップしていこう。	1.ファンダメンタルの確認 2.ファンダメンタルの確認 3.ゲームを楽しもう 4.ゲーム 5.ゲーム 6.ゲーム 7.ゲーム 8.ゲーム 9.ゲーム 10.ゲーム（リーグ戦 A①） 11.ゲーム（リーグ戦 A②） 12.ゲーム（リーグ戦 A③） 13.ゲーム（リーグ戦 B①） 14.ゲーム（リーグ戦 B②） 15.ゲーム（リーグ戦 B③）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。 遅刻・早退は減点の対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、スポーツを通してもっと自分のことを知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. ガイダンス 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる （シャトルの打ち上げ、シャトル拾い、トスノック） 3. ストロークの基本 （オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 4. クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン 5. 各ショットの復習 6. ロング＆ショートサービスとサービスリターンの練習 7. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法を覚える 8. ダブルスゲーム（基本フォーメーション） 9. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. ダブルス・リーグ戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度（遅刻、服装、自主性、協調性など）と技術の向上度を総合して決めます。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、スポーツを通してもっと自分のことを知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本的なストロークの練習 （オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 2. 各ショットの練習 （クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン） 3. 各ショットの復習 4. ロング＆ショートサービス、サービスリターンの練習 5. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法の確認 6. ダブルスゲーム（フォーメーションの確認） 7. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 8. ダブルス・リーグ戦 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	授業への参加態度（遅刻、服装、自主性、協調性など）と技術の向上度を総合して決めます。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1 オリエンテーション 2 バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3 バックハンドドライブの基本練習 4 バックハンドロブの基本練習 5 各種フットワークの基本練習 6 フォアハンドドライブの基本練習 7 オーバーヘッドストロークの基本練習 8 様々なサーブの基本練習 9 ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10 シングルスのゲーム（ルールの理解） 11 ダブルスの総合練習 12 シングルスの総合練習 13 団体戦の実施 14 技能テスト（サーブとバックハンドドライブ） 15 授業全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	藤野　和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解してもらい、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1 オリエンテーション 2 バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3 バックハンドドライブの基本練習 4 バックハンドロブの基本練習 5 各種フットワークの基本練習 6 フォアハンドドライブの基本練習 7 オーバーヘッドストロークの基本練習 8 様々なサーブの基本練習 9 ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10 シングルスのゲーム（ルールの理解） 11 ダブルスの総合練習 12 シングルスの総合練習 13 団体戦の実施 14 技能テスト（サーブとバックハンドドライブ） 15 授業全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。	1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. グリップ、スイング等の練習。 4. ルールの確認。ドライブ、ヘアピン等の練習 5. ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6. サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習、技能テスト 7. 基礎技術の総合的な練習 8. 〃 9. 〃 10. ゲーム形式の練習 11. 〃 12. 〃 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	授業への取り組む姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。	1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. グリップ、スイング等の練習。 4. ルールの確認。ドライブ、ヘアピン等の練習 5. ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6. サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習、技能テスト 7. 基礎技術の総合的な練習 8. 〃 9. 〃 10. ゲーム形式の練習 11. 〃 12. 〃 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	授業への取り組む姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	今野　廣隆

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 ［講義概要］ バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 ［受講者への要望］ 出席を重視するが、 履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	１オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。 ２基本技と動き（アンダー、オーバー)、パスゲーム１。 ３レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 ４レシーブとカバーリング （守りのフォーメーション)、 パスゲーム３。 ５基本技と動き（アンダーフローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ ６基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 ７チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション、サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 ８ゲーム、６チームによるリーグ戦。 ９上記と同じ。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。 13 上記と同じ。 14 上記と同じ。 15 テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	平常点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。 欠席４回以上の者に対しては、 評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	横矢　勇一

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	①　オリエンテーション ②　基本技術（レシーブとトス、サーブ） ③　基本技術（スパイク、ブロック） ④　基本技術の確認、ミニゲーム ⑤　フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥　フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦　フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧　技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭　ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価 ⑮　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田 清司　著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。また、遅刻･服装･準備など、学習態度(10%)もチェックします。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	横矢　勇一

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	①　オリエンテーション ②　基本技術とスキルの習得Ⅰ ③　基本技術とスキルの習得Ⅱ ④　基本技術の確認とスキルの実践 ⑤　フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥　フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦　フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧　技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬　リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭　ゲームを通してスキルおよび戦術の習得状況の評価 ⑮　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田 清司　著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。また、遅刻･服装･準備など、学習態度(10%)もチェックします。

（春）	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 　フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 　フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．オリエンテーション 　授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．ボールに親しむ　　簡易ゲーム 3．ボールコントロール　　ボールタッチ・ドリブル 4．ボールコントロール　　パス 5．1 対 1 の攻防 6．GK トレーニング 7．4 対 2① 8．4 対 2② 9．4 対 2③ 10．ルールの理解とゲームの進め方 11．リーグ戦 12．リーグ戦 13．リーグ戦 14．リーグ戦 15．リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 　フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 　フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．復習　　基本技術の確認 2．攻撃のグループ戦術 3．守備のグループ戦術 4．攻守の切りかえ 5．審判法ならびにゲーム運営 6．チーム練習① 7．リーグ戦 8．リーグ戦 9．チーム練習② 10．リーグ戦 11．リーグ戦 12．チーム練習③ 13．リーグ戦 14．リーグ戦 15．リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1.　フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2.　フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要]　通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望]「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．イントロダクション　フライングディスクとは 2．基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3．基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4．技能記録会　遠投　アキュラシー（的通し競技） 　セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5．集団ゲーム　アルティメット　導入 6．集団ゲーム　アルティメット　基礎 7．集団ゲーム　アルティメット　基礎 8．個人種目　ディスクゴルフ　導入 9．個人種目　ディスクゴルフ　展開１ 10．アルティメット　発展 11．アルティメット　発展 12．アルティメット　発展 13．個人種目　ディスクゴルフ　展開２ 14．個人総合練習 15．技能記録会　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	技術、態度で評価します。技術は記録会の結果や向上具合を加味します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1.　フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2.　フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3.　授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要]　通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望]「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．イントロダクション　フライングディスクとは 2．基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3．基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4．技能記録会　遠投　アキュラシー（的通し競技） 　セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5．集団ゲーム　アルティメット　導入 6．集団ゲーム　アルティメット　基礎 7．集団ゲーム　アルティメット　基礎 8．個人種目　ディスクゴルフ　導入 9．個人種目　ディスクゴルフ　展開１ 10．アルティメット　発展 11．アルティメット　発展 12．アルティメット　発展 13．個人種目　ディスクゴルフ　展開２ 14．個人総合練習 15．技能記録会　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	技術、態度で評価します。技術は記録会の結果や向上具合を加味します。態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（秋）	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しんだりするための実力をつけることを目標とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション 2 アイスブレーキングとフリスビーの基本的な技術 3 バックハンドスロウの投げ方 4 バックハンドスロウを正確に投げよう 5 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 他の競技種目の紹介と体験（ガッツ） 9 他の競技種目の紹介と体験（ディスクゴルフ） 10 アルティメットのルールと楽しみ方 11 アルティメットの試合（簡単なルールで楽しむ） 12 アルティメットの試合（より高度なルールで楽しむ） 13 アルティメットの試合（チーム戦略を練る） 14 アルティメットの試合（リーグ戦１） 15 アルティメットの試合（リーグ戦 2）とまとめ 各回のテーマは新しく導入するポイントで、それまで行った基本的練習を毎回行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	授業への取り組み姿勢・態度、目標達成度で評価します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 欧米では、今も身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。日本でも、生涯スポーツとして、幼稚園児から高齢者まで幅広く踊られています。 目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽にのって体を動かす楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び、柔軟な体づくりをします。音楽にのって楽しく踊るための、正しい技術を学習します。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。（ただし、ジーンズ、半ズボン不可）	1. オリエンテーション　ボールルームダンスとは 2. 正しい立ち方、歩き方 3. 手及び腕の使い方 4. 体の各部分の使い方 5. 回転動作の学習 6. ラテン基礎編①、モダン基礎編① 7. ラテン基礎編②、モダン基礎編② 8. ラテン基礎編③、モダン基礎編③ 9. ルンバ編①、ワルツ編① 10. ルンバ編②、ワルツ編② 11. ルンバ編③、ワルツ編③ 12. ジャイブ編①、タンゴ編① 13. ジャイブ編②、タンゴ編② 14. ジャイブ編③、タンゴ編③ 15. 各種目まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	ダンス技術習得度と、受講態度によって評価します。 特に、受講態度を重要視します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b)	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 春学期にボールルームダンスの受講の続きになります。 前学期より自然に踊れることを目標とし、基本の復習、さらに高度なステップを学んでいきます。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、バランスのよい筋肉をつけていきます。１０種目のうち、６種目を踊れるようにします。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。（ただし、ジーンズ、半ズボン不可）	1. 春期講座の振り返り 2. ラテン基礎編④、モダン基礎編④ 3. ラテン基礎編⑤、モダン基礎編⑤ 4. ラテン基礎編⑥、モダン基礎編⑥ 5. ルンバ編④、ワルツ編④ 6. ルンバ編⑤、ワルツ編⑤ 7. チャチャチャ編①、ヴェニーズワルツ編① 8. チャチャチャ編②、ヴェニーズワルツ編② 9. チャチャチャ編③、ヴェニーズワルツ編③ 10. リードとフォローについて 11. 体の動作の細かい動きと表現方法について 12. 立ち位置の確認、首の使い方 13. 世界においてのボールルームダンス 14. 他の種目について 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	ダンス技術習得度と、受講態度によって評価します。 特に、受講態度を重要視します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス a)	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3　ピラティス初級① 4　ピラティス初級② 5　ピラティス初級③ 6　ピラティス初級まとめ 7　ピラティス中級① 8　ピラティス中級② 9　ピラティス中級③ 10　ピラティス中級まとめ 11　ピラティス上級① 12　ピラティス上級② 13　動きの総まとめ① 14　動きの総まとめ② 15　まとめ及び自己評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	①　授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②　授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス b)	担当者	板垣　悦子

講義目的、講義概要	授業計画
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体つくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。 春学期からの継続履修者は復習しつつ更なる質的な理解を深めることを目的とする。	1　授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2　呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入。 3　ピラティス初級① 4　ピラティス初級② 5　ピラティス初級③ 6　ピラティス初級まとめ 7　ピラティス中級① 8　ピラティス中級② 9　ピラティス中級③ 10　ピラティス中級まとめ 11　ピラティス上級① 12　ピラティス上級② 13　動きの総まとめ① 14　動きの総まとめ② 15　まとめ及び自己評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	①　授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②　授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレーキングゲーム 3. イニシアチブゲーム１ 4. イニシアチブゲーム２ 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
ウィンドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を円滑に進めていくための人間関係の育成も目標としています。 この合宿生活で培った人間関係を秋学期の授業を通してさらに深めていくこともこの授業のもう一つの大きな目標としていますので、合宿と春学期のアウトドアレクリエーションを合わせて受講して欲しいと思います。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[集中授業]「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市（現地集合現地解散） 期日（予定）：2015 年 8 月 17 日（月）~21 日（金） 4 泊 5 日 費用：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内 11000 円を大学自動発行機で振込、5000 円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 1 日目　現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2 日目　セイルアップからセイリングポジション 3 日目　方向転換 4 日目　いろいろな方向へのセイリング 5 日目　レース・午後解散
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレーキングゲーム 3. イニシアチブゲーム１ 4. イニシアチブゲーム２ 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、サバイバルクッキング、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを 4 泊 5 日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。また、この授業では特徴的なプログラムとして状況適応能力や判断力を養うためのサバイバルプログラムを取り入れています。 この合宿において、主に海浜で行う自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[集中授業]「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2015 年 8 月 3 日（月）～7 日（金） 4 泊 5 日 費用：32000 円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内 30400 円を大学自動発行機で振込、1600 円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春 18 切符が利用できるスケジュールにしてあります。） 合宿日程 第 1 日目　現地集合・開講式 第 2 日目　スキンダイビング、シーカヤック 第 3 日目　スキンダイビング、地域研究 第 4 日目　サバイバルクッキング、海中清掃 第 5 日目　午前中解散
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（秋）	スポーツ･レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。見るだけではなく体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 アイススケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その１ 5 フォアストロークとバリエーション その２ 6 パイロンを利用した練習 7 バックストロークとバリエーション その１ 8 バックストロークとバリエーション その２ 9 ホッケーにチャレンジ その１ 10 フォアクロッシング その１ 11 フォアクロッシング その２ 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 ホッケーにチャレンジ　その２ 15 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	授業への取り組み姿勢・態度、目標達成度で判断します。

（冬季集中）	スポーツ･レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。 秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。	合宿について 時期： 2015 年 12 月予定　 3 泊 4 日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： 施設に近い民宿を利用 費用： 27500 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） (内、18600 円を自動発行機で振込、8500 円を現地徴収) 1 日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜 ： 講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目 午前： カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後： カーリング大会 夜 ： 講義「アイススケートの基本」 3 日目 午前： アイススケート 午後： アイススケート 夜 ： 懇親会 4 日目 午前： アイススケート 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大学スケート研究会編、改訂アイススケーティングの基礎、アイオーエム、2011.	授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション(バランストレーニング)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
各自のバランス感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、インラインホッケー、バランスボール、バランスボード、ストックワーク、ボールゲームなど色々な運動を行う予定である。 顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 スキー＆スノーボード合宿とのセット履修となっている。履修登録と同時に宿泊費予約分 18000 円を大学に納入すること。	１．ガイダンス ２．写真付登録票の作成とスキー・スノボー経験調査 ３．インラインスケート（基本滑走） ４．インラインスケート（長距離滑走） ５．インラインスケート（ストックワーク） ６．トランポリン・バランスボール・バランスボード ７．フットサル ８．テニス ９．バレーボール １０．バスケットボール １１．卓球 １２．フリスビー（アルティメット） １３．インラインホッケー １４．テスト １５．合宿ガイダンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	参加度、受講態度、上達度などを総合して評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション(スキー＆スノーボード)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。 宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で徴収し精算する。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。合宿のみ履修登録する場合には担当教員の許可が必要になる。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。顔写真1枚を貼った受講票を作成する。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。	合宿期間：2016年2月4-7日を予定している。 合宿場所：秋田県田沢湖スキー場 宿泊場所：秋田県立田沢湖スポーツセンター 合宿費用：宿泊費18000円（3泊6食）予定 （大学に履修登録決定次第納入すること） 以下は現地精算 保険・雑費1000円 （注意）リフト代（約5000円）・交通費・レンタル代は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。秋学期履修登録期間の掲示等に十分注意し確認すること。 ＊リフト代については雪マジ 19 などが利用できる場合がある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	参加度、受講態度、技術の進歩などを総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List*（大学HPのMyDOCから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習（ALC Net Academy）を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。 【重要】リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1. オリエンテーション。 各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 2. - 15. ・各担当者が指定した教科書による授業を実施 ・毎回 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を範囲とした語彙小テストを実施 ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○年度末(1月)に全員TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○教科書は大学 HP、大学書店の掲示、および第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964”（獨協大学全カリ英語語彙リスト）:HP の MyDOC ページから各自ダウンロード ○ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25)	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List*（大学HPのMyDOCから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習（ALC Net Academy）を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。 【重要】リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1. オリエンテーション。 各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 2. - 15. ・各担当者が指定した教科書による授業 ・毎回 *Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を範囲とした語彙小テストを実施 ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○教科書は大学 HP、大学書店の掲示、および第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964”（獨協大学全カリ英語語彙リスト）:HP の MyDOC ページから各自ダウンロード ○ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50)	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の３つの活動を行う。使用言語は英語。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. オリエンテーション 2. Unit 1 Reading 1 We all need a hero. 3. Unit 1 Reading 2 Everyday people changing the world. 4. Unit 1 Wrap-up 5. Unit 2 So much dead space 6. Unit 2 Now on stage: your home! 7. Unit 2 Wrap-up 8. Mid-term exam 9. Unit 3 The good teen 10. Unit 3 Bird by bird 11. Unit 3 Wrap-up 12. Unit 4 Can climate change make us sicker? 13. Unit 4 tips for a greener planet: and a happier, healthier you 14. Unit 4 Wrap-up 15. Spring term wrap-up, Q & A Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従うこと。 【重要】初回の授業で、より詳しいシラバスを配布し、春学期の授業の進め方などについて詳細に説明します。積極的な参加を期待しています。 1 月末に TOEIC®を全員受験します。各自計画的に学習して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Q: Skills for Success (Oxford University Press) 4 副教材として以下がある。 ・“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）: MyDOC から各自ダウンロード ・ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25) ・英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15% 課題 10%、中間テスト 25% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。春学期に引き続き、原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の３つの活動を行う。使用言語は英語。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、ディスカッションや、プレゼンテーション、ライティングなども織り交ぜた活動を、英語で行います。	1. オリエンテーション 2. Unit 5 Two styles of songwriting 3. Unit 5 What does it take to be a successful artist? 4. Unit 5 Wrap-up 5. Unit 6 Eating well: less science, more common sense 6. Unit 6 Anatomy of a nutrition trend 7. Unit 6 Wrap-up 8. Mid-term exam 9. Unit 7 From student t employee 10. Unit 7 Making my first post-college decision 11. Unit 7 Wrap-up 12. Unit 8 A tribe is discovered 13. Unit 8 The Kipunji 14. Unit 8 Wrap-up 15. Fall term wrap-up, Q & A Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従うこと。 1 月末に TOEIC®を全員受験します。各自計画的に学習して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Q: Skills for Success (Oxford University Press) 4 副教材として以下がある。 ・“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）: MyDOC から各自ダウンロード ・ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50) ・英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15% 課題 10%、中間テスト 25% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、トピック・センテンスやサポーティング・センテンス、効果的な接続語などを用いて、情報や出来事の説明、自分の考えなどについて読みやすい文章を書く練習をします。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートとの活発なフィードバックや意見交換が求められます。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業に出席しクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第１回 ガイダンス 第２回 英文メールの書き方 第３回 英文メールの書き方・タイピング練習 第４回 Punctuation and Capitalization 第５回 Paragraph Organization 第６回 Unity and Coherence 第７回 Brainstorming & Outlining 第８回 Descriptive Paragraphs 第９回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Narrative Paragraphs 第 11 回 Narrative Paragraphs 第 12 回 Process Paragraphs 第 13 回 Process Paragraphs 第 14 回 Process Paragraphs 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。 英文メールの書き方の教材は各自 My DOC よりダウンロードすること。 My DOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行う場合もある。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートとの活発なフィードバックや意見交換が求められます。	第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第１回 ガイダンス 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Classification Paragraphs 第４回 Classification Paragraphs 第５回 Classification Paragraphs 第６回 Cause and Effect Paragraphs 第７回 Cause and Effect Paragraphs 第８回 Cause and Effect Paragraphs 第９回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。 My DOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行う場合もある。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on a mid-term test, a final examination, and an in-class speaking evaluation. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – **Mid-term exam**; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- **In-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)	Classroom participation/homework 30% Mid-term exam 20% In-class speaking evaluation 20% Final exam 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2 回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – **Mid-term speaking evaluation** Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – **Final in-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)	Classroom participation/homework 30% In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%) Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English（リスニング Ia） ／(Academic Listening Strategies Ia) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の 1 年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEIC の聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。	Week 1　Course Introduction Week 2　Chapter 1: Part 2 Social Language Week 3　Chapter 1: Part 3 & Part 4 Broadcast English Week 4　Chapter 1: Part 5 Academic English Week 5　Review/Chapter 1 Test Week 6　Chapter 2: Part 2 Social Language Week 7　Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 8　Chapter 2: Part 5 Academic English Week 9　Review/Chapter 2 Test Week 10　Chapter 3: Part 2 Social Language Week 11　Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 12　Chapter 3: Part 4 Broadcast English Week 13　Review/Chapter 3 Test Week 14　Review/TOEIC exercises Week 15　Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	授業参加　20%　チャプターテスト　30%（10% x 3 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English（リスニング Ib） ／(Academic Listening Strategies Ib) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEIC の聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 ・1 月に全員 TOEIC® IP テストを受験します。計画的に授業外でも学習すること。	Week 1　Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language Week 2　Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 3　Chapter 4: Part 5 Academic English Week 4　Review/ Chapter 4 Test Week 5　Chapter 5: Part 2 Social Language Week 6　Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 7　Chapter 5: Part 5 Academic English Week 8　Review/Chapter 5 Test Week 9　Chapter 6: Part 2 Social Language Week 10　Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 11　Chapter 6: Part 4 Broadcast English Week 12　Chapter 6: Part 5 Academic English Week 13　Review/Chapter 6 Test Week 14　Review/TOEIC exercises Week 15　Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	授業参加　20%　チャプターテスト　30%（10% x 3 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English（リスニング I a） / (Academic Listening Strategies I a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEIC の聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。	Week 1 Course Introduction Week 2 Chapter 1: Part 2 Social Language Week 3 Chapter 1: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 4 Chapter 1: Part 5 Academic English Week 5 Review/Chapter 1 Test Week 6 Chapter 2: Part 2 Social Language Week 7 Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 8 Chapter 2: Part 5 Academic English Week 9 Review/Chapter 2 Test Week 10 Chapter 3: Part 2 Social Language Week 11 Chapter 3: Part 3 & Part 4 Broadcast English Week 12 Chapter 3: Part 5 Academic English Week 13 Review/Chapter 3 Test Week 14 Review/TOEIC exercises Week 15 Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2006). *Quest 1: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	授業参加 20% チャプターテスト 30%（10% x 3 回） 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English（リスニング I b） / (Academic Listening Strategies I b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聴いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEIC の聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 ・Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 ・1 月に全員 TOEIC® IP テストを受験します。計画的に授業外でも学習すること。	Week 1 Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language Week 2 Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 3 Chapter 4: Part 5 Academic English Week 4 Review/ Chapter 4 Test Week 5 Chapter 5: Part 2 Social Language Week 6 Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 7 Chapter 5: Part 5 Academic English Week 8 Review/Chapter 5 Test Week 9 Chapter 6: Part 2 Social Language Week 10 Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 11 Chapter 6: Part 4 Broadcast English Week 12 Chapter 6: Part 5 Academic English Week 13 Review/Chapter 6 Test Week 14 Review/TOEIC exercises Week 15 Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2006). *Quest 1: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	授業参加 20% チャプターテスト 30%（10% x 3 回） 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English (リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them • understand lecture organization • take effective notes while they listen • think critically about lectures and express their opinions about them orally or in writing	1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 2 5. Chapter 2 (continued) 6. Chapter 3 7. Chapter 3 (continued) 8. Midterm exam 9. Chapter 4 10. Chapter 4 (continued) 11. Chapter 5 12. Chapter 5 (continued) 13. Chapter 6 14. Chapter 6 (continued) 15. Review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Class participation (20%), homework assignments (15%), midterm exam (25%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them • understand lecture organization • take effective notes while they listen • think critically about lectures and express their opinions about them orally or in writing	1. Introduction 2. Chapter 9 3. Chapter 9 (continued) 4. Chapter 11 5. Chapter 11 (continued) 6. Chapter 12 7. Chapter 12 (continued) 8. Midterm exam 9. Chapter 13 10. Chapter 13 (continued) 11. Chapter 14 12. Chapter 14 (continued) 13. Chapter 15 14. Chapter 15 (continued) 15. Review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Class participation (20%), homework assignments (15%), midterm exam (25%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆ この科目は、1年生で履修した Academic Reading Strategies I (リーディングI)の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードした*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 ◆ 大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。	授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 1. オリエンテーション 2. – 14. ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* の指定箇所を範囲とする語彙小テスト 15. 春学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末(2016 年 1 月)に全員 TOEIC® を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
◆ 各担当教員指定教科書を購入して使用する。大学 HP、大学書店の掲示、および担当教員の指示に従うこと。 ◆ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List (獨協大学アカデミック語彙リスト)― MyDOC から該当範囲を各自ダウンロードする。 ◆ 辞書を用意すること。	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%となる。 ◆原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
◆ この科目はAcademic Reading Strategies I (リーディングI)の上位科目です。春学期に引き続き、原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 秋学期には、大きく以下の3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 各自が、MyDOCからダウンロードした*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 3. TOEIC対策の副教材を用いて、授業内に短時間のTOEIC対策を行う。(秋学期のみ実施) ◆ 秋学期は、学期末にTOEICテストが控えています。積極的な姿勢で勉強を続けて下さい。	授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 1. オリエンテーション 2. – 14. ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・*Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List* の指定箇所を範囲とする語彙小テスト ・共通の副教材を用いて、TOEIC®テスト対策 15. 春学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末(2016 年 1 月)に全員 TOEIC® を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
◆ 各担当教員指定教科書を購入して使用する。大学 HP、大学書店の掲示、および担当教員の指示に従うこと。 ◆ *5-Minute Quizzes for the TOEIC Test* (マクミラン) Book 1: 第 1 回の授業までに、大学書店で必ず購入しておくこと。 ◆ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List (獨協大学アカデミック語彙リスト)― MyDOC から該当範囲を各自ダウンロードする。 ◆ 辞書を用意すること。	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の 15%となる。 ◆原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。

08 年度以降	English（リーディング II a） ／(Academic Reading Strategies II a)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の 2 年次の学生を対象とする、クラス指定科目です。 1 年修了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう 5 限目に入っています。他学部の学生と英語を勉強できる貴重な機会ですので、積極的に授業に参加してください。授業は全て英語で実施します。 ARS I に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	Week 1　Course Introduction Chapter 1: Doing Business Internationally (1) Week 2　Chapter 1: Doing Business Internationally (2) Week 3　Chapter 1: Doing Business Internationally (3) Week 4　Chapter 1: Doing Business Internationally (4) Week 5　Chapter 1 Test Chapter 2: The Global Economy (1) Week 6　Chapter 2: The Global Economy (2) Week 7　Chapter 2: The Global Economy (3) Week 8　Chapter 2: The Global Economy (4) Week 9　Chapter 2 Test Chapter 3: Themes and Purposes (1) Week 10　Chapter 3: Themes and Purposes (2) Week 11　Chapter 3: Themes and Purposes (3) Week 12　Chapter 3: Themes and Purposes (4) Week 13　Chapter 3 Test Week 14　Final presentations (1) Week 15　Final presentations (2) ※上記の予定は多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hartmann, P. (2007). *Quest 2: Reading and Writing*. McGraw-Hill.	授業参加　10%　課題　10%　語彙テスト　15% 章末テスト　20%　期末発表　15%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English（リーディング II a） ／(Academic Reading Strategies II a)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の 2 年次の学生を対象とする、クラス指定科目です。 1 年修了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう 5 限目に入っています。他学部の学生と英語を勉強できる貴重な機会ですので、積極的に授業に参加してください。授業は全て英語で実施します。 ARS I に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Quiz を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。	Week 1　Course Introduction Chapter 5: States of Consciousness (1) Week 2　Chapter 5: States of Consciousness (2) Week 3　Chapter 5: States of Consciousness (3) Week 4　Chapter 5: States of Consciousness (4) Week 5　Chapter 5 Test Chapter 6: Abnormal Psychology (1) Week 6　Chapter 6: Abnormal Psychology (2) Week 7　Chapter 6: Abnormal Psychology (3) Week 8　Chapter 6: Abnormal Psychology (4) Week 9　Chapter 6 Test Chapter 7: Medicine and Drugs (1) Week 10　Chapter 7: Medicine and Drugs (2) Week 11　Chapter 7: Medicine and Drugs (3) Week 12　Chapter 7: Medicine and Drugs (4) Week 13　Chapter 7 Test Week 14　Final presentations (1) Week 15　Final presentations (2) ※上記の予定は多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hartmann, P. (2007). *Quest 2: Reading and Writing*. McGraw-Hill.	授業参加　10%　課題　10%　語彙テスト　15% 章末テスト　20%　期末発表　15%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際環境経済学科・国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプラニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、校正方法を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではなく英語で論理的文章を書く力を習得する重要な科目である。課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切にする姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイを分析し、学ぶべきルールを習得する姿勢も大切である。他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現もエッセイを書く時に使えるよう努力してほしい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Listing-Order Paragraphs 第４回 Listing-Order Paragraphs 第５回 Essay Organization 第６回 Essay Organization 第７回 Descriptive Essays 第８回 Descriptive Essays 第９回 Descriptive Essays 第 10 回 Descriptive Essays 第 11 回 Opinion Essays 第 12 回 Opinion Essays 第 13 回 Opinion Essays 第 14 回 Opinion Essays 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。 My DOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行う場合もある。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際環境経済学科・国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプラニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、引用の使い方、校正方法を学び、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目である。春学期同様、課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させるプロセスを大切にする姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイの分析や、他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている 語彙や表現を用いるスキルの習得にも更に努力して もらいたい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス Review of Essay Organization 第２回 Review of Essay Organization 第３回 Definition Paragraphs 第４回 Definition Paragraphs 第５回 Definition Paragraphs 第６回 Argumentative Essays 第７回 Argumentative Essays 第８回 Argumentative Essays 第９回 Argumentative Essays 第 10 回 Argumentative Essays 第 11 回 Comparison / Contrast Essays 第 12 回 Comparison / Contrast Essays 第 13 回 Comparison / Contrast Essays 第 14 回 Comparison / Contrast Essays 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。 My DOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行う場合もある。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa) English 241-a / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take notes effectively as they listen • guess unknown words from context	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction to the course 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb) English 241-b / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures • understand how supporting ideas are related to main ideas • take notes effectively as they listen • guess unknown words from context	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction 2. Preview of topic 7, pre-listening tasks 3. Topic 7 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 8, pre-listening tasks 5. Topic 8 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 9, pre-listening tasks 7. Topic 9 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 10, pre-listening tasks 10. Topic 10 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 11, pre-listening tasks 12. Topic 11 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 12, pre-listening tasks 14. Topic 12 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	鷲麗美知　ゾラナ

講義目的、講義概要	授業計画
The course aims to help students improve their academic listening and note-taking skills. Students will listen to lectures, radio programs, speeches and interviews on various topics and take notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as topical discussions, vocabulary building exercises and short presentations will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u>: By the end of this course students should be able to: 1) identify the main ideas and supporting points in academic lectures, news broadcasts and interviews 2) take notes effectively as they listen 3) use critical thinking skills to synthesize, analyze and evaluate content from listening sources	Week 1: Listening to a talk *(The Psychology of First Impressions)* Week 2: Listening to a radio program *(Book Review of Blink by Malcolm Gladwell)* Week 3: Listening to a radio program (*You Are What You Eat)* Week 4: Listening to a podcast *(Food Tasters)* Week 5: Listening to a lecture *(Chasing Your Dreams)* Week 6: Listening to a speech *(The Benefits of Failure)* Week 7: Test I Week 8: Test Review; Listening to a talk *(Changing Expectations)* Week 9: Listening to an interview *(An Interview with Barbara Ehrenreich)* Week 10: Listening to a lecture *(Corporate Social Responsibility)* Week 11: Listening to a college seminar *(Personal Responsibility)* Week 12: Listening to a presentation *(Advertising Techniques)* Week 13:Test II Week 14:Test Review / TOEFL Listening Practice (I) Week 15: TOEFL Listening Practice (II)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Q: Skills for Success Listening & Speaking (Level 3) by Miles Craven and Kristin D. Sherman Oxford University Press ISBN-13: 978-0-19-475612-9	Class participation (20%)　Test I (40%)　Test II (40%) In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	鷲麗美知　ゾラナ

講義目的、講義概要	授業計画
The course aims to help students improve their academic listening and note-taking skills. Students will listen to lectures, radio programs, speeches and interviews on various topics and take notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as topical discussions, vocabulary building exercises and short presentations will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u>: By the end of this course students should be able to: 1) identify the main ideas and supporting points in academic lectures, news broadcasts and interviews 2) take notes effectively as they listen 3) use critical thinking skills to synthesize, analyze and evaluate content from listening sources	Week 1: Listening to an interview *(Advertising Ethics and Standards)* Week 2: Listening to a talk *(Financing a Dream)* Week 3: Listening to a report *(The Truth about the Loch Ness Monster)* Week 4: Listening to a report *(Do cities have personalities?)* Week 5: Listening to a description *(Buenos Aires, Beijing, and Dubai)* Week 6: Listening to a podcast *(Sudden Wealth)* Week 7: Test I Week 8: Test Review; Listening to an interview *(Happiness Breeds Success…and Money!)* Week 9: Listening to a lecture *(An Unusual Language)* Week 10:Listening to a report *(Message in a Bottle)* Week 11: TOEFL Listening Practice (I) Week 12: TOEFL Listening Practice (II) Week 13: Test II Week 14: Test Review; TOEFL Listening Practice (III) Week 15: TOEFL Listening Practice (IV)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Q: Skills for Success Listening & Speaking (Level 3) by Miles Craven and Kristin D. Sherman Oxford University Press ISBN-13: 978-0-19-475612-9	Class participation (20%)　Test I (40%)　Test II (40%) In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Marketing: Gender and spending habits Classes 5 to 7 - Marketing: Advertisements in everyday life Class 8 – Mid-term Examination Classes 9 to 11 - Science: Diet Classes 12 to 14 - Science: The effects of air pollution Class 15 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation 10%　Vocabulary quiz 10% Presentation 30%　Midterm exam 20% Final exam 30% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively.　We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Media Studies: News and modern technology Classes 5 to 7 - Media Studies: Themes on television Classes 8 to 10 - Linguistics: Slang Classes 11 to 13 - Linguistics: International English Classes 14 to 15 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation 20% Presentation 30%　Vocabulary quizz 10% Final exam 40% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa) English 311-a (Reading English for Specific Purposes –a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として通年履修してください。 ▼ 対象:経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は "Writing to communicate" です。クラスにより、Book 1, Book 2 またはBook 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▼初回授業での説明や資料に注意し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。	下記はモデルケースである。各教員により教材配置等が異なることがある。 1. オリエンテーション・コース紹介 ・各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 2. ― 14. ・指定教科書 Writing to communicate による授業 ・担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 15. 春学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
▼ 指定教科書 Writing to communicate. Book 1, Book 2 または Book 3 (Pearson) 大学書店の掲示に注意して該当する教科書を購入し、準備すること。 ▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。 ▼ 辞書を必ず用意すること。	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIb) /(Academic Reading and Writing Strategies IIIb) English 311-b (Reading English for Specific Purposes –b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として、春学期に続き通年履修してください。 ▼ 対象:経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は "Writing to communicate" です。クラスにより、Book 1, Book 2 またはBook 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	下記はモデルケースである。各教員により教材配置等が異なることがある。 1. オリエンテーション・コース紹介 ・各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 2. ― 14. ・指定教科書 Writing to communicate による授業 ・担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 15. 秋学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
▼ 指定教科書 Writing to communicate. Book 1, Book 2 または Book 3 (Pearson) 大学書店の掲示に注意して該当する教科書を購入し、準備すること。 ▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

13 年度以降	English（テーマ研究 a） / Selected Topics in Social Sciences a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科３年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。１～２年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを磨くことができます。 ▼春学期は、主に英語での図表の説明のしかたと表現の基礎を学び、グループごとにテーマを決めてアンケートを使ったミニリサーチを行います。データの分析を行い、適切な図表を使って調査結果を発表します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	授業計画については、各担当者から配布されるクラスシラバスを参照してください。以下は授業計画の一例です。 1. Course introduction; What is Social Science? 2-3. Describing graphs and tables 4-5. Preparation for a group presentation 6-7. Group presentations and discussions 8-9. Designing and conducting a group research (topic, research question, survey questions, data collection, data analysis) 10. Designing a graph/table 11. Preparation for a group presentation 12-13. Group presentations 14. Review of group presentations 15. Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
大学書店の掲示に注意して、該当する次のいずれかの指定教科書を購入し、準備すること。 • Global issues: Project organizers 3 (Oxford) • Numbers: Data and statistics for the non-specialist (Collins)	Active class participation 20%; Quizzes and tests 30%; Project assignments (group presentations) 50% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

13 年度以降	English (テーマ研究 b) / Selected Topics in Social Sciences b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
▼国際環境経済学科３年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。１～２年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを磨くことができます。 ▼秋学期は、春学期に習得した英語での図表の説明のしかたをさらに発展させ、グループごとに国際的な社会問題に関するテーマを選び、文献研究をもとに問題点を整理し、二次データを使って解決にむけた提案を考察します。ポスター発表と調査報告書を作成します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。	授業計画については、各担当者から配布されるクラスシラバスを参照してください。以下は授業計画の一例です。 1. Course introduction 2. Introduction to group research project on controversial social issues 3-6. Reading literature and developing a research question 7-9. Introduction to poster presentation and writing a research paper (e.g., organization, in-text citations, use of data) 10-11. Preparing for poster presentation 12. Poster presentation 13. Final exam 14-15. Revising and editing a research paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
大学書店の掲示に注意して、該当する次のいずれかの指定教科書を購入し、準備すること。 • Global issues: Project organizers 3 (Oxford) • Numbers: Data and statistics for the non-specialist (Collins)	Active class participation 20%; Quizzes and tests 30%; Project assignments (group poster presentation, research paper) 50% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	松岡　昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp

講義目的、講義概要	授業計画
With more and more businesses in Japan going global, more people with a good command of English are needed. Some business people read and write dozens of English emails daily, some take part in English-speaking meetings weekly or monthly. In view of the circumstances, this course aims to develop your practical English skills, especially, your skills of writing. You will first learn how to organize a paragraph, then, you will learn how to develop paragraphs. Your goal is to be able to write clear and communicative paragraphs. During the course (spring semester), you will have ten weekly assignments of writing as you learn with the textbook below, and at the end, a final paper.	1. Orientation: Paragraph Writing 2. Part 1: How to Organize a Paragraph Unit 1: Pre-writing 3. Unit 2: Drafting 4. Unit 3: Revising/Proof-reading 5. Part 2: How to Develop Paragraphs Unit 4: Narratives 6. Unit 4: Narratives 7. Unit 5: Description 8. Unit 5: Description 9. Review 10. Unit 6: Classification Unit 6: Classification 11. Unit 7: Contrast 12. Unit 7: Contrast 13. Unit 8: Problem Solving 14. Unit 8: Problem Solving 15. Review
テキスト、参考文献	評価方法
Thoughts into Writing (SEIBIDO)	Assignments (10 x 5 = 50 %), Final Paper (50%) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	松岡　昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp

講義目的、講義概要	授業計画
The fall semester aims to develop your writing skills further more so that you can write clearer and more communicative paragraphs, faster and in more detail than in the spring semester. You will continue to work on “How to Develop Paragraphs” using the textbook and have three small assignments. Also, you will challenge two big projects: “Introducing Japan” (Project 1) and “Talking about Your Future Plans” (Project 2). Project 1 is done by groups, and Project 2 by individuals. For these projects, you are expected to use all the skills you have learned from the textbook and assignments. For each project, you will have three weeks for preparation and then give a speech presentation in class.	1. Review: How to Organize and Develop Paragraphs 2. How to Develop Paragraphs Unit 9: Cause and Effect 3. Unit 9: Cause and Effect 4. Unit 10: Personal Opinion　Project 1 (Preparation 1) 5. Unit 10: Personal Opinion　Project 1 (Preparation 2) 6. Unit 11: Essay Writing　Project 1 (Preparation 3) 7. Unit 11: Essay Writing　Project 1 (Presentation) 8. Review 9. Unit 12: Email Message 10. Unit 12: Email Message　Project 2 (Preparation 1) 11. Unit 13: Resume Writing　Project 2 (Preparation 2) 12. Unit 13: Resume Writing　Project 2 (Preparation 3) 13. Unit 14: Writing a Review　Project 2 (Presentation) 14. Unit 14: Writing a Review 15. Review
テキスト、参考文献	評価方法
Thoughts into Writing (SEIBIDO)	Assignments (3X10 = 30%), Project (30+40 = 70 %) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、トピック・センテンスやサポーティング・センテンス、効果的な接続語などを用いて、情報や出来事の説明、自分の考えなどについて読みやすい文章を書く練習をします。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス 第２回 英文メールの書き方 第３回 英文メールの書き方・タイピング練習 第４回 Punctuation and Capitalization 第５回 Paragraph Organization 第６回 Unity and Coherence 第７回 Brainstorming & Outlining 第８回 Descriptive Paragraphs 第９回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Process Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Opinion Paragraphs
テキスト、参考文献	**評価方法**
坂本・古屋・Hubenthal. (2002). *パラグラフ・ライティング入門–Thoughs into Writing*. 成美堂. MyDOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行います。週に１度必ず確認すること。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	以下は授業計画の一例です。第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。 第１回 ガイダンス 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Classification Paragraphs 第４回 Classification Paragraphs 第５回 Classification Paragraphs 第６回 Cause and Effect Paragraphs 第７回 Cause and Effect Paragraphs 第８回 Cause and Effect Paragraphs 第９回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
坂本・古屋・Hubenthal. (2002). *パラグラフ・ライティング入門–Thoughs into Writing*. 成美堂. MyDOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行います。週に１度必ず確認すること。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	遠藤 朋之

講義目的、講義概要	授業計画
比較的簡単なテキストを使って、英語⇔日本語の“switch back and forth（行ったり来たり）” をスムーズに行う練習をする。テキストは、最初に reading のセクションがあり、その練習問題、そして、その内容にまつわる英作文のセクション、という構成になっている。このひとつの chapter を２コマかけてこなし、次の週に英作文を提出してもらう、ということを繰り返す。つまり、半期に６～７通ていどの英作文を書いてもらうことになる。 ここまで英語を勉強してきて、さらに「学ぶ」ことなど、ほとんどない。この授業の目的は、簡単な英語を使って、英語が「できる」ようにすることだ。なので、テキストは「わかる」ものを使う。つまり、「わかる」から「できる」に移行することを、この授業の目的とする。 授業に「いる」だけでは、単位は認定できない。「参加する」ことが重要だ。	1: Introduction 2~3: Chapter 1 4~5: Chapter 2 6~7: Chapter 3 8~9: Chapter 4 10~11: Chapter 5 12~13: Chapter 6 14~15: Chapter 7
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weaving It Together 2 (Heinle Cengage Learning)	テストと授業への参加度、チャプターが終わったごとの英作文。４回以上休んだ場合は、評価の対象とはならない。詳細は初回の授業で説明する。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	遠藤 朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期でやってきたことを、引き続き行う。「わかる」から「できる」へ。授業の進め方、そして、６～７通の英作文を書いてもらうことは変わらない。	1: 春学期末テストの返却、講評 2~3: Chapter 8 4~5: Chapter 9 6~7: Chapter 10 8~9: Chapter 11 10~11: Chapter 12 12~13: Chapter 13 14~15: Chapter 14
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。 Weaving It Together 2	これも春学期と同じ。

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「パラグラフ・ライティング」（ＰＷ）と呼ばれる内容を中心的な課題とする（PW を指定された）ライティングの選択科目です。従って、この課題に即したテキストを用いて、通年で段階的に、PW のスキル・アップを図ってゆくことを目指します。「和文英訳」とは根本的に異なる授業内容ですが、一方では、「エッセイ・ライティング」の基礎と位置付けることも可能です。かなり＜理屈っぽい＞内容も含み、理屈なしの実践は不可能と言えます。従って、実践の前にＰＷの基礎的な理屈の習得が不可欠です（ちなみに、この理屈は、獨協の「リーディング」との関連性が大です)。テキストでその理屈の習得と初歩的な実践、更にプリント教材で実践の補強、というのが授業の大まかな全体像です。 《TOEIC のスコアが 300 点を少し超えたくらいから 450 点くらいまでの学生を、授業の対象として想定しています》 【成績に関わる学習内容】　①テキストの練習問題（発表・努力点）　②プリント教材を用いた（センテンスの数が 10 前後の）PW の実践。　（計４回。英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしません。　③小テスト ＊ 詳しくは、「総合ガイダンス」で述べます 【注】 就職活動による欠席は一切認めません	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 1　総合ガイダンス（＊履修学生未確定）プリント配布 2　Chap. 1 “topic sentence” 3　Chap. 1（+プリント教材） 4　Chap. 2 “specific details” 5　Chap. 2（+プリント教材） 6　Chap. 3 “time order” 7　Chap. 3（+プリント教材）【PW1 提出】次回解説 8　Chap. 4 “space order” 9　Chap. 4（+プリント教材）【PW２提出】次回解説 10　Chap. 5 “process and direction” 11　Chap. 5（+プリント教材）【PW３提出】次回解説 12　Chap. 6 “cause and effect” 13　Chap. 6（+プリント教材）【PW４提出】次回解説 14　プリント教材 15　【小テスト】　授業のまとめ 【PW 提出】センテンス 10 前後の英文（計４回） ＊ ワープロ文字で提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hisatake Jimbo / Richard B. Murto, *Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs* (**Macmillan**)	PW(4 回)40%＋発表・努力 30%＋小テスト 30% 【原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない（遅刻は 0.5 回欠席）就活の欠席は認めない】

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「ライティングＩa」の続きです。 授業の方針は、原則的に、「ライティングＩa」と同じです。ただし、PW の提出が５回になります。 【秋学期から履修を希望する学生に】 第１回の授業になるべく出てください。授業の進め方とパラグラフ・ライティングの説明があります。 【春学期に履修した学生に】 第２回と第３回目の授業は、前期の復習内容になります。秋学期から履修する学生がいない場合でも復習的な内容にします。その場合、テキストにも触れますが、新たなプリント教材も用意します。 ＊ 詳しくは、第１回「総合ガイダンス」で述べます。 【注】 就職活動による欠席は一切認めません	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 1　総合ガイダンス（＊履修学生未確定）プリント配布 2　Chap. 1 “topic sentence”（+プリント教材） 3　Chap. 2 “specific details”（+プリント教材） 4　Chap. 7 “example” 5　Chap. 7（+プリント教材）【PW１提出】次回解説 6　Chap. 8 “definition” 7　Chap. 8（+プリント教材）【PW２提出】次回解説 8　Chap. 9 “classification” 9　Chap. 9（+プリント教材）【PW３提出】次回解説 10　Chap. 10 “comparison and contrast” 11　Chap. 10（+プリント教材）【PW４提出】次回解説 12　プリント教材 13　プリント教材　【PW５提出】次回解説 14　プリント教材 15　【小テスト】　授業のまとめ 【PW 提出】センテンス 10 前後の英文（計５回） ＊ ワープロ文字で提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hisatake Jimbo / Richard B. Murto, *Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs* (**Macmillan**)	PW(5 回)50%＋発表・努力 20%＋小テスト 30% 【原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない（遅刻は 0.5 回欠席）就活の欠席は認めない】

08 年度以降 07 年度以前)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
Eメールの普及によってライティングの重要性が高まってきた。この授業では、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。 まず、パラグラフの構造を学び、さらにさまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらいたい。 「畳の上の水練」という言葉があるように、ライティングもその方法を理解するだけではなく、実際に書くことではじめて技量が向上することをよく理解してもらいたい。 なお、授業では文章の要約、記事の見出しづけなども適宜行う予定でいる。学期中には数回の課題提出を求める。 熱意のある受講者を期待しています。	1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. Paragraph Structure 3. Examples & Writing 4. Types of Support 5. Examples & Writing 6. Brainstorming and Choosing a Topic 7. Examples & Writing 8. Writing a Topic Sentence 9. Examples &Writing 10. Making an Outline and Writing Support 11. Writing a Concluding Sentence 12. Unity 13. Examples & Writing 14. Coherence 15. まとめと確認
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kayoko Otani & Kay Husky, *Points to Paragraphs* (Macmillan Language House)	期末レポート(70%),提出物(15%),板書などの発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
ライティング I a に続いて、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフラフティングのスキルアップを図る。 さまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらいたい。 「畳の上の水練」という言葉があるように、パラグラフもその方法を理解するだけではなく、実際に書くことではじめて技量が向上することをよく理解してもらいたい。 なお、授業では文章の要約、記事の見出しづけなども頻繁に行う予定でいる。学期中には数回の課題提出を求める。 熱意のある受講者を期待しています。	1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. Subordination 3. Examples & Writing 4. Style 5. Examples & Writing 6. Descriptive Paragraph 7. Examples & Writing 8. Comparison/Contrast Paragraph 9. Examples & Writing 10. Classification Paragraph 11. Examples & Writing 12. Argumentative Paragraph 13. Examples & Writing 14. Examples & Writing 15. まとめと確認
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kayoko Otani & Kay Husky, *Points to Paragraphs* (Macmillan Language House)	期末レポート(70%),提出物(15%),板書などの発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	W. ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.	1. Introduction and course orientation. 2. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 3. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 4. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 5. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 6. Unit 1, Chapter 3: Personality 7. Unit 1, Chapter 3: Personality 8. Mid-term Speaking Test. 9. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 10. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 11. Unit 2, Chapter 5. Study strategies and learning goals. 12. Unit 2, Chapter 5. Study strategies and learning goals. 13. Unit 2, Chapter 6: Club activities. 14. Unit 2, Chapter 6: Club Activities 15. Final Speaking Test.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.	1. Class Participation: 20% 2. Homework Assignments: 25% 3. Mid-term Speaking Test: 15% 4. Final Speaking Evaluation: 15% 5. Final Written Examination: 25% *原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	W. ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.	1. Fall semester orientation 2. Unit 3, Chapter 7: Travel 3. Unit 3, Chapter 7: Travel 4. Unit 3, Chapter 8: Entertainment 5. Unit 3, Chapter 8: Entertainment 6. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 7. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 8. Mid-term speaking Test 9. Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 10. Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 11. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 12. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 13. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad 14. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad 15. Final Speaking Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.	1. Class participation: 20% 2. Homework Assignments: 25% 3. Mid-term Speaking Test: 15% 4. Final Speaking Evaluation: 15% 5. Final Written Examination: 25% *原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a)/ (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking skills course intended to provide students with the opportunity to use the English they have already acquired in challenging and meaningful conversation activities. During the first semester, students will learn and practice conversation strategies that can contribute to their fluency and increase their confidence in their speaking abilities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Orientation Lesson 2 Unit 1 Self Introductions Lesson 3 Unit 1 Strategies/Listening/Conversations Lesson 4 Unit 2 Family. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 2 Family. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 3 Shopping. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 3 Shopping. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 4 Food. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 4 Food. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 5 Music. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 5 Music. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 6 Free Time. Vocab./Key Questions Lesson 13 Unit 6 Free Time. Strategies/Conversations Lesson 14 General Review. Units 1-6 Lesson 15 Test Preparation and Practice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011	Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking course intended to provide students with the opportunity to add to the conversation strategies that were introduced in the first semester and use them in a variety of speaking activities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Course Overview and Strategy Review Lesson 2 Unit 7 Travel. Vocabulary/Key Questions Lesson 3 Unit 7 Travel. Strategies/Conversations Lesson 4 Unit 8 Sports. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 8 Sports. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 9 Friends. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 9 Friends. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 10 Work. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 10 Work. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 11 Movies. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 11 Movies. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 12 Personal Tech. Vocabulary/Key Questions Lesson 13 Unit 12 Personal Tech. Strategies/ Conversations Lesson 14 General Review. Units 7-12 Lesson 15 Test Preparation and Practice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011	Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	M. H. ウィキンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and everyday situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting. The material will mainly come from the textbook, but other materials may be used. We will conduct all class activities in English.	Week1: Class Introductions (Unit 0) Week2: Meeting people (Unit 1 Week3: Personal Information (Unit 1) Week4: Describing People (Unit 2) Week5: Daily Activities and Routines (Unit 3) Week6: Finish Unit 3 Week7: Midterm Project Week8: Talking about locations (Unit 4) Week9: Finish Unit 4 Week10: Giving directions (Unit 5) Week11: Describing past events (Unit 6), Debate Week12: Talking about weekends (Unit 6) Week13: Talking about weekends (Unit 6) Week14: Practice for presentations Week 15: Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Homework 20%　Class participation 20% Midterm Project 30%　Final Project 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X. ***If you are more than 15 minutes late three times, it will count as one absence.*** ***If you miss a class, please contact your classmate or the instructor to learn what you missed.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	M. H. ウィキンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and everyday situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting. The material will mainly come from the textbook, but other materials may be used. We will conduct all class activities in English.	Week 1: Re-introduction Week 2: Jobs (Unit 7) Week 3: Entertainment (Unit 8) Week 4: Invitations (Unit 8) Week 5: Activities and making plans (Unit 9) Week 6: Activities and making plans (Unit 9) Week 7: Midterm Exam Week 8: Shopping (Unit 10) Week 9: More shopping (Unit 10) Week 10: Describing processes, cooking (Unit 11) Week 11: Finish processes and cooking (Unit 11) Week 12: Movie Scripts Week 13: Music (Unit 12) Week 14: More Music (Unit 12) Week 15: Final Project
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Homework 20%　Class participation 20% Midterm Project 30%　Final Project 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X. ***If you are more than 15 minutes late three times, it will count as one absence.*** ***If you miss a class, please contact your classmate or the instructor to learn what you missed.***

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on a mid-term test, a final examination, and an in-class speaking evaluation. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – **Mid-term exam**; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- **In-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)	Classroom participation 20% Vocabulary quiz 10% Mid-term exam 20% In-class speaking evaluation 20% Final exam 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	R. J. パルカ

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。　練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2 回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – **Mid-term speaking evaluation** Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – **Final in-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)	Classroom participation/homework 30% In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%) Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / （Speaking in Academic Contexts I a） English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of academic topics. Emphasis will be placed on using vocabulary words, conversation strategies and expressions to help learners develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope students will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that the students' conversations will be more attention grabbing.	Week 1: Introduction Week 2-3: Meeting your Classmates Week 4-5: Talking to your Teacher Week 6-7: Personality: Knowing yourself Week 8: Mid-term In-Class Speaking Evaluations -Vocabulary quizzes Week 9-10: Talking about School Week 11-12: Study Strategies and Learning Goals Week 13-14: Club Activities Week 15: Final In-class Speaking Evaluations -Vocabulary quizzes
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts 1, (Dokkyo University)	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent Mid-term Speaking evaluations: 30 percent Final Speaking Evaluation: 30 percent Attendance and Class participation: 20 percent *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'*

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / （Speaking in Academic Contexts I b） English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of high interest topics. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help learners develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope students will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that the students' conversations will be more attention grabbing.	Week 1: Welcome back Week 2-3: Travel Week 4-5: Entertainment Week 6-7: Part-time Jobs Week 8: Mid-term In-Class Speaking Evaluation -Vocabulary quizzes Week 9-10: Choosing your Career Week 11-12: Job Interviews Week 13-14: Studying Abroad Week 15: Final In-Class Speaking Evaluation -Vocabulary quizzes
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts 1, (Dokkyo University)	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent Mid-term Speaking evaluations: 30 percent Final Speaking Evaluation: 30 percent Attendance and Class participation: 20 percent *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'*

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Summarizing Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Academic questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Voice inflection Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15 – Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	40% - Participation 30% - Mid-term speaking test (in pairs) 30% - Final speaking test In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Academic questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Voice inflection Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15 – Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	40% - Participation 30% - Mid-term speaking test (in pairs) 30% - Final speaking test In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II a) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students plan, write and deliver in-class presentations on a variety of stimulating and timely topics. Students will be guided on how to express their opinions on important ideas and issues and would be encouraged to listen carefully to other students' presentations as well as take part in active class discussions.	1: Introduction/Course Overview 2-4: Education 5: Presentations 6-8: Travel and Culture 9: Presentations 10-12: Health and Environment 13-14: Review 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Presenting Different Opinions, by Richard McMahon, NAN'UN-DO	Homework: 20%. In-Class Presentations: 60% Attendance and Class Participation: 20 % *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F' or 'X'.*

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II b) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	S. フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students plan, write and deliver in-class presentations on a variety of stimulating and timely topics. Students will be guided on how to express their opinions on important ideas and issues and would be encouraged to listen carefully to other students' presentations as well as take part in active class discussions	Welcome back 2-4: Society 5. Presentations 6-8: Relationships 9: Presentations 10-12: Media and Technology 13-14: Review 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Presenting Different Opinions, by Richard McMahon, NAN'UN-DO	Homework: 20 %. In-Class Presentations: 60 % Attendance and Class Participation: 20% *NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F' or 'X'.*

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II a) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	J．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Students are encouraged to use English every day in class, and to work together in groups, to learn to make a better presentation. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. Questions? e-mail sumipainting@yahoo.com	1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Present to the class 10 begin 3rd presentation 11. work on presentation 12. present first draft in groups 13. present to full class 14. final analysis 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text Please save the papers I give you in class.	Class work (Formal Presentations): 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II b) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	J．ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Students are encouraged to use English every day in class, and to work together in groups, to learn to make a better presentation. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. Questions? e-mail sumipainting@yahoo.com	1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10 begin midterm presentation 11. practice debating 12. formal debate 13. present to full class 14. present 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text. I will give you some papers.	Class work: 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is, in principle, an automatic F or X.

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa) English 311-a　Reading English for Specific	担当者	J．ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will help to further develop your reading skills and will present the steps to becoming a better writer as well. Focus will be placed on strategies for reading in academic contexts, and on the process of writing. Short assignments throughout the semester will allow you to measure your progress throughout the many steps toward becoming a better reader and writer. Focusing on the process of writing will allow you to gradually build your skills towards producing solid academic essays. ○Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全学共通カリキュラム英語科目のリーディングの重要な上位科目です。 ○選択科目です。春学期のみ、又は通年で履修すること。 ○外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以下の学生を対象とします。	Week 1　Course Introduction Week 2　Paragraph organization Week 3　Characteristics of good writing Week 4　The writing process Week 5　From paragraph to essay Week 6　From paragraph to essay Week 7　Thesis statements Week 8　Thesis statements Week 9　Introductory paragraphs Week 10　Introductory paragraphs Week 11　Concluding paragraphs Week 12　Concluding paragraphs Week 13　Body paragraphs Week 14　Body paragraphs Week 15　Final assignment due **原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。** In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Boardman & Frydenberg (2008). *Writing to Communicate 2: Paragraphs and Essays* (3rd. ed). Pearson Longman.	Class participation – 20% Reading assignments – 40% (4 x 10%) Writing assignments – 40% (4 x 10%)

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIb) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb) English 311-b　Reading English for Specific	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
この科目では、ARSI-II で習得したリーディングストラテジーを応用し、アカデミックエッセイを書くための分析的な読み方と、エッセイライティングの力を伸ばします。 秋学期は特に、Comparison and contrast essay （比較対照）と Persuasive essay（主張の論証）を書くことを目標に次の事柄を学びます。 ・　各エッセイタイプで使用頻度の高い表現と論文構成 ・　アカデミックライティングの言語的特徴 ・　文献の読み方（論文、新聞・インターネット記事） ・　文中引用のしかたと文献リストの作り方 ・　言い換えと要約のしかた ・　アウトライン作成、ドラフト作成、校正、最終稿作成までのプロセス MyDOC を活用して資料配布、連絡、学習活動を行いますので、定期的に確認できるよう設定をしてください。 ○Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全学共通カリキュラム英語科目のリーディングの重要な上位科目です。 ○選択科目です。秋学期のみ、又は通年で履修すること。 ○外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以下の学生を対象とします。	Week 1　Course Introduction Week 2　Ch.12 Comparison and Contrast (1) Model essay analysis, Graphic organizers Week 3　Ch.12 Comparison and Contrast (2) Structure and mechanics, Research Week 4　Ch.12 Comparison and Contrast (3) In-text citations and references Paraphrasing and summarizing Outline Week 5　Ch.12 Comparison and Contrast (4) First draft Week 6　Ch.12 Comparison and Contrast (5) Second draft Week 7　Ch.12 Comparison and Contrast (6) Editing and final draft Week 8　Ch.11 Persuasive Essay (1) Week 9　Ch.11 Persuasive Essay (2) Week 10　Ch.11 Persuasive Essay (3) Week 11　Ch.11 Persuasive Essay (4) Week 12　Ch.11 Persuasive Essay (5) Week 13　Ch.11 Persuasive Essay (6) Week 14-15 Ch.11 Editing and final draft (7)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Boardman & Frydenberg (2008). *Writing to Communicate 2: Paragraphs and Essays* (3rd. ed). Pearson Longman.	授業参加 20%　課題（リーディング 30%　ライティング 50%）　。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa) English 311-a (Reading English for Specific Purposes –a) 選択	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は "Writing to communicate Book 3" です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▽初回授業での説明を聞き漏らさないようにすること。	1. "Writing in English" & Chapter 1 2. Chapter 1 The Process of writing 3. Chapter 1 The Process of writing 4. Chapter 1 The Process of writing 5. Chapter 2 The cause and effect essay 6. Chapter 2 The cause and effect essay 7. Chapter 2 The cause and effect essay 8. Chapter 3 The problem and solution Essay 9. Chapter 3 The problem and solution Essay 10. Chapter 3 The problem and solution Essay 11. Chapter 4 Summarizing and responding 12. Chapter 4 Summarizing and responding 13. Chapter 4 Summarizing and responding 14. Chapter 4 Summarizing and responding 15. Review and Final assignment submission
テキスト、参考文献	**評価方法**
▽指定教科書　Writing to communicate. (Pearson) Book 3	Active Participation　20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam　30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIb) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIb) English 311-b (Reading English for Specific Purposes –b) 選択	担当者	中西　貴行

講義目的、講義概要	授業計画
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目（選択）です。 ▽ 対象：外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以上の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。秋学期のみ、または通年での履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。使用言語は原則として英語。 ▽ 指定図書は "Writing to communicate Book 3" です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▽初回授業での説明を聞き漏らさないようにすること。	1. Chapter 5 Responding to a travel story 2. Chapter 5 Responding to a travel story 3. Chapter 5 Responding to a travel story 4. Chapter 6 Two sides of an issue 5. Chapter 6 Two sides of an issue 6. Chapter 6 Two sides of an issue 7. Chapter 7 The first draft 8. Chapter 7 The first draft 9. Chapter 7 The first draft 10. Chapter 8 Doing research 11. Chapter 8 Doing research 12. Chapter 8 Doing research 13. Chapter 9 Revising and editing 14. Chapter 9 Revising and editing 15. Review and Final assignment submission
テキスト、参考文献	**評価方法**
▽指定教科書　Writing to communicate. (Pearson) Book 3	Active Participation　20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam　30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa) English 311-a (Reading English for Specific Purposes –a) 選択	担当者	藤田　登久子

講義目的、講義概要	授業計画
○Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全学共通カリキュラム英語科目のリーディングの重要な上位科目です。 ○選択科目です。春学期のみ、又は通年で履修すること。 ○外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以下の学生を対象とします。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。 ○指定図書 *Writing to communicate* は、模範的な文章を読み、英語の文章の構成を学びその上で書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。 1，2年次とは一味違う授業内容となります。リーディング活動とは英文和訳のことではなく、ライティング活動とは和文英訳のことではありませんので、積極的に学習して、リーディング力及びライティング力を高めていってください。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、グループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1 ガイダンス 2 Chap. 1 The organization of paragraphs 3 Chap. 1 The organization of paragraphs 4 Chap. 2 Characteristics of good writing 5 Chap. 2 Characteristics of good writing 6 Chap. 3 The writing process 7 Chap. 3 The writing process 8 Chap. 4 From paragraph to essay 9 Chap. 4 From paragraph to essay 10 Chap. 5 The thesis statement 11 Chap. 5 The thesis statement 12 Chap. 6 The introductory paragraph 13 Chap. 6 The introductory paragraph 14 Writing 15 まとめ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○指定教科書 *Writing to communicate* (Pearson) Book 2	○春学期、秋学期定期試験、授業中の小テスト、授業参加の姿勢、その他レポートなどが評価の対象となります。詳細はクラスで配布するシラバスを参照のこと。

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIb) /(Academic Reading and Writing Strategies IIIb) English 311-b (Reading English for Specific Purposes –b) 選択	担当者	藤田　登久子

講義目的、講義概要	授業計画
○Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全学共通カリキュラム英語科目のリーディングの重要な上位科目です。 ○選択科目です。秋学期のみ、又は通年で履修すること。 ○外国語学部（独・仏）、法学部（法律・総政・国関法）、経済学部（国環経）で、TOEICスコアがおおむね500点以下の学生を対象とします。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすることを目的とします。 ○指定図書 *Writing to communicate* は、模範的な文章を読み、英語の文章の構成を学びその上で書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1，2年次とは一味違う授業内容となります。リーディング活動とは英文和訳のことではなく、ライティング活動とは和文英訳のことではありませんので、積極的に学習して、リーディング力及びライティング力を高めていってください。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、グループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。	1 ガイダンス 2 Chap.7 The concluding paragraph 3 Chap.7 The concluding paragraph 4 Chap. 8 Body paragraphs 5 Chap. 8 Body paragraphs 6 Chap. 9 Process 7 Chap. 9 Process 8 Chap. 10 Classification 9 Chap. 10 Classification 10 Chap. 11 Persuasion 11 Chap. 11 Persuasion 12 Chap. 12 Comparison and contrast 13 Chap. 12 Comparison and contrast 14 Writing 15 まとめ 原則として4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○指定教科書 *Writing to communicate* (Pearson) Book 2	○春学期、秋学期定期試験、授業中の小テスト、授業参加の姿勢、その他レポートなどが評価の対象となります。詳細はクラスで配布するシラバスを参照のこと。

08 年度以降 07 年度以前	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者 : 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので学習量は特に多いことを理解すること。 第 1 回目の授業に参加して下さい。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験 (listening), 語彙テスト 1 ４．テキスト Day 6 模擬試験 (listening), 語彙テスト 2 ５．テキスト Days 9-10 模擬試験 (listening), 語彙テスト 3 ６．テキスト Day 11 模擬試験 (listening), 語彙テスト 4 ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 (reading), 語彙テスト 5 １０．テキスト Day 5 (reading), 語彙テスト 6 １１．テキスト Days 7-8 (reading), 語彙テスト 7 １２．テキスト Day 9 (reading), 語彙テスト 8 １３．テキスト Day 10 (reading), 語彙テスト 9 １４．リーディング実力診断テスト １５．アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術 : スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	積極的な授業参加と実力テスト 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内での実力語彙テスト 10%、期末テスト 30%。 **原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。**

08 年度以降 07 年度以前	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者 : 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。効果はあります。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので学習量は特に多いことを理解すること。 第 1 回目の授業に参加してください。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験 (listening), 語彙テスト 1 ４．テキスト Day 6 模擬試験 (listening), 語彙テスト 2 ５．テキスト Days 9-10 模擬試験 (listening), 語彙テスト 3 ６．テキスト Day 11 模擬試験 (listening), 語彙テスト 4 ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 (reading), 語彙テスト 5 １０．テキスト Day 5 (reading), 語彙テスト 6 １１．テキスト Days 7-8 (reading), 語彙テスト 7 １２．テキスト Day 9 (reading), 語彙テスト 8 １３．テキスト Day 10 (reading), 語彙テスト 9 １４．リーディング実力診断テスト １５．アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術 : スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	積極的な授業参加と実力テスト 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内での実力語彙テスト 10%、期末テスト 30%。 **原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。**

08 年度以降	English(コンテントⅱ) / (English Explorations)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
Although you will learn many new words in this class, this class is NOT about vocabulary learning. This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, independent research, online and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words: - What is Applied Linguistics? - What is a word? - How many English words are there? - What does it mean to *know* a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.	Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Applied Linguistics 3. What is a word? 4. Vocabulary Testing (This is not a test. This is a lesson about how to measure the number of words someone knows.) 5. Types of words: Content and function words 6. Types of word knowledge 7. Counting words: Lemmas and lexemes 8. Corpus Linguistics 9. Semantic relations between words 10. Word association 11. Vocabulary learning strategies 12. Vocabulary acquisition 13. Research projects 14. Research projects 15. Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Participation: 10%　Research project: 20% Vocabulary quizzes: 40%　Final exam: 30% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	English (コンテント iii) / (English Explorations)	担当者	飯島 優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1~4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 この English Explorations という科目は、言語や社会に関するひとつのテーマについて 1 学期間「英語で」学ぶことにより、テーマについての理解を深めながら、英語力と思考力を伸ばすことを目的としています。授業活動はすべて英語です。TOEIC450 点以上を受講生の英語力の目安としますが、積極的に英語を使い授業に参加する努力ができる学生であればその限りではありません。 コンテント iii クラスの主要テーマは「Critical Thinking in English」です。Critical thinking は毎日の生活や職業生活でも重要と考えられますが、特に大学での学びと研究には不可欠な思考法です。この科目では Critical thinking に関する基本用語と概念を理解し、身近な題材を使って、議論や主張とその論拠を批判的に分析し、大学での学びの中心的スキルであるリーディングとライティングへ応用する練習を行います。	第 1 回目の授業で具体的な授業内容についてクラスシラバスを配布しますので興味のある学生は出席してください。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 Introduction to the course 第 2 回 What is critical thinking? (1) 第 3 回 What is critical thinking? (2) 第 4 回 Recognising strong or sound arguments (1) 第 5 回 Recognising strong or sound arguments (2) 第 6 回 Recognising poor argument (1) 第 7 回 Recognising poor argument (2) 第 8 回 Persuasion through language or pressure (1) 第 9 回 Persuasion through language or pressure (2) 第 10 回 Detecting bias in academic research (1) 第 11 回 Detecting bias in academic research (2) 第 12 回 Putting it into practice – group project 第 13 回 Putting it into practice – group project 第 14 回 Putting it into practice – group project 第 15 回 Final exam

テキスト、参考文献	評価方法
Nukui & Brooks. (2007). *Critical Thinking: University Foundation Study Course Book (Transferable Academic Skills Kit Module 6)*. Garnet Education. MyDOC 上で授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行いますので、週に 1 度以上必ず確認してください。	積極的な授業活動への参加、課題、グループプロジェクト発表、期末試験などによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業において指示します。	原則として、４回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題テスト 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業において指示します。	原則として、４回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp

講義目的、講義概要	授業計画
社会のグローバル化に伴い、企業における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速３ words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として１回の授業で２つの章（chapter）をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3)「秒速３words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習（Parts 1-4）と解説 5) Reading Section の演習（Parts 5-7）と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として TOEIC 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。	１回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について ２回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel ３回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant ４回目：Chap 5: Shopping /「機能表現（定型句）」（その 1） ５回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip ６回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment ７回目：Review /「英語独習法」 ８回目：Chap 10: Sports /「機能表現（定型句）」（その 2） ９回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation /「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties /「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：TOEIC 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布	小テスト（5 点 x 10 回＝50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp

講義目的、講義概要	授業計画
企業のフローバル化に伴い、社会における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速３ words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として１回の授業で２つの章（chapter）をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3)「秒速３words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習（Parts 1-4）と解説 5) Reading Section の演習（Parts 5-7）と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として TOEIC 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。	１回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について ２回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel ３回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant ４回目：Chap 5: Shopping /「機能表現（定型句）」（その 1） ５回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip ６回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment ７回目：Review /「英語独習法」 ８回目：Chap 10: Sports /「機能表現（定型句）」（その 2） ９回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation /「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties /「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：TOEIC 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布	小テスト（5 点 x 10 回＝50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降	English(資格 III) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1~4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 TOEFL iBT は、国際的な英語能力試験で、大学レベルの英語を使用・理解する能力と、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの各スキルを組み合わせて、学術的な課題を遂行する能力を測定・評価する試験です。 このクラスでは、TOEFL iBT の各パートに必要な基本の test-taking strategies を理解し、実践する練習を繰返し行います。英語圏大学・大学院への留学に関心のある学生、高いレベルの知的活動で使える英語力を伸ばしたい学生に適したクラスです。TOEFL iBT を受験したことがない学生、どのようなテストかまだわからないという学生も歓迎します。 目安として、TOEIC 450 点以上の英語力、全カリ英語の Academic Reading Strategies I と Academic Writing I を既に履修済みか、平行履修していることが望ましいです。 学期中は MyDOC 上で授業に関する連絡、宿題・課題提示、資料配布、グループワークを行います。週に 1 度以上必ず確認してください。	第 1 回目の授業で具体的な授業内容についてクラスシラバスを配布します。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 Introduction to the course and TOEFL iBT 第 2 回 Practice Test 第 3 回 Listening 第 4 回 Listening 第 5 回 Reading 第 6 回 Reading 第 7 回 Writing (independent) 第 8 回 Writing (integrated) 第 9 回 Writing (integrated) 第 10 回 Speaking (independent) 第 11 回 Speaking (integrated) 第 12 回 Speaking (integrated) 第 13 回 Writing and speaking 第 14 回 Writing and speaking 第 15 回 Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Educational Testing Service. (2012). The Official Guide to the TOEFL Test with CD-ROM　4/e. McGraw-Hill.	積極的な授業活動への参加、課題、期末試験などによる総合評価。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	English(資格ＩＶ) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	M. J. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course will help students to prepare to take the IELTS (International English Language Testing System) exam. This exam originated in the U.K., but is now widely recognized around the world, including North America. Students will first be given an introduction to the contents of the exam. Then, each week students will learn both study strategies and test-taking strategies for improving their performance on the exam. They will have an opportunity to complete a large number of practice questions for all four sections of the test (listening, reading, writing, speaking), as well as to take a practice test. Although the course is primarily designed for students who actually intend to take the IELTS, it is also open to students who want to improve their general academic English skills. *This course is designed for students with TOEIC scores of 450 or above.	1. Introduction to the course / IELTS exam 2. Unit 1 3. Unit 1 (continued) 4. Unit 2 5. Unit 2 (continued) 6. Unit 3 7. Unit 3 (continued) 8. Unit 4 9. Unit 4 (continued) 10. Unit 5 11. Unit 5 (continued) 12. Unit 6 13. Unit 6 (continued) 14. Review 15. Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Class participation: 20%, Homework: 30%, Final exam: 50% 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	English（発音）／ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期 1 回のみです。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	Week 1　Course Introduction Chapter 2: Using a dictionary for pronunciation Week 2　Chapter 3: Consonant sounds and spellings Week 3　Chapter 1: Your pronunciation profile (recording) Week 4　Feedback sessions Week 5　Chapter 4: Syllables and word endings Week 6　Chapter 5: Stress in words Week 7　Chapter 6: Stress in longer words Week 8　Midterm speech presentations Week 9　Chapter 7: Rhythm in phrases and sentences Week 10　Chapter 8: Thought groups and focus words Week 11　Chapter 9: Intonation: Falling and rising tones Week 12　Chapter 10: Linking and connected speech Week 13　Tutorials Week 14　Final speech presentations Chapter 1: Your pronunciation profile (recording) Week 15　Review, Feedback sessions ※上記の予定は担当教員により多少内容･順番が変わることがあります。詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grant, L. (2010). *Well Said, Third Edition*. Cengage.	授業参加 30%　課題　10%　中間発表 10% 期末発表 20%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降	English（発音）／ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	三谷　裕美

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期 1 回のみです。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	Week 1　Course Introduction Chapter 2: Using a dictionary for pronunciation Week 2　Chapter 3: Consonant sounds and spellings Week 3　Chapter 1: Your pronunciation profile (recording) Week 4　Feedback sessions Week 5　Chapter 4: Syllables and word endings Week 6　Chapter 5: Stress in words Week 7　Chapter 6: Stress in longer words Week 8　Midterm speech presentations Week 9　Chapter 7: Rhythm in phrases and sentences Week 10　Chapter 8: Thought groups and focus words Week 11　Chapter 9: Intonation: Falling and rising tones Week 12　Chapter 10: Linking and connected speech Week 13　Tutorials Week 14　Final speech presentations Chapter 1: Your pronunciation profile (recording) Week 15　Review, Feedback sessions ※上記の予定は担当教員により多少内容･順番が変わることがあります。詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grant, L. (2010). *Well Said, Third Edition*. Cengage.	授業参加 30%　課題　10%　中間発表 10% 期末発表 20%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 a)/(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてる。 単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行う。 更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図る。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。	１．オリエンテーション、現在形、現在進行形 ２．現在形・現在進行形 ３．過去形 ４．過去形 ５．名詞 ６．名詞 ７．冠詞・代名詞 ８．冠詞・代名詞 ９．現在完了形 １０．現在完了形 １１．形容詞・副詞 １２．　未来形 １３．　比較級 １４．最上級 １５．総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar Explorer 2A (CENGAGE Learning)	授業態度(20%) 課題(10%) 小テスト(30%) 期末試験(40%)とする。原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 b)/(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてる。 単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行う。 更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図る。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。	１．オリエンテーション、接続詞 ２．副詞句 ３．動名詞・不定詞 ４．動名詞・不定詞 ５．関係代名詞 ６．関係代名詞 ７．助動詞 ８．助動詞 ９．慣用句 １０．受動態 １１．受動態 １２．間接話法 １３．仮定法 １４．仮定法 １５．総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar Explorer 2B (CENGAGE Learning)	授業態度(20%) 課題(10%) 小テスト(30%) 期末試験(40%)とする。原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 a)/(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、文章を正しく理解し、また自分の考えを正確に伝えるための基盤となる英文法のおさらいをします。 学生は単に教員の指示に従ってテキストの問題を解くことに終始するのではなく、その回の担当者となった学生が文法事項の説明をし、一部の問題の解説をすることになります。 一回の授業で進む範囲が広いので全てを扱うことができません。自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で解決できるように心がけて下さい。予習は必須です。 TOEICの得点が 300 点台後半までの学生が受講することが望ましい	1. オリエンテーション 2. Module 1: Nouns and articles 3. Module 1: Nouns and articles 4. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 5. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 6. Module 3: Prepositions 7. Module 3: Prepositions 8. Module 4: Adjectives and adverbs 9. Module 5: Present tenses 10. Module 6: Past tenses 11. Module 7: Present perfect 12. Module 8: Future forms 13. Module 9: Modal verbs 14. Module 10: Conditionals 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mark Foley, Diane Hall, *MyGrammarLab Intermediate B1/B2,* Pearson.	期末試験の結果（80%）＋ 授業の参加度（20%） 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とはなりません。

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 b)/(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	豊田　宣是

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、文章を正しく理解し、また自分の考えを正確に伝えるための基盤となる英文法のおさらいをします。 学生は単に教員の指示に従ってテキストの問題を解くことに終始するのではなく、その回の担当者となった学生が文法事項の説明をし、一部の問題の解説をすることになります。 一回の授業で進む範囲が広いので全てを扱うことができません。自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で解決できるように心がけて下さい。予習は必須です。 TOEICの得点が 300 点台後半までの学生が受講することが望ましいです。	1. オリエンテーション 2. Module 11: Word order and sentence patterns 3. Module 11: Word order and sentence patterns 4. Module 12: Verbs with -*ing* forms and infinitives 5. Module 12: Verbs with -*ing* forms and infinitives 6. Module 13: Reported speech 7. Module 13: Reported speech 8. Module 14: Relatives, particles and other clauses 9. Module 15: Linking words 10. Module 16: Passive forms 11. Module 17: Word combinations 12. Module 18: Word formation 13. Module 19: Formal and written English 14. Module 20: Spoken English 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mark Foley, Diane Hall, *MyGrammarLab Intermediate B1/B2,* Pearson.	期末試験の結果（80%）＋ 授業の参加度（20%） 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とはなりません。

08 年度以降 07 年度以前	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEIC の得点が 400 点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形・過去進行形 4. 動名詞、so, neither の用法 5. 現在完了形と現在完了進行形 6. 現在完了形と過去形 7. 6 回目の授業までのまとめ 8. 疑問文 9. 過去完了、過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞、時を表す節 11. 間接話法（１） 12. mustn't と don't have to,の用法、 had better と would rather の用法 13. 推量の表現、so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	English(基礎文法 b)/ (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEIC の得点が 400 点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法過去・不可算名詞 2. 不定詞、使役動詞 3. need+-ing ; have/get something done の用法 4. 関係詞 5. 間接疑問文 6. 必要・義務の表現、動詞句 7. 付加疑問・願望の表現（１）、可算名詞 8. 義務の表現 9. 不定詞（２）・動名詞（２） 10. 副詞・願望の表現（２） 11. 受動態（１） 12. 受動態（２） 13. 仮定法過去完了 14. 時制のまとめ 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　ドイツ語（Ia 基礎） ドイツ語 Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　ドイツ語（Ib 基礎） ドイツ語 Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（Ia 基礎） ドイツ語 Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（Ib 基礎） ドイツ語 Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 07年度以前	総合コース　ドイツ語（Ia 会話） ドイツ語 Ia（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD付き　スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 07年度以前	総合コース　ドイツ語（Ib 会話） ドイツ語 Ib（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD付き　スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　ドイツ語（IIa 基礎） ドイツ語 IIa（基礎）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と春学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　ドイツ語（IIb 基礎） ドイツ語 IIb（基礎）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（IIa 基礎） ドイツ語 IIa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と春学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（IIb 基礎） ドイツ語 IIb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（IIa 会話） ドイツ語 IIa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　ドイツ語（IIb 会話） ドイツ語 IIb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 07年度以前	ドイツ語（IIIa 会話） ドイツ語　IIIa（会話）	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 07年度以前	ドイツ語（IIIb 会話） ドイツ語 IIIb（会話）	担当者	H．W．ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　フランス語（Ia 基礎） フランス語 Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 1 回の授業で 2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第 5 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1.　ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2.　発音と綴り字の読み方 3.　第 1 課 4.　第 1 課 5.　第 2 課 6.　第 2 課 7.　第 3 課 8.　第 3 課 9.　第 4 課 10.　第 4 課 11.　第 5 課 12.　第 5 課 13.　まとめ 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　フランス語（Ib 基礎） フランス語 Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 1 回の授業で 2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第 6 課から第 10 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1.　第 6 課 2.　第 6 課 3.　第 7 課 4.　第 7 課 5.　第 8 課 6.　第 8 課 7.　第 9 課 8.　第 9 課 9.　第 10 課 10.　第 10 課 11.　annexe 12.　総合問題（bilan） 13.　まとめ 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　フランス語（Ia 総合Ｊ） フランス語 Ia（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ia 総合Ｊ）は日本人講師、(Ia 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（Ia 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この(Ia 総合Ｊ)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　フランス語（Ib 総合Ｊ） フランス語 Ib（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ib 総合Ｊ）は日本人講師、(Ib 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（Ib 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この(Ib 総合Ｊ)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　フランス語（Ia 総合Ｆ） フランス語 Ia（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ia 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（Ia 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　フランス語（Ib 総合Ｆ） フランス語 Ib（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ib 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（Ib 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　フランス語（IIa 基礎） フランス語 IIa（基礎）	担当者	Ｓ．ジュンタ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　ガイダンス、0 課 2.　1 課 3.　1 課 4.　2 課 5.　2 課 6.　3 課 7.　3 課 8.　4 課 9.　4 課 10.　5 課 11.　5 課 12.　6 課 13.　6 課 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社）	平常点（授業への積極的な参加、宿題、レポートなど）とテストで評価する。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　フランス語（IIb 基礎） フランス語 IIb（基礎）	担当者	Ｓ．ジュンタ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1.　ガイダンス 2.　7 課 3.　7 課 4.　8 課 5.　8 課 6.　9 課 7.　9 課 8.　10 課 9.　10 課 10.　11 課 11.　11 課 12.　12 課 13.　12 課 14.　まとめ 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社）	平常点（授業への積極的な参加、宿題、レポートなど）とテストで評価する。

08 年度以降 05~07 年度	総合コース　フランス語（IIa 総合Ｊ） フランス語 IIa（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この（IIa 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）	平常点と学期末試験

08 年度以降 05~07 年度	総合コース　フランス語（IIb 総合Ｊ） フランス語 IIb（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）	平常点と学期末試験

08 年度以降 05~07 年度	総合コース　フランス語（IIa 総合Ｆ） フランス語 IIa（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）	平常点と学期末試験

08 年度以降 05~07 年度	総合コース　フランス語（IIb 総合Ｆ） フランス語 IIb（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語（Ia/b 総合）に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（IIb 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）	平常点と学期末試験

08 年度以降 07 年度以前	フランス語（IIIa） フランス語 IIIa	担当者	C．パジェス

講義目的、講義概要	授業計画
フランス語の初級を終えた学生を対象とするクラスです。教科書の練習問題や録音された会話練習などを活用し、フランス語の理解力と表現方法をより高めていきます。特に重点をおきたいのは、現在フランスで使われている生きたフランス語を、学生の皆さんにマスターしてもらいたいことです。 授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げて、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。授業内容に沿ったビデオも使用し、フランスやフランス人の生活にも触れましょう。パリや各地方も紹介していきたいと思います。	1. イントロダクション 2. LEÇON 1-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 3. LEÇON 1-2 : Les commerces / Les prix / Les salutations 4. LEÇON 2-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 5. LEÇON 2-2 : Les pays - Les nationalités / Les rencontres 6. 復習 7. LEÇON 3-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 8. LEÇON 3-2 : Les pays - Les langues / La famille / La communication 9. LEÇON 4-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 10. LEÇON 4-2 : Les professions / L'emploi du temps 11. 復習 12. LEÇON 5-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 13. LEÇON 5-2 : La santé / La date / Les saisons 14. 前期まとめ 15. Bilan / Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
『Nouveau　EXPRESSION』初版 H. Takahashi 他著　第三書房　2013年 ISBN:978-4-8086-2194-0	平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%

08 年度以降 07 年度以前	フランス語（IIIb） フランス語 IIIb	担当者	C．パジェス

講義目的、講義概要	授業計画
フランス語の初級を終えた学生を対象とするクラスです。教科書の練習問題や録音された会話練習などを活用し、フランス語の理解力と表現方法をより高めていきます。特に重点をおきたいのは、現在フランスで使われている生きたフランス語を、学生の皆さんにマスターしてもらいたいことです。 授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げて、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。授業内容に沿ったビデオも使用し、フランスやフランス人の生活にも触れましょう。パリや各地方も紹介していきたいと思います。	1. 前期の復習 2. LEÇON 6-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 3. LEÇON 6-2 : L'alimentation / Faire des achats 4. LEÇON 7-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 5. LEÇON 7-2 : Le temps / Le lieu de résidence 6. 復習 7. LEÇON 8-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 8. LEÇON 8-2 : La cuisine / Au restaurant 9. LEÇON 9-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 10. LEÇON 9-2 : Les transports / Les directions 11. 復習 12. LEÇON 10-1 : Vocabulaire - Dialogue - Exercices 13. LEÇON 10-2 : Les loisirs / Que faites-vous le week-end ? 14. 後期まとめ 15. Bilan / Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
『Nouveau　EXPRESSION』初版 H. Takahashi 他著　第三書房　2013年 ISBN:978-4-8086-2194-0	平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　スペイン語（Ｉａ 文法） スペイン語 Ｉａ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の用法 ⑧　ser, estar 動詞の用法 ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の用法 ⑬　gustar 型動詞の用法 ⑭　gustar 型動詞の用法 ⑮　今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　スペイン語（Ｉｂ 文法） スペイン語 Ｉｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。	①　春学期の復習 ②　代名詞の用法（復習） ③　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用---再帰動詞 ⑦　動詞の活用---再帰動詞 ⑧　再帰動詞の用法 ⑨　動詞の現在形のまとめ ⑩　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫　現在分詞と過去分詞の用法 ⑬　受け身表現 ⑭　今学期の復習 ⑮　春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　スペイン語（Ｉａ 文法） スペイン語 Ｉａ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 原則としてスペイン語（Ｉａ会話）、Ｉａ（会話）とペアで履修することとなる。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の用法 ⑧　ser, estar 動詞の用法 ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　gustar 型動詞の用法 ⑭　gustar 型動詞の用法 ⑮　今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 07 年度以前	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 文法） スペイン語 Ｉｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 原則としてスペイン語（Ｉｂ会話）、Ｉｂ（会話）とペアで履修することとなる。	①　春学期の復習 ②　代名詞の用法（復習） ③　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用---再帰動詞 ⑦　動詞の活用---再帰動詞 ⑧　動詞の活用---再帰動詞 ⑨　動詞の現在形のまとめ ⑩　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫　現在分詞と過去分詞の用法 ⑬　受け身表現 ⑭　今学期の復習 ⑮　春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ｉａ 会話） スペイン語　Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉａ 文法）、Ｉａ（文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ文法）、Ｉａ（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉａ会話）、Ｉａ（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ文法）、Ｉａ（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社、およびプリント。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 会話） スペイン語　Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉｂ会話）、Ｉｂ（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社、およびプリント。	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	基礎コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法)、Ⅰb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 ⑭　比較表現 ⑮　今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	基礎コース　スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法)、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 **基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。	①　春学期の復習 ②　既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 未来形 ⑤　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪　命令表現 ⑫　命令表現 ⑬　接続法を使った表現 ⑭　接続法を使った表現 ⑮　今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）およびⅠb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 原則としてスペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）とペアで履修することを要望する。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 原則としてスペイン語（Ⅱb会話）、Ⅱb（会話）とペアで履修することを要望する。	① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修すること**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	総合コース　スペイン語（Ⅱb 会話） スペイン語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）の継続の授業である。 **基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象**としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修すること**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb 会話）、Ⅱb（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	スペイン語（Ⅲa 講読） スペイン語 Ⅲa（講読）	担当者	二瓶　マリ子

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	スペイン語（Ⅲb 講読） スペイン語 Ⅲb（講読）	担当者	二瓶　マリ子

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語Ⅲa（講読）の継続の授業である。 スペイン語I, IIを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	スペイン語（Ⅲa 会話） スペイン語 Ⅲa（会話）	担当者	M. サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08年度以降 07年度以前	スペイン語（Ⅲb 会話） スペイン語 Ⅲb（会話）	担当者	M. サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 会話）スペイン語Ⅲa（会話）の継続の授業である。 スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　中国語（Ｉａ　会話） 中国語Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1)中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2)履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１～２回　発音（１） ○声調　○単母音　○複母音　○子音 第３～４回　発音（２） ○鼻母音　○半３声　○声調の変化　○軽声　○儿化 ○声調の組合わせ 第５～６回　第１課　「校門で」 ○主語＋述語　○“是”構文　○人称代名詞　○疑問文 ○トレーニング１ 第７～８回　第２課　「廊下で」！ ○動詞述語文　○疑問詞　○“呢”の用法　○トレーニング２ 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　第３課　「キャンパスで」 ○指示代名詞　○連体修飾語　○形容詞述語文 ○“吧”の用法　○トレーニング３ 第１２～１３回　第４課　携帯を見ながら ○“有”の用法１　○反復疑問文　○数詞　○数を尋ねる ○トレーニング４ 第１４～１５回　第５課　「学生食堂で」 ○場所代名詞　○“有”の用法２　○副詞“也”“都” ○二重目的語　○トレーニング５ 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「はじめまして！ 中国語　」　喜多山幸子（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース　中国語（Ｉｂ　会話） 中国語Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１～２回　春学期の復習　第６課　「王先生の研究室で」 ○“在”の用法　○動詞の重ね型　○時を表す語の位置 ○年月日、曜日　○トレーニング６ 第３～４回　第７課　「コンビニで」 ○量詞　○完了の動態助詞“了”・文末の“了” ○願望などの助動詞　○トレーニング７ 第５～６回　第８課　「バス停で」 ○連動文　○時刻　○前置詞“在”　○“是”の省略 第７～８回　第９課　「放課後に」 ○可能を表す助動詞　○前置詞“跟”,“给” ○“主＋述”述語文　○トレーニング９ 第９回　中間試験　復習２「鈴木の一日」　補充説明 第１０～１１回　第１０課　「卓球中継を見ながら」 ○様態補語　○“过”の用法　○比較文“比”の用法 ○“喜欢”の用法　○トレーニング１０ 第１２～１３回　第１１課　「ディズニーランドで待ち合わせ」 ○進行を表す文　○簡単な方向補語　○選択疑問文 ○トレーニング１１ 第１４～１５回　第１２課　「カフェテラスで」 ○“是～的”の構文　○結果補語　○動作量、回数の位置 ○トレーニング１２ 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「はじめまして！ 中国語　」　喜多山幸子（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ｉａ　会話） 中国語Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1)中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2)履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１～２回　発音（１） ○声調　○単母音　○複母音　○子音 第３～４回　発音（２） ○鼻母音　○半３声　○声調の変化　○軽声　○儿化 ○声調の組合わせ 第５～６回　第１課　「校門で」 ○主語＋述語　○“是”構文　○人称代名詞　○疑問文 ○トレーニング１ 第７～８回　第２課　「廊下で」！ ○動詞述語文　○疑問詞　○“呢”の用法　○トレーニング２ 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　第３課　「キャンパスで」 ○指示代名詞　○連体修飾語　○形容詞述語文 ○“吧”の用法　○トレーニング３ 第１２～１３回　第４課　携帯を見ながら ○“有”の用法１　○反復疑問文　○数詞　○数を尋ねる ○トレーニング４ 第１４～１５回　第５課　「学生食堂で」 ○場所代名詞　○“有”の用法２　○副詞“也”“都” ○二重目的語　○トレーニング５ 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「はじめまして！ 中国語　」　喜多山幸子（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ｉｂ 会話） 中国語Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１～２回　春学期の復習　第６課　「王先生の研究室で」 ○“在”の用法　○動詞の重ね型　○時を表す語の位置 ○年月日、曜日　○トレーニング６ 第３～４回　第７課　「コンビニで」 ○量詞　○完了の動態助詞“了”・文末の“了” ○願望などの助動詞　○トレーニング７ 第５～６回　第８課　「バス停で」 ○連動文　○時刻　○前置詞“在”　○“是”の省略 第７～８回　第９課　「放課後に」 ○可能を表す助動詞　○前置詞“跟”,“给” ○“主＋述”述語文　○トレーニング９ 第９回　中間試験　復習２「鈴木の一日」　補充説明 第１０～１１回　第１０課　「卓球中継を見ながら」 ○様態補語　○“过”の用法　○比較文“比”の用法 ○“喜欢”の用法　○トレーニング１０ 第１２～１３回　第１１課　「ディズニーランドで待ち合わせ」 ○進行を表す文　○簡単な方向補語　○選択疑問文 ○トレーニング１１ 第１４～１５回　第１２課　「カフェテラスで」 ○“是～的”の構文　○結果補語　○動作量、回数の位置 ○トレーニング１２ 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「はじめまして！ 中国語　」　喜多山幸子（白水社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ｉａ　講読・文法） 中国語Ｉａ（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようにします。 【講義概要】 ①語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　中国語概論　**授業の進め方、履修上の注意、** 発音①、**基本母音発音** 第２回　第１課　我饿了　　発音② ○声調　○単母音　○複母音　○子音① 第３回　第２課　真好吃!　　発音③ ○子音②　○鼻母音　○主母音の省略　○声調の変化 第４回　第３課　多少钱?　　発音④ ○数詞　○儿化　○声調の組合わせ　○挨拶表現 第５～６回　第４課　我们都是学生。 ○“是”構文　○副詞“也”“都”　○閲読　○練習問題 第７～８回　第５課　你去哪儿? ○主語＋動詞＋目的語　○名乗り方　○疑問詞　○選択疑問文 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　第６課　你今年多大了 ○“的”の用法　○年月日、曜日 第１２～１３回　第７課　这个很好吃。 ○形容詞述語文　○比較を表す文　○反復疑問文　○指示代名詞 第１４～１５回　第８課　你家在哪儿? ○有（存在）　○在（所在）　○時刻と時間量 定期試験期間　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語への道」　内田慶市　他（金星堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ｉｂ　講読・文法） 中国語Ｉｂ（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。 注意 第１６課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もありますし、２年次にその内容を学習します。	第１～２回　春学期の復習　　第９課　我们在哪儿吃饭? ○前置詞　○経験を表す構文　○数量と語順　　○方位詞 第３～４回　第１０課　好一点儿了吗? ○主述述語文　○“了”の用法　○願望の助動詞 ○「少し」の表現 第５～６回　第１１課　我在看中国地图。 ○「～している」の表現　○連動文　○結果補語 第７回　中間試験　補充説明 第８～９回　第１２課　你会开车吗? ○「～できる」の表現　○必要・義務を表す助動詞 ○“是”～“的”の構文　　○“就”と“才”の用法 第１０～１１回　第１３課　谁教你们汉语? ○様態補語　○二重目的語を取る文　○受身表現 ○動詞の重ね型 第１２～１３回　第１４課　我把她送到车站。 ○存現文　○方向補語　○可能補語　○“把”の構文 第１４～１５回　第１５課 你一定能背得很好。 ○使役表現　○反語の言い方　○“又”と“再” 定期試験期間　期末試験 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語への道」　内田慶市　他（金星堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	基礎コース　中国語（Ⅱa　会話） 中国語Ⅱa（会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。 先生から説明を受けてください。 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　履修上の留意点の説明 第１課「打电话」　文法ポイント 第２回　第１課　復習読み練習とドリル 第３回　第２課「接风」　文法ポイント 第４回　第２課　復習読み練習とドリル 第５回　第３課「介绍」　文法ポイント 第６回　第３課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第４課　「交通工具」　文法ポイント 第８回　第４課　復習読み練習とドリル 第９回　第５課「换钱」　文法ポイント 第10回　第５課　復習読み練習とドリル 第11回　第６課「吃饭」　文法ポイント 第12回　第６課　復習読み練習とドリル 第13回　第７課「生病」　文法ポイント 第14回　第７課　復習読み練習とドリル 第15回　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	基礎コース　中国語（Ⅱb　会話） 中国語Ⅱb（会話）	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 第１５課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。	第１回　春学期復習　第８課　「交通工具」2　文法ポイント 第２回　第８課　復習読み練習とドリル 第３回　第９課「网上聊天儿」　文法ポイント 第４回　第９課　復習読み練習とドリル 第５回　第１０課「网上聊天儿」2　文法ポイント 第６回　第１０課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第１１課　「买东西」　文法ポイント 第８回　第１１課　復習読み練習とドリル 第９回　第１２課「爱好」 第10回　第１２課　復習読み練習とドリル 第11回　第１３課「坐火车」　文法ポイント　ドリル 第12回　第１３課　復習読み練習とドリル 第13回　第１４課「观光」 第14回　第１４課　復習読み練習とドリル 第15回　秋学期のまとめ 定期試験期間　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ⅱa　会話） 中国語Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　履修上の留意点の説明 第１課　「打电话」　文法ポイント 第２回　第１課　復習読み練習とドリル 第３回　第２課　「接风」　文法ポイント 第４回　第２課　復習読み練習とドリル 第５回　第３課　「介绍」　文法ポイント 第６回　第３課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第４課　「交通工具」　文法ポイント 第８回　第４課　復習読み練習とドリル 第９回　第５課　「换钱」　文法ポイント 第10回　第５課　復習読み練習とドリル 第11回　第６課　「吃饭」　文法ポイント 第12回　第６課　復習読み練習とドリル 第13回　第７課　「生病」　文法ポイント 第14回　第７課　復習読み練習とドリル 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ⅱb 会話） 中国語Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 第１５課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。	第１回　春学期復習　第８課　「交通工具」2　文法ポイント 第２回　第８課　復習読み練習とドリル 第３回　第９課　「网上聊天儿」　文法ポイント 第４回　第９課　復習読み練習とドリル 第５回　第１０課　「网上聊天儿」2　文法ポイント 第６回　第１０課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第１１課　「买东西」　文法ポイント 第８回　第１１課　復習読み練習とドリル 第９回　第１２課　「爱好」 第10回　第１２課　復習読み練習とドリル 第11回　第１３課　「坐火车」　文法ポイント　ドリル 第12回　第１３課　復習読み練習とドリル 第13回　第１４課　「观光」 第14回　第１４課　復習読み練習とドリル 第15回　秋学期のまとめ 定期試験期間　期末試験 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ⅱa　講読・文法） 中国語Ⅱa（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 １年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び、総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終われば中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。 【講義概要】 ①語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②１年次の教材より量的に少し長めの文章を、文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解する力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで、キーポイントで学習した文ぽい事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し、中国語の表現力を増していきます。 ④できれば会話の時間と共に学習し、将来就職してからさらに延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。 先生から説明を受けてください。	第１回　１年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第２回 第１課 「首都北京」文法ポイント 連体修飾、呼応“又～又･･･”、二重目的語をとる動詞 第３回 第１課 復習読み、ミニ会話、練習と練習問題 第４回 第２課 「民族和气候」文法ポイント 呼応“因为～所以･･･”，“即使～也･･･” 第５回 第２課 復習読み練習，ミニ会話、練習と練習問題 第６回 第３課 「人口」 文法ポイント　呼応“因为～所以･･･”，“由于～所以･･･”，慣用句“有的～”，“把”構文 第７回 第３課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第８回 中間試験　説明不足個所補充 第９回 第４課　「方言」　文法ポイント 呼応“以～为･･･”，“好像～一样･･･”，“会”の用法 第10回 第４課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回 第５課 「泰山」文法ポイント　慣用句“对～来说”， 呼応“不但～而且･･･”、“除了～以外,也(还/再）･･･”、 第12回 第５課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回 第６課　「节假日」　文法ポイント 呼応“一边～一边･･･”，“一～就･･･”，“越来越･･･” 第14回 第６課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回 春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編　王武雲他 （郁文堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	総合コース　中国語（Ⅱb　講読・文法） 中国語Ⅱb（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。	第１回　春学期の復讐 第２回 第７課 「饮食文化」文法ポイント 呼応“只要～就･･･”，“着”の用法,助動詞“要”の用法 第３回 第７課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第４回 第８課　「药膳」 文法ポイント 複合方向補語，呼応“既～又･･･”，“动词+成～” 第５回 第８課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第６回 第９課　「体育健身运动」　文法ポイント 呼応“无论～都･･･”，慣用：動詞の後の“于” 第７回 第９課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第８回 中間試験　説明不足個所補充 第９回 第１０課　「动物」 文法ポイント 呼応“要是～就･･･”，“也许～也许･･･”，“好”の用法 第10回　第１０課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回　第１１課　「旗袍」 文法ポイント 連用修飾語，　呼応“连～也･･･”，“虽然～但是･･･” 第12回　第１１課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回　第１２課　「大学」 文法ポイント “为了～”，“一直～”，“就”の用法 第14回　第１２課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回　補充説明　秋学期のまとめ 定期試験期間　秋学期期末試験 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編　王武雲他 （郁文堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果（８０％）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 07年度以前	中国語（Ⅲa 会話） 中国語Ⅲa（会話）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、中級以上の語学力を持ち、実践的な会話能力を身に付けようとする受講者を対象に開講されるものです。 教科書の内容を事前に予習してもらい、授業では、音読、翻訳を通して、発音、理解度を確認しつつ、その都度解説を交え、理解を深めます。新出の文法事項、慣用句、単語などをしっかり理解したうえで、これを取り入れた会話文を作成し、練習を行います。 また、適宜映像を取り入れ、実生活のなかの会話に接する機会を設ける予定です。 受講者のレベルに応じて進度を変更する場合があります。	1. ガイダンス 2. 第1課. 让我们认识一下，好吗？ 3. 第2課. 健康第一 4. 第3課. 好东西人人爱吃 5. 第4課. 这种款式适合我吗？ 6. 第5課. 你喜欢逛商店吗？ 7. 复习 一 我来介绍一下 8. 復習、中間テスト 9. 第6課. 生活有时候就是琐碎的 10. 第7課. 让我们轻松一下 11. 第8課. 计划赶不上变化 12. 第9課. 大手大脚还是精打细算 13. 第10課. 我想咨询一下 14. 复习 二 我的新房子 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『漢語口語速成　提高篇』、北京語言大学出版社、2014年	平常点（50%）、試験（50%）

08年度以降 07年度以前	中国語（Ⅲb 会話） 中国語Ⅲb（会話）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様	1. 復習 2. 第11課. 有话好商量 3. 第12課. 我们生活在人群里 4. 第13課. 特别的经历 5. 第14課. 我想去旅行 6. 第15課. 谁能说自己不喜欢艺术？ 7. 复习 三 昨天我有个约会 8. 復習、中間テスト 9. 第16課. 轻轻松松挣大钱 10. 第17課. 永远的爱情永远的家 11. 第18課. 地球村 12. 第19課. 我们的生活 13. 第20課. 今天有什么新闻？ 14. 复习 四 国际婚姻 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『漢語口語速成　提高篇』、北京語言大学出版社、2014年	平常点（50%）、試験（50%）

08年度以降 07年度以前	中国語（Ⅲa　講読・文法） 中国語Ⅲa（購読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付けてもらいたいと思います。	１．第１課　読解 ２．第１課　解読の手がかり ３．第２課　読解 ４．第２課　解読の手がかり ５．第３課　読解 ６．第３課　解読の手がかり ７．第４課　読解 ８．第４課　解読の手がかり ９．第５課　読解 １０．第５課　解読の手がかり １１．第６課　読解 １２．第６課　解読の手がかり １３．第７課　読解 １４．第７課　解読の手がかり １５．第１～７課総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2015年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08年度以降 07年度以前	中国語（Ⅲb　講読・文法） 中国語Ⅲb（購読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付けてもらいたいと思います。	１．第８課　読解 ２．第８課　解読の手がかり ３．第９課　読解 ４．第９課　解読の手がかり ５．第１０課　読解 ６．第１０課　解読の手がかり ７．第１１課　読解 ８．第１１課　解読の手がかり ９．第１２課　読解 １０．第１２課　解読の手がかり １１．第１３課　読解 １２．第１３課　解読の手がかり １３．第１４課　読解 １４．第１４課　解読の手がかり １５．第１５課　読解
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2015年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験60%・平常点（発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降 05~07 年度	韓国語（Ⅰa 基礎） 朝鮮語（Ⅰa 基礎）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の発音や文字の読み書きを基礎から丁寧に学びながら、簡単な日常会話ができることを目標とします。韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 韓国語をはじめから学びたい方、韓国語・韓国文化に興味のある方、ぜひチャレンジしてみてください！同じ漢字文化圏である韓国語は日本人にとって学びやすい外国語です。	1. 講義の概要、韓国語で挨拶 2. ハングルとは 3. ハングルの構造（基本母音） 4. ハングルの構造（基本子音） 5. 韓国のイモチョモ１、復習 6. ハングルの構造（激音、農音） 7. ハングルの構造（合成母音） 8. ハングルの構造（パッチム） 9. 私の名前はマリカです 10. 韓国のイモチョモ２、復習 11. これは何ですか 12. 私のカメラではありません 13. この人は誰ですか 14. 主に鍋料理を食べます 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
柳蓮淑他『新しい韓国語　初級』ウリアカデミー出版	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降 05~07 年度	韓国語（Ⅰb 基礎） 朝鮮語（Ⅰb 基礎）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
入門で学んだ基礎的な文法や語彙を復習しつつ、基礎文法や語彙を体系的に学ぶことによって、様々な場面での高度の日常会話ができることを目標とします。 文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、ペアワークによる応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、読む、書く、話す、聞くといった四技能の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。	1. 講義の概要 2. 今日は友達と約束があります 3. 友達と鐘路で食事します 4. 来週の土曜日です 5. 韓国のイモチョモ１、復習 6. 今週末に何をしますか 7. 妹と一緒に行ってもいいですか 8. 月曜日から日曜日までです 9. 電車で 20 分ほどかかります 10. 韓国のイモチョモ２、復習 11. リンゴを五つください 12. 日本人の友達に教わりました 13. プルゴギだけもっと食べたいです 14. 私もまだ登っていません 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
柳蓮淑他『新しい韓国語　初級』ウリアカデミー出版	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅰａ基礎） 朝鮮語Ⅰａ（基礎）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	授業計画
言語はその国の文化を知る一番の近道である。ハングル文字の構造は科学的、体系的であり、発音上の多様な表現を可能にする。 本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながらハングル文字の学習と発音の変化の規則を学ぶ。はじめて出会うハングル文字の読み書きができる楽しさ、初級段階の基本的な文法を知る楽しさ、挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる楽しさを知る。そのためには地道な努力が必要であり、常に復習と予習を繰り返す必要がある。 受講生には韓国語を学ぶ目的をもち、授業中には積極的に参加したい ●韓国の代表的な民謡（アリラン）・童謡などの歌を通して日韓の交流をも図る。	１．ガイダンス ２．ハングルの構造 ３．母音 ４．子音（平音） ５．子音（激音・農音） ６．パッチム ７．発音規則（連音化・ㅎの音化・農音化） ８．発音規則（鼻音化・激音化・口蓋音化） ９．発音規則（流音化・ㄹの鼻音化・ㄴの添加） 10．会話（新入生のオリエンテーションデで） 11．名詞＋です／ですか表現 12．会話（大学のキャンパスで） 13．名詞＋～ではない表現 14．自己紹介（100～200字以内の作文） 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
崔柄珠『おはよう　韓国語１』 朝日出版社（2014年）	授業への参加度（20%）、中間試験・期末試験（80%）

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅰｂ基礎） 朝鮮語Ⅰｂ（基礎）	担当者	金　熙淑

講義目的、講義概要	講義目的、講義概要
前期の韓国語（Ⅰａ基礎）で身についた知識をフル活用する。既に身についたハングルの文字が読めるようになれば、一気に楽しくなる。 本講義では、見てわかる、聞いてわかるという「理解語彙」と、書ける、話せるという「使用語彙」を増やす学習をめざす。基礎段階で学習すべき文法も体系的に学び、より豊かな表現力を身につけ、韓国語ができるという自身感をもてるように工夫したい。 ●「韓国語ができるという」楽しさを知り、実際のコミュニケーションを楽しむために、授業中には積極的な参加が求められる。	１．春学期の復習 ２．会話（図書館で） ３．用言＋니다体の表現 ４．用言＋지 않다の否定文 ５．会話（ウンジの家の前で） ６．요体の表現 ７．漢数詞 ８．会話（公園で） ９．아요/어요の縮約形 10．固有数詞 11．時刻 12．会話（靴屋で） 13．用言の連体形 14．楽しい買い物・ハングルで作文 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
崔柄珠『おはよう　韓国語１』朝日出版社（2014年）	授業への参加度（20%）、中間試験・期末試験（80%）

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ｉａ 基礎） 朝鮮語（Ｉａ 基礎）	担当者	呉　吉煥

講義目的、講義概要	授業計画
前期の授業では、韓国語文字（ハングル）の正確な発音と書き方、文章の構造や作り方、そして日常会話でよく使う簡単な決まり文句などの習得を目指す。 授業の前半には、ハングルの子音と母音の発音、書き方などを覚える。そして後半には、文章を作るため基礎文法や数字、用言の活用法などについて学習する。 授業方法については、テキスト各課の内容にしたがい、まず学習事項を説明し、練習問題で学んだことを確認する。そして本文の会話体文章の発音を確かめた後、その内容を説明する。また授業中には、朝鮮半島の文化や社会についても随時紹介する。	１回　ガイダンス ２回　基本母音 ３回　基本子音 ４回　激音 ５回　濃音 ６回　複合母音 ７回　パッチム ８回　発音のルール ９回　辞書の引き方と復習 １０回　基本文型の作り方①（平叙文と疑問文） １１回　基本文型の作り方②（否定文） １２回　漢字語数詞とその使い方 １３回　用言の活用法 １４回　復習 １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：金京子・喜多恵美子『パランセ韓国語-改訂版』初級（朝日出版社、2013 年）	授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ｉｂ 基礎） 朝鮮語（Ｉｂ 基礎）	担当者	呉　吉煥

講義目的、講義概要	授業計画
後期の授業では、前期に学んだことを復習しつつ、用言の活用法、助詞や数詞の使い方など、基本的な文法事項を習得する。そして日常生活で使う基礎的な会話の表現などを学習し、基礎課程の完成を目指す。 授業は、テキスト各課の内容に従い、まず関連する文法事項などを説明し、練習問題で学んだことを確認する。そして本文の会話体文章の発音を確かめた後、その内容について説明する。また授業中には、朝鮮半島の文化や社会についても随時紹介する。	１回　補助教材 ２回　かしこまった丁寧形（「ハムニダ体」） ３回　年月日の言い方 ４回　用言の否定形 ５回　固有語数詞と時間の言い方 ６回　意志や推量の表現 ７回　用言と体言の尊敬形 ８回　復習 ９回　打ち解けた丁寧形（「ヘヨ体」） １０回　希望や願望の表現 １１回　尊敬の「ヘヨ体」 １２回　過去形 １３回　「ハムニダ体」の勧誘形 １４回　事実の確認や同意、話し手の意志などの表現 １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：金京子・喜多恵美子『パランセ韓国語-改訂版』初級（朝日出版社、2013 年）	授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ｉａ 基礎） 朝鮮語（Ｉａ 基礎）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。	1　韓国語と文字、基本母音 2　基本子音 3　合成子音 4　合成母音 5　終声母音（パッチム） 6　蓮音化 7　Review 8　私は学生です 9　これは何ですか 10　この人は誰ですか 11　Review 12　教室に何がありますか 13　何をしますか１ 14　何をしますか２ 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語へ旅しようー初級』朝日出版社、2014 年	小テスト、期末テスト、課題、授業への参加度

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ｉｂ 基礎） 朝鮮語（Ｉｂ 基礎）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。	1　前期のおさらい 2　どこへ行かれますか１ 3　どこへ行かれますか２ 4　数詞１ 5　数詞２ 6　数詞３ 7　Review 8　いくらですか（「～요」体）１ 9　いくらですか（「～요」体）２ 10　昨日は何をしましたか（過去形）１ 11　昨日は何をしましたか（過去形）２ 12　何を食べましょうか１ 13　何を食べましょうか２ 14　会話練習 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語へ旅しようー初級』朝日出版社、2014 年	小テスト、期末テスト、課題、授業への参加度

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ｉａ 総合１） 朝鮮語（Ｉａ 総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	中間テスト、期末テスト

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ｉｂ 総合１） 朝鮮語（Ｉｂ 総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４まとめと復習① １５まとめと復習②
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	中間テスト、期末テスト

08年度以降 07年度以前	韓国語（Ｉａ 総合２） 朝鮮語（Ｉａ 総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ｉ（総合１）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	中間テスト、期末テスト

08年度以降 07年度以前	韓国語（Ｉｂ 総合２） 朝鮮語（Ｉｂ 総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４まとめと復習① １５まとめと復習②
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	中間テスト、期末テスト

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱa 講読・会話） 朝鮮語（Ⅱa 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。	1　基礎文法のおさらい１ 2　基礎文法のおさらい２ 3　第１課　忙しくて電話できませんでした１ 4　第１課　忙しくて電話できませんでした２ 5　第２課　趣味は何ですか１ 6　第２課　趣味は何ですか２ 7　第３課　インサドンにはどうやって行きますか１ 8　第３課　インサドンにはどうやって行きますか２ 9　第４課　復習１ 10　第４課　復習２ 11　第５課　風邪は治りましたか１ 12　第５課　風邪は治りましたか２ 13　第６課　連休には何をするつもりですか１ 14　第６課　連休には何をするつもりですか２ 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語へ旅しようー中級』朝日出版社、2013年	中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱb 講読・会話） 朝鮮語（Ⅱb 講読・会話）	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。	1　第７課　雨がたくさん降るようですね１ 2　第７課　雨がたくさん降るようですね２ 3　第８課　復習１ 4　第８課　復習２ 5　Review 6　第９課　ブルゴギを作ることができますか１ 7　第９課　ブルゴギを作ることができますか２ 8　第１０課　このズボンを履いてみてもいいですか１ 9　第１０課　このズボンを履いてみてもいいですか２ 10　Review 11　第１１課　これはどこで撮った写真なの１ 12　第１１課　これはどこで撮った写真なの２ 13　第１２課　復習１ 14　第１２課　復習２ 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語へ旅しようー中級』朝日出版社、2013年	中間テスト、期末テスト、課題、授業への参加度

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱa 総合１） 朝鮮語（Ⅱa 総合１）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得 をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1　第一課　空港に出迎え 2　第二課　部屋探し 3　第三課　自己紹介 4　第四課　ソンミンの家で 5　まとめと復習 6　中間テスト 7　アクティビティ 8　第五課　帰り道 9　第六課　百日記念日 10　第七課　引越しパーティーの日 11　アクティビティ 12　第八課　汽車に乗っておでかけ 13，14　まとめと復習 15　期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱb 総合１） 朝鮮語（Ⅱb 総合１）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得 をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1　春学期の復習 2　春学期の復習 3　第九課　村の風景 4　第十課　ソンミンさんを訪ねて 5　第六課～第十課の復習 6　第十一課　下宿に帰って 7　中間テスト 8　第十二課　診察を受ける 9　第十三課　和解 10　第十四課　悲しみよ，さようなら 11　第十一課から第一四課の復習 12　アクティビティ 13，14　まとめと復習 15　期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱa 総合２） 朝鮮語（Ⅱa 総合２）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得 をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1　第一課　空港に出迎え 2　第二課　部屋探し 3　第三課　自己紹介 4　第四課　ソンミンの家で 5　まとめと復習 6　アクティビティ 7　第五課　帰り道 8　第一課から第五課のまとめ 9　第六課　百日記念日 10　第七課　引越しパーティーの日 11　アクティビティ 12　第八課　汽車に乗っておでかけ 13，14　まとめと復習 15　アクティビティ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08年度以降 05~07年度	韓国語（Ⅱb 総合２） 朝鮮語（Ⅱb 総合２）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1　春学期の復習 2　春学期の復習 3　第九課　村の風景 4　第十課　ソンミンさんを訪ねて 5　第六課～第十課の復習 6　第十一課　下宿に帰って 7　中間テスト 8　第十二課　診察を受ける 9　第十三課　和解 10　第十四課　悲しみよ，さようなら 11　第十一課から第一四課の復習 12　アクティビティ 13，14　まとめと復習 15　期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

08 年度以降	韓国語（Ⅲa 総合 3）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の初級段階を履修した学習者を対象に、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、聞き取りや会話の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。	１．講義の概要、韓国語で挨拶 ２．紹介 ３．旅行 ４．予約 ５．韓国のイモゾモ１、復習 ６．案内 ７．ショッピング ８．交通 ９．取り消し １０．韓国のイモゾモ２、復習 １１．新聞 １２．伝言 １３．食事 １４．韓国のイモゾモ３、復習 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で適宜紹介します。	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08 年度以降	韓国語（Ⅲb 総合 3）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
前期の学習内容を復習しつつ、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、聞き取りや会話の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。	１．講義の概要 ２．電話 ３．問い合わせ ４．美容室 ５．韓国のイモゾモ１、復習 ６．礼儀 ７．非言語行動 ８．手紙 ９．描写 １０．韓国のイモゾモ２、復習 １１．パンマル １２．相談 １３．昔物語 １４．韓国のイモゾモ３、復習 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で適宜紹介します。	定期試験の結果（80%）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20%）も評価対象とします。

08年度以降 07年度以前	外国語（イタリア語Ia 基礎） イタリア語Ia	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2　イタリア語の発音について 3　名詞と冠詞（1） 4　名詞と冠詞（2） 5　挨拶の表現、形容詞 6　イタリア語のbe動詞とhave動詞：essereとavere 7　規則動詞の現在形（1） 8　規則動詞の現在形（2） 9　規則動詞の現在形（3） 10　会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11　前置詞 12　不規則で重要な動詞（1） 13　不規則で重要な動詞（2） 14　不規則で重要な動詞（3） 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08年度以降 07年度以前	外国語（イタリア語Ib 基礎） イタリア語Ib	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　会話表現：家族構成を話す 2　様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3　所有形容詞（1） 4　所有形容詞（2） 5　会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6　代名動詞（1） 7　代名動詞（2） 8　会話表現：あるものが存在するかしないかを聞く 9　比較級と最上級 10　近過去（1） 11　近過去（2） 12　直接・間接目的語代名詞 13　半過去（1） 14　半過去（2） 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度（20%）と、授業内に随時行う小テストの成績（80%）による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語 I a	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります. （受講上の注意点） 教科書、辞書は必ず購入して下さい.	1) ガイダンス 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 4) 規則動詞の練習(1) 5) 規則動詞の練習(2) 6) 規則動詞の練習(3) 7) 規則動詞の練習(4) 8) 基本不規則動詞の練習(1) 9) 基本不規則動詞の練習(2) 10) 基本不規則動詞の練習(3) 11) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(1) 12) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(2) 13) 頻出不規則動詞の練習(1) 14) 頻出不規則動詞の練習(2) 15) 頻出不規則動詞の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2011 年.	平常点（宿題を含む)、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語 I b	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります.	1) 人称代名詞の練習(1) 2) 人称代名詞の練習(2) 3) 近過去形の練習(1) 4) 近過去形の練習(2) 5) 近過去形の練習(3) 6) 近過去形の練習(4) 7) 近過去形の練習(5) 8) 再帰動詞の練習(1) 9) 再帰動詞の練習(2) 10) 再帰動詞の練習(3) 11) 半過去形の練習(1) 12) 半過去形の練習(2) 13) 半過去形の練習(3) 14) 半過去形の練習(4) 15) 半過去形の練習(5)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2011 年.	平常点（宿題を含む)、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 IIa 基礎) イタリア語Ⅱa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となりますが、単文を中心とする文法問題演習の単調さをおぎなうため、ストーリー性を備えた長めの会話テクストの使用も並行します．また 60 年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとりいれます.	1) 過去形・再帰動詞の復習(1) 2) 過去形・再帰動詞の復習(2) 3) 過去形・再帰動詞の復習(3) 4) 過去形・再帰動詞の復習(4) 5) 過去形・再帰動詞の復習(5) 6) 大過去形の練習(1) 7) 大過去形の練習(2) 8) 未来形の練習(1) 9) 未来形の練習(2) 10) 条件法の練習(1) 11) 条件法の練習(2) 12) 条件法の練習(3) 13) 遠過去形の練習(1) 14) 遠過去形の練習(2) 15) 遠過去形の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2011 年.	平常点（宿題を含む)、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 IIb 基礎) イタリア語Ⅱb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 前半は伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります．後半では受講者のレヴェルに応じて、時事的な文章、小説を中心とした文学作品、映画のシナリオなどの実践的テクストを講読し、読解力養成を図ります．最終授業ではしめくくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います.	1) 接続法の練習(1) 2) 接続法の練習(2) 3) 接続法の練習(3) 4) 接続法の練習(4) 5) 接続法の練習(5) 6) 接続法の練習(6) 7) 接続法の練習(7) 8) 講読(1) 9) 講読(2) 10) 講読(3) 11) 講読(4) 12) 講読(5) 13) 講読(6) 14) 講読(7) 15) 映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2011 年.	平常点（宿題を含む)、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 I a 総合） ポルトガル語 I a（総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I b に続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	各回、以下の項目を中心に学習する予定です。 01. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 02. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 03. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 04. 規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 de, em, com 05. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) 06. 規則動詞の直説法現在形(2)、疑問詞、指示詞、曜日名 07. 不規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 a, para, por 08. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) 09. 不規則動詞の直説法現在形(2)と直説法過去形(2) 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞(1) 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞(2)、序数詞(2) 12. 感嘆文、強調構文(1)、時間表現(1) 13. 直説法半過去形、月日表現、名詞・形容詞の不規則な複数形 14. 関係代名詞 que と quem(1)、接尾辞-inho、命令形 15. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 I b 総合） ポルトガル語 I b（総合）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語 I a に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	各回、以下の項目を中心に学習する予定です。 01. 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級 02. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級、相対最上級 03. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 04. 受動文、結果構文 05. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形(3) 06. 直説法複合過去形、二重過去分詞 07. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 08. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、、時間表現(2) 09. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem(2)、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形(1)、強調構文(2)、接続法半過去形 13. 時間表現(3)、接続法過去形、接続法大過去形 14. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文 15. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08年度以降 07年度以前	外国語（ポルトガル語Ⅰa会話） ポルトガル語Ⅰa（会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語Ⅰ（総合）ではaとbを通じて基礎的な文法を中心に学びますが、Ⅰ（会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	各回、以下のトピックを中心に学習する予定です。 01. イントロダクション「挨拶する」「出身地を尋ねる」 02.「物の名を尋ねる」「持ち主を尋ねる」 03.「曜日を尋ねる」「日付を尋ねる」 04.「健康状態を尋ねる」「場所を尋ねる」 05.「時間を尋ねる」「約束・待ち合わせをする」 06.「人を待つ」「物の貸し借りをする」 07.「聞き返す」「好き嫌いを述べる」 08.「食事をする」「買い物をする」 09.「感想を述べる」「希望を述べる」「天候を尋ねる」 10.「義務を課す」「許可を与える」「同意する」 11.「身体の状態を述べる」「経験を述べる」 12.「頻度を尋ねる「選択を述べる」「勧誘する」 13.「道順を尋ねる」「伝聞を述べる」「誇張して述べる」 14.「日常生活について述べる（起床・身支度・就寝）」 15. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	平常点4割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点6割とし、60点以上の者を合格とします。

08年度以降 07年度以前	外国語（ポルトガル語Ⅰb会話） ポルトガル語Ⅰb（会話）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語Ⅰ（総合）ではaとbを通じて基礎的な文法を中心に学びますが、Ⅰ（会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。	各回、以下のトピックを中心に学習する予定です。 01. イントロダクション・既習事項の復習 02.「相互動作を表現する」「過去時を表現する」 03.「感謝する」「話題に取り上げる」「乗り物の表現」 04.「休暇について尋ねる」「未遂の事柄を述べる」 05.「過去の習慣を述べる」「過去の状態を述べる」 06.「願望を婉曲的に述べる」「喜びを表現する」 07.「人を褒める」「羨望を述べる」 08.「驚き・残念・嘆き・後悔を表現する」 09.「忠告する」「推測する」「断定する」 10.「丁寧に頼む」「丁寧に断る」 11.「可能性のある『もし…なら』」 12.「可能性のない『もし…なら』」 13.「謙遜して述べる」「 14. 総まとめ 15. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	平常点4割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点6割とし、60点以上の者を合格とします。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語Ｉａ総合） ロシア語Ｉａ（総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
初心者を対象としたロシア語クラスです。 アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 ロシア語は様々な分野で重要な言語であるにもかかわらず、大学以外ではなかなか学ぶ機会がありません。ぜひこの機会にロシア語の世界へ足を踏み入れてみてください。 会話を中心とした「ロシア語Ｉ 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	教科書の第10課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 　基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在変化（1） 13-14 場所の表現（前置詞、名詞の格変化の導入） 15 予備日 授業では受講者の皆さん一人一人の練習を中心とします。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。 ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験（80%）、②小テスト・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安です）。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語Ｉｂ総合） ロシア語Ｉｂ（総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ia総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	教科書の第18課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-2 動詞の現在変化（2） 3 動詞の現在変化　（3） 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞の格変化（1）生格 10-11 名詞の格変化（2）対格 12 動詞の過去変化 13-14 運動の動詞、方向の表現 15 予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験（80%）、②小テスト・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安です）。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語Ⅰa 会話） ロシア語Ⅰa（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 ロシアは実に多様で奥深い文化的足跡を残してきた国です。ロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形（1） 11. 名詞の対格（1） 12. 願望の表現 13. 命令形の表現 14. まとめ 15. 予備日 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および単語テスト、授業態度などの平常点をもとに評価します。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語Ⅰb 会話） ロシア語Ⅰb（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格（2） 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および単語テスト、授業態度などの平常点をもとに評価します。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語IIa 総合） ロシア語IIa（総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ　総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、その後はプリント教材をもちいて新たな文法事項を学んでゆきます。最終的に、秋学期の終わりには、辞書を引きながら自力で簡単なロシア語の文章を読めるだけの力（検定試験3級程度）を身につけることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ　会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度「ロシア語Ⅰ　総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能です。	教科書の第18課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。 1-2　移動の動詞、方向の表現 3-4　格変化・生格 5-6　格変化・前置格 7　まとめと応用（数詞） 8-9　格変化・与格 10-11　状態の表現（無人称文） 11-12　未来の表現 13-14　格変化・造格 15　予備日 さらにロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単なテキストの読解練習も始めます。また、昨年度に習得した文法事項や語彙の復習にも時間を割きます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験（80%）、②小テスト・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安です）。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語IIb 総合） ロシア語IIb（総合）	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業ですので、詳しくはそちらをご覧ください。	教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、新たな文法事項の習得を行なってゆきます。春学期に引き続き、簡単なテキストの読解練習も行ないます。 1-2　数と名詞 3　まとめと応用（前置詞と格変化） 4-6　動詞の体（不完了体と完了体） 7-8　格変化の総まとめ 9　形容詞短語尾 10　比較級・最上級 11-12　関係代名詞、不定人称文 13　仮定法 14　形動詞、副動詞 15　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験（80%）、②小テスト・授業態度などの平常点（20%）（%はおおよその目安です）。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語IIa 会話） ロシア語IIa（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語I 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語I」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語I 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。	1. ガイダンス 2. 名詞の生格、所有の表現 3. 曜日の表現 4. 未来の表現 5. 形容詞の変化 6. 名詞の前置格と場所の表現 7. 動詞の過去 8. 名詞の対格（2） 9. 人称代名詞の対格 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 「～の中に」と「～の上に」 12. 過去の表現 13. 名詞、人称代名詞の対格 14. まとめ 15. 予備日 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および単語テスト、授業態度などの平常点をもとに評価します。

08年度以降 07年度以前	外国語（ロシア語IIb 会話） ロシア語IIb（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語IIa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 名詞の与格 3. 名詞の造格 4. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 5. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 6. 未来の表現（2） 7. 形容詞の格変化運動の動詞 8. 前置詞のまとめ 9. 仮定の表現 10. 関係代名詞（1） 11. 関係代名詞（2） 12. 自己紹介文を作る（1） 13. 自己紹介文を作る（2） 14. 自己紹介文を作る（3） 15. 予備日 ※ その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および単語テスト、授業態度などの平常点をもとに評価します。

08年度以降 07年度以前	外国語（タイ語Ｉａ 会話） タイ語Ｉａ（会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記に習熟し、作文練習によって表現能力をつける。 インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱａで学ぶ。Ⅱａの方が難易度が高いので、Iaを先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい・	1　導入：タイ社会の現状、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音） 2　会話１（挨拶、所在に関する表現） 3　会話２　（ものの性質などに関して） 4　会話３　（家族）、タイ語を聞いて書く 5　会話４（所有、存在）、タイ語を聞いて書く 6　会話５（職業、国名）タイ語を聞いて書く 7　会話６（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く 8　会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話８　（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く 10　会話９　（レストランで）、タイ語を聞いて書く 11　会話10　（お金の計算）タイ語を聞いて書く 12　会話11　（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画 どのビジュアル教材の鑑賞） 14　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
2000円程度のテキスト使用する。最初の授業で指定する。	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。

08年度以降 07年度以前	外国語（タイ語Ｉｂ 会話） タイ語Ｉｂ（会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。特に類別詞の使い方について重点的に理解し、比較表現などに応用できるようにする。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話１（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く 2　会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3　会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4　会話４（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5　会話５（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 6　会話６（類別詞の用法３）、タイ語を聞いて書く 7　会話７（類別詞の用法４）、タイ語を聞いて書く 8　会話８（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9　会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く 10　会話10(受身の表現)、タイ語を聞いて書く 11　会話11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く 12　会話12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説） 14　タイ事情(映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期と同じテキスト（2000円程度）の予定。	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。

08年度以降 07年度以前	外国語（タイ語Ⅱa 文字の読み書き） タイ語Ⅱa（文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。 また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。随時、インターネット動画、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。 初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰa を先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱa のみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。	1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？社会のタイ語需要 2　タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3　文字の読み書き１（中子音・高子音） 4　文字の読み書き２（低子音と長母音） 5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6　文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7　文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音） 8　文字の読み書き６（一字再読字） 9　文字の読み書き７（タイ数字など） 10　文字の読み書き８（特殊な表記） 11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12　タイ事情（映画などのビジュアル教材） 13　講読１（読み方、文章のつながり方など） 14　講読２（読み方、タイ語らしい言い回し）
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。

08年度以降 07年度以前	外国語（タイ語Ⅱb 文字の読み書き） タイ語Ⅱb（文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、小学校の国語の教科書など、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。	1　講読１　（読み方、文章のつながり方など） 2　講読２　（平易な物語など） 3　文法１　（指示詞の用法） 4　文法２　（一般動詞の用法） 5　文法３　（形容詞の用法） 6　講読３　（平易な物語など） 7　文法４　（類別詞の用法・比較） 8　講読４　（タイの文化・祭り） 9　講読５　（首都バンコクについて） 10　文法５　（否定の表現） 11　講読６　（子どもの夢） 12　講読７　（書店） 13　タイ事情（現代映画の鑑賞） 14　タイ事情（現代映画の鑑賞） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績を80パーセント、課題や小テストなどを20パーセントとして総合的に判断する。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 Ia 会話と文化） アラビア語（Ia 会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 またアラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語 IIa　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. 文字と発音の基礎 3. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. 「ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は～」 7. 「私は東京出身の日本人です」国籍を述べる 8. 「私は学生です」職業の色々 9. 「これは何ですか」よく使う名詞 10. 「私は音楽が好きです」 11. 「私は映画が好きではありません」 12. 「トイレはどこですか？」 13. 「アレッポ石鹸ありますか？」 14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 15. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ニューエクスプレス・アラビア語』 （竹田敏之著・白水社）	常時会話の小テストを行います。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 Ib 会話と文化） アラビア語（Ib 会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語 IIb　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 数と数字 3. 「彼女の名前はファーティマです」 4. 「これはエジプトのパンですか？」 5. 「アラビア語を学んだことがありますか？」 6. 「あなたに兄弟はいますか？」 7. 「私たちはピラミッドの前にいます」 8. 「ラクダに乗ったことがありますか？」 9. 「日本にはたくさんの大学がありますか？」 10. 「コシャリを食べたことはありません」 11. 「書店に行きたいです」 12. 「どちらがより近いですか？」 13. 「電話をお借りできますか？」 14. 「もしもし？」 15. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ニューエクスプレス・アラビア語』 （竹田敏之著・白水社）	常時会話の小テストを行います。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 IIa 読み書きと文法の基礎） アラビア語 IIa（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語Ia　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. アラビア文字を覚える（1）　挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える（2）　挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える（3）　自己紹介 5. アラビア文字に覚える（4）　「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える（5）　アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 男性形と女性形「私は学生です」 12. 定冠詞の使い方「駅はどこですか」 13. 「それは何ですか？」「アラブのコーヒーです」 14. 復習 15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 IIb 読み書きと文法の基礎） アラビア語 IIb（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」 13. 辞書の引き方の基礎 14. 辞書の引き方の基礎・復習 15. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉａ 基礎） 現代ヘブライ語Ｉａ	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。 フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。	1. アルファベットの歴史・発音練習 2. 発音練習 3. ヘブライ文字の書き方・ユダヤ人の祭 4. ヘブライ語発音練習・発音練習 5. ヘブライ語起源の人名・地名 6. 名詞と形容詞、日本に進出するイスラエル企業 7. 名詞と形容詞の複数形 8. 動詞の現在形（1） 神名について「エホバ、ヤハウェ、アドナイ」 9. 動詞の現在形（2） 10. フォークダンス「マイム・マイム」 11. 動詞の現在形（4） 12. 所有・所在・所持の表現 13. 不定詞の用法（1） 会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 14. 総復習 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストは教室にてプリントで配布。 参考文献『ヘブライ語入門』改版　日本ヘブライ文化協会	授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉｂ 基礎） 現代ヘブライ語Ｉｂ	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をします。 セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点を学びます。 １．アラビア語とヘブライ語の違い。 ２．イエス・キリスト時代の言語 ３．ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 ４．現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 ５．ユダヤ人が使っていた各種のユダヤ語とは何か。 ６．ユダヤ人のファミリーネームを通して、文化的背景と歴史を学びます。 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の注意点やエチケットを学びます。 「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」の違いを正しく認識し、それぞれの特徴を学びます。 ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説などもを紹介し、“俗本”がヘブライ語起源だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。	1. 復習 2. ユダヤ人の祭（1） 3. ユダヤ人の祭（2） 4. ユダヤ人の祭（3） 5. 動詞の現在形 6. 動詞の不定詞 7. ユダヤ人のファミリーネーム（1） 8. ユダヤ人のファミリーネーム（2） 9. ユダヤ人のファミリーネーム（3） 10. 動詞の過去形（1） 11. 動詞の過去形（2） 12. 動詞の過去形（3） 13. 日・ユ同祖論について（本当か、嘘か） 14. ユダヤ人の言語（ユダヤ語とは何か） 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストは教室にてプリントで配布。 参考文献『ヘブライ語入門』改版　日本ヘブライ文化協会	授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ｉａ 総合）	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学習を進めていきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 アルタイ語族に属するトルコ語は、日本語とも同語族とされ、基本的な文法構造が似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音も規則的なことから、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。 トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがるトルコ語話者は、同系言語を含めると 2 億 2 千万人がいるとされ、汎用性の高い言語です。 単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ｉａ会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）アルファベット、数字の読み方 2）複数形 3）指示代名詞 4）疑問形の基本 5）否定形の基本／トルコ料理の紹介 6）人称 7）現在形の基本／トルコの観光 8）現在形の人称変化（肯定文） 9）現在形の人称変化（疑問文） 10）現在形の人称変化（否定文）／トルコの歴史 11）助詞 12）時間表現 13）所有格／トルコの芸術（マーブリング） 14）単語の連結 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ｉｂ 総合）	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ｉａ 総合」の続きになります。 授業では、文法や読み書きを中心にトルコ語の基礎を学んでいきますが、あわせてトルコの建築、芸術、食文化などさまざまな側面についても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語Ｉｂ 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）過去形の基本 3）過去形の人称変化（肯定文） 4）過去形の人称変化（疑問文） 5）過去形の人称変化（否定文）／トルコの経済 6）前置詞 7）命令形・禁止形／トルコの建築 8）使役形 9）比較表現 10）単位／トルコのコーヒーと紅茶 11）助詞 12）未来形の基本と肯定文 13）未来形の人称変化（疑問文）／トルコの文学 14）未来形の人称変化（否定文） 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰa 会話）	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本からの訪問者も年々増加しています。一方で、近年は経済的な発展をとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、アフリカ、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増してきています。 このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象とし、授業では日常生活やトルコへの旅行などで使えるフレーズを中心に、会話の練習を行いながらコミュニケーション能力を身につけていきます。また、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを学ぶ「トルコ語Ⅰa 総合」とあわせて受講することを勧めます。	1）アルファベットと数字 2）自己紹介 3）初めての挨拶／肯定文 4）タクシーに乗る／疑問形 5）レストランで①／所有形 6）ホテルでの会話／人称代名詞 7）買い物をする①「～をください」 8）家族を紹介する／複数語尾 9）レストランで② 10）依頼する 11）予約をする 12）両替をする／未来形 13）乗り物に乗る「～へ行きます」 14）買い物をする②／未来形 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08年度以降	外国語（トルコ語 Ⅰb 会話）	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語Ⅰa 会話」の続きになります。 授業は会話の学習を中心に進め、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。 後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状況や考えを相手に伝える練習も行います。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを学ぶ「トルコ語Ⅰb 総合」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）自分の体験を語る／過去形 3）「週末何をしましたか？」／過去形 4）「～だそうです。」／伝聞完了形 5）インフォメーションでの会話 6）電話で話す／未来形と中立形 7）バスターミナルで／中立形の否定形 8）買い物の会話、「～できますか？」 9）様々な疑問詞／「～してもいいですか？」 10）趣味について話す「～が好きですか？」 11）「～しよう」 12）レストランでの会話 13）別れの場面／「～でいてください」 14）復習 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08 年度以降	外国語(トルコ語 II a 応用)	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、トルコ語の基礎的な学習を行った学生を対象としています。 トルコ語の文法と会話を中心に総合的に練習を重ね、トルコ語のレベルアップを目指します。特に、トルコ語において重要な動詞の活用については、現在進行形、未来形、過去形、超越形の構造を身につけ、会話の中でも使えるように取り組みます。 あわせて、トルコの文化や歴史などについて知る時間を設けるとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1）人称、否定形、複数形の復習 2）指示代名詞、疑問形の基本の復習 3）助詞、現在形、時間表示 4）所有と単語の連結 5）現在進行形／トルコ料理の紹介 6）現在進行形の否定文と疑問文 7）未来形／トルコ映画 8）未来形の否定文 9）未来形の疑問文 10）過去形／トルコの歴史 11）過去形の否定文と疑問文 12）時間を表す表現 13）超越形／トルコの芸術（マーブリング） 14）超越形の否定文と疑問文 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08 年度以降	外国語(トルコ語 II b 応用)	担当者	M. 加藤

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語 II a 応用」の続きのクラスです。 中級レベルのトルコ語会話を中心に学び、旅行や日常生活など様々な場面で使えるフレーズを身に付けます。今までに学習した文章を使いながら、会話だけでなく、自分の考えや状況を相手に伝える練習も行い、トルコ語でのコミュニケーション力の向上を図ります。 授業は会話の練習を中心に進んでいきますが、トルコの習慣や、観光、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。あわせて、ネイティブスピーカーとの交流会など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。	1）前期の復習 2）季節 3）自分について話す 4）日常生活① 5）日常生活② 6）家族について話す 7）友人を訪ねる 8）仕事の会話 9）買い物の会話 10）旅行での会話 11）道を尋ねる 12）時間を尋ねる 13）レストランの会話① 14）レストランの会話② 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレインスティトゥート編）ほか補助教材を使用。	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とします。

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IAa)/日本語(総合 IBa)/日本語(総合 ICa) 日本語 Ia	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
〔授業目的〕 大学における専門科目の履修に必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は，日本社会の現状について理解を深める内容を中心とした本学独自のプリント教材を使用する。4 技能の高い能力を獲得することが求められるので，予復習を十分にして授業に臨まれたい。 〔授業概要〕 1．プレゼンテーション：2 回の以上の発表を行う。 2．読解：実際の読解材料を種々の読解法で読む。 3．作文：授業内で，要約，レポート作成などを行う。 4．討論：読解内容について自分の意見を述べ確認する。 5．聴解：テレビニュースなどにより聴解力を養う。	月曜日，水曜日，金曜日にそれぞれ 1 コマ，計 3 コマをセットで履修する。内容にもよるが，1 トピックを大体 6～8 コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 内容は，以下のトピックを予定するが，トピックの変更もありうる。 1．異文化コミュニケーション 2．少子高齢化 3．起業 4．ポップカルチャー 5．国際社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
1．プリン（クラスで配布） 2．参考文献はクラスで紹介する	テスト：60%，作文：20%，プレゼンテーション：10%，クラス参加度：10%　で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IAb)/日本語(総合 IBb)/日本語(総合 ICb) 日本語 Ib	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
〔授業目的〕 大学における専門科目の履修に必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は，日本社会の現状について理解を深める内容を中心とした本学独自のプリント教材を使用する。4 技能の高い能力を獲得することが求められるので，予復習を十分にして授業に臨まれたい。 〔授業概要〕 1．プレゼンテーション：2 回の以上の発表を行う。 2．読解：実際の読解材料を種々の読解法で読む。 3．作文：授業内で，要約，レポート作成などを行う。 4．討論：読解内容について自分の意見を述べ確認する。 5．聴解：テレビニュースなどにより聴解力を養う。	月曜日，水曜日，金曜日にそれぞれ 1 コマ，計 3 コマをセットで履修する。内容にもよるが，1 トピックを大体 6～8 コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 内容は，以下のトピックを予定するが，トピックの変更もありうる。 1．若者のライフスタイル 2．医療と健康 3．情報社会 4．就職・企業・人材 5．科学技術
テキスト、参考文献	**評価方法**
1．プリント（クラスで配布） 2．参考文献はクラスで紹介する	テスト：60%，作文：20%，プレゼンテーション：10%，クラス参加度：10%　で評価する。

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	石田　ゆり子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 外国語としての日本語学習を終え、次の段階として、学習した日本語をいかに実生活へ応用していくかを課題とする。大学の講義を受けるにあたって必要な「読解力」と「表現力」を養うことを目標とする。 講義内容 この講義では新聞、雑誌などから選んだテーマを教材とし、内容の読解・ディスカッション・作文などを行う。 また、自己を内省し、自分の意見を日本語で表現できるようなワークを行い、表現の幅を広げていく。 並行して日本語の練習問題も行う。	1　講義の進め方・自己紹介 2　表現のワーク①　体感を言葉にする 3　表現のワーク②　比喩 4　表現のワーク③　思考のパターンを掴む 5　表現のワーク④　経験からパターンを捉える 6　新聞記事の読み方 7　新聞・雑誌記事を読む① 8　新聞・雑誌記事を読む②(作文) 9　新聞・雑誌記事を読む③ 10　新聞・雑誌記事を読む④(ディスカッション) 11　表現のワーク　⑤新聞記事を使って論じる 12　表現のワーク　⑥新聞記事を使って論じる 13　発表 14　発表 15　発表＆まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	発表(40%) 課題・提出物（40%） 平常点（20%）

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
大学の講義などで使用されるテキストを、一字一句の意味を確認しながら読んでいては膨大な時間がかかる上に、ことばの意味は理解できても1冊の本の内容を把握することはできません。また、レポートなどを書く際には数冊の文献の中から自分に必要な情報だけを抜き出す作業が必要です。そこで、この授業では“日本語を速く正確に読む能力”を向上させることを目的とします。しかし、これまでの個人作業としての「読み」ではなく、「読み」を仲間との協働作業に変えることによって、一人では気づかないような情報や内容があることを知り、知識の幅を広げていってもらいたいと考えています。 一般の社会人や大学生がよく読む新聞や雑誌、新書を使って実践的な練習を行います。読み取った内容や情報から日本社会の現状や問題点を認識し、それについてのディスカッション、問題を調査したプレゼンテーション、レポートといった課題も出します。 さらには、履修者が主体的かつ積極的に授業に参加できるように、履修者自身から話題を提供してもらいます。持ち寄った記事をクラスで、あるいはグループに分かれて読んで話し合うことによって、総合的な日本語力の向上を目指します。	1．講義の概要 2．スキャニング（情報取り）の技術を身につける－新聞編－ 3．スキャニング（情報取り）の技術を身につける－雑誌編－ 4．スキミング（大意取り）の技術を身につける－新聞編－ 5．スキミング（大意取り）の技術を身につける－雑誌編－ 6．事実文と意見文を区別する能力を身につける 7．雑誌「AERA」、「NEWSWEEK」などの記事を読む 8．雑誌のテーマに関するディスカッションを行う 9．現代日本で話題になっている新書を読む－1－ 10．新書のテーマに関するディスカッションを行う－1－ 11．現代日本で話題になっている新書を読む－2－ 12．新書のテーマに関するディスカッションを行う－2－ 13．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－1－ 14．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－2－ 15．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－3－／まとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布します。	評価方法：期末試験の結果（40%）に、出席率や授業態度などの平常点（30%）、漢字クイズやレポートなどの課題の実績（30%）を加味して総合的に評価します。

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	丸山　具子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語学習は、文字情報のみに力を入れていて、耳からの情報処理力や、口頭表現力を伸ばすことを怠っているため、「読む・聞く・書く・話す」の4技能のバランスを欠く留学生が少なくありません。 そこでこの授業では、時事問題、特に産業界の話題を中心に、視覚に依存せず情報収集ができるように具体的にはラジオ、テレビのニュースや経済番組、対談番組などが理解できる聴解力を養成します。その際、グループで協働で聞きとったものを再現するディクトグロスという方法を用います。また、その中で出てくる語彙、表現、文法も学びます。そして、目や耳から得た情報をまとめて話したり、それに対する自分の意見を他人に分かりやすく伝えられる口頭表現能力の強化も行います。また、関連トピックについて、補足としての読解も行います。 併せて、自分に合った自律学習が継続的にできるように、さまざまな学習法を体験します。	1. 講義の概要 2. ディクトグロス①　（手話ニュース） 3. ディクトグロス②　（一般ニュース） 4. 経済番組のリスニング①　ディスカッション 5. 類似トピックの読解 6. ディクトグロス③　（経済番組） 7. 学習法体験　復習 8. 中間テスト 9. ディクトログロス④（ニュース） 10. 類似トピックの読解 11. 対談番組のリスニング　待遇表現 12. 学習法体験　ラジオ対談番組のリスニング 13. ディクトグロス⑤（経済番組） 14. 経済番組のリスニング 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント	期末試験30%、平常点（小テスト、授業中に指示する課題、クラス参加度等）60%　自己評価10%

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語は日常生活で話せているつもりになっていても、きちんと書いたり、きちんと話したりする段になると、残念なほど不正確な日本語になってしまうことが多い。 ここでは、「何が」原因であるのか、「どうして」そうなってしまうのか、「何を」したら解決できるのかなどについて解決策を考える。互いの失敗に注目することで、解決策が見つけられるように、受講者全員が参加して少しでも弱点が克服できることを目指していく。 全体で考えていくので、休むと自分だけの問題ではなく、相手に多大な迷惑をかける。休まないことを前提としている。この前提条件をよく自覚したうえで、参加してほしい。 プリントを用意するが、すべて連結しているので、きちんとファイルし、毎回そのファイルをもってくること。	１.「伝えたいこと」を発見する ２.「伝わる」条件を探す ３.「伝わっている」ことが確認できる方法をみつける(1) ４.「伝わっている」ことが確認できる方法をみつける(2) ５.「書き」と「話し」の違いを探す ６.「気持ちを込めて」書けるか、話せるか(1) ７.「気持ちを込めて」書けるか、話せるか(2) ８.「事実」を見つけられるか(1) ９.「事実」を見つけられるか(2) 10.「公平な立場」を定義できるか(1) 11.「公平な立場」を定義できるか(2) 12.「ことばの魔術」をやっつけられるか(1) 13.「ことばの魔術」をやっつけられるか(2) 14.「公平に」聴けるか 15.「弱点克服」の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを用意する。毎回すべてのプリントを 忘れずに持参すること。	期末試験　６０％ 平常授業における実績　４０％

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	丸山　具子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、敬語等を復習しながら、日本企業や母国での日本語を使ったビジネスの場面で必要となるビジネス日本語の基礎を学びます。 電話のかけ方、メールの書き方、アポイントの取り方などは、日本企業への就職活動やインターンシップの際にもすぐに役に立つものなので、ぜひ積極的に学んでほしいと思います。	1.　ビジネス場面の自己紹介 2.　敬語（基礎） 3.　敬語（応用） 4.　依頼表現（基礎） 5.　依頼表現（応用） 6.　電話の表現（基礎） 7.　電話の表現（応用） 8.　E-mailの書き方（基礎） 9.　E-mailの書き方（応用） 10.　アポイントメント（基礎） 11.　アポイントメント（応用） 12.　ビジネス文書の書き方（基礎） 13.　ビジネス文書の書き方（応用） 14.　BJTテスト模擬テスト 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント	小テスト(35%)、期末テスト(35%)、授業への参加度などの平常点(30%)

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	北村　淳子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本語を様々な角度から捕え、今まで気づかなかったことや問題点を発見し、さらに調査・考察を加え、レポートとしてまとめる力を養います。 いくつかのテーマについては、講師が課題を出しレポートを書かせます。指名された何人かは、レポートの内容をクラスに報告します。 問題点を発見しようという積極的な姿勢で授業に臨み、課題に取り組んでほしいと思っています。	1.　日本語学習者（1） 2.　日本語学習者（2） 3.　日本語と歴史（1） 4.　日本語と歴史（2） 5.　デイスカッション（1） 6.　デイスカッション（2） 7.　デイスカッション（3） 8.　アンケート調査（1） 9.　アンケート調査（2） 10.　アンケート調査（3） 11.　レポート作成（1） 12.　レポート作成（2） 13.　レポート作成（3） 14.　レポート作成（4） 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
金田一晴彦著『日本語（上）』岩波書店（岩波新書） 金田一晴彦著『日本語（下）』岩波書店（岩波新書）	レポート（90%）に授業への参加度、貢献度（10%）を加味して評価する。 基本的に、3分の2以上の出席を必要とする

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	丸山　具子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語で読んだり、聞いたりした情報を自分なりのまとめができず、読んだまま、聞いたままアウトプットしてしまう学生がよく見受けられる。 そこで、このクラスは、インプットした情報を自分なりに要旨をまとめ発表したり、ディスカッションなどを行ったり、受け手によく伝わるように表現できるようになることを目的とする。 テーマにあった内容の読解、要約、それをもとにしたディスカッション、発表、日本人へのインタビューなどを行う。扱うテーマ等は受講学生の興味のあるものを選ぶので、初回の授業で検討する。	1.　授業概要 2.　文章の読解・要約① 3.　文章の読解・要約② 4.　ニュース番組の要約① 5.　ニュース番組の要約②　＋　インタビュー準備① 6.　インタビュー準備②　　新聞の要約① 7.　新聞の要約② 8.　新聞要約発表準備① 9.　新聞要約発表準備② 10.　新聞要約発表 11.　インタビュー発表準備 12.　インタビュー発表準備 13.　インタビュー発表① 14.　インタビュー発表② 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント	発表（55%）、課題、授業への参加度などの平常点(35%)、自己評価（10%）

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	岩沢　正子

講義目的、講義概要	授業計画
専門教育を受ける段階に入った留学生に、学習に必要な高度な読解力を養成することを目的とする。また、その中から問題点を探し、討論することにより、自分の意見を正しく伝えることを学ぶ。 新聞記事、雑誌記事、新書等から選んだテーマを教材とする。テーマは学生の要望にも対応する。学生の積極的参加を望む。	１．講義概要 ２．テーマ１　読解 ３．テーマ１　問題点、討論、意見発表、類似テーマ読解 ４．テーマ２　読解 ５．テーマ２　問題点、討論、意見発表、類似テーマ読解 ６．テーマ３　読解 ７．テーマ３　問題点、討論、意見発表、類似テーマ読解 ８．テーマ４　読解 ９．テーマ４　問題点、討論、意見発表、類似テーマ読解 10.　中間試験 11.　テーマ５　読解 12.　テーマ５　問題点、討論、意見発表類似、テーマ読解 13.　テーマ６　読解 14.　テーマ６　問題点、討論、意見発表、類似テーマ読解 15.　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	期末試験（３０％）中間試験（３０％）平常点（４０％）

シラバス 全学共通授業科目

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1661

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	